うたの日
短歌 1000日記念号

うたの日

もくじ

薔薇の日々 2

コラム
「うたの日と私」 181

愛で食べるのも疲れた家族／恋をしている　なんたる秘密／ナイス害
ののさんは腰痛持ち／遊糸　うたの日昔語り／箔紙（双葉屋ほいる）
全首評とわたし／太田青磁　Twitter生まれうたの日育ち／長月優
うたの日とわたし／たかはしりおこ
短歌ド素人、ネット歌会にハマる。／三田たたみ
知好楽／ササキ　アンヨ　私がうたの日を続ける理由／村田馨
うたの日を辞めた日／沼尻つた子　奇跡のような場所で育って／門脇篤史

自由帳
「みんなのみんなのうた」 203

きむろみ　中牧正太どんまい集　中牧正太試論　ブルブルたかたか
「恋しくて」多香子　りむたん　童話集(雀来豆)　風の日にけら
寄せ書き短歌　サンキュー　うさぎの背中2　連作「ノート」五條ひくいち
二度見（荻森美帆）　白いシャツ（文乃）　凛の繊永（知己凛）
心からの感謝をこめて（木蓮）　カレー集　しましましゅう
しま・しましまのディープな世界　秘密結社DDIT

わたしの選ぶうたの日のうた 246

うたの人々 253

うたの史 257

うたの日1000日データ集 265

よせがき 284

編集後記 291

うたの日
短歌1000日記念号

薔薇の日々

1000日分の首席のうた、全掲載ページです。
初期は花束、今は薔薇、たまにバナナだったりしたうたたちを集めました。

2014年4月1日～2014年4月11日

2014年4月1日
『　日　』
エキセントリックな今日にしちゃおうぜバターを乗せたトースト傾け　迂回

2014年4月2日
『　似　』
箸袋鳥の形に折るクセが君と重なる居酒屋の席　さとこ
あの人の描く似顔絵はいつだってちょっと美人でちょっとかなしい　みなま

2014年4月3日
『　サンダル　』
玄関で交通事故を起こしてるサンダル達に見せる抱擁　ナイス害
サンダルを突っかけるほどの気軽さで わたしと一緒に暮らして欲しい　蘇芳

2014年4月4日
『　深夜　』
日曜はラジオが先に心停止この世にひとりとり残される　クニコ

2014年4月5日
『　5分　』
大学を出て知ったこと　5分だけ夜明けの海は銀色になる　のの

2014年4月6日
『　無理　』
たすけての「た」の発音がなってない溺れるところからやり直し　葛紗

2014年4月7日
『　ラッキー　』
全身にラッキーフードが行き渡り完全体になったころ寝る　じゃこ

2014年4月8日
『　チクッと　』
ミツバチが自分自身と引き換えに針刺すごとく僕らはうたう　文月郁葉

2014年4月9日
『　黒　』
押し倒す両腕の間のやわらかなブラックホール　覚悟はいいか　浦賀エリ

2014年4月10日
『　交差点　』
もう君はもたれて来ないハンドルを切ったいつもの右折レーンで　みなま

2014年4月11日
『　士　』
新幹線ガラスを隔て会話するぼくらはまるで宇宙飛行士　遊糸

2014年4月12日～2014年4月21日

2014年4月12日
『　中学2年　』
かなしみがこの身にあると知らぬまま「もしも世界が」とか話したね　ゆら

2014年4月13日
『　裏切り　』
レーザーの竹槍を持つ自衛軍率いて月を討てかぐや姫　迂回

2014年4月14日
『　石　』
こいびとの前世の一部だったかもしれぬ化石よまた会いましょう　浦賀エリ
てのひらにほどよく温い石ひとつ乗せて真暗きハイウェイをゆく　魚住蓮奈

2014年4月15日
『　半分　』
たましいは正しい位置につきなさいハーフタイムはもうすぐ終わる　浦賀エリ
半月も沈む時には大きくて忘れるまでの長い歳月　ルイド リツコ

2014年4月16日
『　色々　』
キャンバスへ描けずにいた色彩の墓標のごときパレットの上　文月郁葉

2014年4月17日
『　憧れ　』
わたしにはガラスの靴が似合わない 砂に下ろした踵は熱い　ちゃむ
下駄箱にそっと気持ちを置いてくる 他の誰かのものと一緒に　小早川
あの子たちみたいになりたくはないと言った彼女になりたいわたし　稲垣 三鷹

2014年4月18日
『　賭け　』
まけたときあなたの姓をもらうから かったらあげるわたしの子宮　奈月遥

2014年4月19日
『　行　』
楷書にはやさしくなさい「心」まで行書になってから抱きなさい　中牧正太

2014年4月20日
『　丸　』
合歓の葉も丸まる月夜みどりごの吾の指握りしままに眠りぬ　太田宣子

2014年4月21日
『　2位　』
見ていたい背中があって追い風を味方にしないラストスパート　文月郁葉

2014年4月22日～2014年5月2日

2014年4月22日
『　割　』
指紋から割り出しました犯人はあなたですねと掴む肉球　文月郁葉
西瓜割れてそこから戻る現実のまず足の指に挟まった砂　かにたべーた

2014年4月23日
『　髪　』
そういえば切ったんだっけ耳許で空回りしてばかりいる指　浦賀エリ
親友のこの世の終わりの失恋をBGMに枝毛見つけた　田邊葉月

2014年4月24日
『　関西　』
姐さんのごめんやっしゃでコケてないスパイやあいつ東京もんや　miyafi

2014年4月25日
『　笑顔　』
姪っ子の笑顔に覗くちっちゃな歯春に芽生えた双葉のように　ちゃむ

2014年4月26日
『　プロ　』
めくるめく手つきで寿司を握るひと魚が海へと帰れるくらい　月丘ナイル

2014年4月27日
『　船　』
短編の僕らをのせて井の頭公園行きのスロウボートは　中牧正太

2014年4月28日
『　猫　』
捨て猫という肩書きを野良猫に変える覚悟を迫る長雨　かにたべーた

2014年4月29日
『　肉　』
藤棚の香りをつけて病床の我へ季節を運ぶ肉球　中森つん

2014年4月30日
『　末　』
かなしみは終末近き星の色触れ合えた日々もろとも爆ぜよ　サカイミチカ

2014年5月1日
『　コーヒー　』
しののめの珈琲店の色となるコウレイカとは花の名である　中牧正太

2014年5月2日
『　痛　』
主人公が敵を斬るたび痛いって叫ぶ少女をやわらかく抱く　ゆら

2014年5月2日～2014年5月11日

2014年5月2日
『　痛　』
濁点をふくんだ音で殴られるどこへ逃げても帰される家　文月郁葉

2014年5月3日
『　ごみ　』
白菜をひらく　あなたが捨てていたところも刻むこれは意地です　はたし
星ばかり見る目の邪魔をしたいから宇宙を巡るごみになりたい　ルオ

2014年5月4日
『　頬　』
頬杖のままで過ごした教室は朝の気たるい形でくぼむ　遊糸

2014年5月5日
『　少年　』
はじめての罪にさいなまれた朝にレモン石鹸ぐにゃりと潰す　ちゃむ

2014年5月6日
『　ムカッ　』
靴下の裏返しのまま脱がれゐて裏返しのまま干す聖五月　太田宣子

2014年5月7日
『　斜め　』
出来たこと斜めの線で消してゆく 全部出来たら雨降りになる　天野うずめ

2014年5月8日
『　家　』
僕たちのものじゃなくなる日の朝にすべての窓を磨く母さん　chari

2014年5月9日
『　急　』
なぜ君は急に帰るのなぜそこでわざわざ靴を片方脱ぐの　中牧正太

2014年5月10日
『　ごめん　』
いくつかの守れなかった約束を天国行きの列車で想う　はるごろう
終電に間に合ふやうに送られてごめん、たなんて。月夜はきらひ。　太田宣子
星柄の予言者いわく、わたしより素敵な人がすぐ現れる　中牧正太
大好きなかつおふしさえ食べられず君は最後に「にゃぁ」と鳴いたね　中森つん
震災が起きれば僕は君をすて家族へ走る誠実さをもつ　chari
公用語がたとえ英語になったって「ごめん」と上目遣いは消えない　黒夜行

2014年5月11日
『　犬　』
サイレンに合わせて吠えていた頃がなつかしくなる真夏の夕日　MK
はぁはぁと熱を逃がして潤む目のわたし今だけ仔犬みたいね　こはぎ
運びたいから運ぶんだ朽ち果てたサボテン咥え野良犬が往く　迂回
のど取られゼロの声持つ君と遭う ッドッドッドッド 弱っちい夏　ナイス害

2014年5月12日～2014年5月20日

2014年5月12日
『　昼　』
何のため電車に乗っていたのかが分からなくなる 白すぎる、昼　稲垣 三鷹

2014年5月13日
『　瞳　』
神様の義眼たろうかたぷたぷと水をふくんだこの惑星は　文月郁葉

2014年5月14日
『　一緒　』
手を振って閉まったドアがまた開いて　ほんの少し一緒に笑った　泳二

2014年5月15日
『　苺　』
あまおうは甘くはないし君はもう名前ほどには優しくないし　遊糸
住民を不安に陥れぬようイチゴを乗せた爆弾を置く　黒夜行

2014年5月16日
『　黄　』
どこへゆく道なのたろう暗闇でひんやりひかる点字ブロック　湊あかり
砂糖 塩 醤油 めんつゆ マヨネーズ 恋の数だけ知る玉子焼き　ぱん悠
ジェンダーの壁など知らぬ幼子の背にある"黄色"はただ好きな色　蘇芳

2014年5月17日
『　居ない　』
知り合いと言うにはとても浅いけどとても気になる溜まる新聞　赤い月
祖父の遺品整理を始める 駅伝の繰り上げスタート見守ってから　天野うずめ
いた人になってくださいいつまでもいない人ではいないでください　中牧正太
いないのはわたしではなく永遠の愛を誓って微笑むわたし　浦賀エリ

2014年5月18日
『　嫌　』
いまのところリンゴは上に落ちないしすぐ泣くところきらいではない　中牧正太

2014年5月19日
『　息　』
傘の中息を重ねて話してた 君の暮らしていく街のこと　天野うずめ
旅をするあなたの胸が上下して偏西風は生まれたらしい　河嶌レイ
もそもそと抱きしめなおす午前2時きみの寝息を舐めて生きたい　紫都音
熱さめて安息香酸添加するサプライズとか褒め言葉とか　ルイド リツコ
喘息の夜に出口は遥かなり冷たき水を欲したりしも　村田馨

2014年5月20日
『　ゴリラ　』
やさしいねゴリラはわたしとちがうからバナナ食べつつ嘘はつかない　南瑠夏

2014年5月21日～2014年5月31日

2014年5月21日
『　不意　』
羊羹の切り口不意にするどくて二秒ほど目をそらしてしまう　松木秀

2014年5月22日
『　夫婦　』
旧姓の印鑑ひとつ仕舞われた引き出しがあり時々ひらく　浦賀エリ

2014年5月23日
『　罪　』
泥棒をしようと思う　ピストルは売ってないからガーベラを買う　中牧正太
飲み干したエビアンだけが知っている喉に残った罪のかたまり　酒井真帆

2014年5月24日
『　夕焼け　』
夕焼けに輪郭線はかがやいて届かないものばかり綺麗で　こはぎ

2014年5月25日
『　ごはん　』
食卓に目くばせ交はし夫と子はキュウリとトマトを取り換へてをり　太田宣子

2014年5月26日
『　振　』
声にすることゆるされぬ胸のうち442Hzで吐く　酒井真帆

2014年5月27日
『　つなぐ　』
ぼくたちをつないだ話題はもう尽きて　バスの座席はこんなに近い　すみ

2014年5月28日
『　完全　』
完全には解らないから惹かれるの君にもダイオウグソクムシにも　田邊葉月

2014年5月29日
『　作　』
ガウディは作り終わらず死んじゃうしあなたは服を脱ぎ散らかすし　黒夜行

2014年5月30日
『　シャワー　』
ああ君はライスシャワーを浴びている「ぽっち　ぽっち」と高らかに鐘　ちゃむ

2014年5月31日
『　サンドイッチ　』
川の字と言うには少し近くってサンドイッチと娘は笑う　ルオ

2014年6月1日～2014年6月10日

2014年6月1日
『　紫　』
ラベンダー畑で描く未来図に僕達少し頼りすぎてた　さとこ

2014年6月2日
『　横浜　』
黒船で無理やり迫る人みたく私の身体を開いて欲しい　黒夜行
鶴見区にしたさよならを思うとき木々はすべてが小さな林　かにたべーた

2014年6月3日
『　3　』
三日月を手渡すときは尖ってる方を自分に向けてしなさい　焼きみかん

2014年6月4日
『　虫　』
ああそうかすべての恋は終わるのだ平家蛍が「ん」と書いてゆく　中牧正太

2014年6月5日
『　後　』
放課後がなくなってから機能していない部分を恋と呼ぼうか　かにたべーた

2014年6月6日
『　SEX　』
足のうらにテーブルの脚あたってる　こぼれそう、こぼれそう麦茶が　はたし
繁殖をしたらまもなく死んでいく虫の光に誘われてする　ひらたてる

2014年6月7日
『　胸騒ぎ　』
とほくよりひぐらしのこゑたえまなく急かされ急かす自分の足を　奈月遥

2014年6月8日
『　葉　』
陽に透かし迷路のような葉脈にきらきらひかる出口を探す　柊

2014年6月9日
『　ロックンロール　』
水底のシーラカンスを揺り起こせ音符が私を攫ったように　月丘ナイル
僕たちはこの潮騒が好きだった「音楽性」はちいさな言葉　中牧正太
真夏日にこころがぽっきり折れている何で砕けてくれないんだよ　藤田美香

2014年6月10日
『　時　』
罫線と少しの数字しかなくて時刻表には田んぼのにおい　麻倉ゆえ
週末を待ちきれなくて納豆を時計回りにひたすら混ぜる　焼きみかん

2014年6月11日～2014年6月20日

2014年6月11日
『　サッカー　』
ボール追う君の背中をただ見てる　手を伸ばしたら反則だから　ルオ

2014年6月12日
『　地図　』
その人は北海道をうまく描くわたしもそこでそうなるつもり　中牧正太

2014年6月13日
『　金曜日　』
着実に歩いていたい金曜日あしたの靴はあした買うのだ　大渕マコ

2014年6月14日
『　医師　』
地下鉄の路線図みたいなやつ出して　ここ診ますねーと渋谷らへん指す　すみ

2014年6月15日
『　おやつ　』
赤ちゃんのにほひの薄れてゆける子にたまごぼうろを握らせてをり　太田宣子

2014年6月16日
『　緑　』
庭ぜんぶカイワレになる夢を見て悪夢だったか決め兼ねている　迂回
あきらめて畦道を来たからだろう君の吐息に混じる緑は　文月都葉
やわらかな水に包まれ羽化しよう世界はいつもやさしい緑　月丘ナイル
萌えいずる新緑の庭に身をひたし体に宿る吾子を感じる　キョースケ

2014年6月17日
『　稲妻　』
囁きを聴いているのは心電図生きる証は稲妻に似て　月丘ナイル

2014年6月18日
『　エース　』
まっさらなトランプ一枚抜きたしてあのひとの鞄に挿した恋文　繭

2014年6月19日
『　ひと休み　』
近くにはコメダがあるしわたしにはそれでもわらう決心がある　中牧正太

2014年6月20日
『　布団　』
ほんとうは布団が見ている夢だから離れたらすぐ忘れてしまう　木村比呂
インドからの留学生に悪意なく牛柄の座布団渡す母　黒夜行

2014年6月21日～2014年6月30日

2014年6月21日
『　下　』
地下鉄のダイヤを乱すこともなくアンモナイトは眠りつづける　浦賀エリ
止める間もなくてピアスは吸い込まれ下水道とは眠る金脈　ルイド リツコ

2014年6月22日
『　荷物　』
新婚の部屋は荷物が占領し抱き合う場所をまず探すべか　モア
母からの荷物をとけばナスにトマト山田商店名入りのタオル　ちゃむ

2014年6月23日
『　兄　』
お互いに詳しくないことだけ分かり義兄と見てる箱根駅伝　西村湯呑
兄の背を追ってかけたす遠い夏長ぐつの中の小石が痛い　ちゃむ

2014年6月24日
『　虹　』
開園を待つ柵越しに水まきの飼育係は虹をあやつる　気球

2014年6月25日
『　双子　』
ひと夏が終わる日の朝たまさかに双子の黄身のあらわれるなり　ゆりぐも

2014年6月26日
『　古　』
逃げるなよ部長の語るワイン史が古代ギリシャにさかのぼるまで　中牧正太

2014年6月27日
『　つの　』
鬼「つのが生えてますけど公立の高校受験ってできますか」　のの

2014年6月28日
『　拍手　』
「からあげがはくしゅしてるね！」ぱちぱちと手を叩き揚げたてを待つ我が子　箔紙

2014年6月29日
『　服　』
繰り返し夜に脱皮をするきみのあとをゆっくり拾って歩く　木村比呂
夏服のスカート揺れるその様を逆光でみる　いささか透ける　松木秀

2014年6月30日
『　帰　』
手の中のグラスに月が落ちていて姫君はもう帰らなくていい　スコヲブ

2014年7月1日～2014年7月9日

2014年7月1日
『　名前　』
名前すら知らない花を供えたる秩父牛乳空き瓶光る　天野うずめ
いつの日か良い思い出となるように名付けずにいる胸のささくれ　小宮子々

2014年7月2日
『　何　』
何階に住んでいるかを知らなくてあなたに初めて電話している　天野うずめ
何年も閉店セールをやっている店のホントの閉店セール　焼きみかん

2014年7月3日
『　波　』
人類の滅びしのちもしばらくは電波時計は正確である　松木秀
怖くないあなたがつくる波ならば　小さな明かりの下目を閉じる　野崎アン
その距離をつづめられない砂浜でふれるふれないつまさきの波　繭

2014年7月4日
『　アメリカ　』
アメリカに降る雨すべてコカ・コーラになれよ僕らの息を止めろよ　ゆら
準急も止まらないはずのアメリカにうまいラーメン屋があるという　すみ
「ワシントン ダ・カーポ」と読む我が娘　抱く楽譜は新世界より　箔紙
ほんとうに戦わないと言えるからアメリカという傘をたたんで　木村比呂
立ち上がれ、撃たれようとも立ち上がれ　自由の鐘は今鳴り響く　ルオ

2014年7月5日
『　名古屋　』
あと何年未来「やたらと手羽先の骨が発掘される街です」　いさご

2014年7月6日
『　サラダ　』
どうやって切り出そうかと悩みつつシーザーサラダの卵を崩す　門脇篤史

2014年7月7日
『　星　』
五億年のちは地球がいくつありどのラーメンがうまいたろうか　遊糸
木星と月が同時に見えていて次には電話帳を見ている　スコヲプ

2014年7月8日
『　白　』
氏と名を分けるわずかな空白に埋葬できる恋はどれほど　大葉れい
やり直しきく過去がある ゆっくりと漂白される深夜の布巾　ちゃむ

2014年7月9日
『　100点満点の恋人とはこんな人なのだ　』
「じっさまの末期の水に賀茂鶴を混ぜてやった」とばば笑い泣き　ばん悠

2014年7月10日～2014年7月18日

2014年7月10日
『　島　』
隠居する場所としましてislandのsのあたりを考慮している　小宮子々

2014年7月11日
『　コンビニ　』
わたしたち卒業までにあと何度紅茶ひとつで悩めるだろう　スコヲプ
成人のボタンに触れはしたけれどこれを飲んだら泣く予定です　中牧正太

2014年7月12日
『　ナイフ　』
えんぴつをまさかナイフで削るとは慣れた手つきに恋をするとは　木曜何某
風ふけばすすきの葉さえきみのこと傷つけるからもう帰ろうよ　木原ねこ

2014年7月13日
『　意味　』
不可能のかわりに書いてあるだろう五分以上の抱擁の意味　中牧正太

2014年7月14日
『　内緒　』
耳にした内緒話を言いたくて壁がみしみしつぶやいている　宮嶋いつく

2014年7月15日
『　いとこ　』
正月のかるたの話しで盛り上がる喪服でばかり会ういとこ達　ルイド リツコ
嫁ぎ行く従姉を送る帰り道 一人戸惑うひまわり畑　箔紙
サイダーはいとこと泳いだ海のいろ記憶をひらきやすい飲み物　木村比呂

2014年7月16日
『　水色　』
毎夜毎夜船に水色積み込んでせっせと海に放る神々　黒夜行
水色のプールで泡になれるならあなたとあの子はしゃいでる間に　つ優夜
みずいろは空の色だよ名前なんてそんなもんだよ。焼けたよ。食えよ。　西村湯呑
記憶から入道雲があふれそう淡水色のつけ爪をする　秋山生糸

2014年7月17日
『　以内　』
５秒くれ　５秒以内に言い切ってやるからな、やるからな　あれた、その　はたし
そういえば前からきみはぬりえとか下手くそだった はみ出したキス　いさご

2014年7月18日
『　冷　』
あたたかいものだったから冷えたのだ 指先、コーヒー、視線、それから　長月優

2014年7月19日～2014年7月28日

2014年7月19日
『　ナイキ　』
ばあさんがナイキのかたちに寝てるのを起こさんようにお供えすます　はたし

2014年7月20日
『　夏休み　』
廃校のプールはきっと永遠に夏の記憶を湛え続ける　小宮子々
帰りたくない柴犬と座りこみ夏の終わりの夕焼けを見た　木村比呂

2014年7月21日
『　対　』
バルタンとウルトラマンが年老いて送電線であやとり対決　ちゃむ

2014年7月22日
『　普通　』
海だとか行ってみたいねどう見ても普通のふたりみたいな顔で　こはぎ

2014年7月23日
『　文　』
恋文もやさしく開けむ崩さずにおぼろ豆腐を箸に喰ふひと　太田宣子

2014年7月24日
『　ジュース　』
つぶつぶが沈んでるからよく振ってぜんぶ忘れるまでよく振って　泳二
強風のニュースで画面を横切った空き缶　君が好きなジュースの　野崎アン

2014年7月25日
『　不幸　』
幸不幸いくつも波は過ぎてゆき心電図にいま訪れる凪　西村湯呑
今回は新入り悪魔が来たらしくこころを取るのがずいぶん痛い　スコヲブ
少しだけ君が不幸になるように明日はパンダにでも祈ります　松木秀

2014年7月26日
『　プール　』
ひと夏をそこで過ごせる気がしてたプールの底から仰ぐ青空　ゆら

2014年7月27日
『　砂　』
じいちゃんのスコップはまだ刺さってて　だれも抜こうとしない砂山　いさご

2014年7月28日
『　唾　』
八月よ僕はかなしい、目的を持ってる蟻は唾で死なない　中牧正太
２円だとすれば美しすぎるのでしつこく舐めるうさぎの背中　大葉れい

2014年7月29日～2014年8月7日

2014年7月29日
『　付　』
人前で泣かないきみに貸す本に青い付箋を貼っておきます　桔梗

2014年7月30日
『　算　』
ごはさんでねがいましては吊り革が右に流れる　旅をはじめる　木村比呂

2014年7月31日
『　再　』
もしもあのバンドが再結成したらあなたに電話してもいいよね　椋鳥

2014年8月1日
『　おっぱい　』
大好きで大好きで残したのでしょう土偶の胸の爆乳なこと　西村湯呑
ごほうびをください今日もおっぱいを誰にも見せず帰るわたしに　中牧正太
おっぱいを知ってしまった僕たちは入道雲にもう戻れない　牛道
おっぱいと言うとき君のおっぱいを思っているよふたつだけだよ　木村比呂
お父さんわたしオトナになりましたおっぱいの下あせもがかゆい　紫都音

2014年8月2日
『　パンツ　』
昼間には言いにくかったことなので今パンツですが聞いてください　スコヲプ

2014年8月3日
『　反射　』
その人を選ふととうに決めている窓にうつったほうのあなたは　中牧正太

2014年8月4日
『　橋　』
僕の手のなかにあなたの手があつてまた橋をひとつ渡つてしまふ　太田宣子

2014年8月5日
『　箱　』
そのうへに折り鶴なんか増えてゐてテレビが箱だつたころのしあはせ　太田宣子

2014年8月6日
『　シール　』
ウミガメの泪のシール貼りつけてきっと誰かを産もうねと言う　木村比呂

2014年8月7日
『　花火　』
ベランダで遠き花火を見終はれば死にゆくものの気配たたよふ　門脇篤史

2014年8月8日～2014年8月17日

2014年8月8日
『　フジテレビ　』
東京はあなたを誰にしましたか東海テレビをフジと言う人　中牧正太
「8見せて」と祖母から声が上がるたびリモコンを押すリモコンになる　スコヲブ

2014年8月9日
『　吐　』
砂を吐く浅蜊の時間を眺めつつ騙されてゐることのた易き　太田宣子

2014年8月10日
『　自由　』
夕映えに鞄が軽くなるような誰も知らない遠回りする　秋山生糸

2014年8月11日
『　＋－　』
引き波のやうな感情わたくしの料理に塩を足すきみとゐて　太田宣子
あなたのことを許しますまた会いましょうプラスマイナスゼロの渚で　秋山生糸

2014年8月12日
『　いつ　』
いつの日か触れる人のあるはずの髪 今はたたたた丁寧に梳く　稲垣三鷹

2014年8月13日
『　王　』
硬き手を一速二速三速と王の字に切る祖父や逞し　くろじたう

2014年8月14日
『　意識　』
きみのこと下の名前で無意識に呼んじゃうような器用さはない　木曜何某
ゆうぐれであれば光のなかにある橋をこんなに意識している　かにたべーた

2014年8月15日
『　平和　』
玄関に靴がまっすぐ並んでて これをわたしは平和と思う　稲垣三鷹
戦闘機、飛ぶ。轟音のスコールが降る。ため息をかき消して、降る。　犬濱あした

2014年8月16日
『　赤　』
さよならの後にくるくるむく林檎　ちぎれるなちぎれるな赤色　野崎アン

2014年8月17日
『　雛　』
雛壇の最後列の芸人が居間で寝転ぶ僕を見ている　黒夜行
雛形を真似しておけば快活で明るい私が釣書にいる　ルイド リツコ
行くな君、駅で見たんだ東京は焼いて焦がしてひよこを食うぞ　中牧正太

2014年8月18日～2014年8月28日

2014年8月18日
『　タクシー　』
この二人やり直せると思ったら運転手さん最寄りの海へ　中牧正太

2014年8月19日
『　俳句　』
曾祖父が五七五でつかまえし大正五年の春の蝶々　門脇篤史

2014年8月20日
『　釣り　』
釣竿の先に夏の陽とまらせてきみは岬へ自転車をこぐ　多香子

2014年8月21日
『　はちみつ　』
全身で蜜にとび込む蟻でした 後悔なんて人のすること　西村湯呑

2014年8月22日
『　蝉　』
想うひと見つけましたか　境内で蝉か俺かに言った旧友　西村湯呑
諦めるつもりでいるのに可能性ばかりをうたうヒグラシがいる　木原ねこ

2014年8月23日
『　処女　』
またたれも知らないほくろ持ったまま電車を待ってる土曜日の夜　いさご

2014年8月24日
『　24時間　』
トンネルを抜けるとそこは限りなく24時間前の景色だ　ちゃむ

2014年8月25日
『　給料　』
就活中思い出すのは、すぐに来た「人生ゲーム」の初給料日　坂本 樹
給料はほろびてしまう　ヤンキーも女も耳に貝をあててる　はたし

2014年8月26日
『　フルーツ　』
熟れ過ぎた桃の苦さを飲み込んだ いつも私は遅すぎるのだ　長月優

2014年8月27日
『　渚　』
また来よう不確かすぎる約束は波打ち際の泡のきらめき　南瑠夏

2014年8月28日
『　艶　』
放課後のピアノの黒も艶やかに教師のひとり弾くトロイメライ　ヒヨワくん

2014年8月28日～2014年9月6日

2014年8月28日
『　艶　』
唇の艶めきばかり覚えてる「サヨナラ」という形に動く　えんどうけいこ
つやっぽい歌をそういう意味だってわすれて口ずさむ日曜日　大渕マコ

2014年8月29日
『　憎い　』
「憎いよ」とあなたは言った キスをしたその唇と同じ温度で　長月優
コーヒーをふたたび飲める日が来ればきみを憎んだことも許せる　大渕マコ
呪うほど憎んでいるか山羊の目は今にも炎が吹き出しそうで　ルイド リツコ

2014年8月30日
『　車輪　』
それもまたハッピーエンドなのだろう古いタイヤに寄り添うスミレ　小宮子々

2014年8月31日
『　宿題　』
あまやかに眼を閉じていく夕顔にまた一つ残る夏の宿題　多香子
青と猫表紙を眺めている時は好きでいられた計算ドリル　木原ねこ

2014年9月1日
『　悔い　』
本の帯破いてしまった時ほどの悔いを抱いてさよならをする　小宮子々

2014年9月2日
『　くつ　』
音高くつま先立ちで街をゆくつまり自分で選んだ痛み　大葉れい

2014年9月3日
『　組　』
遺伝子を組み換えられし側として人類最期の言葉を聞けり　ヒヨワくん
親分のタブルピースはカートンで買ってこいってサインじゃろうが　加子
歯車が嫌で組織を抜け出してゼンマイ時計修理してます　ガラケー太
マフラーの端の毛糸の房を組む指になぜだか恥ずかしくなる　小宮子々

2014年9月4日
『　くし　』
木星の模様を常に整えるくしがあります 持ち帰りますか？　すみ
雪混じる黒を綺麗とくしけずる手に母がふと少女に戻る　ルオ
塗り櫛の禍々しきほど紅色の光跡曳きぬ千本鳥居　宮木水葉

2014年9月5日
『　語　』
ニンゲン語わかんねえけどまあたぶんケンカしたんだろひざで寝てやる　木曜何某

2014年9月6日
『　記録　』
秋雨は一粒に1ビットずつラピュタの秘密を溶かしこんでる　黒夜行

2014年9月6日～2014年9月17日

2014年9月6日
『　記録　』
気にすんなきみの目尻のそのシワは笑顔の数の素敵な記録　五月が丘はさみ

2014年9月7日
『　癖　』
好きな人の好きなものばかり好きになる癖をやめたい　君はもう居ない　椋鳥

2014年9月8日
『　キャー！　』
甲府でも採れると聞いて来たんです あそこらへんでマンドラゴラを　すみ

2014年9月9日
『　キック　』
ネイマールのフリーキックのやうわれのぎりぎりを刺して月影のゆく　太田宣子

2014年9月10日
『　投　』
投げ上げた我が子は笑う僕がまた抱きしめること疑いもせず　黒夜行

2014年9月11日
『　ピンチ　』
トイレットペーパーはなく窓ガラス越しにぼやける月が大きい　迂回
ヒーローが現れませんこのシーンきっとピンチじゃないのでしょうね　ちゃむ

2014年9月12日
『　クイズ　』
では次はマッチひとつも動かさずこの関係を変えてください　のの

2014年9月13日
『　世界遺産　』
セスナから飛び降りたまま地上絵の一部になって星を抱きたい　月丘ナイル

2014年9月14日
『　内緒　』
つつみがみひそりとおりてしまひつるきみがおくりしこころとともに　奈月遥

2014年9月15日
『　いい子　』
牧童に追はれる羊を数へつつ母の自由のために眠らん　門脇篤史

2014年9月16日
『　橙色　』
灯火はほのあたたかく揺れゆれて安らかにある上昇気流　秋山生糸

2014年9月17日
『　否　』
いっせいに首を振りたす秋桜が君の返事を告げる夕暮れ　ヒヨワくん

2014年9月18日～2014年9月29日

2014年9月18日
『　いっぱい　』
田園に朝から一杯呑んだような顔した案山子うつむいて立つ　ちゃむ

2014年9月19日
『　インク　』
この夏は哀しみばかり撮ったから　またシアンから空っぽになる　ヒヨワくん

2014年9月20日
『　フォト　』
今日夕陽きれいだよって云うときに写真がいらない距離に居たくて　レオ

2014年9月21日
『　フェチ　』
明け方の夢をかすめた冷たさは無骨な指の鈍い銀色　大葉れい

2014年9月22日
『　自分　』
曼珠沙華おまへも自分がきらひだらう　その赤は火でも血でもないのだ　太田宣子

2014年9月23日
『　踏切　』
幼児語が家族の言葉になってゆくてろんてろんは踏切の音　木原ねこ

2014年9月24日
『　辞書　』
また同じ言葉を辞書に引く指の影の夜毎に濃くなつてゆく　太田宣子

2014年9月26日
『　睨む　』
そわそわと髪を撫でつけ公園の時計を睨む　時間まで、あと　終栗夢

2014年9月27日
『　ツナマヨ　』
全員が「徳川ツナマヨ」回答し岡先生の左遷に抗議　西村湯呑

2014年9月28日
『　娘　』
口下手な父のとなりで口下手な私はうろこ雲をかぞえる　湊あかり

2014年9月29日
『　奇数　』
消しカスで黒く汚れたヒーローが奇数ページの片隅走る　ガラケー太
クルトンをひとつづつかみつぶしてく　きすう、ぐうすう、きすう、おしまい　はたし

2014年9月30日～2014年10月9日

2014年9月30日
『　臭　』
ほんものになれない僕ら夜空には消臭ビーズほどの輝き　木原ねこ
お使いは五個で千円ハイライト 父の煙草は臭くなかった　みわ
私まだ死にたくないわ君のこと見つめるためのホルマリン槽　月丘ナイル

2014年10月1日
『　東京　』
ドーナツの穴から覗く街あかり東京よきみもひとりぼっちか　大葉れい

2014年10月2日
『　待つ　』
いつまでも呼ばれないのでよく見ると番号札はいちょうの葉っぱ　大葉れい

2014年10月3日
『　ドイツ　』
アドルフという名の男あまた居て思い思いの祖国を背負う　小宮子々

2014年10月4日
『　歳　』
千歳飴おんなじ甘さなんだけどピンクの方を妹へ遣る　毬井

2014年10月5日
『　床屋／美容室　』
恋人ができたと言っていましたね床に散らばるあなたを片す　小宮子々

2014年10月6日
『　ジャム　』
ややこれは秋が強めた、君が来ない台風が来るジャムがあかない　中牧正太

2014年10月7日
『　隣　』
懐かない隣の家の黒猫が日なた求めて今日もうち来る　みわ

2014年10月8日
『　親　』
ママ母さんパパアおふくろ名を変えてたくましくなる私、出世魚　chari

2014年10月9日
『　置　』
箸置きの月の輪熊と目が合ふて　いたたきますをもう一度云ふ　くろじたう
詰め込んだ未来が少し重そうで君の鞄をこの膝に置く　ガラケー太

2014年10月10日～2014年10月19日

2014年10月10日
『　トイレ　』
リフォームはおじいちゃんちのおべんじょのこわさも水に流してしまった　木原ねこ
TOTOが人の肌よりあたたかくあたし結婚できないはずだ　秋山生糸

2014年10月11日
『　デジタル　』
茅ヶ崎にデジタル時計はいらなくて「そうねたいたいね」って君抱く　箔紙
春日野に役目果たせし地デジカの今朝はやさしく草を食みをり　ヒヨワくん

2014年10月12日
『　ｉｆ　』
ねえもしも、もしも、もしもを積み重ねジェンガのような恋をしている　杏

2014年10月13日
『　勇　』
牛乳と一つの鍋で温める明日別れを切り出す勇気　小宮子々
散り散りに空 舞い上がる蒲公英の千分の一の覚悟がほしい　chari

2014年10月14日
『　透視　』
疲れ目の果てに透視ができたのを頃合いとして布団に潜る　小宮子々

2014年10月15日
『　飛行機　』
少年は夜ごとにテトラポットにてぴこぴこ光る飛行機を見る　すみ

2014年10月16日
『　金色　』
かんづめと交換しないままでいい　きみからもらった金のエンゼル　桔梗
ゴールデン忍者賞をいただいて以来仕事がうまく行かない　きつね

2014年10月17日
『　体重200kgを超えた体で一首　』
この僕をテディベアだと思ったら愛せるような気がしませんか　箔紙
わたくしを中心とするわたくし系としての責任　動くわけには　はたし

2014年10月18日
『　免許　』
電話越しあなたの嘘を聞いている免許の写真みたいな顔で　ひらたてる
傍らにそっとたんぽぽ咲いている免許センター行きのバス停　天野うずめ

2014年10月19日
『　引　』
きりきりと三日月の弓引き絞る北極星が少し身じろぐ　小宮子々

2014年10月20日～2014年10月29日

2014年10月20日
『　庭　』
「この庭は、宇宙なんだ」と父は言い イモ焼く位置がたいたい地球　迂回

2014年10月21日
『　不安　』
手作りの安定しない本棚に何となく似合う本を探そう　みわ
さよならを切り出されつつそういえば味噌汁が火に掛かったままだ　小宮子々

2014年10月22日
『　つつ　』
万華鏡覗してばかりいるきみへ今日の夕陽を見せてあげたい　毬井
手を振れば手を振るだろう夢のように「またね」「またね」と嘘をつきつつ　中牧正太

2014年10月23日
『　史　』
自分史の博物館の戸を閉めて図書スペースで泣こう、雨だし　小宮子々

2014年10月24日
『　不思議　』
ファラオには説明責任などなくてロマンと称した不思議が跋扈　すみ

2014年10月25日
『　パスタ　』
あの人へ帰るあなたのシャツにこのミートソースが飛びますように　中牧正太

2014年10月26日
『　デニム　』
戯れにぼくのデニムを履くひとと性別もなく混ざっていたい　スコヲブ
張りついたデニムより水滴らせ少年たちが夏を弔う　ヒヨワくん
秋空のきみに返そうベランダで泳ぎつづけるダンガリーシャツ　彩華
恋人になるためよりもずっと隣にいるためにデニムにしたの　レオ

2014年10月27日
『　偽　』
偽物で満足していたあの頃がいちばん僕たちらしかったよね　きつね
本当がここにあるのかないのかを君にも僕にも訊かない夕陽　chari

2014年10月28日
『　豆腐　』
おとうふにおみかんおふとんたふんぼら抑止力ってこういうことだ　西村湯呑

2014年10月29日
『　尽くす　』
想い出は絞り尽くした歯磨きのチューブのように戻ろうとする　ちゃむ

2014年10月30日～2014年11月8日

2014年10月30日
『　三十路　』
コンビニの高いアイスを買うときにこれが三十路の指かと思う　天野うずめ

2014年10月31日
『　悪戯　』
吊り橋をわざと揺らした悪戯が今でも続くように寄り添う　スコヲブ

2014年11月1日
『　一　』
一睡もできない夜はシェパードが追いつけぬほど羊が逃げる　天野うずめ

2014年11月2日
『　ワニ　』
胸にゐたワニが昨晩逃げ出してただのポロシャツになつてしまつた　門脇篤史
鶏ささみみたいと言うのはもうやめろワニにはワニの旨さがあるだろ　木原ねこ

2014年11月3日
『　化　』
このまんま月に埋もれて二億年たてば化石になれるのかしら　chari
風化した石仏は立つひんやりと忘れたくないひとがいました　ヒヨワくん

2014年11月4日
『　紙　』
ページ繰る微かな音に反応し　リアルな世界で息継ぎをする　柊
好きでした　淡いブルーの紙片には誰の名前も書かれていない　ヒヨワくん

2014年11月5日
『　イイ男　』
都合イイ男（やつ）でいてやる　だから、ほら　ラーメンのびる前に泣きやめ　ルオ

2014年11月6日
『　無　』
秋の陽に無心にあやとりする少女　透ける指先東京タワー　多香子

2014年11月7日
『　イイ女　』
好きなことと必要なことの真ん中を背筋伸ばしてヒールで歩く　レオ

2014年11月8日
『　罰　』
罰ゲームみたいに髪をいじられる他のどこにも触ることなく　ひらたてる
死ぬことも生きるのも罰　にんげんが言葉なるもの手に入れてから　松木秀

2014年11月9日～2014年11月18日

2014年11月9日
『　来　』
冬型の気圧配置のせいにして転がって来い逢坂の君　中牧正太

2014年11月10日
『　重　』
ため息とおなじ重さの「しにたい」にすすき律儀に頷いており　加子

2014年11月11日
『　iPhone　』
風邪ひきが独りの部屋でひっそりとおでこに乗せる銀のiPhone　ヒヨワくん

2014年11月12日
『　肌　』
肌の上を歩いている気がする蟻に名前をつけたら消えてしまった　迂回

2014年11月13日
『　秘密　』
たくさんの秘密を乗せてあの駅へ重たく進む満員電車　星野トマト

2014年11月14日
『　評　』
こっそりとがんばりましたのスタンプをサラリーマンの背広に向けて　篠宮
泣かないでそういう種類のホトトギス評価を越えるための羽根だろ　西村湯呑

2014年11月15日
『　イギリス　』
グリニッジの窓からかつて放たれた時の鎖がすべてを縛る　ちゃむ

2014年11月16日
『　灰色　』
銀色に近づきたいと願うから少し明るい冬の曇天　葛紗

2014年11月17日
『　避難　』
避難するための階段なんだからコーヒー片手に泣いたっていい　木曜何某

2014年11月18日
『　いちゃいちゃ　』
人類が明日滅びる設定で暇さえあればキスをしようか　焼きみかん
乾杯の後も絡めたままの指あなたが左利きで良かった　葵の助
主人公とそのライバルはコマ割りの切れ目できっと手を繋いでる　黒夜行

2014年11月19日～2014年11月28日

2014年11月19日
『　バイク　』
前後左右たわわに人を実らせてハノイの町をバイクは駆ける　月花
爆音と鼓動が混じる、目を閉じる、これは一体誰の背だろう　小宮子々

2014年11月20日
『　ふわっ　』
いつもよりふわっと卵焼けた日にメールが届く予感がしてる　スコヲブ
「死にたての幽霊くらいふわっふわになるまで卵を混ぜてください」　黒夜行

2014年11月21日
『　太　』
不器用な君が作りし太巻きは胡瓜や愛がはみ出している　ちゃむ

2014年11月22日
『　結婚　』
ゼクシィを買った帰りの山手線　となりの人にも優しくなれる　すみ

2014年11月23日
『　仕事　』
ＯＮ／ＯＦＦが上手く切り替えられない夜　消灯するのはいつたって君　ガラケー太

2014年11月24日
『　ファッション　』
駆けたせば冬の翼か少年の首にまたまた長いマフラー　牛隆佑

2014年11月25日
『　煙草　』
煙草あるだけでほんまにちゃうなあ、とあんたが言うてええ風が吹く　はたし

2014年11月26日
『　風呂　』
洗っても落ちないもので汚れてる　湯船に潜って数を数える　きつね
幼子の肩まで浸かり百数ふ姿眺めつ長風呂しをり　宮嶋いつく

2014年11月27日
『　防　』
マシンガントークは防御なんだねと見破る人に初めて出逢う　もも

2014年11月28日
『　チャーハン　』
雨ふりの土曜の午後は輪になってチャーハンチャーハンやさしい響き　ヒヨワくん
得意気に作ってくれるチャーハンは特別じゃない特別な味　140

2014年11月29日～2014年12月9日

2014年11月29日
『　うそつき　』
折りたたみ傘を隠し持つうそつきと家と真逆へ歩くうそつき　木曜何某
いつまでも嘘をつくのが下手くそでサイダーはじけるようなまばたき　木原ねこ

2014年11月30日
『　左　』
左脳のみ動かすきみの饒舌をぼくは右脳で音楽にする　五月が丘はさみ

2014年12月1日
『　暗　』
くらがりに光るは猫か東京へゆくバスになる予定はないか　中牧正太

2014年12月2日
『　冬　』
熱湯を魔法瓶より出す時の心地よき音　真冬は近し　松木秀

2014年12月3日
『　山　』
少しだけ山形弁が出てしまうときのあなたの方が好きです　桔梗

2014年12月4日
『　師　』
師匠とはいつもラーメン屋で会ってわたしがラーメン代を支払う　はたし

2014年12月5日
『　ちびまる子ちゃん　』
前髪を切りすぎたのさ未練ごと　まる子なんたよあたしゃ眠るよ　ヒヨワくん

2014年12月6日
『　オムライス　』
まだぼくら不慣れなままでいいんだと卵のずれたオムライス食む　スコヲブ

2014年12月7日
『　泣　』
重力に負けて言葉が落ちていく机の上でグラスだけ泣く　おっ

2014年12月8日
『　えっと　』
男って面倒くさがる生き物で　えっと途中で刺さないでくれ　ナイス害

2014年12月9日
『　喜　』
喜びも悲しみもまた土の上　最期の夏の葡萄も甘く　ヒヨワくん
いつの間に灯台守は姿消え喜びを聞く機会失せたり　宮木水葉

2014年12月9日～2014年12月19日

2014年12月9日
『　喜　』
正しさに喜ぶと書く父の名と眉間のシワを交互に見つめ　中森つん

2014年12月10日
『　デート　』
ストロベリーソーダが満ちたバスたった　ぼくら後ろの座席で笑う　ストウヒカリ

2014年12月11日
『　週1　』
週1で泣いて帰ってきたぼくに四間飛車とか教えるおやじ　西村湯呑

2014年12月12日
『　パンチ　』
少しだけほっとしたのを覚えてるロケットパンチが戻ると知って　小宮子々

2014年12月13日
『　喫茶店　』
賭けているグラスの氷とドアベルのどちらが先にカランというか　木原ねこ

2014年12月14日
『　必死　』
生活は必ずおれを追いつめて死なせるだろう　薄く降る雪　かにたべーた

2014年12月15日
『　ケーキ　』
満月に噛み付く夜があっていい　メープルシロップ多めにかけて　ストウヒカリ
コンビニで買ったケーキで塞がってしまってインスタントな傷め　かにたべーた

2014年12月16日
『　銀　』
左から来るとばっかり思ってた銀杏吹雪(いちょうふぶき)の中に立つきみ　きい
たまに君お越しくださいそれだけで古いレールは光りますから　中牧正太

2014年12月17日
『　いっせーの　』
僕たちはいっせーの、で駆け出した　夕陽はずっと赤かったんだ　長月優

2014年12月18日
『　18　』
十八の頃に決めてた死ぬ歳を過ぎて見ているおなじ満月　スコヲプ

2014年12月19日
『　一気　』
階段を一気にのぼる誰ひとり見ていないけど月に近づく　中牧正太

2014年12月20日～2014年12月29日

2014年12月20日
『　木　』
木登りのできない子どもだったので君を見上げて生きるしかない　天野うずめ

2014年12月21日
『　追　』
「…あの星を追ってください」強面の運転手さんそっと頷く　黒夜行
追伸は本文よりも重要でまるでグリコのおまけみたいだ　えんどうけいこ
追跡が止まらなくなる手がかりをFacebookで見つけた夜更け　葵の助
飛んでったゲイラカイトを追いかけて追いかけて知る世界の広さ　ヒヨワくん
君はもう夢追い人になっていて僕一人には詠めないんだね　ガラケー太

2014年12月22日
『　忍　』
プレゼント忍ばせているイヴの夜はやさしく抱(いた)く通勤鞄　ヒヨワくん

2014年12月23日
『　誕生日　』
黄昏にクロネコ来たる誕生日　リボンが白いそっちは雪か　中牧正太

2014年12月24日
『　クリスマス・イブ　』
クリスマス・イヴにそんなに光るなよ恋の天使が降りてくるだろ　たえなかすず

2014年12月25日
『　祈り　』
バスタブを隅まで磨く　明日こそわたしはわたしになれますように　秋山生糸

2014年12月26日
『　納　』
トラックの運転手たちに愛されて納品口の子猫は育つ　きつね

2014年12月27日
『　スキー／スノボ　』
あそこからウサギはどこへ跳んだのか リフトの上から辿る足跡　chari

2014年12月28日
『　走　』
走っても走ってもただついてくる子犬みたいなおとうとの凧　ヒヨワくん
待ち受ける第二走者の手のひらがバトンをつかむまでの永遠　文乃
俊足の感情たちの徒競走　後悔、君はもっと頑張れ　小宮子々

2014年12月29日
『　着　』
アロハシャツ着せられてゐる雪だるまはにかむやうに笑つて居たり　ヒヨワくん

2014年12月30日～2015年1月8日

2014年12月30日
『　暮　』
増えたのは靴とまくらと色でした 二人暮らしを始めた朝に　ガラケー太
アパートに「戻る」ではなく「帰る」って言いそうになるような夕暮れ　逢
日が暮れて浮び上がった光群にわたしのための灯りはあるか　秋山生糸
夕暮れは青を深めて涼やかに光り始める銀の三日月　文乃
お歳暮と検査薬とが差し出され盆には父になるらしいのだ　中森つん

2014年12月31日
『　歌　』
来年も恋人の死ぬ鼻歌でコンロを磨くこの人がいい　中牧正太

2015年1月1日
『　平成二七年の抱負　』
あたらしい街で暮らしていく日々が地図のいらないものになるよう　逢

2015年1月2日
『　明　』
ぼくたちの未来はきっと明るいとバウムクーヘンでかける催眠　きつね

2015年1月3日
『　姫　』
ひたまりはどこにでもあるきみのすむとかいのまちにひめじおん咲く　みちくさ

2015年1月4日
『　酔　』
酔い止めに母が持たせるやわらかきアルミホイルの中の梅干し　気球

2015年1月5日
『　誤　』
お詫びして訂正しますはじめから惚れていたのは僕のほうです　大葉れい

2015年1月6日
『　ヒーロー　』
ヒーローも独りでは生きてゆけなくておかえりなさいのために戦う　月丘ナイル

2015年1月7日
『　草　』
さようなら、私を見てきた生態系　１年半ぶり草むしりする　月花

2015年1月8日
『　悩　』
長引くと案外痛い〈考える人〉のポーズの右の手首は　中村成志

2015年1月9日～2015年1月15日

2015年1月9日

『　渋谷　』

愛犬の死のこと誰にも話さずに渋谷にいって弁当を買う　くろじたう

2015年1月10日

『　警察　』

子が握るバトカーきみはまたチョコを取られるような罪しか知らない　葵の助

『　ヒント　』

ひとつだけヒントをください柔らかいほうのあなたに近づくための　藤 かづえ

来週の放送までに揮発するヒントのようにまたねと言った　大葉れい

2015年1月11日

『　いちいち　』

返信が来る度いちいち思うので Re:Re:Re:Re:Re:Re:Re:Re:Re: ありがとう　レオ

『　大当り　』

自販機で当たりを引いたことにしてぬくいココアをあなたに渡す　門脇篤史

2015年1月12日

『　二十歳　』

無から出る後光のようなモノが消え枝毛を探す二十歳の窓辺　ナイス害

『　呼吸　』

だいじょうぶまだ生きているコンポタをさませるくらいの息はしている　レオ

2015年1月13日

『　獣　』

空路にて医師の乗客を求められ獣医の吾は半ば挙手せり　くろじたう

いつの間に獣になっていたたろうチキンの骨があるままの朝　スコヲプ

傷を負いさまよい泣いたけたものはあなたのキスでヒロインになる　箔紙

『　散　』

散歩から帰らぬといふ老人の貼り紙 冬の雨に濡れをり　ヒヨワくん

2015年1月14日

『　椅子　』

しあわせの重さたろうか きみが帰ったあともわずかに沈んたソファ　逢

『　ダイヤ　』

背伸びしてようやく届く引き出しのこれがダイヤと信じてた石　気球

2015年1月15日

『　銃　』

この先は有罪であると知りながらメール送信トリガーを引く　chari

こめかみが割れそうなほど痛む日々撃ち抜きたいと指をあてがう　柊

蝋梅の放つ銃声 春霞 胸元穿つその香を噛め　白木裕奈

『　互　』

お互いの角砂糖の数を覚えミルクは君が気まぐれで足す　雪先さとこ

雨音がやまないままの街でいい互い違いに飛び交う言葉　小宮子々

2015年1月16日～2015年1月22日

2015年1月16日

『　藍　』

ブランコにふたり揺られてさよならの色は藍だと気づく夕暮れ　逢

『　ピンク　』

この星の黒とピンクを入れ替えて夜が明けるまで影踏みしよう　新名リオ

2015年1月17日

『　オール　』

コーヒーとオールドファッションドーナツで２時間話す　また恋じゃない　涼風あき津

酔わないで何かをごまかす夜のためオールフリーをひとつください　逢

『　阪神　』

高らかに六甲おろしを響かせる置いてけぼりの妻のケータイ　月花

はなびらが京阪神をおおう日にぼくたちは発熱をしましょう　魚住蓮奈

2015年1月18日

『　市　』

市バスにはひとの数だけ「会いたい」があってだれかのケータイが鳴る　逢

『　場　』

深く泣く場所がないとき海へ行く人のつくった国だなチリは　中牧正太

2015年1月19日

『　育　』

風邪ひきの上に重なる羽根布団はぐくむという音のやさしさ　小宮子々

思うほど育たなかった花ですが欲してくれたあなたにならば　ひらたてる

『　池　』

ねえ石を投げてごらんよ夕暮れの池はとっぷりとっぷり泣くよ　河嶌レイ

2015年1月20日

『　ふと　』

ポケットに入る夕暮れをくださいふとしたときに取り出せるよう　スコヲブ

たまし絵の中に居るかとふと思う　たどり着けない君への階段　希和子

『　触れる　』

悲しみは擬態している蛾のようで触れたら姿こぼれてしまう　ちゃむ

2015年1月21日

『　つい　』

ついさっきついたからって言ったけど冷えた右手で気づいてほしい　藤松海晴

『　B　』

やわらかき２Bの黒が描き出すわたしが決してしない表情　門脇篤史

2015年1月22日

『　ジャージ　』

縮まらぬふたりの距離を真緑のジャージの列が追い越して春　ヒヨワくん

『　術　』

しわくちゃの手に折鶴は生み出され三羽並びき手術（オペ）の前日　黒井真砂

2015年1月23日～2015年1月30日

2015年1月23日

『　秒　』

１分の静寂のあと秒針が短針にするようにくちづけ　木曜何某

『　不眠　』

眠れない人の優しい「おやすみ」が水槽の底に積もりゆくこと　椋鳥

2015年1月24日

『　節　』

なんにでもかつぶしかけてこのひとはどんな病気でほろびるだろう　さく

『　噴水　』

心臓に小さな穴を開けられて噴き出している水の名は恋　レオ

2015年1月25日

『　お釣り300万円ねって言うおばちゃん　』

おばちゃんに「まーくん」と呼ばれ娘らに「パパはまーくんなん？」と聞かれる　泳二

2015年1月26日

『　降る　』

降るときにかぶるみんなとおそろいの雨かんむりがすこしだけ邪魔　小向大也

『　つるっ　』

競争の花言葉持つルッコラのサラダを皆に取り分けている　門脇篤史

2015年1月27日

『　つぶ　』

つぶれないこころとつぶれないからだ桃のなかみをつよく感じる　魚住蓮奈

『　無難　』

寒流に乗ってくほうが無難だと提案うけてペンギンは行く　すみ

2015年1月28日

『　ジャンパー　』

（いないけど）お前が見たら（見ないけど）笑い出すほどダサいジャンパー　泳二

『　２倍　』

あたしより２倍生きてる殿方と冬の公園鯛焼きを食む　黒井真砂

2015年1月29日

『　机　』

適切な距離なのでしょう　テーブルをひとつ挟んだあなたは笑顔　きつね

『　造　』

もしおれが人造人間だとしても熱が欲しくて注ぐコーヒー　スコヲブ

日陰にてひらく造花の静けさは君の泣いているときに似ている　七海奏一郎

淡々と生きる海鼠を眺めつつ創造神のてのひらの上　小宮子々

2015年1月30日

『　様　』

お客様、線路の前で人生を振り返るのはご遠慮ください。　稲垣三鷹

2015年1月30日～2015年2月6日

2015年1月30日

『　ミリ　』

行き過ぎるだけなのだろう悲しみは　時速２ｍｍで貫かれていく　chari

2015年1月31日

『　材　』

冷ましたら味が染みると火を止めて七年越しの恋の話を　西村湯呑

寒風に吹きさらされて廃材はまた生きていると唇をかむ　橋師

『　サイ　』

習慣でまたきみは来る 気の抜けたサイダーならばまた甘いのに　五月が丘はさみ

2015年2月1日

『　軟　』

見た目より三半規管が軟弱で内緒を溜めるスペースが無い　わんこ山田

『　とある　』

とある夢とある初恋そういったものを踏みつけるためのヒール　ゆら

2015年2月2日

『　負　』

僕に勝つけれどワインに負けていてまだファスナーとたたかっている　中牧正太

『　歩　』

歩いてるひとが全員履いているくつをわたしは脱いでしまった　はたし

2015年2月3日

『　まめ　』

たましひのなかにもおにがすむでしょう ぽつりぽつりと豆をかみしむ　季夏

『　プログラム　』

僕以外みんな高度にプログラムされたbotという可能性　真篠未成

2015年2月4日

『　私　』

わたしという硝子の器にひびがありそこがいちばん綺麗だという　七海奏一郎

『　子　』

生命を圧迫しあう苦しさの子持ちししゃもが開く喉元　気球

2015年2月5日

『　通　』

きみが振る誘導灯は遠すぎてどこまで片側通行でしょう　わんこ山田

一通の手紙になってひらかれるためのあかるい夜を待つこと　加子

『　風　』

我々は宇宙人だと教えたら首振りしなくなる扇風機　やんや

2015年2月6日

『　摘む　』

一面のシロツメクサがいっせいに花かんむりに変わる春です　月丘ナイル

『　積む　』

さみしさを積んだ小舟はゆうらりと舵をみずから西日へ切って　杏野カヨ

2015年2月7日～2015年2月13日

2015年2月7日

『　奈　』

奈良の奈を奈落の奈って言う人に私の名前を憶えてもらう　　椋鳥

君の名を呟きながら行く家路　加奈、かな、かな、かな、夏が死んでく　　黒井真砂

『　々　』

淡々と葬儀はすすみこの恋の骨は海へと撒くつもりです　　七海奏一郎

2015年2月8日

『　突　』

ふきのとうの緑まぶしくせかいじゅうでもっともやさしい突撃たろう　　逢

『　張　』

手術より一時帰宅の夕方にギターの弦を張り替える父　　涼風あき津

2015年2月9日

『　旧　』

旧姓をかこむ括弧の内側に君の知らないわたしも仕舞う　　杏野カヨ

『　球　』

きっと父は星にさわったことがある電球替えのやさしき指先　　季夏

2015年2月10日

『　転　』

転寝(うたたね)をする子が握る手のひらにそおっと小指を差し込んでみる　　404notF0816

『　点　』

またきみと話していたくて句読点ひとつふんずつ伸びゆく電話　　逢

2015年2月11日

『　日本　』

砂浜でふたり日本の輪郭のほんの一部をなぞるお散歩　　野崎アン

『　建　』

いつまでも建設途中のビルがあり彼方に星を透かす肋骨　　小宮子々

2015年2月12日

『　尻　』

縛りなきしりとりのやうな日常を揺さぶるために水仙を買ふ　　門脇篤史

『　隠　』

夢の中であなたを刺した興奮を隠して送るおはようメール　　きつね

隠しごとひとつ胸にあり「おはよう」はレモン色した高い声で言う　　藤 かづえ

隠れゆくまろきかたちの夕焼けにたましいひとさじ溶けてゆく夜　　杏野カヨ

隠してたはずたったのに見つからぬドングリひとつ　春はもうすぐ　　椋鳥

2015年2月13日

『　いざ　』

食卓に待ちくたびれた箸置きの窪み優しく十六夜ふける　　希和子

『　並　』

君だけがいない並行世界(パラレルワールド)に置き忘れられし傘は水色　　ヒヨワくん

2015年2月14日～2015年2月20日

2015年2月14日

『　聖　』

来ぬひとを待つ長さなら知っている聖書の横で寝るだけの部屋　木原ねこ

『　告白　』

中庭の桜　告白するあいた黒板消しは叩かれていた　わんこ山田

2015年2月15日

『　位置　』

見回せば同じ顔ふれ定位置にすわる夜明けのバスに揺られて　きい

『　悟　』

平凡な人生であるといふことを悟ればこんなに美味い味噌汁　門脇篤史

2015年2月16日

『　土　』

父と母すこし異なる音のする土産のすずを鳴らしておりぬ　しま・しましま

つきまとう泥あたたかき土踏まず田植えの足を沈める時の　涼風あき津

こわくない君へしみこむ春たものやっとやさしい土につもれた　中牧正太

『　紅　』

夕陽色していた金魚が死んで知る 水がこんなに無色だったと　希和子

2015年2月17日

『　住　』

寝返りを半分きみにあげました一緒に住むと決めたときから　スコヲブ

『　失　』

たましいが人のかたちを忘れじと声を枯らすや無き肢(あし)痛む　黒井真砂

2015年2月18日

『　胃　』

壇上のわが娘をみれば胃が縮み拍手する手は祈りにかわる　ルイド リツコ

ああそれは胃のせいですとわたくしの悲恋を知らないドクターが言う　たえなかすず

『　歯　』

歯車の代わりに菊を埋め込んで動きを止めた機械の心臓　桜もちこ

2015年2月19日

『　なんて　』

それぞれの付箋を手にし本に貼る なんて孤独な春なんだろう　遊糸

ゆるぎない幸せなんてないというふらんこのりはどこへ消えたの　John･ようちょう

『　弱　』

弱音などこぼさぬようにしっかりと口を結んだ燃やすごみの日　きつね

2015年2月20日

『　つまり　』

不覚にも私が咲いてしまいそう　つまりあなたが春たったんだね　月花

『　つらい　』

つらいことなんて無いよと言いながら触覚を抜く触覚を抜く　北大路京介

2015年2月21日～2015年2月27日

2015年2月21日

『　費　』

「僕ら」って呼びあうまでに費やした時の欠片は輝いている　ちゃむ

『　終　』

終点まで歩いていこうもう二度と汽車の走らぬ線路の上を　宮嶋いつく

2015年2月22日

『　電話　』

なんという沈黙たろう電話機は時雨の音をたたしく拾う　たえなかすず

『　シャンプー　』

降りそそぐ夕焼けにさへ泣きさうなきみにピンクのシャンプーハットを　桔梗

2015年2月23日

『　膝　』

この膝と何が違うというのたろう息子も猫も妻のところへ　きつね

『　味　』

全国に分布しているおふくろの味のひとつを私も担う　月花

2015年2月24日

『　強　』

霞分けいま走り出すバスの背に遠き街の名 強く手をふる　ヒヨワくん

『　ブス　』

ブスたなぁブスたなぁって撫でてやる行間を読む丸顔の猫　木原ねこ

2015年2月25日

『　煮　』

しぐれ煮のしじみばかりが褒められていまたあたしが登場しない　小向大也

『　封　』

どうしてもたんぽぽ封鎖できません足元に寄すあかるいひろさ　しま・しましま

2015年2月26日

『　ブーム　』

大人びた仕草がブームの我が息子 肩が凝りましたか そうですか　豆太

しょうが焼きブーム到来 ヌーディストビーチにいては気づけないこと　すみ

『　床　』

飽きもせずぼくらは床にしゃがみこみ青いレールを組み替えている　しま・しましま

体育で組をつくれと言われおり床の交わる線を見つめる　荻森美帆

蜘蛛そろり寝床の妻の背をのぼるお前も好きかこの黒髪が　中牧正太

2015年2月27日

『　付箋　』

いつの日か今日の続きをするために夕焼け空に付箋をはさむ　真篠未成

閉じたまま忘れたくない春色の小さな付箋たらけのこころ　泳二

捨てたはずの付箋がひじにくっついたままでそんなにさみしくない春　しま・しましま

2015年2月27日～2015年3月5日

2015年2月27日

『　聞　』

ため息も心の内のつぶやきも聞いてるような鍋の椎茸　希和子

2015年2月28日

『　破　』

カレンダー破れる音を訳したら「行くな」だろうか もう春がくる　逢

『　ッ　』

幸せはこんな風に降るのだろう スタッカートの春の雨粒　薄荷。

2015年3月1日

『　産　』

雨ならばもうやむだろうチューブから産み出す虹で歯を磨く朝　スコヲブ

島の子を島で産みたいささやかな願いを捨てて船に揺られる　宮嶋いつく

産気ずくネコと目が合い頷いた輪廻ってアトランダムなのよ　ナイス害

『　光　』

いつまでも愛されなかったドロップの薄荷味のみ知りうる光　羽島かよ子

『　町　』

流れ星だれかの町へ向かってて何も祈らず見送っている　小向大也

2015年3月2日

『　冊　』

正しさを突きつけるごと汁に浮く短冊切りの母の大根　気球

『　シャツ　』

ハンガーに次々シャツを干していく こんなにあなたを並べる朝だ　きい

『　ミニ　』

誰にでもいい顔なんてできなくてミニチャーハンは少し冷めてる　スコヲブ

2015年3月3日

『　美味　』

Webで知る誰かのレシピに支えられ今日も家族の「おいしい」を聞く　文乃

『　参　』

キズ一つないあなたのまな板に人参の朱を刻む夕方　薄荷。

『　耳　』

本当はきみに云ひたい事柄を餃子に聞かせてゐる夜である　桔梗

2015年3月4日

『　素　』

雨粒に剥がされてゆく頬に触れ呼びたいほうの名前で呼んだ　加子

『　詩　』

雨が降るだけで詩になるあの街の君の頭痛が消えますように　下弦

『　背　』

この書架のちくま文庫の背表紙が陽にやはらかく褪せてゆく春　桔梗

2015年3月5日

『　ゴール　』

さよならと白いこぶしの花が散る取り残されたゴールポストに　多香子

2015年3月5日～2015年3月10日

2015年3月5日

『　合　』

待ち合わせ場所はいつでも公平に　ひとしく星にちかいところを　　しま・しましま

『　号　』

変われない信号機ってあるでしょうあかいろずっと点けたまんまの　　ヒヨワくん

2015年3月6日

『　寒　』

寒空に凧揚げる人眺めたりちいさな風を送ってみたり　　木鼠

『　差　』

寄り添ったふたりの身長差に似てるエリンギ選び献立を練る　　木原ねこ

『　夢　』

ゴリラにはゴリラのかたちの影があると耳打ちされて目覚める夢だ　　しま・しましま

2015年3月7日

『　平　』

日曜の昼しづかなり平日は洗濯されて白くはためく　　門脇篤史

『　ウルトラ　』

シャンプーの泡で子供を次々と変身させるウルトラの母　　月花

『　魂　』

魂の色の異なる姉といてコーラの泡をじっと見つめる　　南瑠夏

2015年3月8日

『　恥　』

ヒヤシンス青ざめた顔で泣く春よ　恥ずかしいのは僕のしたこと　　多香子

『　清　』

血清が今すぐ欲しい全身の春の予感を凍らすための　　涼風あき津

『　細　』

さよならを言ったのだろう飛行機雲を見上げたきみの細い細い目　　西村湯呑

砂時計くびれの細さつまむとき神様のしごとひとつ覚える　　小向大也

2015年3月9日

『　ありがとう　』

ポケットにあったキャラメル置いてくね　ありがとうって言いそびれたし　　葵の助

ありがとう着古した服　三年の長く短い日々よさよなら　　雨宮　司

伝えたいことがあるのに背を向けた尻にハザードランプがほしい　　中牧正太

『　桜　』

薄紅の淡き光を内に秘め桜は目覚めのファンファーレ待つ　　薄荷。

『　咲　』

おかえりが聞こえる頃に咲くように父がこっそり植えていた花　　レオ

2015年3月10日

『　理　』

文系も理系も得意なあの人に教えてあげる縦列駐車　　藤 かづえ

『　佐藤　』

佐藤ゆえ佐藤と呼ばれなかった佐藤たちもいまでは佐藤さんたろう　　亜梨

2015年3月10日～2015年3月14日

2015年3月10日

『　砂糖　』

ヨーグルトに砂糖がついてこなくなり君とあれから会わないままで　大葉れい

2015年3月11日

『　秋田／宮城　』

女川に岐阜の桜が根を張って力強さでつながる日本　気球

仙台で生まれ育った銀盤の王子の花は未来へと咲く　葛葉桂

『　青森／岩手　』

ぼくたちは南部煎餅みたいたねたいたいみんなどこか欠けてて　スコヲプ

ふる里の青森目指し弁当のりんごウサギがピョンピョン逃げる　希和子

りんご食む音を聞くときあの夏の青くやさしい岩木山思う　藤 かづえ

『　山形／福島　』

春風で虚ろに頷く赤べこもこころは揺れているのだろうか　万里葉

2015年3月12日

『　会　』

「うさぎ会」会則その5 寂しけりゃ泣いていいけど死んではためた　真篠未成

『　財　』

隠された財宝を掘り出すように静かに食べる松茸ごはん　泳二

『　布　』

一枚の布を巻いたりほどいたり　たけで過ごせる少女の春は　雀來豆

2015年3月13日

『　手袋　』

手袋はいらないけれど手をつなぐ理由にはなる花冷えの道　レオ

シロが今朝赤い手袋くわえてた君の片手は僕が握ろう　多香子

一日で片っぽなくす予感いや確信がある小2の男児　葵の助

手袋の五本の指の閉ざしぬる五本の闇に指を差し入る　佐藤博之

『　充　』

繋がるって難しいのね 踏みつけて少し歪んだ充電プラグ　涼風あき津

『　万　』

100万回生きたねこには100万の生まれて初めて聴く歌がある　泳二

覗いてる祖母の遺した万華鏡 秘密があるならきっとこの中　希和子

万葉の千年続く歌の世に連なるうたが日々生まれゆく　太田青磁

2015年3月14日

『　最初　』

人類の最初はきっとここからだ金色の朝を映したトースト　南瑠夏

新しい学校へ行く最初の日　今度は違うキャラを演じる　葛葉桂

『　中止　』

運動会中止のための雨乞いを極めた田中がサハラへと飛ぶ　西村湯呑

『　ピアス　』

なんだって楽しめる日であるように雨が降るなら雨のピアスで　スコヲプ

気がつくとわたしはピアスを食べていて空と一緒に泣いていました　ナイス害

なんて眩暈　こはれてきみの右耳にかがやく銀の針をとほせば　ju

2015年3月15日～2015年3月19日

2015年3月15日

『　最後　』

純粋な瞳の人だ最後までやさしい嘘もつかない人だ　宮嶋いつく

『　中古　』

浪人の決まった夜にブックオフで使った百円玉にもさくら　かにたべーた

『　1　』

うまい棒のすべての味を食べおえて世界をぜんぶ知った気になる　門脇篤史

さよならに慣れてしまった 100% グレープフルーツジュースも甘い　レオ

窓からのひかり 子の名を書き入れるコットン 100% の白に　ヒヨワくん

2015年3月16日

『　青　』

ひとはみな海を抱えてその青さばかりを批評される春がある　七海奏一郎

青々と岩波文庫は並びをり次第したいに淡くなりつつ　門脇篤史

『　無限　』

眼に見えぬものを見たいね数列が発散していく無限の彼方　涼風あき津

『　透明　』

かろやかに階段のぼる音がする透明人間（今日はごきげん）　桔梗

2015年3月17日

『　火　』

月曜を置き去りにして火曜日はひとりで春を確かめにゆく　雀來豆

『　身　』

メレンゲがふるりとゆれる２個分の黄身のゆくえは書かれていない　大葉れい

『　質　』

終わったら電話するよと言われればすすんで君の人質になる　月丘ナイル

2015年3月18日

『　人　』

逃げなさい思い出達よ逃げなさい素敵な人が現れたのよ　ナイス害

『　野　』

野獣的センスが皿に出てますねもう盛りつけはさせてあげない　はたし

『　菜　』

日常を慈しむこと思い出し 丁寧に漉す根菜スープ　希和子

咲きかけを毟られたから苦いのか 夕餉に並ぶ菜花に問う　404notF0816

指先と指先つなぐ橋のうえナナホシ渡れ 菜の花はうみ　ヒヨワくん

2015年3月19日

『　低　』

紙袋ばかり増えゆく日常に低温火傷のやうな出会ひを　門脇篤史

黒板のいちばん上がとどかない谷くん翼つかうなら今　小向大也

またほしい低温やけど十九時の雨をひとつぶ唇に塗る　中牧正太

『　特　』

空白を埋める虚しさ吹き荒れて特技要らない履歴書探す　柊

2015年3月19日～2015年3月24日

2015年3月19日

『　得　』

納得のいかないやうな顔をして随ふ犬の背はやさしく　ヒヨワくん

2015年3月20日

『　連　』

連休のたびにくずれる体調のその正しさと生きてきたのだ　かにたべーた

『　花　』

荒野しか見ないあなたの靴跡にスミレの種をばらまいてゆく　桔梗

『　道　』

つぎつぎとヘッドライトは灯りゆきすべての道が帰り道になる　逢

2015年3月21日

『　太陽　』

太陽に自分の影を与えられ時々それを重ねたりする　七海奏一郎

『　ロケット　』

どの人を閉じ込めようか少女らは夜店で金のロケットを買う　小宮子々

『　0　』

満月の下にどぜうが二匹居てやや風流な解答用紙　塾カレー

2015年3月22日

『　春　』

水田に足を取られて倒れれば春がわたしを迎へてくれる　門脇篤史

春休み　かなりくすんだ上履きに「3年」と書く息子の横顔　葵の助

昼・夜の双子に等しく春分は長さの同じ毛布を掛ける　404notF0816

『　次　』

てのひらに次々と降るフリスクのもう戻せないたくさんのこと　しま・しましま

『　字　』

手をつなぐ影は象形文字のよう意味はいとしい友達でしょう　中牧正太

「さよなら」とえんぴつで書く　こすったら掠れてしまうかなしみがいい　逢

2015年3月23日

『　湖　』

僕はまた悲しい気持ちを繰り返す琵琶湖疏水に溢れる桜　天野うずめ

汽水湖の不完全さにうなずけばわたしの中に棲まう生命　七海奏一郎

『　傘　』

花束のつもりで渡したこの傘をあなたはきちんと返してくれた　きつね

広げるとプラネタリウムになる傘を君は雨の日しまいこんでた　瀬戸さやか

『　実　』

実りても見向きもされぬ実桜の静かな夏に憧れている　塾カレー

2015年3月24日

『　烏　』

立つ烏が濁さなかったこの部屋でわたしはひとり朝を迎える　葛葉桂

『　超　』

ことことと積載超過のバスがきて紋白蝶をおろして行った　しま・しましま

2015年3月24日～2015年3月30日

2015年3月24日

『　長　』

寂しさを紡いでいるのを知ってから「長生きして」とは言えないでいる　希和子

2015年3月25日

『　ふたえ　』

満開の桜の下の女子会の羽二重団子は花ほどすてき　多香子

『　御　』

眠剤に制御されても夢のなか歩道橋から道路見下ろす　荻森美帆

『　港　』

さよならの意味はそれぞれ違ってて七色テープ港に揺れる　ちゃむ

2015年3月26日

『　習　』

「にんげん」を習い始めて20年 未だしっぽは上手く隠せぬ　真篠未成

『　Z　』

ひらがなの「ん」氏に誘われ「Z（ゼット）」氏は　しんがり文字のオフ会へ行く　月花

『　流　』

春の日に流れのなかでひそやかに小競り合いする花びらと魚　木鼠

2015年3月27日

『　生　』

生々しサーモンのごと横たわる吾れの孤独はかくも綺麗に　杏野カヨ

『　芽　』

悪意など欠片もなくてじゃがいもの芽が密やかに蓄える毒　小宮子々

『　室　』

春といふ春を部屋から追ひ出して休符のやうにひとひを眠る　門脇篤史

2015年3月28日

『　じゃあ　』

じゃあまたと言える回数限り知る 遠い故郷と老いたる父に　待ち猫

『　蓋　』

仕事辞めもう走らなくていい道にマンホールあり　市の花を知る　月花

『　泳　』

たい焼きを持って泳がす幼子の手は緩やかな握りなりけり　成瀬山水

2015年3月29日

『　さっき　』

玄関で虎が寝てますさっきまで合コンで猫かふってたのに　宮嶋いつく

『　月　』

この街の錨のやうに猫がゐて月のあかりを留めてをりぬ　しま・しましま

『　好　』

子の好きな絵本のことなど話してる君を今でも好きだと気付く　希和子

2015年3月30日

『　読書　』

声もなく二人それぞれ本を手にページ繰る音ときに重なる　太田青磁

2015年3月30日～2015年4月3日

2015年3月30日

『　読書　』

今日もまた現実世界がキツイので虚構世界へ行きます、それでは　彩華(華by読書メーター)

『　都々逸　』

青春も粋も情歌も下ネタも　ぼくらすべてをここに持ってる　豆太

都々逸のように七字を重ね合うあなた恋しいわたしもそうよ　スコヲプ

『　大喜利　』

うたの日とかけて畳の文字と解く。その心はののじがいっぱい。　ガラケー太

大喜利の座布団のごと積み上げし愛を山田にぜんぶ取られる　ヒヨワくん

「この夏の海水浴で印象に残った思い出」「カニのクロール」　迂回

きみの古いアルバム一緒に見ながらもつい考える『写真で一言』　宮嶋いつく

2015年3月31日

『　サモア　』

青い空高いヤシの木その歌をサモアの人はだれも知らない　からしな

思い出になるのはいつも夏の日でサモアの海に眠る歌たち　小宮子々

『　祝　』

本当は期待している照明が消えてケーキが現れること　木原ねこ

祝福を述べて散るべきわたくしよ桜になれとひとひら食べる　中牧正太

『　祭　』

満開の桜の花をかじりとり春の雀は祭の支度　薄荷。

2015年4月1日

『　昼　』

出し抜けに役場のサイレン鳴り響き海辺の町に正午が届く　文乃

『　上　』

逆上がりできないままの夕暮れにいまもわたしがゐるかのやうに　桔梗

『　下　』

満開になったらすぐに送ろうと下書き保存してある（好きだ）　レオ

下手なりに魚が焼けるようになり二人暮らしがしたくなる夜　ひらたてる

すっぴんを褒めればいいと思ってるあいつのために下地をのばす　木原ねこ

咲き終へた櫻の木には幾つもの夢の名残りがふら下がつてゐる　木鼠

2015年4月2日

『　スプーン　』

わたしだけ曲がってしまったスプーンとかめんどくさいことばかりが続く　きつね

『　新　』

新緑のひかりを受けてつぎつぎと開かれていくパイプ椅子たち　しま・しましま

『　スニーカー　』

汚してもいい唯一の白としてまた似たようなスニーカーを買う　スコヲプ

平坦に生きるだけでもすり減るとニューバランスの踵は悟る　月花

2015年4月3日

『　クリーム　』

寄る辺ない午後八時だね　お風呂場のタイルの上で死んだクリーム　虎瀬千虎

『　染　』

嫌うほど馴染んだ街を見下ろして去れば三月、知らない四月　ヒヨワくん

2015年4月3日～2015年4月9日

2015年4月3日

『　髪　』

天使の輪乾かしながら「明日雨だって」とこの世の心配をする　小向大也

2015年4月4日

『　良　』

小糠雨くぐってゆけば背中から野良のにおいのいきものになる　加子

『　押　』

押しボタン式だと気づかず2分間 優しく世界は停滞していた　山中はぎ乃

『　死　』

死ぬことも許されぬまま鶏(とり)たちは命の欠けた卵をつくる　塾カレー

2015年4月5日

『　紅茶　』

ぎこちなく紅茶に檸檬入れる手でわたしに触れることのない人　ちゃむ

『　信号　』

初めての海が見たくて信号の中のおじさん歩き続ける　野崎アン

2015年4月6日

『　学校　』

上履きで走った廊下をスリッパで卒・業・生と音させ歩く　月花

占い師　宇宙飛行士　綿菓子屋　いろんな道へとつづく普通科　くろじたう

『　ソックス　』

くつしたの穴だったのです僕たちが満月とよぶあのまんまるは　きつね

2015年4月7日

『　芯　』

憂き世から切り離されて穏やかにキャベツの芯は土になりゆく　塾カレー

『　地下鉄　』

地下鉄の違う出口に出たような知ってる君の知らない姿　ヒヨワくん

2015年4月8日

『　バス　』

初めての自由はちょっと寂しくて幼稚園バスずっと見送る　葵の助

バス来ないバスが来ないぞ縁石に乗って歩いて大人を捨てた　下弦

バスとバス擦れ違うときの涼しさよ運転手らは右手を挙げて　小川弥生

最終のバスの時間は5時半で大人ぶること許されぬまま　春森糸憂

『　映画　』

「なんたっけ、カサブランカの花言葉」「そんな昔のことは忘れた」　虎瀬千虎

サヨナラを3度も言ってくれたから日曜9時は居間に残った　唐辛氏

肌色の場面は苦手　気のぬけたコーラすすって数えるみどり　蒼井灯

2015年4月9日

『　夕暮れ　』

夕暮れの音色匂いを取り戻す　夢売る夢なき職場を辞めて　月花

『　九州　』

九州を右手に乗せる、中指の付け根あたりにふるさとがある　小宮子々

2015年4月10日～2015年4月16日

2015年4月10日

『　踊　』

三階の踊り場にまた風が居て　いちばん近い窓を訊かれる　小向大也

『　闘　』

春までをたたかいぬいたごほうびに　だれかひとりをともだちにする　廻

2015年4月11日

『　スイーツ　』

プディングの肌撫で垂るるカラメルのくろさ甘さの際立つ温度　佐藤博之

『　スイッチ　』

星空を眩しいと笑む君がおり眠ったころに切り替える闇　水色

2015年4月12日

『　シーツ　』

春の日は人も天気もきまぐれで犬を待たせてシーツを洗う　木鼠

飛び込んで海水浴の前の晩くちゃくちゃになるシーツはブルー　砂山

『　盗　』

飲み会に向かうあなたを盗まれぬように額に肉って書いた　月丘ナイル

2015年4月13日

『　響　』

失恋の影響もなくマキちゃんの在庫チェックは今日も完璧　木鼠

『　トランプ　』

五月雨は浄水場にも降りそそぎパパ抜きをする職員ふたり　白黒つけたいｶﾌｪｵｰﾚ

2015年4月14日

『　傷　』

傷ついた苺よ集まれジャムになれ「お洒落だね」だとか言わしめてやれ　鹿沢和元

『　磁石　』

くっつくと思わなかったとこにふとくっついたりして生きてきたんだ　山中はぎ乃

2015年4月15日

『　天気予報　』

言い訳はこのあと進路をさらに変え、のち血の雨が降る模様です　木原ねこ

『　しっぽ　』

ドラえもんの数ある丸のなかでただひとつあなたが描き足すしっぽ　小向大也

2015年4月16日

『　白　』

激しさを塗りつけられてなお白いシーツはふたりの秘密をもらさず　せなか

『　・・・　』

（われわれを虐げてきたニンゲンに来ているらしい沈黙の春）　塾カレー

放課後の　てん　てん　天体観測で星座を　けん　けん　ば、して二人　山中はぎ乃

2015年4月17日～2015年4月23日

2015年4月17日

『　香水　』

夜に潜む何かへそっと吹きかける誰のためでもない香水を　小宮子々

『　プラネタリウム　』

つくられた流星なのに馬鹿みたい早口言葉みたいな願い　七海奏一郎

2015年4月18日

『　眼鏡　』

きっともう来ない返事を待っている眼鏡のままで眠る土曜日　ヒヨワくん

『　棘　』

押しピンの押しの部分がぬけ落ちてさびつく棘の刺さるポスター　気球

それはもう大きなかぶを抜くような君の仕草に抜けてゆくとげ　西村湯呑

2015年4月19日

『　キャンディー　』

すこしづつ薄荷の率の上がりゆくサクマドロップのやうな毎日　門脇篤史

『　残　』

一日の名残を惜しむかのように時計の鐘はゆっくりと鳴る　薄荷。

３日目が美味しいよねって言ったのに君はカレーを残さず食べる　月丘ナイル

2015年4月20日

『　ジブリ　』

夕立はジブリを見てる気持ちです若葉が今もりんりんゆれる　ガッキ

五月雨に小さなトトロ追いかけて稲荷の鳥居ぬけたら広場　砂山

豚になるかもしれないと笑いあうトンネルに似たカフェでふたりは　ゆら

『　ソファー　』

交代た僕がよろよろ生き返りソファーに投げたネクタイが死ぬ　中牧正太

2015年4月21日

『　仲間　』

ひととせをみんなで編んたつぎはぎの帆たからゆける春のあること　西村湯呑

『　輝　』

ごみ箱の隅からあなたが拾い出す輝くものを歌と呼ぶのだ　小宮子々

2015年4月22日

『　正　』

正しさはなぜ一つではないのたろうぶつかり合った果て　焼け野原　葵の助

『　ちゃん　』

ちゃん付けで呼ばれるたびにあの夏の私が少し振り向いている　小宮子々

2015年4月23日

『　爪　』

バンプスの形に丸まる爪先をさすってひらく夜の玄関　404notF0816

『　船　』

船はゆき航跡だけがいつまでも四月の海と話してをりぬ　木鼠

2015年4月23日～2015年4月29日

2015年4月23日

『　船　』

地球行き最終便の出発とともに我が子は眠りに落ちぬ　月丘ナイル

2015年4月24日

『　引っ越し　』

引っ越しのあと母からの荷物あり底に故郷の新聞敷かれ　杏野カヨ

お皿より壊れた恋の亡骸を詰め込んだ箱に「ワレモノ」と書く　蓮

『　駅　』

漠然と世界を変えてみたい朝　また改札に弾かれている　涼風あき津

2015年4月25日

『　ブランコ　』

「代わって」も言えず見ていたブランコを少し揺らしてみる雨の午後　ヒヨワくん

日が暮れて鎖を解いたブランコはジャングルジムでひとりで遊ぶ　雀來豆

『　病　』

見舞いなど来なくていいと言う父と固いベッドに並んで座る　きい

2015年4月26日

『　フライ　』

レフトへと犠牲フライはあがりゆく夏は呼吸を少し止めたる　天野うずめ

九回の裏サヨナラのランナーがキャッチャーフライを見上げる刹那　きつね

『　沈　』

堤防の一部となつた我が祖父は沈まぬ浮きをぢつと見てゐる　塾カレー

2015年4月27日

『　そんな　』

「手長いね」そんな理由で誘われてトロンボーン吹く十三の春　太田青磁

春うららら日向でころんと寝たくなるそんな月曜持ってこないで　成瀬山水

『　シチュー　』

往く春にほんの少しのおわかれをシチューの野菜煮崩れていく　小宮子々

2015年4月28日

『　スーパー　』

めずらしく電話ボックス見つけたり　素早く「S」のシャツに着替える　雀來豆

駅前のスーパーの明かり消えていて　すまないパパは今日も遅刻だ　ナタカ

歌が降りいそいで引き寄すスーパーのチラシの裏が白くなかった　多香子

瓶詰めのスーパーボール眺めてるこれも昔は宝石だった　終栗夢

『　砂漠　』

またどこか砂漠に夢を見るような顔で佇む砂丘のらくだ　しま・しましま

わたくしのうちなる砂漠の拡大を防がんと食ふハーゲンダッツ　門脇篤史

2015年4月29日

『　昭和　』

また母が昭和へ帰っているようなかすかなかすかな鼻歌をきく　しま・しましま

缶箱の中に昭和はしまはれて揺すれば軽き音ぞ聞ゆる　門脇篤史

『　平成　』

「成」の四画目がやけに長かった　時代に託す祈りのように　羽島かよ子

2015年4月30日～2015年5月5日

2015年4月30日

『　鎖　』

あなたへと続く小径をたどるようにくさり編みたけくりかえす夜　藤 かづえ
富士子という名の象の足に鎖あり 今日もザリリと歩いているのか　希和子
水たまるあなたの鎖骨そんなにも小さな海で溺れる恋だ　野崎アン
五月には必ず鎖を解き放ち自由になるとブランコは言う　雀來豆
あがりゆく坂にちぎれた鎖ありきっといまごろ誰かがひばり　中牧正太

『　礼　』

育んだ大地に礼をしてるのか 頭を垂れた向日葵の花　桜望子

2015年5月1日

『　恋　』

美しい白い孔雀をのみこんだみたいに胸が君でいっぱい　春野あくび

『　恐　』

ひんやりとステゴザウルス一人また一人と来なくなる公園で　蒼井灯
再雇用された大人のかたはらで恐縮しつつ指示を出しをり　門脇篤史
夕焼けはこわくないからこの赤は血より薄いしすぐに死ぬから　木鼠
泣くのならいっしょに泣くよ高所恐怖症の君と観覧車乗る　藤 かづえ

2015年5月2日

『　器　』

君という器(うつわ)がいちばん鮮やかにわたしをわたしのままで咲かせる　多香子

『　時代　』

恐竜のいた頃の水は雨として巡り地球は今でも青い　ナタカ

2015年5月3日

『　天然　』

教育とは何なのだろう「この巻き毛は天然です」と申請を出す　文乃

『　溝　』

側溝に入れなかつた雨たちがどうしようもなく街をさまよふ　門脇篤史
ゆるやかな溝があるからこの耳はあなたの声を拾えるのです　逢

2015年5月4日

『　ライオン　』

ライオンの捕食のごとく抱きしめて肩越しにみる夏の草原　七海奏一郎

『　血　』

なみだとは血と変わらない成分と知りつつふたり手を振っている　逢

2015年5月5日

『　400年前にタイムスリップして一首　』

「ここ昔海だったのよ」と言っていたあの日の君に見せたい海だ　小向大也
立て札の人相書きにそっくりな顔があるからもう帰りたい　スコヲブ

2015年5月6日～2015年5月12日

2015年5月6日

『　たんご　』

祖母(ちゃはは)の笹たんご積み上げられて一気に青が濃くなる五月　春野あくび

『　ゴム　』

それなりのせいいっぱいで生きていて手首の輪ゴム忘れてしまう　小宮子々

2015年5月7日

『　牛乳　』

いろいろと間違いながら生きてゆく　牛乳パックにさすチューリップ　春野あくび

『　呪　』

じゃあねってものわかりのよいほほ笑みで泣くくらいなら呪ってくれよ　文佳＊

2015年5月8日

『　シャイ　』

電話せず手紙も書かず淡々とスカーフ送る五月十日　蓮

『　彗星　』

炎天に軌跡を残し彗星のごとくホームに帰れ白球　泳二

彗星の写真集ばかり集めてる君が選んだ青い自転車　杏野カヨ

2015年5月9日

『　公　』

公園に慣れたとはいえ夕暮れは寂しいものと鉄棒は言う　雀來豆

『　教科書　』

ザビエルの頭上にハゲと書いてから30年で天罰下る　といじま

初恋をしたかもしれぬ　この中で生まれ変わるのならミカヅキモ　中牧正太

2015年5月10日

『　母　』

母はもう魔法使いじゃなくなってインターネットを繋ぎに帰る　南瑠夏

『　婆　』

また少し高いとこからばあちゃんを見下ろすようになる 夏が来る　紫都音

そしておひめさまたちは末永くおばあさんとおばあさんになるまで渋谷区で　沼尻つた子

2015年5月11日

『　仮面　』

何を見て畳まれている枕辺の仮面としての黒縁メガネ　杏野カヨ

『　餃子　』

価値観の相違を一つ乗り越えて餃子のしわはこれから四つ　中牧正太

2015年5月12日

『　ひとり　』

ひとりでに割れた土鍋を拾っている遺骨をさらうような気持ちで　404notF0816

ひとりではできないことをしませんか？(たとえばたるまさんがころんだ)　ガッキ

娘らが巣立ちし後の食卓に寡黙なひとり二つできたり　犬不飼ねこも

鍵穴につまった闇の感触はひとりで覚えるしかない　かちゃり　春野あくび

2015年5月12日～2015年5月18日

2015年5月12日

『　ひとり　』

地球儀をくるくる廻すひとりたび停めたゆびさきたしかめる国　東風めかり

子宮には別れを告げて一人から二人になるよ息を吸い　さあ　彩華

母逝きしのちひよこふれあい広場にてひよこに埋もれわれひとり坐す　荻森美帆

散髪の翌朝、ひとり襟足を剃り直さむとて背中を捻ぢる　佐藤博之

『　ふたり　』

関係に名前をつけない人といてペットボトルの水をわけあう　沼尻つた子

咳の音で起こしたのでせうきみの手がしづかに背中をさすつてゐたり　門脇篤史

2015年5月13日

『　変身　』

変身はどうでしたかと問うてみる　昨日は肉じゃがたったコロッケに　404notF0816

変身を終えた紋白蝶つぎはいよいよ風になりかけている　春野あくび

神様を見たと言い張るあいつから次々うつりたす声変わり　大葉れい

白鳥に変身すると思ってたのにいつまでも飛べないままた　えんどうけいこ

『　爬虫類　』

爬虫類たつた記憶を手繰り寄せしづかに虫を見てゐる子供　門脇篤史

2015年5月14日

『　キャラメル　』

分けあってキャラメル食べる日曜日こんなにまるい四角があった　春野あくび

『　巡　』

残酷に時は巡ってあのひとが愛した曲を子が歌いたす　樫本らむ

母の恋人が父ではない頃のハイウエストがまた流行りたす　大葉れい

2015年5月15日

『　苺　』

「木苺のタルト」のときのデシベルとヘルツでいつか呼んでください　中牧正太

『　ハート　』

こんなにもお一人様の夜なのにハートのピノに出会ってしまう　小宮子々

2015年5月16日

『　赤　』

いっせいに歩きたす人うっすらと赤信号の人を残して　春野あくび

いまはまだ青さの目立つ私でも夏には真っ赤なトマト、ばくはつ　多香子

『　黒　』

ぜんぶ混ぜたら虹になるはずたったパレットにいま夜が満ちてる　加賀田優子

2015年5月17日

『　罠　』

露という露に朝陽を閉じ込めて　なんて眩い罠なんたろう　希和子

『　かばん　』

大きめのかばんで行こう　折り曲げたくないものたちに出逢える予感　羽島かよ子

2015年5月18日

『　片　』

少しずつ私の破片を鳥にやり鳥はどこから私となるか　鹿沢和元

2015年5月18日～2015年5月24日

2015年5月18日

『　先生　』

夏休み明けてふたたび先生はわたしを苗字で呼ぶ　ぬかりなく　田中ましろ

2015年5月19日

『　キッチン　』

キッチンは逆立ちしてもいいところ君もケチャップわれもケチャップ　春野あくび

『　くらげ　』

やわらかにあなたの嘘は漂って夏のはじめの小さなくらげ　ヒヨワくん

2015年5月20日

『　演　』

ひまわりが夏公演で蓄えた種のふんだけまた夏が来る　杏野カヨ

最後まで道化を演じきるぼくに助演ナントカ賞をください　ヒヨワくん

『　例　』

「通り雨みたいなもんだ」背に響く下手な例えた　やまない、雨だ　ルオ

2015年5月21日

『　揺　』

快晴の早苗田は青い水かがみ鉄塔揺らし渡るそよ風　藤 かづえ

『　旅　』

地図帳の変な地名を見つけてはとりあえず丸をつけとく遊び　たみお

2015年5月22日

『　なぞなぞ　』

「手の中のものなーんだ」 正解を言ったら君は泣いてしまった　えんどうけいこ

君の出す一番短いなぞなぞに答えられずに夏が始まる　しま・しましま

「スフィンクス、間違っとるね」黄昏れる坂で背筋をやや伸ばす母　須磨蛍

『　灯　』

ゆるさないゆるすのあひだを往き来してしづかに灯る踏切にゐる　桔梗

2015年5月23日

『　制服　』

すれ違う母校の制服着てる子は同級生にどこか似ている　きい

スカートのウエスト一回折ったかて何んにも変わらへん青い空　小川弥生

『　センチ　』

6センチぐらい使ったえんぴつで描く未来のほのかな温み　しま・しましま

１センチ角に刻んだあの夏をぽろぽろこぼしながら生きてる　姉野もね

三日月を親友と呼ぶひとと見るセンチメンタルサーカスの夢　ゆら

2015年5月24日

『　そのまま　』

手をつなぐ力が少し弱くなりそのまま僕を捨てるのだろう　天野うずめ

すみれ道ゆく子の靴のそのままでいてほしい青いてくれぬ青　中牧正太

『　ばらばら　』

記憶ってこうやって失うのかな 単語カードのリングが外れた　涼風あき津

2015年5月25日～2015年5月31日

2015年5月25日

『　カーディガン　』

青嵐(せいらん)を受けて膨らむカーディガン帆となりすいと夏へ漕ぎ出す　ナタカ

『　兵　』

即席の風流として十六夜の月の明かりを溶かすどん兵衛　ヒヨワくん

簡単に取らせてしまう歩もかつて盃を交わしたひとりの兵士　大葉れい

2015年5月26日

『　気　』

靴下が乾くあいだの裸足から伝わってくる夏の気配が　木鼠

『　ボタン　』

月夜でも浜辺でもないこの部屋のどこかに落ちたボタン　ひとりだ　小宮子々

2015年5月27日

『　ほどく　』

結ばれぬ関係がありほどけない関係がある 冷たい夜だ　蓮

『　模様　』

ひつたりとゼリーにスプーン這はせては何度も波の模様を刻む　しま・しましま

コロッケを背負ってるような茶のブチの犬をなでてる夢の回廊　月花

2015年5月28日

『　野　』

今日の日の収穫ひとつ抱いて寝るあなたの好きなトラックは日野　中牧正太

『　×　』

プロットに × をつけられまた一つ小さな世界が閉ざされてゆく　神谷冴乱

2015年5月29日

『　ひらがな　』

街じゅうのひらがなだけを読みながら小さなあかい傘が跳ねゆく　ヒヨワくん

『　垂直　』

垂直に時を燃やして線香は父の写真の前に立ちおり　沼尻つた子

2015年5月30日

『　指　』

ふたりしか知らないことを話すたび指示語の湖をゆく舟になる　佐々木遥

うつくしい指持つひとのあやとりを見ながら過ごす終末の時　小宮子々

指であることに疲れたこんな夜は影絵の鳥に　ちょっと飛べます　春野あくび

『　感　』

ミの次がファであるやうな感覚であなたの横に座つてゐたり　門脇篤史

2015年5月31日

『　薔薇　』

灰色の記事ばかり載る新聞に凶器のやうにくるまれて、薔薇　門脇篤史

優しくも宣告をする医師がおり奇しくも白い薔薇に似ている　荻森美帆

2015年5月31日～2015年6月6日

2015年5月31日

『　ビール　』

酔うたまま眠りしひとの頬を舐め小さき麒麟はラベルへ戻る　沼尻つた子

2015年6月1日

『　遊　』

公園の遊具は建ったその日から錆び始めていると思う真夏日　沖川泰平

『　高速道路　』

あったかもしれない未来が（あの夜に東名飛ばせば）ときどき光る　沼尻つた子

夏空のきっぱりとしたハイウェイではじめて故郷だなんて呼んだ　ヒヨワくん

もう二度と行き交ふことのない街に高速道は続いてをりぬ　木鼠

2015年6月2日

『　ビタミン　』

大丈夫と笑ってみせた身代わりにビタミンいくつかはじけて消えた　木原ねこ

『　双　』

ゆつくりと忘れてしまひたいひとを砂漠へ運ふふたこぶらくだ　桔梗

2015年6月3日

『　オルガン　』

オルガンの下から覗く硬貨にもあるのだろうか好きな歌とか　雀來豆

讃美歌を奏でるオルガン追いかけて講堂を打つ正しい雨音　藤 かづえ

オルガン座流星群を見にいこうなかったねなかったねって笑おう　中牧正太

教室のオルガン弾く子を羨（とも）しく見つ五十年前から格差ありけり　犬不飼ねこも

『　さえ　』

きまぐれなシェフが多くてサラダさえ決まらぬままの最後の宴　わんこ山田

六月はなんてやろうだ花柄の傘さえ持たせてしまうだなんて　小宮子々

夕されて炎立つよな叢雲にご近所さえも映画のようで　宮木水葉

2015年6月4日

『　丘　』

ゆるやかな丘をくだって振り返る僕たち空に近かったんだ　杏野カヨ

『　刺　』

刺し違える覚悟で行ったアパートにひとり卵を焼いてたあなた　樫本らむ

死に近い夏の日ばかり集めたら瞳に刺さるサラダの緑　南瑠夏

2015年6月5日

『　？　』

ひらめきを約束されて疑問符は電球に似た形をしている　木原ねこ

『　！　』

「はい！」と打ち「はい。」に変えやはり「はい！！」にする「また会えますか？」の返信を　沼尻つた子

2015年6月6日

『　裸足　』

大昔鰭だったころを思い出しばしゃんと跳ねるバスタブのなか　ニキタ・フユ

防波堤越えてしまえば海があり靴を脱いだら飛び込むだけだ　三日月百嶺

砂浜を裸足で駆ける甥っ子は思いを寄せた面影を継ぐ　成瀬山水

2015年6月6日～2015年6月12日

2015年6月6日

『　SEX　』

泳げない子どものような表情のあなたの重み 沈められたい　津野桂

2015年6月7日

『　和　』

胡麻和えを「ごまかずゆき」と読んだことがなれそめたったほうれん草買う　木原ねこ

足し算の意味も知らないこの子らもきっと誰かと結ばれるだろう　成瀬山水

ベランダの乾いた風は情景になりやしなくて洗濯日和　坂本 樹

『　限界　』

軒先が車輛限界ぎりぎりに江ノ電ゆたりとモーター鳴らし　村田馨

したたった汗でねずみを描いている男がいよいよサウナから出る　小向大也

もうきみを抱けぬ両手をぶら下げて朝へと向かう電車に乗りき　門脇篤史

まん丸にふくれたほっぺホンドリス 三つめのクルミ両手に抱え　薄荷。

2015年6月8日

『　早　』

ねむれない夜のぼくらを救済し羊は早朝歩いて帰る　杏野カヨ

『　純　』

純水に緋鯉は棲めず屋上で誰にともなく狼煙を上げる　黒井真砂

2015年6月9日

『　ギター　』

捨てたものそして得たもの 六弦はもうやわらかな指先に問う　羽島かよ子

『　ビートルズ　』

もう僕も死んでることにして欲しいアビーロードを裸足で歩く　北大路京介

2015年6月10日

『　おはよう　』

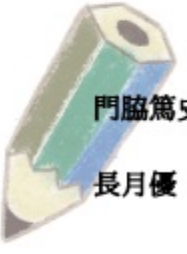
鏡台におはようと言う　声のないおはようを言うわたしが映る　荻森美帆

『　分　』

分離して混じり合いまた分離するドレッシングよもうあきらめな　泳二

ソプラノとアルトに振り分けられたとき明確になるあの子との差　真夏

2015年6月11日



『　バニラ　』

溶けかけのバニラアイスのやはらかさ たつた今から夏と決め込む　門脇篤史

『　鉛筆　』

2BをHBに持ち替えた時僕はほんのりおとなになった　長月優

2015年6月12日

『　Re:　』

手のひらの光る四角に住みついた鈴虫、Re：Re：Re：Re：鳴きかわす夜　沼尻つた子

『　汗　』

行く夏に閉じ込める筈だったもの　麦茶の汗にノート滲んで　黒井真砂

子の目には世界はきらきら映るから横断歩道で母は冷や汗　葵の助

ごめんねのメールの中に飛んでいる汗の絵文字が多くて嫌だ　彩華

2015年6月13日～2015年6月19日

2015年6月13日

『　梅雨　』

傘あまた靴あまた去る二十五時電車の床に梅雨の足跡　荻森美帆

『　ゾンビ　』

きみ、ゾンビ、ゾンビの順に渡り来る永代橋を月が照らして　ヒヨワくん

2015年6月14日

『　石　』

石蹴りは兄から習い叱られて石になるのは姉から学ぶ　雀來豆

オオカミの腹に詰められた石ころの重さ　誘拐報道をみる　沼尻つた子

『　遠　』

遠くから来たと思われ遠くから来たひととして話しつづける　佐々木遥

遮断機がたしかに降りていくたびに遠ざかりゆくふるさとがある　逢

2015年6月15日

『　背骨　』

背骨じゅう糸で吊られて恐竜は正しい姿勢を強いられている　野崎アン

『　鎖骨　』

折れた時はじめて「ここにおります！」と叫んだような鎖骨が痛い　ヒヨワくん

湯舟にて父の鎖骨の水溜まり思ひ出してる納骨終へて　希和子

2015年6月16日

『　薄　』

夏至近く薄いヴェールを剥ぐように朝は短い夜を抜け出す　藤 かづえ

『　紫　』

こうやって爪から魔女になってゆく おまえもレッドオニオンを剥け　小向大也

2015年6月17日

『　ロボット　』

ロボットになり損なって泣きながら磨くシンクはかたいつめたい　葵の助

ねぇルンバ、それは涙よ絨毯に染みているから吸えはしないの　ナタカ

『　くじら　』

シロナガスクジラがオキアミ飲むように褒め言葉だけ受け取っていく　みちゆき

2015年6月18日

『　技　』

なんとなく帰りたくない日にひらく扉　技術室は木の匂い　野崎アン

『　静　』

ぽつん から ぽつねん になるその時の音でやっぱり目覚めてしまう　小向大也

2015年6月19日

『　さくらんぼ　』

ソーダ界一うつくしいとらわれの身として漂うチェリーまた夏　たえなかすず

『　綺麗　』

きれいっていつも言われる姉ちゃんのスカートそっと履いては畳む　ナタカ

2015年6月19日～2015年6月25日

2015年6月19日

『　綺麗　』

きれいですねというまでもなくふたりサクマのハッカ飴色の月　黒井真砂

たたいまを言うまでに見た幸せはキレイキレイのイラストひとつ　のの

2015年6月20日

『　ペンキ　』

波風に動じぬ強き堤防は児童のペンキの絵を御守りにして　404notF0816

『　A　』

手のひらにローマ字で書く君の名の母音がすべてAたと気づく　永昌

2015年6月21日

『　観覧車　』

無責任に止まつてしまへ観覧車 空に二人を釘づけにせよ　涼風あき津

残骸となった観覧車は嘆く 二度と月には近づけぬこと　木鼠

夏の日の大観覧車のゴンドラのひとつはたぶんさよならのため　桔梗

いつの日かここより高い場所を知る子らを観覧車に乗せてやる　木原ねこ

隙間なく二人が並ぶ厚さへと輪切りされゆく観覧車の実　鹿沢和元

『　短歌でプロポーズ　』

ごうしちごうしちしち、と折るその指に銀の光をはめたいのです　沼尻つた子

2015年6月22日

『　英　』

唐突な蜂に車両がさざめいて帽子で捕る児英雄になる　けいと

『　踏　』

地団駄を悔しげに踏む幼子の影が楽しく地団駄を踏む　門脇篤史

2015年6月23日

『　起きて最初に目に入ったもの　』

天井に「おはよう」と紙貼ってみる一人目覚める朝の静けさ　桜望子

「早起きはきみのせいです　予定より早い電車で会いに来なさい」　きつね

『　パレード　』

葬送のパレード続くカマキリを背負ひて進む蟻のしづけさ　門脇篤史

さようなら　ラッパ　パレード　どうやってここまで来たの　野に咲くすべて　木村比呂

パレード、パレード 色ひしめいて幸福をここに集めて空っぽの空　長月優

サイダーをふたつ頼んだパレードの着ぐるみが変サイダーがきた　井田

2015年6月24日

『　テスト　』

答案のすみっこに目のさめるような真っ青なペンで海を描くひと　文佳

『　お守り　』

お守りをもらうといつも少したけ突き放された気持ちがします　高島津諦

2015年6月25日

『　桃　』

ももいろのきりんは眠るさよならはあなたが大人になってしまう日　百瀬灯

『　錆　』

錆びた螺子ころがっているこの星のどこかに螺子を待つ穴がある　沼尻つた子

2015年6月26日～2015年7月1日

2015年6月26日

『　黄昏　』

テーブルに枇杷は転がるたそがれが忘れていつた記憶のやうに　桔梗

『　プロレス　』

受けて立つ相手を信じ飛ぶのだろう　コーナーポスト離陸する足　月花

カウントを取られたように起きあがる　朝だ、すがるべきロープは無い　沼尻つた子

2015年6月27日

『　図鑑　』

いくつもの丘をめぐって色つきの風の図鑑を編んできました　ひかる

『　部屋　』

返信に一喜一憂する姉と隣の部屋で歌う弟　レオ

2015年6月28日

『　面　』

ひとことも喋らなかった日曜にB面ばかり選んで唄う　大葉れい

おはなしを終えると祖母は「おやすみ」と言ってようやくお面を取った　木鼠

大根の面取りをする　ていねいにいきる、のなかのいきがくるしい　沼尻つた子

真っ白なシャツの匂いが甦る面影橋をうつ天気雨　小野田光

でもそれもわたしであった　投げ上げた仮面は上昇気流に乗って　西村湯呑

きらきらの夏の水面をきりとったプールサイドは白い額縁　山下郁

『　台　』

台湾の屋台にひとり立ち寄ってわからないからなんでも言える　スコヲブ

2015年6月29日

『　キャベツ　』

丸ごとのキャベツを買って使い切る程度にちゃんと生きようとする　えんどうけいこ

『　わがまま　』

わがままに伸びゆく蔓の逼しき鉄条網にひらく朝顔　ヒヨワくん

2015年6月30日

『　晴　』

快晴に乾かす傘が太陽にゆうべの雨の話をしてる　杏野カヨ

『　塔　』

黄昏てゆく鉄塔の影は伸びて　ときどき横になりたいのだろう　万里葉

エレベーター研究塔はすっくりと引力に楯突いて立ちおり　藤 かづえ

2015年7月1日

『　千　』

腕に居た三千グラムの塊が「俺が払う」と居酒屋で言う　希和子

伸びきってやがて千切れてゆびきりが約束になる瞬間が好き　木村比呂

1000ピースほどのパズルの右下に浮かぶ湖水に魚をはなつ　杏野カヨ

『　マヨネーズ　』

ケチャップとマヨネーズとの境目のうつくしいまま帰りましょうか　中牧正太

2015年7月2日～2015年7月8日

2015年7月2日

『　心臓　』

心臓が脈を打たなくなる前に単3電池を買いに行きたい　きつね

『　沈　』

海底に沈んだ都市のように聞く　あなたと暮らしていた人のこと　沼尻つた子

2015年7月3日

『　かいしんのいちげき　』

かいしんのいちげき！魔王斬るよりもカボチャ丸ごと切るとき出てよ　小川けいと

『　つうこんのいちげき　』

降ってきたライスシャワーに何粒かお経が書かれてあったのを見た　小向大也

2015年7月4日

『　冷　』

北風の日は帆船のやり方で満員バスから散る背中たち　木村比呂

『　昨日買ったもの　』

新品を着てきてくれてありがとう付けっぱなしのタグまで好きだ　ナタカ

2015年7月5日

『　コンセント　』

A.D.2015 コンセントの形すら世界を一つにできていない　河野遙

『　界　』

誰ひとりへだてることはないけれどそれは藤棚という結界　西村湯呑

2015年7月6日

『　サラダ　』

しあわせな迷子のような背中してサラダバーから戻ってこない　しま・しましま

『　標　』

意味を持つことはさみしい梅雨寒の標本木のくらがりを聴く　大葉れい

2015年7月7日

『　願　』

星からの光が届きその星に願いを返すながいながい文通　木村比呂

『　星　』

どの昔生きた光か　真夜中のバケツの水にシリウスを飼う　黒井真砂

二足歩行始めた人類より遥か高くで星を見ているキリン　ナタカ

2015年7月8日

『　萌　』

わがうちになほあかあかと芍薬の芽は萌えゐたり病むと言へども　西巻真

『　問　』

疑問符と感嘆符とを繰り返し　ゆらゆらゆれる子猫のしっぽ　薄荷。

夜明けまえ空のまほらをゆく鳥に眠らぬわけを問いかけてみる　雀來豆

あなたには問題がある　問題はそれがきらきらして見えること　中牧正太

2015年7月9日～2015年7月14日

2015年7月9日

『　三（さん）　』

「印刷がちょっとずつずれているようや」三姉妹(わたしたち)見ておじちゃんは言い　月花

『　森　』

行列は森の外まで続いてて　ああカステラが焼けたみたいだ　小向大也

『　中　』

ピーマンの中から種を掻き出してひとさし指に真夏が宿る　月丘ナイル

2015年7月10日

『　ドア　』

ストリートビューで訪ねるあのドアに取り戻せない幸せが棲む　文乃

ドアノブに掛けられていた袋にはプリンと今日のノートのコピー　えんどうけいこ

『　屋上　』

舞い降りるシミュレーションを何回も屋上でする新米天使　ニキタ・フユ

ぼくたちの革命成らず　屋上へつづく扉は閉ざされたまま　桔梗

『　廊下　』

廊下にも夏は満ちきぬ隅にある消火器の中も夏なのだらう　門脇篤史

2015年7月11日

『　忙　』

忙しい、忙しいって楽しげに糠床なんかかき混ぜている　門脇篤史

『　読　』

漱石の猫をひらけば16の父のアンダーラインうるさい　シマネ

『　寝　』

寝ない子がいなかったので背を丸めお化けみたいなやつも帰った　加賀田優子

2015年7月12日

『　普通　』

普通という型に閉じ込められているショートケーキの透明フィルム　桜望子

『　S　』

２とSを書き間違えるいもうとと花かんむりを長く長く編む　黒井真砂

『　M　』

たはむれに君に蹴らるるよろこびのくすぐつたさを告げさうになる　塾カレー

2015年7月13日

『　題　』

題名が一番最後に表示され席を立たない三人が観た　萩野聡

『　重　』

すべすべの薬は甘い　舌のうえにぽつりと重さが残されている　しま・しましま

『　山　』

海のもの、山のものって言いながらおべんとばこに世界をつめる　月丘ナイル

2015年7月14日

『　ピザ　』

ピザをつまむ油まみれの指先がこの世の紙を透明にする　高松紗都子

2015年7月14日～2015年7月18日

2015年7月14日

『　ピザ　』

サラミごと切る女だと思われたろうかそっとおくピザカッター　きつね

（仲直りしてあげたっていいけれど）ピザトーストに散らすピーマン　椋鳥

『　肘　』

人間に直角部分のあることを君の肘やら機嫌で学ぶ　杏野カヨ

『　膝　』

泳ぎつかれ畳に眠る少年の日時計のごと立つ膝の影　ヒヨワくん

2015年7月15日

『　歴史上の人物　』

鳴かぬなら鳴かぬならばと信長は躊躇いがちに籠をつついた　成瀬山水

『　練習　』

日が暮れてみんな帰ってしまってもまだ鳴いている蝉とオーボエ　井田

人間になる練習をやりながらばらばらにするシャープペンシル　南瑠夏

うぐいすが練習を積んだ声で鳴く雑木林は青いトンネル　藤 かづえ

『　終電　』

終電の概念のない犬といて好きなところを舐めさせてやる　加賀田優子

2015年7月16日

『　虹　』

沈黙のなかに「虹だ」の声があり　それきり無言電話がこない　シマネ

『　黄緑　』

潮騒にちょっと似てるね一斉に木々が揺れたらきみどりの海　岡本真帆

かぎりなく黄に近づけば草原の飛蝗晩夏にあと幾度跳ぶ　中村成志

ガチャピンは洗濯したら黄緑にムックはちょっと口では言えへん　北大路京介

おばさんは黄緑色に髪を染めおれを殴って米を研ぎだす　ガッキ

大切なことから反らす目にうつる100均グッズの黄緑の色　沼尻つた子

『　深緑　』

仕事場は樹海のやうでふかみどりふかみどりつてコピー機の言ふ　門脇篤史

2015年7月17日

『　怒　』

目立たない子だったねってポケットの喜怒哀楽をするするさする　わんこ山田

『　からい　』

この店のタコライスちょっと辛すぎる　今度あなたに会ったら言おう　椋鳥

『　かゆい　』

悩みごとうちあけたれば老犬は脚もて耳をカカカカと掻く　沼尻つた子

2015年7月18日

『　イヤリング　』

置いてきたイヤリングにも気づかない彼女だったら別れさせるよ　えんどうけいこ

『　落　』

いつか落ちるまで空蝉の一室に小さな風のかわるがわる住む　しま・しましま

手鏡に空を映してのぞきこむ逆さの空へ落ちる誘惑　永昌

『　欠　』

「欠席」を丸で囲んでなお迷う皆様いかがお過ごしですか？　ルイド リツコ

2015年7月19日～2015年7月23日

2015年7月19日

『　温　』

また白い肩ふれあって梅雨明けの七月きみの体温を知る　高松紗都子

『　息　』

水面に筒が突き出ていたことを殿に言うのも忘れて帰る　こりけケリ子

『　肌　』

いつまでも肌ざはり良き人であれ折々に買ふ君のTシャツ　しま・しましま

半袖にひとつふほくろが増えていてなぞると夏の星座になった　亜梨

軽やかに目が覚め肌も滑らかで今日は少々わがままでいく　小川けいと

2015年7月20日

『　海　』

産まれたての君はなんたか海くさく私は地球になつた気がした　文屋亮

『　陸　』

大陸をたとえば愛かなにかたと思ってめざしていたのか君は　佐々木遥

『　空　』

新品に戻らないけどできるたけあなたを容れるための空っぽ　中牧正太

息切らせ外階段を駆けるとき空が一段ずつ降りてくる　太田青磁

空豆を調理する間に夏が来て兄の形見の蚊遣り豚這ふ　くろじたう

2015年7月21日

『　女優　』

赤い傘うしろに雨の街があり泣くはずたった女優がいない　杏野カヨ

新宿の壁じゅうミーシャ・バートンで私もミーシャ・バートンになる　のの

『　たから　』

梅雨明けを宣言された空たからいっそう青く磨かれている　きい

『　です　』

お客さま起きてください終点です 晴れた夜ですまたこの世です　ナタカ

2015年7月22日

『　朝　』

夏休みセミ鳴くまでは朝未満(また4時)(また5時)(また熱帯夜)　香弥子

作業所に叱られている青年の伏し目に映っている朝の床　虫武一俊

逆光の中であなたが脱いでいて眩しいままに「おはよう」と言う　萩野聡

『　靴　』

道端にミュール片方転がつて迎への来ないお話もある　桔梗

『　町　』

生きるなら隙間の多い町が良い　自由な猫がいればなお良い　小宮子々

この町のいたるところに落ちている日なたをはしごして帰る猫　小向大也

寺町の郵便ポストの口元は弥勒のようにいつも微笑む　フジタレイ

2015年7月23日

『　逃　』

逃げるときふれる視界の片隅でなぜかピントの合う花があり　鹿沢和元

2015年7月23日～2015年7月28日

2015年7月23日

『　檻　』

やさしさも時には檻になるだろう名を欺いて咲く鉄線花　小宮子々

『　鍵　』

鍵盤に散らばるひかり初夏のメジャーコードは陰を帯びたり　門脇篤史

2015年7月24日

『　対　』

対であることの危うさ片方の靴下ばかり増える引き出し　香村かな

『　カバ　』

勤務地は九年も同じなのだけど初めてカバを目にするパンダ　石衣

『　バカ　』

そーやってあなたはいつも唐突でオーストラリアはどうですかばか　笹谷香菜

マヨネーズ冷凍庫に入れちゃうバカと暮らせる俺もきっとバカだよ　だみお

「あほ」という一言にあり「バカ」という一言にない不確かな愛　蓮

2015年7月25日

『　レンズ　』

君のいた夏だけどこか鮮明で魚眼レンズの歪んだひかり　香村かな

『　Ｔシャツ　』

物干しでわちゃわちゃしてるＴシャツに母のくつした聞き耳立てて　たかはしみさお

『　スカート　』

新しいスカートを買う 夏のため、生きてゆくため 風が吹くので　山内優花

2015年7月26日

『　軸　』

透明な軸に寿命の減りゆくをみせる使い捨てボールペン　沼尻つた子

『　ふわふわ　』

はじめての夏を迎へる猫の仔の腹の和毛（にこげ）を揺らすゆふかぜ　桔梗

さみどりの壜に飼われてふわふわと光る真珠のあれはわたくし　こりけケリ子

今ここに世界の全てのふわふわを愛し続けることを誓うよ　雀來豆

ふわふわの憂鬱をゆく延々とリピートされる晴天のなか　牛隆佑

『　もやもや　』

筆洗の水面に揺れるターコイズ 君はどうして泣かなかったの　南瑠夏

2015年7月27日

『　Google　』

ストリートビューに生家を訪ねれば塀越しにいつも百日紅の咲く　太田宣子

『　動物園　』

ぼくだけがヘビクイワシのうつくしい瞳を知った閉園まぎわ　大葉れい

『　水族館　』

この厚い硝子を隔て前世ではともだちだったかもしれぬ君　小宮子々

2015年7月28日

『　ＳＦ　』

実験用マウスが絶滅してからの世界人口減りゆくばかり　荻森美帆

きみというすこしふしぎを見つめつつスローカーブを受け止める夏　木村比呂

2015年7月28日～2015年8月2日

2015年7月28日

『　理　』

無理数や複素数とか登場し冷夏であった十八の夏　ほしくん

始まりも終わりも理由なきもので春頃までは好きだったっけ　ナタカ

『　解　』

解けぬまま迎えた朝に睡蓮の花のするりと開いていたり　希和子

2015年7月29日

『　針　』

レコードの針落とすように口づけて　つかのま遠い音楽を聴く　まるやま

『　素　』

素揚げした茄子に生姜を摺(す)りながらどうでもよくなる昼間の悩み　葵の助

『　直　』

真っ直ぐも地球に沿って曲がるから少しぐらいは不真面目でいい　スコヲプ

2015年7月30日

『　間　』

五分ほど早めた時計をいつもしてその安心は間違つてゐる　太田宣子

『　アフリカ　』

アフリカをらくだが歩く　正面を描いてくれる画家をさがして　中牧正太

『　オーストラリア　』

時々は世界を逆さに見たくってオーストラリアの地図を眺める　薄荷。

2015年7月31日

『　粉もん　』

階段で待つ焼きあがり大阪の鳩と言葉に少しおびえて　気球

ひとりでも淋しくはない夏の朝パンケーキに振るシナモンシュガー　多香子

火星にもなにかの卵と粉がありふんわりさせる奇跡みつかる　小野田光

『　毎　』

毎日のように出てくるウィンドウ今日も「いいえ」を選ぶしかない　宇野なずき

『　夜　』

きつちりと閉ぢた襟元ひらきゆくやうに夜だけ咲く花がある　黒井真砂

2015年8月1日

『　顔　』

伯父さんの顔の広さが謎でした額をそっと撫でる夏の日　成瀬山水

『　おっぱい（大きい）　』

誰からも愛されずにいて疎ましく感じてしまう胸の膨らみ　きつね

まんまるのお腹につられておっぱいも臨月になる　みなぎる命　月花

『　おっぱい（小さい）　』

こんなにもちいさい胸で六匹の子犬は育つ　きみも母なり　かつらいす

2015年8月2日

『　両　』

夕立に石畳濡れてすべらかな両生類の背なのしづかさ　太田宣子

『　パンツ（男性用）　』

豹のごと駆けだしてゆく少年のパンツの下で光る青痣　雀來豆

2015年8月2日～2015年8月6日

2015年8月2日

『　パンツ（女性用）　』

起きぬけの君がパンツで現れてまた焼けてないパンが飛びたす　小向大也
スカートの女が俺にしゃがみ込み語りかけてる 泣きながら見る　ナイス害

2015年8月3日

『　影　』

あきらめのつかない影を女子大のスクールバスが二度踏んでゆく　中牧正太

『　人形　』

幸せのかたち演じて静止するドールハウスの人形たちは　琥珀

『　魔法　』

ほら街に魔法がかけなおされてゆく鳥のはばたきはじめる音で　佐々木遥
コウモリやイモリが無い日の婆ちゃんは鰹と昆布でスープを作る　雀來豆
微笑んだだけで世界は変わりゆく魔法のように吾子が手を振り　静ジャック

2015年8月4日

『　川　』

鮎釣りの竿長々とふりまわす水の上にも縄張りがある　永昌
捨てられたキャベツの屑がぼくたちの前をさらさら流れていった　井田

『　口（くち）　』

生きるため進化をすれば昆虫はくちづけなんて知らない形　木原ねこ

『　越　』

会わないと決めたまひるま快速が各駅停車を追い越してゆく　沼尻つた子
引越しの荷物を出した空っぽの部屋に転がるスーパーボール　きい
どこといふこともなけれどよき方へ続きさうなり羽越本線　小宮子々

2015年8月5日

『　言　』

風鈴の無音をあなた聞くやうにわたしの無言をこころして聞け　太田宣子

『　雑誌　』

台車には差し替えられた先月号美しいまま運ばれてゆく　柊

『　手帳　』

手帳など持たぬあなたの携帯に絹ごし二丁と付箋紙を貼る　chari
デートではなかったけれど君の名を書いた二月がまたあたたかい　小向大也

2015年8月6日

『　過　』

折り鶴の色とりどりは喪った過去の景色を補うように　羽島かよ子
そういうのずっと濾過(ろか)してきたんだねピエロが鼻を泉にひたす　小野田光

『　不　』

どの国に咲く花でしょう消印は不明瞭たし香りもしない　千花（ちはな）

『　返　』

返したり売ったりしなくていい本をぎゅっと抱きしめ眠れ妹　くろじたう
休館日ハードカバーを余韻ごと飲み込んでゆく返却ポスト　スコヲプ
それぞれの旅路を秘めた本たちでひっそり賑わう返却の棚　月花

2015年8月7日～2015年8月11日

2015年8月7日

『　午前　』

静かなる午前のチョコはとけながら終戦の日は八月の季語　ガッキ

『　事件　』

夏休み最初の事件あさがおが咲いたと庭に飛び出す息子　木原ねこ

怖いよ　なんか事件があったとかでマスコミめっちゃ弁当買ってく　井田

犯人は現場に戻る 蟻たちは砂糖を盗りにまたやってくる　ナタカ

『　事故　』

横転しレッカーを待つ乗用車夏の終わりの甲虫に似て　小川けいと

2015年8月8日

『　午後　』

「夕立」と美しい名のほうで呼ぶ 君がたたずむ雨だったので　小向大也

『　今日最初に見た花　』

泣きそうに咲くひまわりの足元に来年の夏が落ちてゆくこと　長月優

『　雨の日に見つけたもの　』

ふさふさを奪い取られたポメラニアン　ああ、夕立に降られたんだな　本上開人

2015年8月9日

『　天　』

天体に触れたるやうなしづけさでボイルドエッグを剥く朝のあり　門脇篤史

『　黙　』

黙祷を終えた私に目をひらくだけのちからがある　生きている　沼尻つた子

『　祈　』

祈ったらただ祈られていてくれるたしかなかかりつけの神さま　木村比呂

2015年8月10日

『　アイス　』

あと一球投げたら夏は終わるだろう「あたり」の棒を噛めば木の味　まるやま

『　クリア　』

透明な獣が側を駆けていく「もうすぐ雨が降る、秋が来る」　雨

『　ストロー　』

八月は祈りのかたちさまざまに曲るストロー丁寧に折る　しま・しましま

砂漠にはストローがない水を飲む駱駝の首の角度で流星　黒川ひかげ

2015年8月11日

『　水着　』

楽しげに水着のマネキン四体が家族ごっこをするディスプレイ　荻森美帆

『　意識　』

熱の子の名前を呼べばそのまぶたぴくと動かし返事に代える　木原ねこ

『　集中　』

ベルが鳴る　ステージ袖の緊張を呼吸ひとつで集中にする　太田青磁

ベランダを転がる蝉に尾を揺らし低い姿勢の猫が近づく　きい

2015年8月12日～2015年8月16日

2015年8月12日

『　迷　』

人生を試しておいで　手を解いた幼かけ出すひまわり迷路　月花

迷惑じゃなかったけどな　おとなりのトランペットはひっこしてった　加賀田優子

『　多分　』

私たちたふん人魚なのでしょう脚のかたちばかり気にして　南瑠夏

たふんねと前置きをしてする話 日陰の石に蜥蜴が潜る　文屋亮

『　絶対　』

『ぜったい？』と息子に問われきっと今あの日の父と同じ顔した　たかはしみさお

「絶対」と打てば予測に「たよ」と出る吾よそんなにも不安な恋か　津島あき

2015年8月13日

『　500日後へ贈るプレゼント　』

ジョーカーをあげようひとつ手札からあきらめを捨て駆け出してよい　蒼井灯

2015年8月14日

『　焦る　』

シンプルなサンドイッチを食べている 焦るなわたし明日はまた来る　衣未(みみ)

焦るほど自分が遠くなっていくニートのラベル剥がせないまま　キョースケ

突然の転校をするきみのため焦るみたいに鳴き通す蝉　荻森美帆

焦らずに見守り、たまに褒めること　親の仕事はそれで充分　えんどうけいこ

逃げ惑う人がそれぞれ壁となり怪獣はもう近海にいる　堂那灼風

締め切りは近づいていてまだ一人夏の短歌はできているのに　きつね

『　粘る　』

もう一度履歴書書こうテレビではファウルで粘る高校球児　葵の助

『　縛る　』

縛られて風化していく事件たち玄関先で回収を待つ　清水ゆん

2015年8月15日

『　平和　』

咲くのでSAKURAの花がフィリピンの特攻隊機発祥の碑で　chari

いつまでも戦後が続きますように穏やかな空何も語らず　柊

さかのぼる五千余年の戦記ありて文字は平和をきらふと知れり　楽水童子

『　迎　』

いつの日か来るお迎えがあの三毛であればと思う そっと見送る　小宮子々

『　送　』

黙祷を捧ぐ球児の今がある 明日を信じた送りバントで　たかはしみさお

2015年8月16日

『　ベージュ　』

ことことと ローカル線のベージュいろ田園の夏まっすぐに行く　藤 かづえ

人知れず本は西日をたくわえた果敢ない熱をかぞえるように　蒼井灯

カフェオレはミルク多めが好きだった君のどっちつかずのやさしさ　えんどうけいこ

肌色のストッキング脱ぐ昼下がり足裏(あうら)に伝う床の冷たさ　多香子

2015年8月16日～2015年8月20日

2015年8月16日

『　みんな　』

黒板はほんとは緑 みんなの言うみんなにわたしは含まれてない　沼尻つた子
見た目より意外と重いクサリガマ、みんな普段はどうしてますか　こりけケリ子
みんなうそみんなうそって囁いてくマトリョーシカの赤いくちびる　ニキタ・フユ
標本の蝶々は並ぶ 人はみな孤独の中に正しさを見る　南瑠夏
ひざ丈でやさしく揺れるスカートをみんな履いてる 立ち竦む朝　文佳

『　でした　』

さよならを知ってる人はさよならを告げる仕草が上品でした　ナイス害
はじめてのひとりぼっちを噛んでいるようでうれしい夕暮れでした　桃谷
あなたにも言えるのですが台風の来そうで来ない八月でした　中牧正太

2015年8月17日

『　田舎　』

星かちり、かちりと震ふ天北(てんぼく)の原野にひとり祖父は暮らせり　塾カレー

『　橋　』

それぞれに名前を持ちて町々の骨格のごと大小の橋　木原ねこ

『　島　』

半島を持ち寄る会にひとりだけ離れ小島で来てしまって　虫武一俊

2015年8月18日

『　バス　』

褐色の部活少女が飛び乗ってバスに報(しら)せる夏休み明け　塾カレー

『　君　』

空洞をもつてゐるから人間できみに欠伸をうつされてゐる　桔梗

『　僕　』

寝転んだフローリングに挟まれてたんたん僕でなくなる右手　スコヲプ

2015年8月19日

『　コーヒー　』

大雨が窓をたたいてドトールのここをほのかなシェルターと思う　萩野聡
コーヒーにコーヒーゼリー寄り添ひてまじりあはねど夫婦(めをと)のかたち　中牧正太
缶コーヒーのおまけのような自動車でふっ飛ばそうぜ夏の果てまで　フジタレイ

『　糸　』

糸の白ボタンの白のみな違うためつすがめつしては立秋　しま・しましま

『　My　』

Mydear を「親愛なる」と訳すとき消される「わたしの」を思います　沼尻つた子

2015年8月20日

『　欲　』

あれも欲しいこれも欲しいとひまはりのみじかい夏をきつぱりと咲く　太田宣子

『　抱　』

そっと抱く紙袋から焼きたてのパンの香りをこぼして歩く　きい
「あのひとはなんて言ってた？」抱きしめる花には花の黙秘権あり　千花（ちはな）

『　。（句点）　』

ここからは海になりますので息を止めます。あふく、上がってゆきます。　小宮子々

2015年8月21日～2015年8月25日

2015年8月21日

『　&(アンド)　』

手のなかにやはらかくなる夏の夢m&m’sの原色の皮膚　太田宣子

『　方　』

明け方にラジオからまだ漏れている誰かがリクエストした雨降り　小向大也

『　みそ汁　』

デパ地下で見知らぬ町の味噌を買い見知らぬ味でホッとする夜　小川けいと

2015年8月22日

『　雀　』

山雀(やまがら)が運ぶおみくじ吉ばかり　せっせせっせと結ぶ良縁　雀來豆

『　ヒーロー　』

街中の電話ボックス撤去されスーパーマンは助けに来ない　琥珀

『　壁　』

夏だからなにかしなさい 眩しさで僕を押しやる向日葵の壁　南瑠夏

2015年8月23日

『　スパイス　』

人生のスパイスならばお断り私は地味でも主食がいいの　雨宮　司

好きになる人はいるのか山椒の味しかしないうな丼食べる　天野うずめ

『　ノート　』

恋心つづるノートのうす青の表紙ちいさく「生物」と書く　中牧正太

『　絵本　』

憧れは憧れのままで良いのです 馬車にならないカボチャを煮込む　琥珀

2015年8月24日

『　散歩　』

満月よついてこないでくれないか今日はひとりで歩きたいんだ　冨樫由美子

『　4　』

さしあたり警戒レベル4とする　怒っていないわけがないから　深川銘

ゆるやかに四肢を広げて沈みこむベッド もうすぐ秋が来るのね　津島あき

『　怪談　』

通帳をまっすぐにしてくれる手がATMのすき間に覗く　大葉れい

2015年8月25日

『　香　』

夕立ちの香りをたんとたくわえてカエデの葉っぱは秋をたくらみ　石衣

『　文語　』

「かみさまの手紙はすごくむずかしい」娘は夢中でおみくじを読む　須磨蛍

『　名前　』

かなしみは深さで示すものですか雨にも名前があるというのに　木原ねこ

ありがちな店の名前がひしめいて雑居ビルには朝が不似合い　希和子

2015年8月26日～2015年8月30日

2015年8月26日

『　降　』

紫陽花と長靴ばかり色にする脇役な雨が鎌倉に降る　須磨蛍

『　うさぎ　』

（またいつか、歩幅の違う友人よ）亀を残して駆けてきた道　大葉れい

『　シングル　』

みんなみんなシングルマザー胸中にかなしみの子を一人抱えて　うしたべーた

2015年8月27日

『　シュークリーム　』

午前二時シュークリームを頬張って自由とはこんなにも寂しい　えんどうけいこ

『　じゃない　』

好き嫌い好き嫌い好きあと一枚 嫌い、じゃないと付け足してみる　春

蟹じゃない蒲鉾を食む名も知らぬシロミザカナのことを思って　スコヲブ

『　7　』

一枚の付箋をけふに貼りながらセブンスターに火を着けてゐる　門脇篤史

2015年8月28日

『　巣　』

こうやってあなたの両手に抱かれると巣ごもり卵の黄身のようです　多香子

『　兄弟　』

兄さんがわたしにくれた折鶴の首はきれいな鋭角でした　桔梗

『　おまけ　』

缶ビールのおまけのグラスでカルピスも麦茶も乾杯　家族で乾杯　きい

P.S.を書きたいための絵葉書を有給取って旅行までして　千花（ちはな）

いまふたりシラスのおまけのカニとして満員電車の中で近づく　木村比呂

「そう言えば」おまけのような顔をして切り出してみる言いにくいこと　永昌

2015年8月29日

『　裏　』

足裏の刺激によってヒロインが健康になってゆく物語　香村かな

『　ごはん　』

猫たちにごはんをあげる仙人が町内会に叱られている　こりけケリ子

『　これ　』

主なき介護ベッドに横たわりこれがあなたが見ていた景色　黒井真砂

2015年8月30日

『　夕（ゆう）　』

駄菓子屋は夕方５時の閉店を守り続けて３５年　えんどうけいこ

ゆふぐれの峰不二子より教はりてきみの笑顔に気をつけてゐる　中牧正太

分け入れば若い木霊と土神の声が響ける夕暮れの森　フジタレイ

『　砂　』

日記からぽろぽろこぼれる砂たちはあの夏の日に言えなかったこと　たかはしりおこ

『　嘘　』

終わらないテトリスみたいた１つだけついた嘘から始まる日々は　葵の助

2015年8月31日～2015年9月3日

2015年8月31日

『　熱　』

給食が揚げパンなので今日だけは37.3℃(ななどさんぶ)も平熱とする　雪間さとこ

きみからの言葉に熱をもらう朝 生きてく訳は些細な事だ　衣未(みみ)

『　過去形　』

後ろから風はわたしを追い越してあんなにはやく過去形になる　琥珀

『　月見バーガー　』

足元に月見バーガー転がって今年も秋は何かをなくす　静ジャック

2015年9月1日

『　シチュー　』

シチューより魔女鍋と言った方がいいすごい煮込みをいま食べている　雨宮　司

火の番をしつつ口にはせぬことや邪推を煮込む料理が得意　わんこ山田

シチューでも納豆ごはんを食べているあなたのことをもっと知りたい　天野うずめ

『（仮）』

いつからが母親なのか　産み月を仮免中のように過ごした　沼尻つた子

くたびれた七分の袖のあたりから秋（仮）はじめましょうか　小宮子々

新しい髪形にした（仮）みたいな顔ですごす一日　しま・しましま

『　未定　』

「六秒後君は私を抱き寄せる」確かな未定が浮かぶ静寂　香弥子

2015年9月2日

『　済　』

「済」というしるしのように帰り際ひたいにくちびるをあてられる　沼尻つた子

サンダルのかたちに日焼けをした足に気の済むまでを夏に立ちをり　太田宣子

『　配　』

朝刊を配るバイクが駆け抜けた道から順に新しい朝　ナタカ

月の出を待ちくたびれて戯れに猫を誘って配る花札　雀來豆

『　信　』

思春期で母をババアと呼びながら赤信号ではきちんと停まる　小川けいと

この人が僕であること僕よりもＡＴＭは信じてくれる　中牧正太

信金の横の小道の行き止まり君んちの犬ずっと吠えてた　しま・しましま

2015年9月3日

『　コロッケ　』

生きているきつねに会ったことはなくきつね色までコロッケ揚げる　沼尻つた子

ざっくりと箸をいれれば中身から湯気がのぼってコロッケコロッケ　萩野聡

昨日今日明日明後日明明後日同じ形で並ぶコロッケ　きつね

『　箱　』

マッチ箱ふればかすかに音がしてしあはせの量は決まつてゐます　桔梗

『　買　』

あの茄子はここら産まれじゃないようで黙りこくって買われていくね　小宮子々

2015年9月4日～2015年9月8日

2015年9月4日

『　詐欺　』

自由だと思はせておけばよろこんで小鳥はおまへの手のなかにゐる　太田宣子

『　貨　』

これ以上崩るることなきアルミ貨を支柱のやうに握つて生きる　桔梗

延々と貨車が連なり無人駅過ぎるひとつに消えかけの夏　こりけケリ子

あっという間に貨物列車は行っちゃうね　自販機そんなに遠かったかな　井田了平

『　働　』

ハンガーは何も言わずに吊るされてかくも静かな労働がある　塾カレー

2015年9月5日

『　装　』

装丁のきれいな文庫本を買う手の上に乗るほどの幸福　文佳

装飾のやうに婦人が席に着きカフェはつかの間完成を見る　塾カレー

『　ポス　』

茜さす窓辺にポスは横たわりあた名の理由(わけ)を教えてくれた　小向大也

便箋にたった一行エンポスの薔薇そっと撫で指先が泣く　千花（ちはな）

秋空を仰ぎコーヒー飲み干せばポスも陽気にパイプをふかす　津島あき

夕焼けに丸めた背中輝いてきっとどこかのシルバーバック　しま・しましま

『　スパイ　』

父母(ちちはは)を行きつ戻りつ凍りゆくをさなごころの二重スパイは　黒井真砂

月にドローンさがしてをりぬ吾もまた泣くといふこと知つてほしくて　中牧正太

あなたにはスパイは無理だ東京でマクドナルドをマクナルと言う　樫本らむ

2015年9月6日

『　改札　』

人間のいる改札で人間に切符を見てもらう幌別駅　松木秀

『　階　』

踊り場で靴ひも結ぶ少年の肩にひとときいたアキアカネ　ニキタ・フユ

『　沿　』

沿線のコスモス小さな旗を振り上り列車のテール見送る　宮嶋いつく

2015年9月7日

『　わき　』

吾(あ)にふたつ静かの海のあるような永久脱毛ほどこせし腋　沼尻つた子

『　首　』

心地よい束縛でしたネックレス投げれば首が少しさみしい　りりー

『　腹　』

ひっそりとこの世の端で生きているつもりのお腹を鳴らしてしまう　しま・しましま

2015年9月8日

『　もっと　』

輝きをもっと放って冷蔵庫 眠れずにいる理由のために　南瑠夏

『　そこ　』

ガス室の跡を静かにガイドされそこから生きて出てゆく私　千花（ちはな）

2015年9月8日～2015年9月13日

2015年9月8日

『　そう　』

「そうだねえ」丸いひとみでうなずいて会津土産の小さき赤べこ　沼尻つた子

2015年9月9日

『　あっ　』

「あッ、はい。」つて言ふときの「あッ、」をしきつめて資材倉庫で眠る１０月　楽水童子

『　違　』

まちがえて碧いうなぎを買ってきたひととうなぎと暮らしています　西村湯呑

『　痛　』

思ひ切りぶつけた小指じんじんとここもさびしい身体と思ふ　桔梗

魚から針を外せばいつぱいにえらを開いてこゑ無き叫び　塾カレー

2015年9月10日

『　枕　』

悪いのは全部あなただわたしぢやないやはらかすぎる枕を殴る　太田宣子

『　YouTube　』

夜に合う歌を薦めるユーチューブもうその件は終わったんだよ　中牧正太

『　Wikipedia　』

用のない時には隅で閉ぢてゐる　ヰキペディアとふあだ名の女　黒井真砂

解散が決まったバンドの項目をそっと編纂する Wikipedia　椋烏

2015年9月11日

『　林檎　』

あのこたぶん腐った林檎だったけどいちばん甘い香りさせてた　冨樫由美子

『　正義　』

手料理で家族と犬の頂点に立つ母強し　美味いは正義　月花

正の字で眠るヒーローたちを見て夜襲をあきらめそうになってる　加賀田優子

『　自由　』

好きなのを選びなさいと言いながら母の定めし正解がある　ナタカ

引き波に持ち去られていくブイがありあなたがいない自由をおもう　萩野聡

2015年9月12日

『　商店街　』

秋の野を追われた蝶が迷い込むペンキで描いたアーケードの空　フジタレイ

山川呉服店未亡人嫉妬せり寺山仏具店の建増し　冨樫由美子

クレーンが商店街とあの頃を切り裂きて吼ゆ再開発と　希和子

『　どこ　』

コンビニの傘立てに傘ひしめいてどこまでもどこまでも雨の匂い　しま・しましま

掃除機と僕だけどこも行けなくて吸引力を最大にする　黒川ひかげ

『　まで　』

きみがまだ暮らす町まで行ききみに会はずに帰る毎日がある　桔梗

2015年9月13日

『　秋　』

その角を曲がると秋の縄張りで気温が三度低くなります　永昌

ダージリンティー丁寧に淹れてゐる秋のフルーツタルトのために　冨樫由美子

2015年9月13日～2015年9月17日

2015年9月13日

『　秋　』

淹れたての紅茶は枯れ葉の匂いして秋の気配にミルクを足した　404notF0816

『　長　』

ドングリが全ポケットに入ってて長い夢ではなかったみたい　こりけケリ子

そんな事ありましたかと母が言い 長いもんなと父がつぶやく　せん

『　中学3年　』

ジョンレノンあいつと聴いた中三の冬のひと日を温め続け　希和子

2015年9月14日

『　縁　』

祖母の家は広くて静か縁側で蜻蛉とわたしは雨をみていた　みどり

ふるさとは同じだと知り小説をこえて作者に想いがめぐる　気球

『　異　』

異体字の齋にあなたが隠し持つ刀を思ふ　今朝のことばに　桔梗

『　味　』

体内の海凪いでいて昼間から仕込むスウプの野菜の甘さ　黒井真砂

「うん」じゃない返事を聞いてみたくなり砂糖を少し足す卵焼き　泳二

変わらない味を守ったじいさんの手つきがどうも怪しくて美味　井田了平

2015年9月15日

『　くじら　』

海に溶けくじらに傷を付けそうでばかやろうとか叫べずにいる　鹿沢和元

『　窪み　』

あと何年こうして抱けるか鳩尾の窪みに収まる息子を撫でる　木原ねこ

『　車　』

停まる駅持たぬ列車はただ走りその傷誰も見ることはない　小川けいと

2015年9月16日

『　雷　』

稲妻がわたしの部屋をのぞくとき見せてやるんだわたしの裸体　橘さやか

ブラジャーを平干ししててああ今日はこんなにこんなに雷が鳴る　ゆら

遠雷のどこかにゐたりデモに来てこゑを上げればこゑに呑まれて　太田宣子

ゆまりには太古の空のかをりして ふと遠雷の距離を測れり　楽水童子

知るものか思ひ切り七味を振りかけて雷こんにやく爪まで辛い　文屋亮

『　レモン　』

メールには「ポッカレモン」とだけあってこの人たぶん風邪を引いてる　真夜中

『　ハンカチ　』

いつもよりお喋りな柄のハンカチで今日の無口な私を飾る　わんこ山田

2015年9月17日

『　忍者　』

精一杯がんばったけど足音がなくならないので今日で辞めます　小川けいと

不忍の池とは言えど二三人しのんでいます蓮の陰など　こりけケリ子

『　元　』

服を脱ぎシャワーを浴びているあいた身元不明の私が歌う　千花（ちはな）

『　風　』

世界から隔絶されたこの場所でジェットタオルの風に吹かれて　門脇篤史

2015年9月18日～2015年9月23日

2015年9月18日

『　嫌　』

教師なら嫌はれるのも仕事だと割り切れなくて泣きたい夜だ　冨樫由美子

嫌ふこと。嫌はれること。三日月の見えねど昼の空に刺さりぬ　太田宣子

『　賭け　』

驚いた、明日がきっと来る方に賭ける人が多かったこと　雀來豆

『　負け　』

くるしみを言葉にしないこの人の剃刀負けの顎へと触れる　沼尻つた子

2015年9月19日

『　速　』

わたくしの速度を思ふ生きてきた距離を四十四年で割つて　太田宣子

『　爆　』

天高く正午の発破こだまして山喰ふ町に吾は棲みをり　楽水童子

2015年9月20日

『　彼　』

ゆつくりと彼方へ歩み行く叔父に人工呼吸器だけが寄り添ふ　小川けいと

(蝙蝠は世界にいつからいるのだろう)彼を逆さに愛撫したまま　ナイス害

誰(たそかれ)ぞ彼にさくらもみぢの散りぬるを椎名林檎を聴きつつながむ　404notF0816

彼岸へと向かう小さな舟ひとつ見たような背にこころ波立つ　キョースケ

『　岸　』

孤島たるわたしの岸を僅かづつ削るあなたのこゑのさざ波　黒井真砂

2015年9月21日

『　可愛い　』

かまきりを可愛いと言ふひととゐていづれ私も狙はれるのだ　塾カレー

『　原チャリ　』

原チャリを抜くタイミング計るとき私にかすかな野生が戻る　文乃

2015年9月22日

『　烏　』

結論に君は近づくいくつかの飛べない烏の名をあげながら　中牧正太

『　人　』

ギンヤンマ追いかけていた人はみな羽根の持ち方知っているんだ　ナイス害

さて、みなさん。解答用紙を裏返しにしたまま大人になってください。　しま・しましま

2015年9月23日

『　うまい棒　』

うまい棒もあんまりうまくない棒も消費税率８％　きつね

『　死語　』

いくつもの瀕死のことばの卵抱く携帯電話をしずかにたたむ　沼尻つた子

アウトオブ眼中なのだ喰えるとか喰えないとかで決める未来は　藤田美香

2015年9月24日～2015年9月30日

2015年9月24日

『　コピー　』

コピー機にとり残される店内のだれにも演奏できない楽譜　　気球

『　キー　』

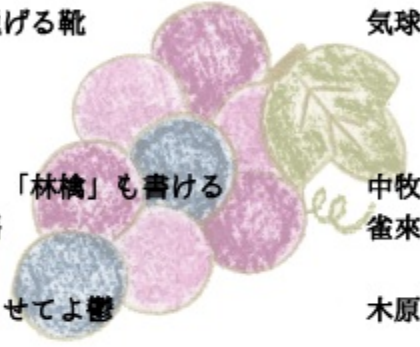
不審者がうちのドアノブから鍵を抜いておとなりさんに戻った　　井田了平

キーひとつ上げれば歌いやすくなるはずだが別のなにかたそれは　　中村成志

2015年9月25日

『　ごっこ　』

鬼ごっこ鬼のまんまで帰る日の気を許したらすぐ脱げる靴　　気球



2015年9月26日

『　ふどう　』

秋口は気をつけましょうあの人は「葡萄」が書ける「林檎」も書ける　　中牧正太

一房の葡萄がやがて名を上げて新潮文庫になる物語　　雀來豆

『　鬱　』

三本のひげを持つならドラえもんくらいの夢をみさせてよ鬱　　木原ねこ

2015年9月27日

『　料理　』

間違えてアンコウなんて買ってきていきなり鍋が光りはじめる　　こりけケリ子

土曜日は土鍋にポトフ煮込みつつドイツ歌曲に耳かたむける　　冨樫由美子

いただきます　ごちそうさまの一言でどんな料理も祈りに変わる　　永昌

『　ガラス　』

息詰めてカバーガラスをかけるとき世界のふちに触れている指　　大葉れい

2015年9月28日

『　ぬいぐるみ　』

この部屋を訪れるたびふえてゐる繁殖力のつよいミッフィー　　冨樫由美子

よおく見てタグがあるのがぬいぐるみ無理してわらうほうがわれわれ　　中牧正太

『　ガム　』

靴を脱ぎ傘を畳んでガムを捨てわたしはあなたに受胎を告げる　　フジタレイ

2015年9月29日

『　遅刻　』

予定日に三日遅れて牡牛座に産まれる前から遅刻癖です　　千花（ちはな）

『　迷子　』

唐突な空の青さに惑わされシティホールに迷い込む蝶　　フジタレイ

2015年9月30日

『　煙草　』

ああ、あれは初雪だらう　いらいらと煙草吸ふきみの黒髪に降る　　新井蜜

『　化粧　』

道化師の化粧（けわい）の下に哲学のありて夜空の星はどれも個　　黒井真砂

2015年10月1日～2015年10月7日

2015年10月1日

『　重力　』

重力が違ふのたらうまつすぐに伸びてあなたはまつすぐわらふ　太田宣子

コーヒーをまたあたためる　火星でも水は下へと沁みるだろうか　中村成志

『　最近いちばん笑ったこと　』

息子らが予想以上に神妙な十月一日子供替えの日　雀來豆

2015年10月2日

『　ラーメン　』

ラーメンに玉子くらいは落としてね　わたしがいなくても元気でね　えんどうけいこ

『　泥　』

稲刈りのあとひび割れて眠ってるうれしい泥ようれしい僕よ　木村比呂

忘れてゐた記憶のやうに踏まれれば金木犀の匂ふ泥濘　桔梗

2015年10月3日

『　ピアノ　』

ピアノとは打楽器だつたと思ひ出すやうなショパンの雨の街角　太田宣子

『　カーテン　』

カーテンをしめるあなたはカーテンをあけるときまでやさしいですか　中牧正太

2015年10月4日

『　折　』

簡易版呪術のやうに三角に折られてトイレットペーパーのあり　門脇篤史

『　叫　』

ありがとうバイオハザード不意打ちに小さく叫んであなたに触れる　木原ねこ

口に手を当ててるときのミッキーが飲み込んでいる叫びの重み　しま・しましま

2015年10月5日

『　でも　』

いまさらになって気がつくきみの言うなんでもいいはパスタのサイン　門脇篤史

僕たちはどこでもドアでどこまでも行けるはずだがまた使わない　なべとびすこ

『　鈴木　』

いつの間に君は鈴木になっていて昔のことをカッコでとじる　しま・しましま

2015年10月6日

『　誰　』

誰にでもやさしい人のやさしさが深まる秋の木の実を冷やす　高松紗都子

『　声　』

子供らのバイバイの声溶けていきもう鉄棒は冷え始めてる　希和子

2015年10月7日

『　象　』

地動説はびこる世界をあとにするずっと世界を支えてた象　小向大也

そのときは象を手本にひっそりと群れから離れ逝きたいと父　藤 かづえ

2015年10月7日～2015年10月13日

2015年10月7日

『　嵐　』

たから君、近づいてくる台風をぜんぶわたしの名前で呼ぶな　秋山生糸

2015年10月8日

『　ビル　』

藍色の夜風を映してビルたちは星に混ざったつもりで眠る　404notF0816

『　比喩　』

いつたつて言葉がすこし足りなくて隠喩のやうに揺れてゐるひと　桔梗

2015年10月9日

『　画面　』

家電屋のテレビ画面に清原はひとり残らず空振りをせり　塾カレー

『　中国　』

「日本の宝はコタツ」と力説す劉くんは顎までうずもれて　沼尻つた子

生なつめ日本にないの？じゃあおまけ両手いっぱい赤い赤い実　小川けいと

桟橋の隅にころがる可口可楽(コカコーラ)大河に消ゆる船の遠影　東風めかり

2015年10月10日

『　筋肉　』

何ていう名前なのかは知らないが君の手を引くための筋肉　きつね

逆上がり成功させて力こぶ見てと言う子を抱けば重くて　木原ねこ

『　うんち　』

ふと誰か「うんち」「おしっこ」と言いはじめ花組さんは小さく揺らぐ　まゆまゆ

いち早くウンコ座りに飽きたおれだけが未だに童貞である　塾カレー

2015年10月11日

『　笛　』

口笛を吹いて垣根の曲がり角さみしい冬の入り口がある　冨樫由美子

淹れなおすハーブのお茶は鳴らせない草笛の味　ひとはひとりだ　沼尻つた子

『　信号　』

たい焼きのあんの香りに誘われて赤信号をあと二つ待つ　mis0no

2015年10月12日

『　暇　』

にちようは暇か訊かれて暇と言う会いたいことを暇とよぶなら　照屋沙流堂

『　ホームラン　』

飛んでゆく軌跡を追つた君の目があをい空から帰つてこない　桔梗

2015年10月13日

『　おでこ　』

水槽のガラスの冷えを貼り付けてさみしいおでこさみしい魚　しま・しましま

『　外　』

傘をさす人とささない人のいて窓の外には正解はない　羽島かよ子

しあはせを向かへにゆくと決めた日のキャベツは外側から剥いてゆく　クララ・ゼーゼマン

2015年10月14日～2015年10月19日

2015年10月14日

『　ドジ　』

前の世で懲りたはずだがうっかりとまた人間に生まれてしまう　沼尻つた子
こっちだと思ったほうと反対の電車に乗ってお嫁においで　中牧正太
午前二時ドードー鳥に誘(いざな)われドジソン講師はキャロルに変わる　雀來豆
ドジだけど心はいつもそよぐけどきみのことだけ一生懸命　衣未(みみ)

『　回　』

きんいろのひかりまみれの木馬らはさみしい夜を回り続けた　404notF0816

2015年10月15日

『　失敗　』

四月から始めたばかりの新しい世界としての手帳をなくす　荻森美帆
消しごむの裏返る音をききわけるマウスは別の実験で死ぬ　加賀田優子

『　書　』

鉛筆の２Ｂはやわらかく崩れわたしの名前となってゆきます　なつ
今までに何度書いたか分からない祝の文字が書けないペンだ　しま・しましま

2015年10月16日

『　栗　』

毬(いが)のなか栗の実みっちり寄りそってどうしてみんな結婚するの　沼尻つた子

『　輪　』

やわらかに撫でられる日もあると良い火の輪を次々くぐるライオン　ナタカ

2015年10月17日

『　見　』

黒無地のあなたの胸のラコステと見つめ合ってる終電間際　杏野カヨ
怖い夢見ていたのっていいながら夢に戻りたそうな微笑み　しま・しましま

『　ギリギリ　』

駆け込んだ背中かすめて閉まるドア　しばし車内がまぶしく見える　萩野聡
ギリギリのところで星になれなくて地面に落ちた犬の遠吠え　多田なの
あぁ君にやっぱり伝えよう　今夜、背中に湿布が貼れなかったら　小向大也

2015年10月18日

『　封筒　』

長すぎる手紙を書いてしまうので封筒だけがいつでも余る　えんどうけいこ

『　パジャマ　』

「パジャマ着て学校来たやつ久々に見た」と初代に言われておりぬ　西村湯呑
しましまのパジャマでごみを捨てにゆくスパイのやうに気配を消して　桔梗

2015年10月19日

『　困　』

困るほど柿のなりたる一村の隣りも隣りも柿を喰ふひと　太田宣子

『　かぼちゃ　』

この辺で区切りをつけたい人といてかぼちゃの馬車を甘辛く煮る　藤田美香
木曜のごみ袋からうっすらと笑みを浮かべるかぼちゃのお化け　きつね

2015年10月19日～2015年10月25日

2015年10月19日

『　かぼちゃ　』

「なんきんは疎開の味」と言いしのみ父は南瓜を口にせざりき　沼尻つた子

キッチンに父の背中を眺めたりなんきんを切るその時だけは　塾カレー

2015年10月20日

『　ポケット　』

ポケットをポケツと言いしじいちゃんは小さな街の仕立屋なりし　水色水玉

ポケットは裏返しにして洗います子らの宇宙を（ごめん）壊して　藤田美香

ポケットのないドラえもんが現れてぼくを試すかのような顔つき　なべとびすこ

『　テレビ　』

新聞のテレビ欄だけ見てたのがなんにも見なくなって秋晴れ　秋山生糸

ぴんぽんが確かに鳴った気がしたの（今日もテレビに騙されている）　なつ

2015年10月21日

『　ひげ　』

目とひげを書けばなんでもババになるノートもミカンもお家の壁も　まな！

『　船　』

ひとり乗り宇宙船です　さみしさを抱へた夜のビニール傘は　桔梗

ゆったりと水平線を這うように船どこまでが真冬でしたか　香村かな

2015年10月22日

『　蝶　』

身の内を抜け出してゆく魂(たま)のごと六条通りを揚羽がふわり　多香子

『　つまらない　』

つまらない日の繰り返したとしても椿はあかく冬に綺麗だ　香村かな

2015年10月23日

『　ジャム　』

食卓のマーマレードにさす光やわらかい日になりますように　香村かな

『　カレンダー　』

真夜中にそっと書き足す星印あなたが生まれてくれてよかった　なつ

日めくりをパラパラ漫画に見立てればあっというまに今日も満月　雀來豆

2015年10月24日

『　結　』

やわらかな指に玉結び教えつつ子とクッションを作る土曜日　文乃

『　思い出の一曲　』

京都駅に向かう車内に流れてたデイドリームビリーバー　さようなら　希和子

2015年10月25日

『　別　』

改修中の幌別駅の階段はせまくなりたり足場組まれて　松木秀

『　笑　』

思い出し笑いのようにポップコーンはじけて静まるレンジ　ひとりです　沼尻つた子

2015年10月26日～2015年11月1日

2015年10月26日

『　同級生　』

窓越しの赤いベンチに雪がふる「クラスメイト」のままでよかった　大渕マコ

『　溶ける　』

ほろほろとわたしの輪郭溶けてゆき静かな湯船に呼吸が浮かぶ　文乃

2015年10月27日

『　続　』

続編を毛糸のように編んでゆくほつれた箇所が想い出になる　杏野カヨ

『　くるぶし　』

手術後の浮腫み予防のソックスの白さに馴染まぬ父のくるぶし　希和子

2015年10月28日

『　℃　』

きっといま夢を見ていることでしょう5℃に保たれ眠るレタスは　雪間さとこ

『　命　』

濡れた手に貼りつく米よ運命はそろそろ路線を変えないかしら　しま・しましま

2015年10月29日

『　はしご　』

静(いさか)ひて帰る男の軽トラの梯子は月へ飛び立つ角度　中牧正太

柿の木に長いはしごを立てかけて蟹の子色の夕日をつかむ　しま・しましま

聖女魔女手を取り合って次々と光のはしご登りゆきたり　こりけケリ子

『　銀河　』

くるくると「銀河」を丸めて持ち帰る土曜の午後の習字教室　藤 かづえ

2015年10月30日

『　父　』

裏庭で採れたカボチャを抱きしめてただ撫でている父のハロウィン　フジタレイ

リビングを行きつ戻りつそわそわと子供にかえる「父の日」の父　まゆまゆ

『　エロ　』

クソエロい女医が対応してくれて何の治療も受けられず死ぬ　宇野なずき

書くときに唱えてしまうヨエロすんあなたに尋ねたいことがある　木原ねこ

2015年10月31日

『　四字熟語　』

言葉さへ失ひさうな母と居て小春日和の縁のしづけさ　藤 かづえ

『　ハロウィン　』

しゅるしゅるとシーツおばけはとけてゆきお菓子両手に眠る幼子　ルオ

ハロウインの仮装と出会うA棟をいつもの顔の老爺が過ぎる　静ジャック

街じゅうが吉野家色に染まってて吉の字はなんだか嬉しそう　小向大也

2015年11月1日

『　サッカー　』

あかねさす君はわたしに慕われてゴールポストにきらわれている　中牧正太

2015年11月1日～2015年11月7日

2015年11月1日

『　犬　』

出入り口だけを見つめて犬が待つスーパーの灯に照らされながら　きい

2015年11月2日

『　エレベーター　』

エレベーター下降を終えてわたくしの芯が僅かに遅れて届く　文乃

『　助　』

日曜の夕方に食ふスーパーの助六寿司の米の冷たさ　塾カレー

2015年11月3日

『　大学　』

統廃合された学部を履歴書へしるす窓辺に埃が光る　沼尻つた子

くたくたの私と４時に入れ替わる大学生がかじる菓子パン　気球

キャンパスの銀杏のしたにわれを待つきみのひたひはきんいろの舟　太田宣子

『　窓　』

終電の窓越しに君が何か言う　わからないけどわたしもと言う　きつね

2015年11月4日

『　県　』

県境（けんきやう）を兼ねる稜線あの山のむかふに貝を飼ふ町がある　楽水童子

奈良県じゅう鹿が闊歩をしていると思ってた人手を挙げなさい　雨宮　司

『　首　』

手に取れば首の角度がひとつづつ微かに違って千の折り鶴　希和子

2015年11月5日

『　たまご焼き　』

玉子焼きひとつやるからシエスタであんたの夢に入らせてくれ　三畑幾良

『　占　』

それならば妻の背中に触れてみる今日のラッキーアイテムは船　中牧正太

2015年11月6日

『　百　』

山百合が知らない場所で燃えること燃えうつること燃えつきること　吉川みほ

『　毛糸　』

予備として買った毛糸を余らせて心の余裕として処分する　気球

2015年11月7日

『　並　』

遊びつつ帰る子供に追い越され並木もわたしも景色のひとつ　しま・しましま

点々と並ぶ錠剤飲み終えてまぶたを閉じたあとの粉雪　吉川みほ

後ろには誰が並ぶかわからない先頭で待つ電車のスリル　小川けいと

『　茄子　』

紫を威嚇の色と思う日の優しく白い茄子の内側　荻森美帆

野菜界でいちばん嘘が上手そうなつやつやの茄子を揚げてやる　沼尻つた子

2015年11月8日～2015年11月14日

2015年11月8日

『　雑　』

乱雑に掻き回されてこころというものの在り処に気付く　初恋　　藤田美香

『　端　』

端っこのほうから冬になってゆくニットの帽子が一番乗りで　　杏野カヨ

秋といふ本のページの端を折るやうに葉裏をかへして風は　　桔梗

2015年11月9日

『　国　』

国境を越えた辺りで一羽ずつ白から赤に染む鳥の群れ　　萩野聡

あたたかな国へと飛んでゆきたくて冬を見下ろす鳥の目になる　　吉川みほ

『　酒　』

今年から日本酒を呑む弟は世界の話をするようになり　　三畑幾良

2015年11月10日

『　いい人　』

人知れずお地蔵様のお供えが新しくなり秋桜咲く　　春彦

『　丼　』

おそらくはご先祖様の分なのだいつも一口残るカツ丼　　小宮子々

2015年11月11日

『　一緒　』

小包で水菜と一緒にうちに来たカマキリに今威嚇されてる　　小川けいと

いつしよかな？／ちがふ気もする／僕たちは牧野植物図鑑ひろげて　　楽水童子

『　藤子不二雄　』

泣いて泣いて辿り着きたるMステの剛田武はCMのあと　　中牧正太

2015年11月12日

『　マラソン　』

なぜだろうロードレースを走るたび新種の蝶を見つけてしまう　　雀來豆

『　待ち合わせ　』

いつせいに散つたイチヤウが駅前の駐輪場の隅で落ち合ふ　　桔梗

2015年11月13日

『　ナルシスト　』

君の目をみつめるふりで本当は瞳にうつる僕をみていた　　永昌

『　道　』

あやふやな記憶のなかですこしだけとほまはりしてゐる母を待つ　　桔梗

2015年11月14日

『　本のタイトル　』

つかまえることの上手な人たちの渋谷一面ライ麦畑　　中牧正太

『　はさみ　』

かなしみをどうしていいか分からずに工作バサミで切った前髪　　藤田美香

2015年11月15日～2015年11月21日

2015年11月15日

『　雲　』

雲少しある青空は安心でメトロから出て二駅歩く　小野田光

『　スープ　』

透き通るスープに味のあるゆへに臓腑のうちにほどけゆく冬　門脇篤史

2015年11月16日

『　ピンク　』

ショッキングピンクのペンキぶっかける正気じゃやってられない脳に　葵の助

『　紺　』

紺色のスカーフが知る青春はもっと自由に縛られていた　成瀬山水

2015年11月17日

『　放課後　』

放課後の終はる教室　ゆつくりと黒板は黒く戻りてゆきぬ　太田宣子

『　イルカ　』

波風をほほえみながら越えてきたイルカのかたち祖母の背中は　中牧正太

2015年11月18日

『　飛行機　』

飛行機になってごまかす弟の尻はつらつと居間を出ていく　加賀田優子

『　出　』

出番待つ間に指は冷え切って誰かのベートーベンが聞こえる　ナタカ

2015年11月19日

『　虫　』

またひとつ静かな昼を巻き込んで蝶は渦巻く舌を持ってる　吉川みほ

うつくしい花だけ食べて夢ばかりつむいで僕は弱虫でいい　太田宣子

丸くした手でつかまえたコオロギが命のちから跳ねて教える　小川けいと

『　短　』

短編を読むかのような指先に剥がされていくバウムクーヘン　大嶋航

違和感はあるけど君がくれたので丈の短い靴下をはく　きつね

ゆるやかな坂道上がる自転車に短パンの足くいくい伸びる　きい

2015年11月20日

『　レンガ　』

赤レンガ建てたこぶたが探してる未経験からはじめるシゴト　笠和ささね

『　架空の動物　』

風邪明けの喉にビールが滲みてゆきラベルの中の麒麟と笑う　静ジャック

2015年11月21日

『　全校生徒600名の前で一首　』

きみたちが600通りの声をして今歌いたす校歌斉唱　文乃

いまちゃんと聞いてゐるのは六人と先生知つてゐるから平気　冨樫由美子

えーみなさん、わたしの猫を掲げます ねーこ、ねーこをお願いします　はたし

2015年11月22日～2015年11月27日

2015年11月22日

『　ラブレター　』

書きかけてやっぱりやめた恋文がだんだんドライフラワーになる　杏野カヨ

『　結婚　』

二十年経っても知らぬことがありそれでも同じ海を見ている　文乃

2015年11月23日

『　イチョウ　』

私生活に立ち入るつもりはないけれど銀杏落葉をきみのかばんへ　しま・しましま

『　謎　』

解かなくていい謎もある幼子の手紙に並ぶでたらめな文字　木原ねこ

スフィンクスの謎かけに勝った気がしてる父の車椅子を押しながら　沼尻つた子

2015年11月24日

『　貝　』

ひとつ、またひとつと開きゆく貝につひに開かぬものの混じれり　塾カレー

『　席　』

告白を済ませた僕に少しだけ柔らかくなる終電の椅子　大嶋航

2015年11月25日

『　病院　』

病室に林檎を剥かるる雨の午後ああ生も死も押しつけがましき　太田宣子

『　凶器　』

今はただブックエンドを演じつついつか凶器となる広辞苑　小宮子々

2015年11月26日

『　好きだった教科　』

手順よく進めていった証明がかちりと決まる瞬間が好き　文乃

伴奏は得意だし楽しかったけど私もそっちで歌いたかった　深影コトハ

忘れ得ぬ春の真昼の教室のくからくかりしきかるけれかれ　小宮子々

余すことなく手をつなぐ原子たち。ぽつんと見てゐる五限目の月　太田宣子

空中を散歩していた 現国の物語だけ読みふけっては　たかはしみさお

割り算にあまりってのがあったでしょ給食よりもあれが好きだわ　小野田光

『　瓶　』

もう一度あなたが現れるようにきっちり締めておくジャムの蓋　西村湯呑

無作為に瓶詰めされたピクルスのさみしさなんて誰も知らない　杏野カヨ

2015年11月27日

『　凛　』

苔むせる冬の狛犬撫でやれば凛々しき眉はかすかにゆるむ　沼尻つた子

『　昔　』

もうすぐに今は昔のものがたり蛍光灯がまばたきをする　秋山生糸

2015年11月28日～2015年12月4日

2015年11月28日

『　消　』

ばんばんと叩かれクラスの一日が黒板消しから旅立っていく　文乃

『　半濁音　』

濁音で言うよりずっとやさしくてパカパカパカってあなたをたたく　真篠未成

2015年11月29日

『　イケメン　』

イケメンは壁画であって安らぎはあなたのような卵ご飯だ　杏野カヨ

イケメンとわたしが言ったときだけは否定をしないあなたはイケメン　木原ねこ

『　術　』

普段より色の名前が増えている美術館帰りの夕空は　太田青磁

2015年11月30日

『　計算　』

足して二の世界に生きてきつぱりとみかんとりんごはみかんとりんご　太田宣子

『「　」』

言いかけた君がかっこを閉じるまでわたしはそっととなりにいるね　きつね

2015年12月1日

『　冬　』

先駆者のいるあたたかさ足跡に足を重ねて夜を帰った　萩野聡

『　線　』

長葱を刻んでゆけばあおあおと短き線が積もるまな板　瓜久リエ

2015年12月2日

『　ブーツ　』

できるだけ時間をかけて編み上げのブーツを履いた　もう戻らない　えんどうけいこ

『　鍋　』

くつたりと鍋の春菊やはらかく居場所はひとつあれば十分　塾カレー

2015年12月3日

『　コート　』

いつか降る雨をこわがる僕たちのコートを少し離してかける　中牧正太

『　天井　』

奇跡なら体育館の天井に二年前から挟まっている　小向大也

2015年12月4日

『　門　』

山門の脇の山茶花絶え間なくひらき続けるこぼれ続ける　小川けいと

更地には門柱だけが残されて到着しない船を待ってる　吉川みほ

『　選　』

手に取った林檎の裏を確かめるすうっと香る冬の冷たさ　柊

2015年12月5日～2015年12月10日

2015年12月5日

『　洗　』

気のせいかカレの下着を入れてから笑い続けている洗濯機　雀來豆
振動が激しくなってすっと逝く洗濯機って揺れて生きてた　わんこ山田

『　時計　』

嘘をつくことなどないと思われて電波時計も大変ですね　中牧正太
僕だけが時計を外して会っていて君は十時の電車で帰る　ナタカ
腕時計なくした星がそわそわとしているあかるいこの世のおわり　小宮子々

2015年12月6日

『　予定　』

花を待つ花瓶の水のように揺れ週末の予定はあけてある　沼尻つた子

『　ページ　』

君からの歌集のページに折り目ありひとりの部屋で二度読み返す　琥珀
ぼくの背にぼくについての本がある風でページがたまにめくれる　豆打たんす
やわらかになったページを捲りつつこれが父の好きな「津軽」か　ナタカ

2015年12月7日

『　おまけ　』

翌朝の湯たんぽの湯に顔洗ふおまけみたいにしあはせはある　太田宣子

『　既視感　』

ああずっと呼ばれていたのだ旅先のまばゆき大樹を見上げ佇む　まゆまゆ

2015年12月8日

『　定規　』

母の手は体温計にも定規にもなつてわたしの世界を測る　太田宣子

『　柄　』

色柄とそうでないのに分けられてシーツと一緒に回る白熊　杏野カヨ
迷つたら空に柄杓を探せとふ（雨が降つたらその眼裏に）　桔梗
牛丼のうつわの柄が思い出せなくて今夜は牛丼にする　はたし
虎柄の子猫が窓辺にまどろんで毛布の縞に溶けてゆくまで　瓜久リエ

2015年12月9日

『　DNA　』

相続の書類をめくる指先に二重らせんの面影を見る　羽島かよ子
亡き妻の螺旋がゆるく纏いつく　娘は明日嫁ぎます　たかはしみさお
根拠なく遺伝子ばかり気にしてる　いつまでたっても羽が生えない　こわくないもり
色柄が似ているならばそれだけできみの生まれ変わりにも思えて　淡海わこ

『　ジャニーズ　』

リビングでひかりと闇の場所になるテレビの中の嵐と僕と　水本まや

2015年12月10日

『　住所　』

住所録繰りつつ思ふ音信の途絶えし友は友と呼ばぬか　冨樫由美子
こんな字を書く人だった　封筒の今はもうない住所が語る　遊糸

2015年12月10日～2015年12月16日

2015年12月10日

『　デート　』

いつもなら少し遅れて来る君が時間通りに来た最後の日　真夜中

ブレンドとカフェモカ持ってきょろきょろとわたしを探す夫を見ている　藤田美香

2015年12月11日

『　キリン　』

金色のキリンがパレードするような公孫樹並木をあなたと歩む　沼尻つた子

大好きな毛布はキリンの柄なので少し縦伸びした夢を見る　小川けいと

夕暮れにゴムのキリンがピュウと鳴きキッチンに立つ母を呼び寄せ　蘇我ポコ

『　劇　』

貴方には劇薬でしょう＜関係＞を名付けぬままに交わすくちづけ　深影コトハ

劇場の裏で光を操って陰に徹する君が眩しい　ルオ

劇薬が欲しいピュレグミ分け合ったくらいじゃ心中できないのだし　ナタカ

不都合を許されたいね日曜をまるごと時代劇でつぶして　小宮子々

2015年12月12日

『　俺　』

「俺たち」に含まれますか九回のスコアブックをつけるわたしも　中牧正太

『　逆　』

スプーンのくぼみに映るさかさまの部屋にも夕陽が射し込んでいる　瓜久リエ

2015年12月13日

『　的　』

ブーさんのおなかを狙い銃構え、ごめんなさいと撃つ射的場　安西大樹

『　北　』

北国の犬めく人が婿に来て「これはあの日のお礼だ」という　こりけケリ子

2015年12月14日

『　ダンス　』

かつおぶし踊る踊るよ大阪のタカシがつくる舞台の上で　萩野聡

霜ばしらシャクシャク跳ねるランドセル凍える朝をヒップホップで　たかはしみさお

『　広告　』

むかしからみかんの皮は高級車のチラシの箱に捨てるならはし　桔梗

2015年12月15日

『　後　』

三歩ほど後ろを歩くことにする　君の入った景色が見たい　杏野カヨ

『　THE　』

強そうな名詞の前に「THE」をつけてそれから始めるプロレスごっこ　静ジャック

2015年12月16日

『　紅　』

紅ショウガいじいじするのやめなさい泣いてもいいんだから泣きなさい　加賀田優子

『　白　』

飛び散った漂白剤のひとしずく閃光として胸もとにある　沼尻つた子

2015年12月17日～2015年12月23日

2015年12月17日

『　編　』

靴下を編みつつお腹に手をあてて足のサイズを教えて貰う　藤緋翠

『　夏にやり残したこと　』

また海で泳ぎそこねてだんだんと遠くなりゆく魚の記憶　小宮子々

また冷やし中華を食べそびれてゐる　終はりましたとふ言葉はなくて　桔梗

2015年12月18日

『　歯　』

戻れないところまで来た歯ブラシは歯を磨かない歯ブラシになる　荻森美帆

息をするたびこそばゆい風が吹く筆箱に歯を放り込んだら　葵の助

『　ヤンキー　』

ヤンキーの井上君がプリントを「はい」って言って回してくれる　犬飼あき

丁寧にベビーカー押しヤンママは拒絶していた社会へ踏み出す　月花

2015年12月19日

『　温泉　』

あの方と混浴できるものならば贅肉なんぞ字余りしてでもいくらでも落とします　くろじたう

絶景であればあるほど見られてる気がして隅っこ猫背でつかる　小川けいと

『　噂　』

噂にもならない暮らし　週末は湯船にお湯をはらうとおもふ　楽水童子

2015年12月20日

『　近くの公園でいちばん大きな樹　』

栄(さか)えあれどんぐりを生(な)すシラカシのことも銀行造幣局に　中牧正太

『　など　』

うつむいてイルミネーション駆け抜けるみんなどうして一人じゃないの　葵の助

浮き上がる輪切のレモン押さえてる　運命などを信じぬ君は　南瑠夏

2015年12月21日

『　リモコン　』

１チャンから12チャンまで替えたのち消したるテレビにわれが映りぬ　萩野聡

リモコンの電池を替える　この次に替えるときまで生き延びるため　沼尻つた子

『　椅子　』

医者の前の小さな椅子に腰かけて客体となる私のからだ　大塚亜希

2015年12月22日

『　遅刻　』

１０年の遅刻も許す君をまた可愛く思う僕の負けです　北大路京介

『　いいえ　』

これからも共に歩いてくれますか　いいえいいえと下がる靴下　月花

2015年12月23日

『　吊　』

吊り革に触(さわ)れるようになったからママって呼ぶのをやめたい気分　ナタカ

2015年12月23日～2015年12月29日

2015年12月23日

『　静　』

粛々と授乳している真夜中の過不足のない真夜中の音	月花
二十四時、サティの裏で踏切はとても静かに鳴り響いてた	のの
この星のサイレントマジョリティたちやや丁寧に納豆を混ぜる	須磨蛍

2015年12月24日

『　前　』

雪が降る一瞬前に「あっ」て言う友だちがいて雪の日うまれ	冨樫由美子

『　年に一度　』

そろそろと母の雑煮の作り方を記憶の棚から取り出してゐる	桔梗
新宿はいつも工事をしてるのね　年に一度のバス走り出す	月花

2015年12月25日

『　おもちゃ　』

おもちゃ屋があるのに子どもがおらぬ町、あるいは子どもが遊ばない町	照屋沙流堂
あの方も日本語までは読めなくて子が泣いてます『電池別売り』	なかばまち子
しょーもないおもちゃ欲しがる子を宥め温泉宿で饅頭を買う	葵の助

『　25　』

笑える日ばかりじゃないけどママチャリのキー番号は２５２５にする	沼尻つた子

2015年12月26日

『　餌　』

手品師の見習いのようにパン屑を撒く子は鳩の羽ばたきの中	ナタカ

『　サイコロ　』

脳みその代わりにサイコロ入れてます。たいていそれで間に合いますね。	森下裕隆

2015年12月27日

『　名　』

ひらがなで書いていた名にひとつだけ漢字が混じり二学期終わる	木原ねこ
ふくふくとしあはせさうな名を持ちてふくら雀はひなたにあそぶ	藤 かづえ
今日会った人は六名だれもみな何かしながらわたしと話す	中牧正太

『　ドレス　』

小林幸子（さっちゃん）の衣装を見ると爺（じ）っちゃんは戦艦陸奥の話をします	のの

2015年12月28日

『　バイオリン　』

冬が来てまだ生きている虫籠のたぶん親子のバイオリン弾き	フジタレイ
年の瀬に葉加瀬太郎を聞きながら掃く拭くはたくはかどるはかどる	知己凛

『　魔　』

吾のなかにくらやみはあり胸深く破魔矢いだきて境内をゆく	沼尻つた子

2015年12月29日

『　肉　』

人生は子供のころに決まっててカレーライスの肉の量から	@aokikenichi

『　チュ　』

わが指の形にその身くねらせて海絞り出す絵の具のチューブ	琥珀

2015年12月29日～2016年1月5日

2015年12月29日

『　チュ　』

はげ山を行くチュバカブラ錆びついたラッパを風に吹き鳴らしつつ　秋山生糸

2015年12月30日

『　一番印象に残ってる先生　』

日本史のＴ先生は合戦のくだりで板書の文字が荒ぶる　吉川みほ

『　山田　』

通るたび（山田うどんの本社だよ）あなたの声が再生された　月花

2015年12月31日

『　大晦日　』

大晦日 すべての人が〈おおみそか、おおみそか〉って息をしている　那須ジョン

『　歌　』

豆を挽く音はひそかな歌だから泣きたいときは珈琲にする　ゆら

2016年1月1日

『　平成二八年の抱負　』

泣いてもいい怒ってもいいでも朝は笑って皆を送り出すのだ　藤田美香

懐にバカボンのパパ忍ばせて「これでいいのだ」軽やかに行く　さわら

2016年1月2日

『　東　』

泣きすぎてひばりになった人のため東横インの窓は少しあく　中牧正太

『　宝　』

冬晴れにたわわに実る財宝を差し出すように南天が立つ　きい

鑑定団に出されたリカちゃん電話から溢れつづける間違い電話　しま・しましま

2016年1月3日

『　光　』

冷えきった眼鏡を外し街じゅうのあかりをイルミネーションにする　犬飼あき

『　中くらいのもの　』

誰もかも太陽やったら焦げますと月見うどんの月がほほえむ　西村湯呑

2016年1月4日

『　コンピューター　』

上書きで保存しちゃってカナリアの忘れた歌が思い出せない　しま・しましま

まだ朝を迎えたばかりのパソコンに送るおはよう　わたしは寝るね　たかはしりおこ

『　漫画　』

ふたつめの依頼をゴルゴが終えるころ運ばれてくる青椒肉絲　東風めかり

2016年1月5日

『　準　』

文化祭準備期間が永遠にあるならもっと青を塗るのに　ナタカ

『　すみません　』

自販機に謝っているひとのいる夜たわたしの散歩はつづく　はたし

2016年1月6日～2016年1月12日

2016年1月6日

『　腕　』

風呂場から振られし君の白腕に乾いたばかりのタオルを投げる　萩野聡

『　音　』

正論の重圧に音を上げた夜お汁粉に塩ひとつまみ振る　須磨蛍

2016年1月7日

『　UFO　』

「(どう見ても飛行機だけどUFOときみが言い張るのなら)そうだね」　森下裕隆

『　広　』

わたしたちひろがってしまいましたねだからこんなにうすいのですね　天坂

2016年1月8日

『　焼　』

ていねいに薄焼きたまごを折りたたむこれで涙は拭かないけれど　西村曜

『　最初で最後　』

ばあちゃんの最初で最後の恋バナを聞いてじいちゃんが焼けるのを待つ　蓮

2016年1月9日

『　弓　』

君はもう弾かないのかい馬の毛がバイオリンケースでばらんとほぐれて　文屋亮

猫の眼は弓張月を閉じ込めてお見通したよとまばたきひとつ　淡海わこ

背に弓を持つかのように弧を描き皆の心を射抜くスケーター　琥珀

『　コタツ　』

コタツには守られてばかりいるのだしせめてきれいな布団を着せる　ナタカ

2016年1月10日

『　活字　』

活版の文字の微かなおうとつに触れつつ歌集のページをめくる　吉川みほ

『　円　』

ごめんねと先に言ったら負けですか十円玉に尋ねれば裏　中牧正太

2016年1月11日

『　二十歳　』

ドップラー効果のように二十歳(はたち)とは過ぎるまでその高さを知らず　照屋沙流堂

『　約束　』

ゆびきりはリボンのかたちささやかな大事な想いをきゅっと束ねる　藤田美香

2016年1月12日

『　肌　』

肌に出る性質(たち)の子である食のこと心のことが紅く浮き出る　文屋亮

『　寿司　』

「おめでとう、おめでとう」って扇がれてつややかになる今日のすし飯　雪間さとこ

2016年1月13日～2016年1月20日

2016年1月13日

『　泡　』

ポストから泡がでていておばあさん以外はみんなためらっている　加賀田優子

『　ポスト　』

煙草屋のあつた場所だといまもなほぼくに教へる郵便ポスト　桔梗

2016年1月14日

『　明　』

あばよボス今日があんたの命日だ明日は餃子が半額の日だ　北大路京介

『　暦　』

すそにまだカールの残るカレンダーめくって春を確かめてみる　しま・しましま

2016年1月15日

『　果　』

目を閉じて舌で触ってみてごらん　果物ナイフで剥いた月だよ　きつね

『　違　』

うせつってひだりだよねとうなずいて八月三十二日の海へ　西村湯呑

2016年1月16日

『　蒼　』

ガンマンが一度も銃を抜かないで終わる映画のような蒼空　北大路京介

『　黒　』

悲しみは人それぞれに違ってて喪服の黒は並ぶと違う　琥珀

2016年1月17日

『　ココア　』

思い出すわたしが悪い八つ当たりしてもいいならココアが悪い　中牧正太

『　ことわざ　』

覆水は盆に返らず絨毯に染みのやうなるかなしみがある　ハウルの動くカレー

2016年1月18日

『　羽　』

活発なメジロの羽が映える雪 見物料のミカンを置いた　成瀬山水

『　耳　』

雑巾でテレビのくぼみ拭くときに耳のかたちを思い出している　借みね

2016年1月19日

『　低　』

解像度の低い記憶の中にいる二度と会えないひとはきれいで　吉川みほ

『　感　』

『ないた赤おに』を初めて読んだ子がその感情の名前を探す　前田沙耶子

2016年1月20日

『　雪　』

ぬくもりは彼にとっては敵だからたったひとりで立つ雪だるま　菊池優花

2016年1月20日～2016年1月27日

2016年1月20日

『　ずっと　』

傘の柄を握り直して歩き出す　ずっと先まで信号は青　　きい

2016年1月21日

『　木　』

身じろぎもせずに冬の木生きてをりわづかに雪の解けたる根元　　塾カレー

『　平気　』

たんたんと苦手が減つてゆくことのすこしさびしくピーマンを喰む　　桔梗

2016年1月22日

『　印　』

コンパスの針で名前を削るとか先輩意外に普通の人だ　　柊

『　横　』

気をつけて横断歩道のほんとうは白い部分が地獄だからね　　森下裕隆

2016年1月23日

『　レンズ　』

度はかなり前から合っていないけど世界はぼやけているほうがいい　　菊池優花

『　メニュー　』

メニューへと戻らないまま立ち去りぬ図書検索機に指紋残して　　借みね

2016年1月24日

『　平凡　』

平凡な笑顔を見せる少女らが握りしめてるポケットの嘘　　雀來豆

我が母は狂人なりきといふことはカレーうどんのやうに平凡　　大槻和央

『　眉　』

都会へと旅立つ君の眉細く春はわたしを不安にさせる　　琥珀

2016年1月25日

『　はちみつ　』

もう一度風になりたい蜂蜜の気泡が僕をきらきら責める　　中牧正太

『　うどん　』

この冬の底のあたりでくたくたのうどんを好きになりかけている　　小宮子々

ひっそりと育てた夢を手放して鼻も涙もうどんもすする　　ふたり

2016年1月26日

『　面　』

かなしみの詳しいことは水色の洗面台に訊いてください　　中牧正太

『　シャツ　』

にぎやかなお隣さんが引越してもう泳がないＴシャツの群れ　　東風めかり

2016年1月27日

『　並　』

かみさまが今日はドミノで遊ぶ日だ風につぎつぎ倒れる自転車　　吉川みほ

時々は並べ替えて欲しそうな顔をしている百科事典　　薄荷。

2016年1月27日～2016年2月3日

2016年1月27日

『　偽　』

偽物を「コレニセモノ」と売りに来るシンガポールは誠実な街　静ジャック

あの日から運命の人になりすまし一緒に老けてくれてありがと　小向大也

2016年1月28日

『　髪　』

神様は乳房と髪を失った母を父より長生きさせる　えんどうけいこ

自分では見えないところをまたひとつ見られてしまう髪を梳かれて　せなか

『　切　』

足跡が途中で切れた雪の原きっとここから飛び立っている　スコヲプ

2016年1月29日

『　ルール　』

地球には見えないルールがあるようで同じところでつまずくいつも　井田直

『　君　』

みずたまりひとつ飛び越えかるがるとわたしを君と呼ぶひとである　小宮子々

2016年1月30日

『　線　』

きみの住むこの街じゅうの線という線をうばって積もる雪たち　井田直

『　駄目　』

「あなたって駄目な人ね」と姪は言うおもちゃの食器片付けながら　山本左足

2016年1月31日

『　斜　』

ひとりだけまた来ぬ君に寄りかかり眠ってしまった本なんたろう　小向大也

『　最　』

最後って言葉を妙に光らせてはしゃぐ僕らが向かう三月　藤田美香

最短距離＝最適解ではないことをツツジの薫る路地に教わる　西村湯呑

2016年2月1日

『　剣　』

カラフルなまち針は待つひそやかに一寸法師の剣になる日を　外川菊絵

『　盾　』

寝ころんで単行本を盾にするあなたは武器を持とうとしない　きい

2016年2月2日

『　電話　』

受話器から雨はやさしく降り注ぎたちまち元気になるかたつむり　山本左足

『　香　』

動物の素質がないからガソリンを嗅ぐのたきみは海にいなさい　やまたわるいこ

2016年2月3日

『　右　』

右利きに矯正された君の手がためらいがちにふれる犬の背　高松紗都子

2016年2月3日～2016年2月9日

2016年2月3日

『　目　』

消えていく記憶のなかで人間は最初に目から消えていくのだ　　のの

2016年2月4日

『　西　』

美しい夕暮れがあり救われる西の窓だけ見える病室　　北大路京介

『　会　』

なつかしい自分に会いに行くために聴く歌があり読む本がある　　永昌

2016年2月5日

『　紙　』

人生の染みたティッシュが降り積もるカウンセリング室のゴミ箱　　遠井海

『　ココア　』

ミロなんかココアじゃないの一言でこんなこじれるとか俺らもう、　　西村曜

2016年2月6日

『　村　』

村にいた頃の話をする母はいつしか「わたし」が「おれ」へと変わる　　吉川みほ

『　氷　』

薄氷の下を魚の見えるとき命は凍らないのだと知る　　しま・しましま

2016年2月7日

『　缶　』

「缶コーヒーじゃないみたい」を褒め言葉として缶コーヒーは売られる　　多田なの

『　カラス　』

烏龍茶の龍は逃げ出し残された烏と語るこれからのこと　　桔梗

2016年2月8日

『　部屋　』

住民はたんぽぽだけになりました部屋は残らず取り壊されて　　山本左足

『　復活　』

ゆったりとわかめは息を吹き返す食べられるために小さな海で　　亜梨

『　増加　』

昨日よりわづかに増えてゐるやうな猫の重みを受けとめる膝　　桔梗

2016年2月9日

『　あた名　』

年一回賀状の中で行き来する子どもの頃の互いのあた名　　文乃

『　鍵　』

自転車はもう無いけれど自転車のへんなかたちの鍵ならあげる　　森下裕隆

『　縞　』

ビー玉に波打つ縞を閉じこめて弾けば海がかすかにゆれる　　しま・しましま

なんとなくシャツの縞々数えてた話の続きを聞きたくなくて　　薄荷。

2016年2月10日～2016年2月14日

2016年2月10日

『　眼鏡　』

明るい日眼鏡をはずす世界中乱反射する　春のひとになる　吉川みほ

『　飾り　』

バセリまで食べるタイプのひとですねそのうち蝶になりそうですね　小宮子々

『　銃　』

大人みな敵とふ顔の少年が鉄砲百合を抱へてゐたり　桔梗

2016年2月11日

『　日本　』

日本には四季があるのに一年中おんなじ顔で仕事している　えんどうけいこ

この国にせっかく生まれ落ちたので春は桜をたくさん食べる　菊池優花

明日本を買おうよそして開くたび閉じ込められた鳥を逃そう　吉川みほ

『　未来　』

「 子力 るい未来の ネルギー」看板撤去作業始まる　大槻和央

みどり児はきゅっと握った手のなかに未来をひとつ捕まえている　薄荷。

停車した駅の数だけ考えた未来が胸でひかって笑う　潮道

食べるたび茶碗をあらい空にするシンクに満ちる未来もあること　那須ジョン

『　wow wow　』

TOTOが真面目なトイレだとしたらチャラいトイレはきっとWOWWOW　荻森美帆

2016年2月12日

『　ちゃんと　』

食べかけのフランスパンが黴(か)びてます ちゃんと絶望してくださいね　那須ジョン

『　味　』

ハワイアンブルーの舌を見せあって進化していく僕らの味覚　秋山生糸

『　素　』

群衆の中のひとりになりなさい きみは素数を引き受けなさい　シュンイチ

2016年2月13日

『　穏　』

穏やかなお顔ですねと言われてもあなたはそこにいないのだけど　冨樫由美子

『　スキップ　』

いいじゃないスキップしたって 左手の指の呪縛は解けたのだから　伝田ちひろ

ぎこちないスキップ踏んで春はくる三寒四温三寒四温　ニキタ・フユ

（こっそりとスキップひとつ踏んだことゆるしてくれるなら）誓います　中牧正太

『　ストップ　』

異界へと通ずるやうに夕焼けてバス・ストップはくれなゐを帯ぶ　門脇篤史

2016年2月14日

『　愛　』

愛を知ることがどんなにかなしいか生き返らない猫に教わる　えんどうけいこ

『　ハート　』

いま愛を大量生産していますハートのチョコの並ぶキッチン　遠井海

2016年2月14日～2016年2月19日

2016年2月14日

『　告白　』

告白を急かされているどこまでもハート溢れるアーケード街　　しま・しましま

2016年2月15日

『　靴　』

靴裏に挟まっていた土、青葉 歩いた場所の春があつまる　　文佳

『　科学　』

その人を選ぶ理由のできるだけ非科学的なやつをください　　中牧正太

『　三角　』

幼子の描(えが)く町では屋根はみな三角でいつも虹が出ている　　ナタカ

一葉と漱石諭吉が同居中サイフのなかの三角関係　　まい

春が来て三角座りのあたしにも立って踊れと迫ってくるよう　　おんやっこ

2016年2月16日

『　藍　』

藍染めの祖父は手だけが青鬼で無償の愛が泣かせにかかる　　潮道

藍色の遮光カーテン思いきり開ける　この日の息継ぎとして　　西村曜

『　杏　』

本当に怒っています手の中で杏仁豆腐をふるわせながら　　小宮子々

たとえれば赤いクコの実ゆびさきで杏仁豆腐に沈める気持ち　　森下裕隆

「君たちも休みたまえ」は空耳か冬の銀杏が立っているだけ　　中牧正太

『　飴　』

あめ玉をかまずになめるちょっとした優しさあれば続いてたかな　　秋子七子

2016年2月17日

『　怪獣　』

絵本閉じ『かいじゅうたちのいるところ』舟を漕ぎつつ向かいはじめる　　柊

『　兄　』

この人はこんな声だったかと思う法事を伝える兄の留守電　　しま・しましま

『　弟　』

弟のまた止まれない自転車が追いかけてゆく兄の轍を　　雀來豆

2016年2月18日

『　二度見　』

過去に二度見当違いの恋をして花にとまれぬ蝶のいること　　きつね

『　湯　』

白湯飲めば白湯の味する不思議さよ臥せる窓辺にひかりは満ちて　　西村曜

『　各　』

やわらかな二月の光がまぶされて各枝ごとに小さな息吹き　　きい

2016年2月19日

『　薬　』

折鶴にしてくれたので君のため祈りはじめた元薬包紙　　久哲

『　蜜柑　』

左手であなたが投げた夏みかん両手で取ったことがくやしい　　中牧正太

2016年2月19日～2016年2月24日

2016年2月19日

『　穴　』

風邪はもう治ったけれど埋められた仕事の穴が僕よりきれい　葵の助

2016年2月20日

『　エプロン　』

エプロンのポケットひそとふくらんで、いつも子猫をいれてた母さん　多香子

『　マニキュア　』

ていねいにマニキュア塗ればうつくしいことをしてきた手のやうになる　冨樫由美子

『　ラブホテル　』

する前の二人に戻ってジャグジーの七色をずっとずっと見ていた　小向大也

2016年2月21日

『　イジメ　』

無菌室を装う校舎は助けてと叫ぶ声まで透明にする　たかはしみさお

『　亀　』

四天王寺弘法市で値切るひと拝むひと亀眺めてるひと　吉川みほ

『　バネ　』

新品のバネ仕込まれた子どもらは北風ひかる午後を駆け抜く　葵の助

ミニチュアの虹が家出を試みてしゃこしゃこと階段を降りていく　前田沙耶子

いさらいにサドルのバネの弾力を感じて今日も会社へ向かう　大槻和央

スプリング軋む夜ごと思い出す 知らないままの広い背中を　久佐野椿

2016年2月22日

『　糸　』

見上げれば飛行機雲が糸のようオーダーメイドの青空を縫う　音叉

長くても短すぎても架けられぬ橋のあることあやとりの糸　希和子

『　3D　』

３Ｄ映画のあとの手のひらの雨粒もうひとつ来い雨粒　中牧正太

『　電車　』

閉まるボタン押し忘れてる雪国の電車に春の風が乗り込む　薄荷。

2016年2月23日

『　綿　』

ぱっちんと綿花はじけて少女期の私をふいにゆるしてしまう　久哲

『　火花　』

信仰を捧ぐがごとき仕草して溶接工の放つ火花よ　秋山生糸

『　傘　』

図書館の傘立ての中で二番目につまらないのが僕の傘です　ナタカ

2016年2月24日

『　服　』

脱ぎ捨てたひとの形を干している明日は違ったわたしを纏う　ニキタ・フユ

『　血　』

仏壇のうへの写真とそつくりの眉が三代続いてゐたり　桔梗

『　絶交　』

選択肢いくつもあったあの頃は絶交だってできた僕たち　音叉

2016年2月25日～2016年3月1日

2016年2月25日

『　豚　』

養豚と百回言うと養豚のことを忘れてうまく踊れる　中牧正太

『　LINE　』

やめなさい予測変換で出た言葉並べて貼ってパパに送るの　遠井海

『　今更　』

わからない所がやっと出来たけど聞く放課後が三月にない　小向大也

2016年2月26日

『　それぞれ　』

青くても鉛色でもそれぞれに空はどこかに悲しみを持つ　藤 かづえ

足跡を辿ってみたい改札を抜けて散らばるひとつひとつの　葵の助

『　音楽室　』

鍵盤の歯を生やしたる鯨など泳ぎゐるらし夜の音楽室は　文屋亮

『　保健室　』

エタノールの匂いひととき満ちながら保健室まで届くかけごえ　文佳

2016年2月27日

『　コップ　』

ひび割れを目盛りにするとカルピスが上手く作れるから捨てないで　多田なの

『　極　』

酔ってても言葉を選ぶ人からの極めて稀な明日の約束　真夜中

『　ホステス　』

ほんとうは娘のために考えた名前の名刺使っています　猫丸頬子

2016年2月28日

『　鞭　』

失恋を忘れられないひとたちへすすきのような優しい鞭を　荻森美帆

『　いつもの　』

君と会う約束がある　それだけでいつものようにはいかない朝だ　きつね

定刻にスタバの前を通りすぎいつもの景色の欠片を担う　真夜中

『　宇宙　』

宇宙から撮られていると知ってればもっと綺麗に干していたのに　須磨蛍

2016年2月29日

『　うるう日　』

ぼくたちがなるべく悲しまないようにこの日をえらんでなくなったひと　宇野なずき

うるう日にしまわれていた先輩が渡り廊下を駆け抜けていく　のの

日々の誤差リセットしないままふたり次の四年を始めています　須磨蛍

2016年3月1日

『　時　』

レシートの15時2分が本日をわたしが生きた唯一の証し　藤 かづえ

時という概念などは知らぬこと老樹は風に葉を遊ばせる　小川けいと

2016年3月1日～2016年3月5日

2016年3月1日

『　間　』

水鳥の澪の消えゆくゆるやかさ恋の合間にながめてゐたり　有櫛由之
間延びした声がかえってくるときは少し甘めの君のカフェオレ　つん
お茶の間の規準のようにしゃべりたす和田アキ子から取り戻す昼　那須ジョン
セカンドとショートの間を抜けていくヒットのような「卒業します」　シュンイチ

『　変　』

「明るい」も仕事ですから　幾重にも閉ざされている変電施設　月花
変身をできなくなったヒーローが隣の町の自転車屋さん　静ジャック

2016年3月2日

『　イヤリング　』

大ぶりのものを付けなくなりました小さなおててがグーパーしてて　なかばまち子

『　アパート　』

新しいカーテンがつくる１Ｋのかたちに合った春の日たまり　亜梨
A part of 部屋 みたいにじっとしてたたたた何処かのラジオを聴いた　多田なの

『　挨拶　』

なにもかも拙いひとでさよならも私が言ってあげたんたった　羽島かよ子
うつくしい秘密のやうに交はされる運転席の白い手袋　桔梗

2016年3月3日

『　ナイス　』

ひたむきに生きていくのだ晴天に「ナイスプレイ！」の声が響いて　シュンイチ
言葉しか無い場所なのに口にせず「いいね」のハート散らかして春　雨
ドンマーイドンマイドンマイ後輩に言われ続けてテニス部やめた　遠井海

『　害　』

無害だと表わすためのあいさつで噛んでしまった宇宙人たち　那須ジョン
害の無いやうに毒牙を削がれたるマムシの哲学的なよこがほ　西村湯呑

『　刺す　』

つのをたしひっこめもするカタツムリ人も刺さずに生きのびていく　六池

2016年3月4日

『　片想い　』

窓の外ばかり見てるね片想い専用車両に君は揺られて　森下裕隆

『　センス　』

君の首絞めていいかな奥さんが選ぶセンスの良いネクタイで　葵の助

『　早起き　』

まだ誰も濾過していない空気充つ始発電車がホームに入る　須磨蛍

2016年3月5日

『　結晶　』

見たこともない僕のため切り紙で君が作った雪の結晶　星野空路
結晶は規則正しく変化して突然変わる君を失う　まとか珈琲

『　標識　』

「ここは手をつなぐところね」見上げれば空とおんなじ色の標識　木原ねこ

『　墓　』

花の咲くところはぜんぶお墓です役目を終えた思い出たちの　菊池優花

2016年3月6日～2016年3月11日

2016年3月6日

『　梅　』

満ち足りた小鳥が空へ貰われていきます梅の花の中から　しま・しましま

老いるって美味しくなるということよ梅とばあちゃんしわしわ笑う　まとか珈琲

『　蝶　』

這いまわる片羽の蝶が終わるのを見届けてからコンビニへ行く　小川けいと

『　町　』

この町にふたつしかない地図記号 春を迎えてまたひとつ減る　小向大也

2016年3月7日

『　ある　』

黄緑のレゴブロックがいもうとの偏愛歴のはじまりにある　森下裕隆

『　要　』

二日目のカレーは君がいなくても美味しかったよ。返信不要　レオ

『　それから　』

それからはみんな仲良く暮らしたと聞いてようやく子は目を閉じる　ナタカ

春風に飛び立ちそうなアンテナをそれから見なくなったのだけど　こりけケリ子

2016年3月8日

『　心　』

ウルトラの父と母との馴れ初めを聞いてしまってこころもち春　久哲

心配はいらないからと言った背が小さく見えた診察室前　404notF0816

なつかしの回転遊具にきみと乗り遠心力でバターになろう　淡海わこ

『　月　』

ころころとけものの子らは泥を浴び月を見あげて神妙になる　西村湯呑

『　つまらない　』

好きすぎてつらい一緒のゴミ捨てもつまらなそうにするのに必死　流川透明

2016年3月9日

『　泣　』

頬濡らしそれでもすっくと立つ君に泣くという字の成り立ちを見た　遠木音

『　内　』

いくつかのそのままにした嘘を思う内視鏡にて覗かれるとき　中牧正太

『　一人の時間　』

それぞれの方舟として機能する二段ベッドの下段にて泣く　前田沙耶子

2016年3月10日

『　自由詠　』

溶け残る雪のかたちのうつくしさ中州に抱いて川は流れる　文乃

新聞をひらいて落ちた花びらが号砲だった駆けだしていた　西村湯呑

掃除機のコードのやうにしゆるしゆるとからたよ部屋のふとんに帰れ　桔梗

2016年3月11日

『　奥　』

奥さんとわたしを呼んだ魚屋に買わされている鰆二切れ　えんどうけいこ

2016年3月11日～2016年3月16日

2016年3月11日

『　細　』

足るだけの光の量を知っていて真昼の猫の瞳は細い　木原ねこ

『　道　』

ネオンから逃げた無数の色たちを水面であやす道頓堀川　小川けいと

2016年3月12日

『　長　』

冬の象静かに眠るその夢に母の長くてあたたかい鼻　こりけケリ子

『　（　）　』

ひとりだけあた名を持たぬ教室でプロフィール欄の（　）がくるしい　かつらいす

『　優　』

飛べるとか優しい嘘で箱舟に乗る順番をあなたに譲る　久哲

2016年3月13日

『　王　』

路地裏の帝王だった片耳のクロの最期を知るものは無い　森下裕隆

王国はオレンジ色たアパートに飛び入る夕日を生け捕りにせよ　那須ジョン

唐突に関西弁でしゃべりだす兄の机にミナミの帝王　三田たたみ

『　ひよこ　』

気付かないふりをしておく卵焼きがひよこの色とほぼ同じこと　小川けいと

『　軋み　』

ほろほろと君に振るため動くとき右手の骨はこんなに軋む　中牧正太

あなたとは生きられないということのエスカレータのベルトの軋み　秋山生糸

真夜中の居間へと続く階段はやややましいとやたらと軋む　須磨蛍

自転車をきしませながら上りゆく坂の途中にたんぽぽぽぽぽ　桔梗

2016年3月14日

『　男　』

公園のジャングルジムのてっぺんで風をあやつる小五の男子　吉川みほ

『　贈る　』

「これあげるたから泣きなや」顔もとに好きなおもちゃを持ってくる犬　ニキタ・フユ

『　あれ　』

大概は「あれ」で会話が通じている老人たちの華やかな午後　静ジャック

2016年3月15日

『　牛乳　』

牛乳に相談しようそうしようわたしは今後背伸びすべきか　飴町ゆゆき

『　恥　』

二十度になるリビングへ持ち帰るアネモネはそっと恥じらいをとく　もも

『　噛む　』

幼犬に噛み砕かれた兵隊が散らばっているペトペトなまま　もりのさと

2016年3月16日

『　ピンク　』

着メロのピンクパンサー流れたしたたの散歩じゃいられなくなる　宮嶋いつく

本を手に微睡んでいる桜桃忌 夢の中には走らぬメロス　サリーB

2016年3月16日～2016年3月20日

2016年3月16日

『　ピンク　』

母豚にコブタむちむちひしめいて春の色濃いまどろみの昼　こりけケリ子

両の手で包むピンクの頬っぺたに犬にも猫にも似るきみを見る　萩野聡

『　イエロー　』

ひたまりをそのままそっと花束にまとめたように揺れてるミモザ　みちくさ

『　とどめ色　』

足首の皮下出血を撫でさする　ここにいろよと云うとどめ色　黒井真砂

2016年3月17日

『　魚　』

この鯖はいい眼をしてる死ぬ前にきれいな空を見られたんだね　菊池優花

『　&　』

青色のM&M'S冴え冴えと冬の枯れ芝のたたなかに落つ　萩野聡

『　芋　』

数世紀のち火星にて開くべき大芋煮会の計画を練る　あおいおあ

2016年3月18日

『　雲　』

君のことだから星とか風じゃなく雲になってるそんな気がする　菊池優花

日本一速いエレベーターに乗り雲を見に行く雨の土曜日　永昌

『　細胞　』

この先も血では繋がれない人と細胞めいたざくろを分け合う　矢波多恵

『　ハードル　』

倒したら自分で起こす　陸上部たったひとりのハードル選手　森下裕隆

ハードルは高くてもいい　ゆつくりとあなたとくぐる朱色の鳥居　桔梗

2016年3月19日

『　学　』

数学の夢、語るとき少年の静かに光る歯の矯正装置（ブラケット）　雀來豆

『　失敗　』

北風にねじれたままで僕だけが春になるのを失敗している　きつね

いくたびも失敗しつつうぐいすが今年の声を作る三月　藤 かづえ

『　塩　』

せっかくの減塩みそのみそ汁のうえで泣いてるあなたはばかた　西村曜

2016年3月20日

『　卒業　』

胸もとに咲かせし花が落ちるとき学生服は眠りにつきぬ　みれー

ご卒業おめでとう以下回文と校長自作の回文を聞く　西村曜

『　たけと　』

つまらないものなんたけとという顔でミー子がくれたセミの脱け殻　西村湯呑

雨たけといっそ僕ではどうですかつふれた店の軒先たけと　中牧正太

『　ニート　』

「NEETなんていないとよいな」笑みも灯も見えない世間い泣いてんなTEEN　御殿山みなみ

2016年3月21日～2016年3月25日

2016年3月21日

『　春　』

ピンポンパン 春です各自の判断で開花ください 繰り返します　朝倉洋一

『　葉書　』

ポストから無数の葉っぱ きつねにも手紙を出したい人がいるのだ　前田沙耶子

『　フライ　』

この人が釣った魚という点で同士と言えるこのアジフライ　といじま

しつぽ食べないのと言はれ海老フライばきりと不服ごと噛みしめる　しま・しましま

2016年3月22日

『　レコード　』

自転車の車輪がレコードだったなら花咲く土手にヴィヴァルディの春　遠木音

『　ベートーヴェン　』

うっすらと静寂を聴いて過ごす夜運命ばかり訪れている　つん

『　ペン　』

ペン立てにペンじゃないものばかりある深夜の雨も春のあかるさ　しま・しましま

2016年3月23日

『　せい　』

誰のせいでもないことも分かってて、ただ大根の下茹でをする　矢波多恵

『　カーテン　』

カーテンは不真面目でいい明け方のひかりをそっと届けてほしい　遠井海

生きましょうどうせは閉めるカーテンを朝がくるたび律儀に開けて　西村曜

『　影　』

むずかしく考えながら電柱の影を歩けば電柱がある　中牧正太

2016年3月24日

『　みんな　』

膨らんだ蕾を揺らすそれからはみんなわたしを春風と呼ぶ　ニキタ・フユ

『　半　』

スーパーの袋てらてら夕焼けをはじき半分見えている葱　しま・しましま

『　逃　』

逃避行みたいと言えば窓のない部屋は二時間ふたりを許す　せなか

2016年3月25日

『　パーカー　』

今日きみはパーカー姿でああやっと僕は自信を持って愛せる　堀口万理奈

ファスナーがシンクをたたくパーカーの袖をまくって顔あらうとき　永昌

『　響　』

またすこし背骨に残りゐるやうな電車の響きにかたむく月夜　しま・しましま

カタタンの兄のすぐあと弟のカタタン続く レール響かせ　たかはしみさお

山々に雪崩をうながす砲声の　引き剥がすように来る春もある　西村湯呑

ほろ酔いで歌いたいのを我慢して靴音を響かせるトンネル　きつね

『　大　』

大人には大人の事情、こどもにはこどものじじやうがあつてふらここ　桔梗

2016年3月26日～2016年3月30日

2016年3月26日

『　導　』

われ先に咲かんと膨らむ花の芽にリーダーシップを教わる私　五條ひくいち

『　似　』

海を見て育った君はささやきも泣き叫ぶのも波に似ている　小川けいと

『　昨日　』

ひとりだけ昨日に取り残されたよう脱衣所の隅に落ちた靴下　薄荷。

2016年3月27日

『　唐揚げ　』

唐揚げになるため生まれたニワトリと生まれた理由(わけ)がわからない俺　Y川

『　たこ焼き　』

タコ２つあったと君がはしゃぐならたまにはタコがないのもいいな　りりー

ひとふねのたこ焼き分けて食べた日におんなじ舟に乗ろうと決めた　西村湯呑

『　ゼリー　』

混ざり合う関係じゃない僕たちがコーヒーゼリーに入れるクリーム　真夜中

2016年3月28日

『　競争　』

シャボン玉ふうわり空へきそいあう春をたくさん映せたら勝ち　井田直

競り合ひて二本立ちたる樅(もみ)の木が共に切り倒さるるのを見よ　塾カレー

『　噴水　』

プリズムをキラキラさせて噴水はクジラに育つ夢を語った　404notF0816

『　虫歯　』

知らぬ間に甘さに溶けて穴があく虫歯のような恋ばかりする　木原ねこ

2016年3月29日

『　分　』

誰にでも分け隔てなくそっけない猫が一番愛されている　えんどうけいこ

青い脈枝分かれする腕を見せ眠っているきみ　いま樹のように　吉川みほ

『　空気　』

空気まで桜に染まる　ああ春が本気だ今年も勝てそうにない　淡海わこ

『　反　』

夕焼けを見るためだけに作られた五反田駅の三番ホーム　小向大也

2016年3月30日

『　いくら　』

何度目の航海だろう軍艦のいくらはきゅうりの帆を張りてゆく　月丘ナイル

ああためたわたしがいくらを見てるのか見られてるのかもう解らない　吉川みほ

『　回文　』

感情が向かい風にも溶け続け、ともに世界が向かうよ進化　三田たたみ

『　ゆとり　』

現代(いま)の子はかわいそうだと言われても私はいちばん光るビー玉　南瑠夏

約３が3.14へと変わる朝も地球は楕円のままで　須磨蛍

（ならばなぜ息が苦しい）大人らは俺を無邪気にゆとりと呼んで　西村曜

2016年3月31日～2016年4月4日

2016年3月31日

『　丸　』

丸ごとの私の中から私でさえ知らない私を取り出すあなた　文乃

あんなにも憧れたのにひとりでは丸いケーキを食べきれやしない　えんどうけいこ

はなまるをあげたい なにかと戦って生きてゆくすべてのひとたちに　文佳

『　2　』

数式を解かねばならぬ午前二時二二が四には死の匂ひして　shuma

午前２時銀ヘルメットの少女行きやけに今夜は土星が近い　加瀬はる

『　年　』

散るときの花弁は瞼、少年のまばたくときの淡いひかりよ　佐々木遥

2016年4月1日

『　新　』

違和感とこそばゆさとが手を繋ぐ新姓の印を何度でも押す　淡海わこ

『　嘘　』

いまやっと浮かんだちょうどいい嘘も湯舟に溶かしおやすみなさい　みれー

『　バカ　』

バカになるお薬出しておきますね　バカになれたらよく寝れますよ　那須ジョン

2016年4月2日

『　市　』

親に嘘ついたわたしを知っているガラスケースの市松人形　えんどうけいこ

風鈴の市の真中で目を閉じる遠く近くで風が聴こえる　遠木音

『　晴れ　』

晴れてるしあなたを刺しに行こうかなわざと一駅歩いたりして　森下裕隆

晴れ晴れとした表情のお手本のような顔して辞めていく人　那須ジョン

『　ジェットコースター　』

コースター落下してゆくこの夜にぼくらの声を残したままで　サリーB

2016年4月3日

『　ライオン　』

サバンナで生きてゆけない僕たちにたまって寄り添うポンデライオン　西村湯呑

『　率　』

死亡率をおまもりみたいに信じてた海が近づく後部座席で　ヨノハル

『　賛成　』

桜木のほうへほうへと行きたがる胴長犬に今日は異議なし　中牧正太

2016年4月4日

『　少女マンガ　』

食パンを咥えて父が走りだす　困るよ恋にぶつかられたら　西村曜

『　公園　』

さびついたベンチしかない公園はノスタルジーを禁止しました　シュンイチ

公園の隅で揺れてたあのバンダいなくなったね帰れたんだね　遠木音

ブランコを漕いだ振り子の頂点に浮べたままで　さよならわたし　吉川みほ

2016年4月4日～2016年4月9日

2016年4月4日

『　唯　』

ただ団欒を見ていただけでリビングのこけしは静かに疲れていった　サリーB

2016年4月5日

『　桜　』

桜湯を初めて飲んだ　親友が親友のまま花嫁になる　月花

『　家族　』

やはらかな芯でありたい子どもらの洗濯物を畳みゆく時　文乃

『　流行語　』

「ありがと」に「なんの、なんの」と返すのが流行り言葉の1DK　五條ひくいち

2016年4月6日

『　十字架　』

皮膚は縦、子宮は横に切るんです。お腹に刻む十字架のよう　蘇我ポコ

『　ため息　』

掃除機の中でぽわんと音がしていつかこぼしたため息を吸う　ナタカ

『　類　』

貝類の息をしている音を聞くほたての息が特に大きい　荻森美帆

2016年4月7日

『　負　』

負けた日は電車に乗ってもまだわたしグランドにいるただひとりいる　きい

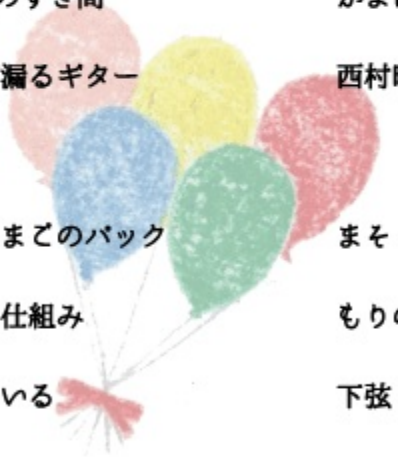
『　指　』

まだ春を見たことのないきみの手がさくらの方を指差している　きつね

またひとつ知らないことが増えていく15年目の指輪のすき間　かまぼこいた

『　雨　』

リフレインリフレインまたリフ・レイン上の階から雨漏るギター　西村曜



2016年4月8日

『　器　』

今朝ついに一人ぼっちになっちゃってひっくり返るたまごのパック　まそ

『　風船　』

風船で飛べる人たけが知っているかなり愉快な世界の仕組み　もりのさと

『　歌詞　』

カラオケで初めての歌詞読みながら君の隣を謳歌している　下弦

2016年4月9日

『　朝焼け　』

この町で見慣れたはずの夕焼けが知らない国の朝焼けになる　シュンイチ

『　土曜日　』

土曜日もちゃんと授業があった頃、ゆとりは母のこころにあった　三田たたみ

にんげんの雛ぽやぽやと散り集う土曜どうぶつえんの揺らめき　こりけケリ子

『　支　』

たいへんな心の支えにした棒が心に深く突き刺さってる　西村曜

2016年4月10日～2016年4月14日

2016年4月10日

『　自由詠　』

急行に乗ってしまった　君の住む町を静かに加速していく　天使きらり
あげる手を時々替えていいですよ自由の女神よもっと自由に　遠木音
竹とんぼ手放すときの角度から換気扇の紐に向かう手　水沼朔太郎
椅子の脚ひとの脚ならふリビングに昼の木立はありて猫過ぐ　借みね
微笑んで生きるためにはあと少しアイスの当たり棒が足りない　ナタカ

2016年4月11日

『　サンダル　』

ベランダのサンダルとして生きている私は土の匂いを知らない　月花

『　ベランダ　』

隣からベランダづたいに伸びてきてあいさつみたいにひらく朝顔　ルイドリツコ

『　夜　』

それぞれの軌道をもつてガス燈をめぐる羽虫がこんなにも星　塾カレー

2016年4月12日

『　距離　』

道のりは距離より遠い　山桜咲く吉野路をひたすら登る　雨宮　司

『　Tシャツ　』

Tシャツの肩をぴこんと尖らせて酸っぱいトマトを選ぶ青年　ルイドリツコ

『　急　』

特急に飛ばされていく駅がみな特急のことを風と呼んでる　ナタカ

2016年4月13日

『　リボン　』

やわやわなちょうちょ結びの包みからありとあらゆる春が出てくる　藤田美香

『　期待　』

期待したほどの台風ではなくて柔らかな風が吹く通学路　ナタカ
期待には過剰に応える主義なので丸鶏一羽買いに行きます　小川けいと
咲くまでに帰れるのかと問う母の月下美人の鉢をあずかる　ルイドリツコ
片付けの終わった僕のせっかくの心に君の置いてった傘　小向大也

『　濃い　』

雨の日を思い出すのか小松菜は水に放てば青が濃くなる　月花

2016年4月14日

『　Eテレの番組　』

いつたってあなたは奇跡を起こすのね ピタゴラスイッチよりも微かな　ネネネ
人たまの俺は人術学園で人になるため6年学ぶ　Y川

『　落書き　』

教科書を全速力で駆け抜けた棒人間のそよ風が吹く　たかはしみさお

『　望遠鏡　』

ラップの芯覗いて兄は船長に二段ベッドが船だった頃　希和子

2016年4月15日～2016年4月20日

2016年4月15日

『　右　』

セーターをほどけば左右へ走る糸やがて私の形が消える　吉川みほ

『　説　』

見たことのない赤色が点滅し取説すてた夫を呪う　たかはしみさお

『　言えないままのこと　』

にこにことパッタを差し出すキミが好き。ママはホンマは虫あかんねん。　祐鈴

本当は許していないなんてこと白い息にも紛れずに春　小宮子々

母さんのご飯いっつも美味しいよって言えないままで、言えなくなって　淡海わこ

2016年4月16日

『　紫　』

静けさの少し足りない教室で誰も触れない首すじの痣　まそ

『　灰　』

燃え尽きて灰となりたるハイライト祖父と見上げし四月のさくら　門脇篤史

『　レモン　』

頬杖の手を貸しなさい悩むより檸檬置くのにふさわしいから　久哲

2016年4月17日

『　ボタン　』

ともだちがティッシュみたいと言ってからくしゅん、くしゅんと咲く牡丹園　朝倉洋一

『　物語　』

五段階評価でいへば三ほどの我の歩みてゐる物語　門脇篤史

『　底　』

春の夜ひと息に飲むヤクルトの小さな底にあるわだかまり　きい

2016年4月18日

『　爆　』

爆弾は投下できずに持ち帰る　結婚おめでとう（好きでした）　三田たたみ

『　ズレ　』

バスを待つ列から一列分ずれて会いたい人を待つ列がある　多田なの

『　韻　』

ね、の音で君は言葉をつなぎつつ花をどれだけ咲かすのだろう　小宮子々

2016年4月19日

『　鏡　』

似てきたと思えば鏡　あのときの父の気持ちも僕に映して　久哲

『　駆　』

チョキで勝ちきみは駆け出すチヨコレイトチツブキヤラメルフラペチイノと　西村曜

『　眠　』

ざっは、とるて、ざっは、とるてと連隊の行進により春眠おわる　こりけケリ子

2016年4月20日

『　@　』

もう二度と会わないひとのアドレスの@を花束にする　猫丸頬子

2016年4月20日～2016年4月24日

2016年4月20日

『　駄菓子　』

致死量のチュッパチャプスを持ち歩き少女は桜前線を追う　ニキタ・フユ

『　若　』

美しく古風な名前を持つがゆえ若と呼ばれし甥っ子ひとり　月丘ナイル

2016年4月21日

『　仮　』

仮に犬だったとしてもばあちゃんが食われちゃったし捨ててきなさい　Y川

『　%　』

酔ってたし、本気にしなくていいけれど、3バーぐらいは信じてええよ　祐鈴

携帯の2%の電池持て見知らぬ町にきみを捜せり　萩野聡

『　追加　』

p.s.のあとに綴つた一行が本文よりも本心でした　桔梗

2016年4月22日

『　客　』

客間には若いピアノの調律師来てて半音高い我が家だ　久哲

『　人生　』

飛べないね飛べないなあと笑いましょうせっかく人に生まれましたし　中牧正太

『　思い出　』

じいちゃんが釣ったスズキは少しずつ話の中ででかくなってる　月丘ナイル

どうしても思ひ出せないひとの名をうすくらがりにかたづけてゐる　桔梗

思い出も吐き出すように味噌汁の底でぱっくり口開くあさり　うにがわえりも

思い出のひとつひとつを閉じ込めてかくも大きな蝶の複眼　薄荷。

舌先がさくらに触れた一秒をいつかの春の思い出とする　大橋春人

2016年4月23日

『　パンダ　』

かなしくて泣き疲れたから鏡見て「ウォータープルーフマスカラうそつき」　2600

にんげんとパンダどっちがたいじなのってこわくてえらいひとにきけない　えんどうけいこ

『　必然　』

君らだけわたしのことをママと呼ぶ七十億の地球の上で　藤田美香

この人と出会う布石として私、戸籍にバツを付けてきました　淡海わこ

『　謎　』

これからも謎でありますように駅裏のうしろを向いた自販機　はたし

2016年4月24日

『　バフェ　』

真夜中に正餐をとるゴスロリのアクロバティックなバフェの傾き　吉川みほ

『　そんな　』

失恋のそんなことまで信長の延暦寺攻めのせいにするなよ　朝倉洋一

『　戻　』

零れたら零れっぱなしの牛乳と戻らぬ母を待つだけの父　星野ぐりこ

2016年4月25日～2016年4月29日

2016年4月25日

『　アジア　』

ボスポラス海峡あをき絵葉書に「アジアの果てに居ります」とあり　冨樫由美子

『　券　』

ゆふぐれに街の名ひとつ吐き出した券売機 まだ春を知らない　秋本こゆび

『　カラオケ　』

カラオケが好きだと言えば意外だと言われる僕の歩幅のひろさ　小宮子々

お隣も一人で歌っているらしいあなたも何か怒っているの　ナタカ

カラオケで嗄らしたのどに朧月転がしながらやわらかく飲む　きい

2016年4月26日

『　掃除　』

こっそりとルンバの取りこぼしを拾うあなたはきっと親ばかになる　西村湯呑

『　可　』

可愛いはつくれる そうゆうことにしてサンドイッチにしずめるトマト　秋本こゆび

持ち込みは可です空やら海やらを両手に抱いてここに来なさい　小宮子々

ペット可の部屋であること、それだけがあなたと暮らす条件なんです　淡海わこ

『　世界　』

最初からかかとを踏んでいい靴が売られて世界がずれていきます　外川菊絵

2016年4月27日

『　メイク　』

もしかして：わたしお局 そそくさとメイク直しの女子たちが散る　樫本らむ

『　吹　』

次に吹く風で必ず飛ぶことを決めた空き地の最後の綿毛　ナタカ

『　強　』

わからないふりをしながらゆっくりと潰す力を強くしていく　もりのさと

あれもこれもと背負(しょ)つてつぶれて泣いてゐるわたしはそんなに強くなかつた　飴町ゆゆき

2016年4月28日

『　ことわざ　』

にこやかにＩＨに立ち兄嫁は火の無い所に煙を立てる　月花

『　角　』

死んでやるう死んでやるうと思いながら角質層をいたわっている　中牧正太

柔らかい雨が染みいる春の日にぽとりぽとりと鹿の角落つ　薄荷。

角部屋にあなたと住みし追憶に給水塔は添へられてゐる　門脇篤史

『　洋　』

兄はもう大人になった一人だけすたすた向う洋楽コーナー　天野うずめ

云ひ出せぬことばの代はりに駅角の洋菓子店のプリンをふたつ　桔梗

2016年4月29日

『　割　』

たからもの抱えるようにばあちゃんが割れ煎餅を買いこんでくる　大葉れい

『　染　』

おいしさが染み込むほどに白が抜け透明になる大根の丸　傘なし

2016年4月29日～2016年5月4日

2016年4月29日

『　石鹸　』

脱走のやうなしづけさ　空つぽのネットばかりが蛇口に揺れて　桔梗

2016年4月30日

『　球　』

気まぐれに白玉ひとつ浮いてくる　うれしい予感はこういう速度　大葉れい

『　星座　』

星たっていろいろあってあの星は誰とも星座を作らない星　ナタカ

音の無い工事現場にぶらさがること座のペガを隠したクレーン　東風めかり

『　※　』

僕たちの一人ひとりに付きまとう※個人の感想ですのテロップ　西村曜

2016年5月1日

『　難　』

僕にしかできないことはなんたろう避難経路をたしかめながら　中牧正太

『　まふた　』

思い出はトリミングしたはずなのに切れ端ばかりまふたに積もる　かつらいす

『　東京 vs 大阪　』

今日もまた遭難者数を競い合う新宿ダンジョン・梅田ダンジョン　森下裕隆

こわばりもふわりととける『アホやなぁ…』たたひとことで負けた気がした　東風めかり

2016年5月2日

『　訛り　』

姑の津軽訛りが半分もわからないからうまくやれてる　えんどうけいこ

『　着　』

花柄の服を着てみる子の描く私に私が近づくように　木原ねこ

『　中　』

中日の中継ぎみたいに起用され縮んでいったセーターごめん　朝倉洋一

つばくらが初夏を届けた軒先にかかげる『冷やし中華あります』　東風めかり

2016年5月3日

『　ゴミ　』

うつくしいかたちなのたがゴミ箱に入ってるからゴミなのたろう　松木秀

『　病　』

病院の待合室の窓際に座る電池の切れたピカチュウ　もりのさと

『　鈴　』

それは君、やがて大人になるほどに見えなくなってゆくベルマーク　中牧正太

2016年5月4日

『　カフェ　』

カフェじゃなくキャフェと言い張るじいちゃんが頬張っている厚切りトースト　三田たたみ

『　イニシャル　』

イニシャルがO.Kになり毎日がほんの僅かにオレンジ色です。　多田なの

『　数　』

悲しみに寄り添うように手の中で数珠はそろりと温もりていく　藤 かづえ

2016年5月5日～2016年5月9日

2016年5月5日

『　子　』

手を広げ飛行機となる子供らの離陸の数だけTシャツを干す　chari

『　こいのぼり　』

こいのぼり見上げた髪がいっせいに我も我もと泳ぎ出す朝　きい

もうすこし子どもでいさせてくださいと学生寮のミニこいのぼり　西村曜

『　鎧　』

酒蒸しのやさしく薫る木戸口に『ここで鎧もお脱ぎください』　東風めかり

リクルートスーツを脱ぐまで泣けません呪いと鎧は少し似ている　ナタカ

2016年5月6日

『　ジュース　』

弟の合格を祝う夕食で弟だけがリンゴジュースだ　ナタカ

『　文　』

焚き火って静かなんだね文明がはじまる前の夜みたいだね　森下裕隆

『　事　』

うつくしくすべての時を使うほど強くない夜、火事を見に行く　中牧正太

2016年5月7日

『　皿　』

洗ったら必ず白くなる皿をミートソースでたっぷり汚す　小川けいと

皿と血は紛らわしいな　恋と変　どうでもいいや　眠いから寝る　こたきひろし

シャンプーを流してあげるその度に小躍りしてる河童を思う　傘なし

『　癖　』

なぜかかう見つめてしまふものとして例へば他人の昼飯がある　富井丈生

『　賞　』

茶の間にはまた賞状が飾られて父母のわたしは裸足のこども　文屋亮

どこからも賞状なんて出ないけど人口増加に寄与した人生　藤 かづえ

2016年5月8日

『　母　』

だれしもが命からがら母になり新生児室のいつくしき春　朝倉洋一

『　プレゼント　』

プレゼント何でもいいよと言うきみが願ったようなぼくになりたい　シュンイチ

『　花　』

仕方ない。男に生まれてしまったし花屋で恋を拾ってみるか　ナイス害

2016年5月9日

『　学校　』

貸し出しのカードに鼓動速くなるアイツもこの本読んでたなんて　三月海月

君を待つふりをしていた教室は午後になるほど細長いんだ　久哲

『　パスタ　』

とりあえず無事にパスタができるまでその話題にはふれないでおく　nu_ko

全力でなよんなよんになるべきたほらまっすぐのパスタは脆い　中牧正太

リングイネ、恋が壊れた次の日もわたしはおいしい昼食をとる　柴田葵

2016年5月9日～2016年5月13日

2016年5月9日

『　バスタ　』

まずしいはかなしいけれどすこしだけ楽しい納豆バスタおいしい　朝倉洋一

『　城　』

二の丸へ攻め込まれたる心地してやにわに胸にかける閂　飴町ゆゆき

2016年5月10日

『　自由詠　』

〈飛び出し〉の看板つねに飛び出してゐるは少年　逢ひにゆくため　紆夜曲雪

見慣れない船だあなたに関わりのないひとたちがしあわせそうだ　森下裕隆

びちびちと跳ねる音させベランダを選んだ雨は魚のにおい　矢波多恵

2016年5月11日

『　引力　』

雨もまた引き寄せられてこの傘に星の鼓動を知らせています　ニキタ・フユ

りんごほどストンと落ちたりしないけど 赤くはなってた、かもしれない　こさき

『　五月　』

やわらかな陽射しを受けたはずだから五月の手紙は読まずに食べた　白ヤギ

さみどりの街路樹を背にふじ色のバスが次々五月を降ろす　希和子

『　折り句　』

目覚ましを黙らせてまた丸くなる優しい声の君を待ってる　秋子七子

2016年5月12日

『　自棄　』

ヘーキだし。靴までわたしを嫌うけどアスファルトくらいハダシで歩く　淡海わこ

ビーカーに波波とある水の揺れを視てゐる自棄になつてもいいか　萩野聡

透明な自棄にさびしい日の暮れに友の大事な猫の死を聞く　多香子

ゆらゆらとふかあい深いうみの底こんぶのようにいきとうて、ただ　安部圭二

大量にお菓子を食べる異常さに気がついているうちはまだいい　えんどうけいこ

自棄になり夏というのに降りだして太郎や次郎を眠らせる雪　雀來豆

『　モデル　』

モデルガン構えたきみのその銃がいつもいつでも偽物であれ　きつね

靴下のそおっとむれて初夏のモデルルームにひかるあしあと　外川菊絵

『　当　』

当然といふ顔をして古猫は祇園祭を横切つてゆく　有櫛由之

2016年5月13日

『　床　』

夕焼けは床屋の角を曲がるとき僕を飲み込む宇宙となった　シュンイチ

神を持たぬわれは懺悔のかたちして子のこぼしたる牛乳を拭く　中牧正太

降り積もる塵の雄弁　屋根のない廃墟の床に刺さる月光　堂那灼風

『　縦　』

われも樹もみづのたてがき睡りたれば夢にあふるるゆめのことのは　紆夜曲雪

『　相撲　』

バスタオル締めて風呂場を飛び出した小結を追ううちの横綱　下弦

2016年5月14日～2016年5月18日

2016年5月14日

『　遊　』

野の花を笛に舟にと遊んでた日々から時おり届く返信　希和子

『　夢　』

ぼく以外全員眠りについたからこっそり星の配置を変えた　海野

『　種　』

たいせつに育てた恋は枯れたのにこぼれた種が花を咲かせる　桔梗

月の夜ベランダで眠る種たちに森から届くオカリナの音　中山とりこ

2016年5月15日

『　声　』

さよならを告げるだけならもうそんなやさしい声で謝らないで　ネネネ

声がまだ発明されていないころ何処にいたのかぼくらの歌は　雀來豆

『　田　』

水田は満ち満ちてゆき水無月の月がふたつになる帰り道　矢波多恵

『　蜘蛛　』

ひび割れてゐる冬空か蜘蛛の巣かどちらにしてもその下をゆく　紆夜曲雪

2016年5月16日

『　賭　』

いつ死ぬか分からないから今日もまた命を賭けてお昼寝をする　山本左足

『　銀　』

この星が湯船につかる体積でとどうとこぼれっ放しの銀河　秋本こゆび

『　金　』

特別なときに使うと決めている金の折り紙ばかりが残る　薄荷。

2016年5月17日

『　ドラマ　』

我が家にもドラマはあった　真夜中に出て行く母を追いかけた夏　三田たたみ

年下の主演ばかりでもう私、ドラマみたいな恋はいらない　矢波多恵

『　駅　』

もう降りることのない駅過ぎて行く　キーケースには合鍵をつけ　きつね

『　整　』

ぼくの手がぼくの体に服を着せ通夜の支度を整えている　中牧正太

思い出は不意に見つかる方がよく苦手なままの整理整頓　小宮子々

2016年5月18日

『　元　』

元気だと思う　元気じゃないときに電話してくる人だったから　えんどうけいこ

『　敵　』

ああずっと敵だと思ってきたけれど彼女は彼女で咲いていただけ　小川けいと

『　刀　』

きみはゆく　ビニール傘を辻斬りの刃のやうにひからせながら　桔梗

切られてもまた次の週あらわれてそして切られてまた次の週　永昌

日めくりに指を切られた腹いせに今日という日を殺してやろう　寺島奈保子

2016年5月19日～2016年5月22日

2016年5月19日

『　18時　』

たんたんとわたしへ帰る十八時五十二分の電車に乗つて　桔梗

『　19時　』

颯々と道着袴に着替えたり七時のわたしを上司はしらない　飴町ゆゆき

『　20時　』

午後八時すこしきらいになりながらじふんをひらいているすいはんき　紆夜曲雪

20時に寝て4時起きの祖父がつくるトマトの赤さがぼくを責めるよ　西村湯呑

『　21時　』

夜9時を21時と言い出した奴から順に大人になった　秋軸ざきこ。

2016年5月20日

『　風呂　』

ちょい熱い湯船で手足を伸ばすときぐらいの幸福感が基準値　祐鈴

『　楽器　』

誠実に息をしている子どもらがたて笛で吹くカントリー・ロード　シュンイチ

子が弾いたワルツを子守唄にしてピアノは永い夢を見ている　亜梨

街角の楽器屋さんが破裂してマーチが止まらない日曜日　清水ゆん

通るたび滑らかになるサックスの音色わたしを責めないでくれ　小川けいと

『　稲妻　』

鳴る神の青き怒号を一身に受けて輝く東京タワー　中山とりこ

『　万　』

いつか死ぬきみの記憶の崖(きりぎし)に万年雪のやうにありたし　桔梗

2016年5月21日

『　必　』

幼子はおさるが転ぶ絵本見て必ず笑うからだで笑う　天使きらり

『　頭　』

赤べこの頭を揺らす　こんなものいらないんだけど何度も揺らす　たかはしりおこ

『　飛　』

鳥が好き。飛べない鳥はもっと好き。鳥を飛べなくするのはきらい　森下裕隆

『　よろしく　』

何事も解決できず玄関の金魚に留守を預けておいた　下弦

さよならをきっと明るく言うひとと思う握手ののちのよろしく　小宮子々

「よろしく」に色んな温度があることを体感している新入社員　月花

星くらい離れることができたから大きな声でよろしくと言う　絹更ミハル

これからもよろしくと書くサイン帳　好きなひとにはピンクのペンで　三田たたみ

2016年5月22日

『　席　』

引っ越したあの子の席をぴかぴかに拭いて悲しい花いちもんめ　遠木音

『　近所　』

森さんも大林氏もいなくなり近所の小川君あふれそう　久哲

『　甘　』

甘えびでさえもふたりでならんでる寿司屋のなかでわたしはひとり　中山とりこ

2016年5月22日～2016年5月26日

2016年5月22日

『　受　』

さよならは受理されましたきっともう触れることのない左手を見る　月丘ナイル

2016年5月23日

『　コンビニ　』

なんとなくコンビニへ行くなんとなく冷やし中華が始まっている　南瑠夏

『　歯ブラシ　』

歯ブラシをシャコシャコしつつ「つらいなぁ」鏡の私がちょっと頷く　遠木音

『　菱　』

母が切る杏仁豆腐の鋭角が年々鈍くなって行く夏　傘なし

『　壁　』

物語はじまる前にいそいそと魔女が焼いてるビスケットのかべ　五條ひくいち

2016年5月24日

『　歩　』

ふたりきりふたりきりでも夏の夜をぼくらはまるい輪になって歩く　雀來豆

『　おしゃれ　』

花びらが頭にたぶん乗っかったままであなたに会いに行きます　朝倉洋一

『　攻　』

かなしがれかなしがれよと騒がしい夏の攻撃的月あかり　中牧正太

人類の至宝「こたつ」を奪ってからもう攻めてこない火星人　西村湯呑

『　サンショウウオ　』

きみでしたさっき淋しい五月雨に流れていった山椒魚は　有櫛由之

2016年5月25日

『　畳　』

アラジンの絵本を読みだす子の下で畳もちょっとうずうずしてる　三田たたみ

『　車　』

「僕ものりたい」と言う子をグッと抱き見送る父が乗る霊柩車　安部圭二

『　カレー　』

このひとに食べさせたいのはあのひとに教えてもらったカレーだなんて　亜梨

『　南　』

いつのまに死んだのだろう南向く犬小屋だけが取り残されて　ゆきやなぎなぎ子

2016年5月26日

『　橋　』

このやけに長い歩道橋の上で全然きれいじゃない月を見る　ネネネ

歩道橋たまに渡るとすこしだけ死んでるような気持ちになれる　森下裕隆

いつかまた 約束の橋の上に居ていつかはいつまでたってもいつか　七緒

『　コーラ　』

気の抜けたコーラを飲むと思い出すあいつにされた不意の口づけ　秋軸ざきこ。

『　火　』

ひとつずつやるしかないね牛乳をいちばん小さな火で温める　ナタカ

『　絵　』

指先の触れそうなまま７０年ふたりはずっと絵の中にいる　さわい

少年がこんなにうれしそうなのに左右の絵には間違いがある　中牧正太

2016年5月27日～2016年5月30日

2016年5月27日

『　山　』

ヨガでいう山のポーズをとるわれと猫のポーズをとっている猫　三田たたみ

『　マナー　』

「静かに」と図書館員は子どもらに注意しそして昼寝にもどる　サリーB

買ってからマナーモードのままであるスマホの鳴き声知らないままで　淡海わこ

『　ジェネレーションギャップ　』

たった五年遅く生まれただけなのにあなたが歌ううたを知らない　薄荷。

『　広島　』

歴史碑になどなりたくはなかつたと言ふこともできず　海風は吹く　西村湯呑

2016年5月28日

『　全部　』

君去りて窓辺に残るペゴニアを全部嘘だとひきぬいてみる　多香子

『　Twitter　』

日常のほんのささいな出来事をしまえずについ呟いている　絹更ミハル

リツイートリツイートリツイートリツイートリツイーあなたはだあれ　遠井海

『　烏　』

ハシビロコフと書けばロシアの殺し屋のやうなる烏のまなざししづか　桔梗

『　商　』

海沿いの小さな町の商店に鼠花火は静かに湿気る　希和子

2016年5月29日

『　勇気　』

愛と勇気だけが友と歌われてしょくばんまんは耳を疑う　遠木音

あのこにはできてわたしにできなくて　それでもぎゅっと靴ひも結ぶ　七緒

『　書　』

それぞれが名を書き終へて波が引くやうに静まりゆく試験場　塾カレー

『　狼　』

ぬばたまの影絵のやさしいおほかみがきみの代はりにあやまつてゐる　桔梗

『　Q　』

キーボードのいちばん端で「Q」の字はいつか世界を変えると誓う　サリーB

2016年5月30日

『　やっぱり　』

雨の日に戻ってくると言い遺しやっぱり今日も雨は降らない　まとか珈琲

『　通　』

三組に晴香と春花がいるけれどあたしいちばん遠くにいける　田中しらす

『　常　』

ぬがはくば闇を知らずに育てよと常夜灯のちひさき額　大野惠未

『　バセリ　』

君に寄り添うときわたし世界一みどりまばゆいバセリの気持ち　月丘ナイル

2016年5月31日～2016年6月3日

2016年5月31日

『　とても　』

夕暮れがコードを引いて通るから、とても輝く夜の東京　多香子

『　虫　』

標本の虫いっせいに羽ばたいて暗い調べに満たされる部屋　もりのさと

『　系　』

紫陽花の深い内部に夜があり銀河系へと溶け込んでゐる　紆夜曲雪

『　募　』

アパートの入居者募集の文字は消えわたしの帰る場所が生まれた　桔梗

2016年6月1日

『　理由　』

春の日が眠たい理由、夏の陽がまぶしい理由を実はしらない　多香子

訊かれてもいない理由を長々とメールに書いた　二度と会わない　えんどうけいこ

それできみは行くのか夏が来る前の早めの蝉のような理由で　照屋沙流堂

そんな気がしたからはいと言いました　それから四季がはじまったのです　小向大也

空気さえ重く感じるこんな夜は星のまたたく理由を想う　ルナク

理由とか特にないです　ただ首を吊りたくなって吊っただけです　太田青磁

『　シャツ　』

はつなつの風をはらんだ白シャツを帆として街の緑をよぎる　文屋亮

『　肘　』

夏がもう肘まで来てしまったので君は肘まで洗って光る　ナタカ

『　ケーキ　』

誰にでもやさしいわたしだった日のショートケーキは倒して食べる　中牧正太

2016年6月2日

『　記憶　』

メモリごと削除したのに親指が記憶している君の番号　太田青磁

『　箱　』

生活が出ていき部屋は箱になり傷跡だけが残されている　中山とりこ

『　寮　』

大晦日残った三人集まって寮のこたつで酸っぱいみかん　小川けいと

本当はグリフィンドールに入りたい畳の湿気った寮を飛び出し　遠井海

『　ルビ　』

立ち尽くすわたしにルビをふるやうにたた六月の雨は降りをり　桔梗

2016年6月3日

『　蛙　』

薬局の前に佇むケロちゃんを揺らすのやめた日から思春期　遠木音

紫陽花に小さな小さな雨蛙　合唱できずに空を見ていた　多香子

『　昨日食べたもの　』

ふうふうと吹いて冷ましてとりわけてちいさい人とラーメンの夜　nu_ko

チンしてもしゅんとしたまま戻らない元気を出してフライドポテト　中山とりこ

『　作文　』

五行だけしぶしぶ書いた作文の余白がぼくのなつやすみです　遠井海

2016年6月3日～2016年6月7日

2016年6月3日

『　感覚　』

なにをしにきたかわすれるテーブルのうえにおかれた洋梨をみて　ミルトン
ないはずの感覚がある噴水に噴き上げられていたことだとか　スコヲプ
少しずつあなたの方に傾いて平衡感覚なくした世界　月丘ナイル

2016年6月4日

『　列　』

まぼろしの行列を見た　角はもうコロッケ屋ではないのだけれど　小川けいと

『　捨　』

ああこれは誰かの捨てた自転車か誰かを捨ててきた自転車か　中牧正太

『　豆腐　』

君だけが笑う２人の食卓で崩れてしまった絹ごし豆腐　中山とりこ
ひつたりと冷奴あり、かつてかく陸に上がりしわれらの祖先　塾カレー

『　ユニクロ　』

ユニクロに二人で行けば恋人というより夫婦みたいに歩く　静ジャック

2016年6月5日

『　進　』

蜂蜜の流れる速度で進む船　夕陽とともに海に溶けゆく　吉川みほ

『　ショートヘア　』

サッカーを始めて以来短髪の次女のまつ毛が最近長い　ホシキョウイチ

『　ピエロ　』

ライオンも象もピエロも団長も折り畳まれて夏のテントへ　秋山生糸

『　磁石　』

ブランコもすべり台にも並ばずに砂鉄集めに丸まる背中　傘なし
なにとなく冷蔵庫につく磁石らをそつくり捨てむ秋になつたら　門脇篤史

2016年6月6日

『　ドラゴン　』

ため息が火炎放射になりそうで、腕のウロコをカリカリと掻く　祐鈴

『　欲　』

雨漏りのような弱音を受け止めるバケツになって欲しいの今は　真香

『　図　』

展開図あなたと向かい合うために先ずはあなたと離れなければ　ひの夕雅

『　首　』

いつまでも誰か探してゐるやうな夜の扇風機の首のさびしゑ　桔梗

2016年6月7日

『　舞　』

友たちを呼び止めるように幼子は舞う蝶々を指さしている　薄荷。

『　船　』

硝子戸の内にしまうは紙風船あなたの息の標本として　西村曜

『　谷　』

きみではない人がこんなに集まって渋谷はどろりどろりと動く　中牧正太

『　屋根　』

ひとつ屋根の下を分けあうものとして燕親子にただいまを言う　泳二

2016年6月8日～2016年6月12日

2016年6月8日

『　嘘八百を並べてください　』

キウイの実そっとあたためつづけると七日ぐらいで鳥がうまれる　nu_ko

「恋人ができたの仕事は楽しいし明日も早いし　切るね、母さん」　葵の助

2016年6月9日

『　SEX　』

あおむけにされてホテルの少しだけ開いた窓から月を見ている　フジタレイ

重なったまま死んでいるカブトムシ　飼育ケースにエロスタナトス　吉川みほ

『　薬　』

薬莢の転がるやうな音がした　わたしの云つた言葉のあとに　桔梗

『　&　』

LOVE&PEACE と書いたTシャツを着ている人にグーで勝てない　ナタカ

『　ロックンロール　』

段ボール(A)と絵(F#m)の具(D)でできたレ(E)スポールそれ(C#m)でも退屈(F#m)だけは壊(D)せた(E)　泳二

2016年6月10日

『　自由詠　』

呼び捨てにしてくれたこと嬉しくて自分の名前とても愛しい　衣未(みみ)

朝顔の小さな種に満ちている「朝顔になる」確かな決意　遠木音

やさしさがこころを壊す日もあって日暮れのような林檎を齧る　かざなぎりん

フェンスからはみ出している紫陽花の一房淡く色づく自由　ゆら

2016年6月11日

『　17時　』

午後五時にドボルザークを口ずさむ　帰れる家のあるあたたかさ　太田青磁

『　結婚　』

失敗と母親がいう結婚でわたしが産まれて生きていること　きつね

『　蛍　』

サボテンと何処へも行かない私たち蛍光灯の明かりの下で　南瑠夏

生きている蛍は逃げる　光しか見たことのない子どもの前で　宮嶋いつく

一粒の光はツイと糸を曳き川辺の闇をより深くする　小川けいと

友達にもどったひとと僕の間にくすぶる愛のような蛍火　ルナク

公国に赤い蛍がいるという3倍早く飛べるそうです　只野変哲

水蓮の光るるほどに張りつめし蕾はひそりほたるを産みし　いっ太郎

『　印象　』

目がさめて眼鏡をさがす五秒間、世界はこんなにも印象派　塾カレー

『　残業　』

残業を終えて揺られる背中には誰かの固い鞄が当たる　きい

2016年6月12日

『　蜜　』

日常をちょっと壊してみたくなり深夜に作るハニートースト　南瑠夏

『　川　』

あの川で脱げたサンダルに置いてかれまだ帰れないかたっぽの僕　坊斎

2016年6月12日～2016年6月15日

2016年6月12日

『　不　』

幸せになってるだろうきっぱりと不幸の手紙を止めたあの子は　葵の助

『　逆　』

水に浮き逆さに空を眺めてる雲のグレイと余白の青を　太田青磁

『　嵐　』

「好きだ！」って吹きつけられて「私も！」と裏返る傘 こらこら行くな　下弦

2016年6月13日

『　都会　』

この街でママに言えないことばかりしている次はお盆に帰る　にしたゆい

都会には悪いやつらが多いけど良いひともいるプリキュアもいる　三田たたみ

大事なものですかそうでもないですか　都会に雪が積もって溶ける　あみー

『　冠　』

うつむいて生きているから冠をかぶせられても落としてしまう　えんどうけいこ

『　CD　』

ＣＤの裏には虹があるけれどいつもあるからありがたくない　中本速

『　資格　』

よれよれの資格の延命措置として更新料を振り込みにゆく　かざなぎりん

『　蚊　』

蚊をはらう君の団扇の風にのりほのかにかほる石鹸の香よ　MASH!

2016年6月14日

『　かたつむり　』

あめ、あかちゃんかたつむりひとまきのから、おくへおくへとうずまいてゆけ　吉川みほ

『　含む　』

許されぬ子を身籠るも　ほおづきを口に含んで女は迷う　こたきひろし

『　自販機　』

自販機でコーヒーを買うより軽いタップだ送信せよ恋ごころ　かざなぎりん

『　サンドイッチ　』

神を待つ子どものようなコンビニのタマゴサンドの体育座り　中牧正太

『　腿　』

太腿を二度打ち低く水面を見つめてきみは号砲を待つ　泳二

2016年6月15日

『　顔　』

ベランダでひまわり咲いた　ＢＳをうっかり受信しそうな顔で　久哲

夜が明けて鏡に映るぼくたちの顔が互いに他人に見える　雀來豆

『　他　』

なぜ俺は駅で他人の吐瀉物の麺のちぢれを見てしまうんだ　西村曜

夕風が他人の空似とあざわらう駅前であ、とふり返れども　多香子

吉野家で牛丼食べて手を繋ぐ他人じゃなくなっちゃった記念日　ハナゾウ

『　箸　』

割り箸でプリンを食べる　人生の意味とかはまあ、また考える　森下裕隆

『　梅雨　』

NO RAIN NO RAINBOW．　うつくしい再会のため降る雨がある　冨樫由美子

2016年6月15日～2016年6月19日

2016年6月15日

『　脱　』

脱ぐための服でなくなりワンピースたたまっすぐにハンガーの上　藤 かづえ

2016年6月16日

『　虹　』

雨上がり「一服する」と席を立ちこっそり虹を見にいく部長　三田たたみ

『　水　』

足のつめ全てに違う水色を塗って静かな湖になる　衣未(みみ)

『　葉　』

幸せになれるんでしょうあの人は往復葉書の欠席にまる　つん

『　淡　』

たまねぎの甘みを知って弟が少し大きく描く淡路島　東風めかり

『　藤　』

つばさなどなき背に藤のかげ垂れてあなたはいつか風と呼ばれる　かざなぎりん

2016年6月17日

『　液　』

最終のバスを待つ列 液晶はゆるりと夜に目を開きおり　天田銀河

『　ズーム　』

きみが出る徒競走にしか使わないズームレンズをボーナスで買う　祐鈴

『　叩く　』

はんぶんこしてあげたくてポケットをやさしくたたく兄のてのひら　つん

『　舌　』

なぜひとは夢をみるのだ　なぜ猫は自分の舌をしまい忘れる　永昌

『　喜劇　』

子ども椅子にまします若き独裁者がミルクで描くひげを見ている　五條ひくいち

2016年6月18日

『　今度　』

今度は何でにじんだんだろ近況をつづった（らしい）読めないはがき　しま・しましま

『　神社　』

縁結び神社巡りをしてる間にあの娘が君を攫っていった　葉山はな

この国の形ばかりの神社でも故郷の母の長寿を願う　安部圭二

『　巴　』

巴投げされたこぐまがオーロラに飛び込んでるからしばらく揺れる　小向大也

『　5分　』

魔王から世界を救った朝なので五分くらいの遅刻は許して　あかね

『　豹　』

逃げているようにも見える右向きの胸のプーマと鏡のわたし　中牧正太

2016年6月19日

『　罪　』

きみが手をかけたドアノブ　罪という字は扉にも似る（開いてしまう）　西村曜

『　箸　』

わたくしの取るに足らない日々だけど箸をおろさず聞くひとがいる　西村湯呑

2016年6月19日～2016年6月22日

2016年6月19日

『　接　』

見たかつた世界をなくし抽斗に眠りつづける接眼レンズ　桔梗

『　下ネタ　』

おっぱいはお元気ですか火照る日が続いてますがご自愛ください　豆打たんす

『　武勇伝　』

隣席の元ヤン風のマツコ似の昔話が張飛レベルだ　nu_ko

打たれても打たれても生き子をふたり産んで打たれてなお笑う我　きむろみ

2016年6月20日

『　従兄弟　』

またいとこ、遠縁、友情出演とラタトゥイユのなか野菜は踊る　西村湯呑

『　禁　』

キッチンに軟禁されて生きていく換気扇から空は見えない　ハナゾウ

『　止　』

妻の名を最期に口にして逝った 体言止めの短歌みたいに　葉山はな

『　野球　』

中三の夏にはじめて九人がそろってぼくはライトへ走る　大月閑

『　海苔　』

冷蔵庫には江戸むらさきの場所がある家に帰れば居場所があった　希和子

2016年6月21日

『　ただいま　』

返されて二つになった銀の鍵あかりをつけてただいまと言う　ルナク

「ただいま」が東京ドーム２個分のエントランスに木霊して泣く　ねむけ

『　点　』

昨日とはちがっていたい にせものの黒点ひとつ目の下にかく　七緒

『　境　』

ともだちの境界線をあのひとは飛び越えてきたペリーロールで　三田たたみ

たとえばさ、ページとページの境目を僕らはきっと切なさと呼ぶ　桜枝巧

『　痩　』

ケバブ屋の大きな肉が痩せた分君と私がふくふくになる　中山とりこ

『　園　』

たつたいまゆふたちは止み地球からうまれたやうにゐるすべり台　桔梗

2016年6月22日

『　堀　』

君と見た花を忘れるために来た千鳥ヶ淵のさざめく水面　わたぬきそら

『　チーズケーキ　』

母の焼くチーズケーキの時だけは父は黙って２切れ食べる　早乙女まあり

『　髭　』

著者として教科書に載りわたしには生えないはずのひげを描かれる　きつね

『　波　』

平穏な毎日がいい　湯船では波を起こしてたのしむような　中本速

『　架空の人物　』

ドラえもん。結局、僕は誰ひとり愛することができなかったよ　chari

2016年6月23日～2016年6月26日

2016年6月23日

『　人名　』

犯人の名前のうつくしいことにアナウンサーもきっと気づいている　加賀田優子

『　修学旅行　』

金髪の不良男子が買ってゆく妹のためのご当地キティ　中村ゆい

『　太　』

レジ袋でしょうかいいえねこでした太ったねこのたましいでした　しま・しましま

『　内容　』

内容はそれほど当てにしていない消しゴムのあとばかりの手紙　終栗夢

内容量だけで選んだおいしくないプリン（自分をだいじにしなきゃ）　西村曜

『　尻　』

はつなつのプールサイドに二十四の　ぺたむと咲いたしりのおしばな　東風めかり

2016年6月24日

『　にんじん　』

身も蓋もない正論だ人参のような正しさだ　乱切りにする　吉川みほ

にんじんをきざむ響きに目を覚ます　生き物を切る朝は涼しい　中本速

『　国　』

公園の土管の中にある国で明日、弟に王位を譲る　たっきー

『　省　』

反省をしている風にうなだれた君が背中で回すシャーペン　冬桜

『　の　』

「の」の字から「へ」の字に変わる　タバコ屋の看板猫の夏の寝姿　葉山はな

『　破調　』

ボウルの中にみっしりとふえるわかめ　わたしたち寄る辺ないから寄り添ってる　しま・しましま

2016年6月25日

『　利　』

偶然に利害が一致したことを愛と呼びたきゃ呼んでもいいよ　森下裕隆

『　主　』

お葬式人生初の主役ですドキドキします生きかえりそう　いずみ　美帆

『　筋肉　』

今日までのあなたがここに記されて脊柱起立筋のうつくし　七緒

『　誰　』

その指はほかの誰かのポケットに入れたらいいさ　暮れてゆく夏　雀來豆

『　ざます　』

デパートにも地層のありて二階辺りにざます紀の層　希和子

「ざます」とは言わぬ芦屋の奥様が前の車に投げつける「アホ」　静ジャック

2016年6月26日

『　熱　』

たい焼きをリュックいっぱい詰め込んで逢いにいきます（背中が熱い！）　森下裕隆

鉄棒の熱に触れれば逆上がりしてゐたころのわれに還れり　萩野聡

平熱の人は一人もいなくなりとても楽しい旅が始まる　Y川

熱海行きバスで連続射殺魔が夢見るみんなかわいい暮らし　すみちゃん

2016年6月26日～2016年6月29日

2016年6月26日

『　意識　』

胸の奥どんより重い日も白を無意識に踏む横断歩道　遠木音

『　袋　』

手袋でつくったうさぎ忘れられうさぎのままで春をむかえた　nu_ko

『　ガム　』

ガムを踏む　ひとときだれかに必要とされたガムなら許してやろう　西村曜

靴を脱ぎ傘を畳んでガムを捨てあなたはわたしをあおむけにする　フジタレイ

物干し台にブルーのギンガムチェック揺れあの娘の帰郷知る昼下がり　大野惠未

『　濁音　』

あくまでも私を許すことはないあなたの美しい鼻濁音　椋鳥

2016年6月27日

『　塾　』

塾でしか会えないきみをセブンティーン・アイスで誘う１０分デート　三田たたみ

『　蛇　』

く、と蛇口しめる音してああきみがさみしいことに気づいてしまう　西村曜

『　制服　』

スカートを折るのがへたくそだったころ世界は綺麗な水色だった　ネネネ

『　格好　』

亡き人にいよいよ似てくる背格好くちなし香る坂を上れば　希和子

『　根性　』

高熱のくせにあるいてやってきて「ばか」とひとこと言って帰った　加賀田優子

根性のないやつだなと言いながら弱った虫を外へ放った　永昌

2016年6月28日

『　吸　』

さようなら 今日いちにちのこと全部吸ったコンタクトレンズをはずす　うにがわえりも

『　肌　』

素肌へと白木蓮のしずく落ちあなたのなごり雨はあたたか　ものか

『　幻　』

まぼろしの風邪をまとえば缶詰のももものシロップかすかににがい　しま・しましま

『　仕事　』

ネクタイはもっと細めが似合うのにそれはわたしの仕事ではない　朝倉洋一

『　寺　』

高円寺純情通りに雨が降り傘をささない正しさもある　スコヲブ

2016年6月29日

『　院　』

座席にはぽつんと痛みを座らせて市民病院行きのバスです　ナタカ

『　あきらめ　』

わたくしが諦めたならこの缶のつぶつぶコーンはどうなるのたろう　しま・しましま

『　竹　』

空っぽは強さた何もためらわずたたまっすぐに伸びてゆく竹　遠井海

一瞬の隙をつく面とよめきの中で静かにたわんだ竹刀　さはらや

『　OK　』

君の出すOKサインの輪の中をわざわざ夏風が通るんだ　久哲

2016年6月29日～2016年7月2日

2016年6月29日

『　コーヒー　』

自販機で君が飲んでるコーヒーの隣に並ぶおしるこを買う　桜枝巧

2016年6月30日

『　総　』

母さんに甘えたくなるときもありお総菜売り場で白和えを買う　薄荷。

七月の青に染まった房総に咲いてるカスミソウ　誰ですか　久哲

『　同性愛　』

10年間君の幸せだけ祈り新婦友情スピーチ終えた　綴紡

『　カップラーメン　』

ひとりでにひらく紙ふた三分のくらさにがまんできない海老た　しま・しましま

『　アニメソング　』

父さんは今日もどこかでデビルマンしてきたらしく疲れた様子　たくあん

『　骨　』

人はまだ空を知らない椎骨のひとつひとつは羽を持つのに　月丘ナイル

2016年7月1日

『　運　』

少年を見つめるなかれ校庭で拾った恋を運ぶ途中の　雀來豆

『　益　』

うち光る蛍の影も濃くなりて益々昏き夏の宵闇　薄荷。

「益々」は常用外で「ますます」に姿をやつし、落ち延びていく　祐鈴

『　美　』

白肌の美しいひと心臓で一番高いドの音がする　豆打たんす

『　牙　』

僕たちは生まれついての寂しさを牙として持ち傷つけている　きつね

『　画　』

黒く錆びた画鋲が刺さる柱にはなくしたものの影だけ残る　静ジャック

2016年7月2日

『　煙　』

死んでいないもののすべては生きていて古煙突が三日月を吐く　中牧正太

『　線路　』

枕木のひとつひとつを踏みしめる ほんとはどこへでもはゆけない　七緒

『　林檎　』

林檎飴くちびる赤く光らせたあの日の君が誘う夕暮れ　冬桜

作・パブロ＝ピカソでしょうか ふきっちょな多面体へと剥かれた林檎　たくあん

かなしみが生みたすものの多いこと机上に群れるりんごのうさぎ　西村曜

裏庭の古い林檎の樹の下で泣いてちゃいけないという約束　雀來豆

『　じゃんけん　』

缶コーヒー飲み終えるまで小児科のほうから聞こえるじゃんけんの声　小川けいと

『　他人　』

一年のブランクを経てサンダルは他人のような顔をしている　薄荷。

2016年7月3日～2016年7月5日

2016年7月3日

『　椅子　』

うっすらと埃を纏(まと)い籐椅子は祖母の不在を語り続ける　森下裕隆

『　ハンカチ　』

ハンカチを畳むことからやってみる いつもの自分にきっと戻れる　えたまめ

『　ドレミ　』

幾百のドレミのうたをしみ込ませ木造校舎やさしく崩る　西村湯呑

『　ワイン　』

同い年生まれのワインそれだけであなたを思い出したりしてる　葉山はな

ベランダで白ワイン越し見る花火一口飲んだころ音が降る　早乙女まあり

『　模様　』

模様替えしました君がいつもいた場所にはタンスをばーんと置いた　ナタカ

せがまれて描いたきりんの模様にもマジメなあなたが見え隠れする　五條ひくいち

2016年7月4日

『　術　』

母親と一緒のお風呂ではいつも手術の痕を見ないふりした　えんどうけいこ

優しさの輪郭だけで生きたいよ強くなる術(すべ)知らないままに　衣未(みみ)

魔術など使えないけど惜別と感謝を乗せてハンカチを振る　西村湯呑

『　UFO　』

ペガ星の修学旅行の行き先は青く輝く地球だそうです　木蓮

『　靴　』

だんだんにヒールが低くなるにつれ考え方も地に足がつく　祐鈴

コンバースを磨きつづけるムンバイの少年 銀河をなぞっていく手　シュンイチ

『　肩　』

肩に乗る小さな寝顔を感じつつ 駆け足できた夏を見つめる　仄

『　サボテン　』

左手のないサボテンのこんにちはまたはさよならまたはたすけて　中牧正太

2016年7月5日

『　ピーマン　』

空っぽと思いこんでたピーマンの中に小さな海を見つけた　シュンイチ

『　向　』

向日葵の海　風吹けばいっせいに無数の黒い穴と目が合う　三糸梢

さようならねずみみたいな自動車と方向音痴でばかなカーナビ　nu_ko

地下鉄の向かいの席にリャマがいるいつもと違う地下なのだろう　こりけケリ子

『　机　』

授業中居眠りをするあの人が頬を寄せる机に嫉妬する　秋軸ざきこ。

『　嫉妬　』

素敵って女性社員に言われたの？ よかったよかったちょっとだけやた　中山とりこ

『　汗　』

沈黙は食卓に満ちりんどうの花はかすかに汗ばんでいる　土屋タオル

2016年7月6日～2016年7月8日

2016年7月6日

『　指　』

指先のてんとう虫が飛んでゆく置いてゆかれることには慣れた　ミルトン

『　カゴ　』

夢をみる主をなくし虫かごのきみどりはもう森でなくなる　七緒

『　裏　』

千代紙でかわいい手裏剣折っている息子の恋が始まりました　早乙女まあり

『　袋　』

二円分地球と憎みあっている掌にレジ袋が喰い込んでいる　朝倉洋一

『　小説の一節を入れた短歌　』

この蜘蛛の糸は己のものだぞ。と吊革離さぬ通勤ラッシュ　小川けいと

2016年7月7日

『　方言　』

ああここはもうふるさとだ膝枕されてほろほろ方言こぼせば　羽島かよ子

なつかしい方言聞こえ振り返る中央口に海が広がる　秋子七子

『　噴水　』

夏空を撃ち落としたい弟がホースを持って噴水になる　nu_ko

『　半分　』

片思いってのは半分両思いみたいなもんた めげるな私　たくあん

半分にパキッと折ったチューペットひとつは俺にもひとつ俺に　ツナマヨ

鯛焼きを半分ずつにすることであなたも私も何か足りない　ひの夕雅

全力で愛すと決めた夕飯に選んでおりぬカロリーハーフ　堀口万理奈

『　七夕　』

彦星になったみたいな顔をして駅のホームで君を見送る　りりー

『　星　』

星たちが放った光　遠すぎて本当のことはわからないのだ　永昌

五等星見えないけれど輝いてすこし命を減らしています　@aokikenichi

ひたすらに身を横たえるだけの部屋 LED の星が連なる　宮木水葉

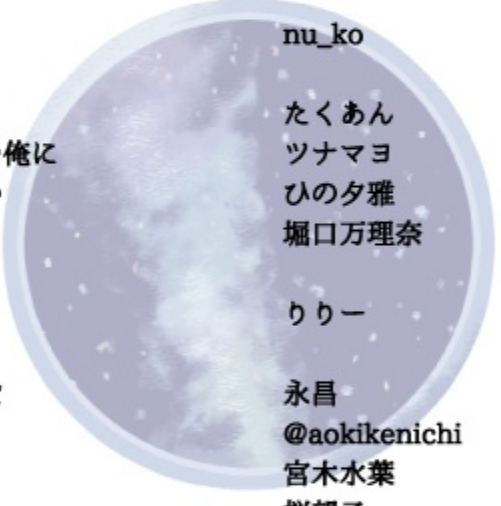
星はある、見えてないだけ東京の夜空で二人は必ず逢える　桜望子

二階から星が見えるよ　離れてる人にはとても共感できる　南瑠夏

天の川なぞれば星のオルゴール無限に広がる祈りのメロディー　希和子

少年の真似た「ケツだけ星人」を浜辺の蟹がおいかけてゆく　東風めかり

目に星を飼ってる猫が膝の上眠ればペガに春風がふく　所



2016年7月8日

『　疲　』

疲れてるからじゃなくってもう好きじゃないから会わないとわかってる　えんどうけいこ

「疲れない」という仮定ができるなら私はどこまで行けるのだろう　ぽつり

『　単位　』

好きの量はかる単位がないせいで上手く言えない「これくらい好き」　秋子七子

『　扇風機　』

母と娘の煮詰まる会話に扇風機交互に風を送っていたり　希和子

『　生　』

「とりあえず、生で」と告げる人たちの妻には見せぬ明るい笑顔　Y川

2016年7月8日～2016年7月11日

2016年7月8日

『　生　』

先生に言い忘れたけど絶対にあたしはあたしのままで死にたい　ネネネ

『　灯台　』

この国のどこへ行つても灯台は楪図かずおのやうに寂しい　塾カレー

2016年7月9日

『　落　』

呪いますガリガリ君の片側がいつも棒から外れて落ちろ　ハナゾウ

木星、飛行機、屋根、掛け布団、それから目蓋に落ちてくおやすみ　ミ花

『　あなた　』

コンビニに入ればすぐに右折するあなたの癖がなかなか抜けない　UrbanBlues

紫の朝顔三つ開く朝あなたに逢いに行こうと決めた　多香子

これもまた家族の軌跡あなたからアンタに呼び名が変わってゆくこと　橋原もか

『　再　』

君の手を離そうかなにか話そうか再び青にかわる信号　所

『　日本史　』

日本史の最後のページにこう書いてあればいいな「めでたしめでたし」　鳴瀬 諒

『　溺　』

溺れたい願望かもとカーテンを開いたままでいる豪雨の日　スコヲプ

携帯の大海原に溺れてるもしもしの耳貸してください　ものか

2016年7月10日

『　自由詠　』

自由って憧れだった　あなたから「すきにすれば」と言われるまでは　葉山はな

古い母子手帳にのこる母のメモあすは私がはじめて立った日　nu_ko

百日紅みたいな背骨なでているときだけ夏を好きだと思う　佐原 輔

水色と初めて名付けたその人の瞳で見たい雨の日の街　桜望子

かみさまも入道雲の裏側であくびしている真夏日のごご　傘なし

じゃあきみはカレーパンから掻き出したカレーをご飯にかけて喰いなよ　森下裕隆

半分のパピコを渡す気軽さで出された好きが手の中にある　矢波多恵

主役ではないと悟れば人生はこんなに凪いでいる日本海　塾カレー

2016年7月11日

『　夕立ち　』

夕立が右からスピード上げてきて　あっ、野球部が今つかまった　早乙女まあり

『　口語　』

流麗に旧仮名文語を編むひとが「バねぇ」とわらう打ち上げ花火　西村湯呑

『　定規　』

三角定規借りにきてくれてありがとう貸すのはわたしだけどありがとう　西村曜

『　神　』

神様はいないと知った　きみが「また死にたくない」と囁いた夜　三田たたみ

かおちゃんはねかおりっていうんだほんとはね　だけどカオスを司る神である　あみー

『　渦　』

パンだけどたぶんすべてのヤドカリが住みたがるほどきれいなコロネ　nu_ko

2016年7月12日～2016年7月14日

2016年7月12日

『　バカ　』

バカボンのパパの年齢超えてても自分は馬鹿たこれでいいのだ　えがふり

先生に馬鹿って言われて傷ついて君にばかって言われて和む　葉山はな

『　帽子　』

「お洒落だね」なんて言われたクロッシェの中で波打つ朝ねぼうの跡　葵の助

『　銭湯　』

廃業の更地となりし銭湯におんなおとこの境なくなる　たかた牛道

『　爪　』

幼子の寝息が続くうちに切る世界一やわらかな三日月　ナタカ

『　ゲーム　』

おきのどくですがデータが消えまして今日の空なら青いのですが　スコヲブ

夕立をゲームのように横切ろうスポーツバッグを押しつけあって　小宮子々

2016年7月13日

『　手紙　』

たふん君、食べてしまうと思うのでやさしい紙とペンを使った　笹乞ゆめ

『　おやつ　』

コンビニのお菓子売り場を抜けるとき詩の行間を行く心地する　雀來豆

猫の舌 焼いているのとママが言う 悪い魔女には騙されないぞ　けら

不器用なシュークリームやドーナツがふいに恋しいおやつの時間　葉山はな

『　演歌　』

この先がどんな時代になろうとも肴はあふったイカでいい人　西村湯呑

『　きっと　』

きっと来るご主人様に会える日が　でもなんたろう「ヒナンシジ」って　たちばな

きつとまた戻つておいでと送り出す　さいふの中の諭吉ひとりを　桔梗

きっとっていう言葉に騙されながらわたしは歩いていくんたろうな　きつね

『　楽譜　』

書き込みの多い楽譜を恥じている君はむくげの花に似ている　小宮子々

2016年7月14日

『　大人　』

大人にはなれなくってもおっさんにはなるんたよなぁしみじみと呑む　森下裕隆

大人でも無力なことがわかるとき、子どもではない私を思う。　祐鈴

大人にはなりたくなくて心だけ処女のまま今日も君に抱かれる　さはらや

『　ビー玉　』

ビー玉のひとつひとつに眠らせた夏を沈めて青き水槽　かざなぎりん

『　スーパー　』

半額のシールを私にも下さい逃した魚でいるのは疲れて　矢波多恵

日に一度売れて行きますスーパーの棚に置かれた善人の皮　清水ゆん

『　追　』

追わないと決めて返した合鍵と指輪と写真と描いた未来　ぽつり

『　スカート　』

どうしても負けられないからスカートを折ったりしている 祈るみたいた　いち

真夏から飛び出してきたスカートが赤信号に勝って飛んでく　吉野

2016年7月14日～2016年7月17日

2016年7月14日

『　スカート　』

女たしいつもどこかが痛みますシフォンスカートは揺れる包帯　ハナゾウ

2016年7月15日

『　かかと　』

逮捕され連行される少年のサンダル履きの綺麗なかかと　久哲

『　友達　』

友達になった人より友達でなくなった人を夢に見る夏　亜梨

「友達」のボーダーラインも曖昧に夢中にかじるブリッツの先　る～たん

なわとびもできないくせにつらいときただ呼び出して遊んでくれた　中本速

『　鉄　』

鉄分がほしいと言えばデゴイチのありとあらゆる角度の画像　つん

迷ったら鉄鉱石と書いておくようにわたしを選んでしまえ　中牧正太

ぬばたまの鉄鉱石の色思ふきみの瞳の奥を視るとき　藤 かづえ

生物は無生物より尊しと蔑まれつつ錆ゆく鉄（スチル）　神保茂

『　巣　』

定年は二度目の巣立ちとうながされしおれた羽にかけるアイロン　ルナク

『　テーブル　』

テーブルが歩きはじめる午前2時お供の椅子と月を見にいく　nu_ko

金曜の夜のわたしを受け止めてこのテーブルはよく冷えている　小宮子々

2016年7月16日

『　黄　』

明日のこと明日考える君が食うクリームパンの明るい黄色　葉山はな

『　緑　』

不自然な緑ばかりの東京で呼吸の仕方を誰かおしえて　嫉妬林檎

ピリジアンが足りなくなったあたりから　もしもわたしをやり直すなら　中牧正太

『　赤　』

波音が君をさらえとささやいた　わたしの中は真っ赤な海だ　亜梨

『　青　』

同じ空見ていたはずの君の塗る青は僕より透き通る色　桜望子

『　桃　』

ひどいことを私にたくさんしたあとで桃に優しく触れる指先　姉野もね

2016年7月17日

『　パスポート　』

どこへでも行けると思った十年を机の奥にしまったままだ　ナタカ

『　犯人　』

水色の色鉛筆が減っているこの被疑者には恋人がいる　中牧正太

『　転　』

心配をかたちにすると自転車の鍵の形に似てると思う　天使きらり

『　麻酔　』

諦めが麻酔のように広がってカラスも蝉も誰も鳴かない　ハナゾウ

『　二句切れ　』

ゴミ袋かたく結んだ終わらせることと始めることは等しい　スコヲブ

2016年7月18日～2016年7月21日

2016年7月18日

『　絶対　』

絶対にここにあったと泣くけれどおててで氷溶けちゃったのよ　かしくら ゆう

『　飲　』

しあわせな朝　きみはスープを飲み終わりぼくはスプーンを目に当てている　雀來豆

『　月曜日　』

月曜は寂しがりやで僕たちを待ちきれないのだとしたらどう？　ひでり

『　バナナ　』

すこしづつゆるせなくなる　こひびとが食べてしまつたシールのバナナ　桔梗

しあわせは甘いものだと決めつけて見ればバナナにたむろする黒　秋本こゆび

『　高校１年　』

知り合ってたった三月の先輩の言うことは聞く高一の夏　といじま

まだ硬いスカート濡らす 一生の友に逢うまであと二百日　ルオ

2016年7月19日

『　閉　』

閉じていく今日に片足ねじ込んで二人で走る駅までの道　南瑠夏

『　昔　』

もう今は地図から消えた国のまだ撤去されない線路を歩く　あかね

『　組　』

鴨川は等間隔の法則で何組までを受け入れるのか　non たん

『　輪　』

どうしても眠れない日はわたくしをちくわの笛で呼んでください　桔梗

『　蟻　』

働かぬアリがいっぴき塀ぎわでたぶん結句を決めかねている　静ジャック

2016年7月20日

『　朝　』

「あたらしいあさがきた」っていう歌を歌わないけど思い出す夏　遠木音

『　炎　』

ほのほにも七月のいろ　たいくつな百物語に膝を正して　太田宣子

『　毒　』

九九もまだ覚束ないが近海の毒魚の名前そらで言える子　宮嶋いつく

『　涙　』

シロナガスクジラが流す涙には彗星の尾が混ざっていたね　404notF0816

『　海　』

海側の席を必ず選ぶ人いつもシウマイ弁当の人　永昌

2016年7月21日

『　夏休み　』

夏休み　ウソばかり書く絵日記の中に帰って来るおとうさん　久哲

『　旗　』

万国旗その中にある亡国のひとつふたつを風は知らない　文月郁葉

『　どこ　』

かと言って死んでくれては困りますどこにでもある名前の貴方　中牧正太

2016年7月21日～2016年7月24日

2016年7月21日

『　ちび　』

ヒーローに憧れている泣き虫の色鉛筆の赤色はちび　皆川 せつ

『　カクテル　』

人数2、ビール、苺のマティーニのレシートを秘め浮かれた財布　姉野もね

シャーリーとみんな呼ぶからそう呼んだ君は素面(しらふ)でこんなに笑う　加治小雨

2016年7月22日

『　遅　』

遅刻した日に校門で見た虹を私はたぶん誰にも言わない　さはらや

小3の夏に叫んだ「ヤッホー」がかなり遅れて戻る夕暮れ　遠木音

『　天井　』

壁に耳 障子に目あり 天井に 獏の残した哀しみが在る　けら

「天井に人の気配がするけれど槍で突いても居ないのよ」「槍」　西村湯呑

『　炭酸　』

降りしきるクマゼミの声　炭酸が一気に喉を叩いて通る　きい

『　少女　』

きらきらと三ツ矢サイダー振りまいて少女は夏の季語になります　桔梗

『　永遠　』

とりあえず後に回してなあなあにロケットペンシル的な永遠　前田沙耶子

2016年7月23日

『　雷　』

好きだったもの好きだったものばかりひとりっきりに遠雷ひびく　七緒

『　ハズレ　』

あの夜のソーダアイスのハズレさえぼくらにとって夏のたからもの　404notF0816

『　メロン　』

少しだけ悪い男を好きになるメロンバンナになれないあたし　いずみ　美帆

うすみどりいろの夢見る惑星がひとつめろんめろんはやさしい　吉川みほ

『　禿　』

きつぱりと禿げてあかるいこひびとのあたまを抱けばけふも日溜まり　太田宣子

『　犬　』

空っぽの犬小屋のなか幸せの記憶だけがしっぽふってる　茉莉

散歩よ、と呼べばいつでも三姉妹ラニ・ポメ・アンの順番に来る　森下裕隆

2016年7月24日

『　散歩　』

まっすぐにしか歩けない恋である たてに並んでゆく散歩道　所

長い長い散歩のような午睡からゆらゆら目覚めていく夏の午後　文乃

黄揚羽(きあげは)の羽化が失敗するまでを眺めて帰る炎天の朝　塾カレー

ねえ行くの？行くの？行くの！とクルクルと右に左にペスは跳びはね　たかはしみさお

通勤の道を外れると散歩になった やたら大きな空を見つけた　す太郎ん

『　階段　』

ティンバニをかかえて降りる階段が最初の試練　コンクールの朝　太田青磁

『　潰す　』

丁寧にジャガイモつぶす。丁寧にやれば大抵許してくれる。　祐鈴

あなたってビーチボールを潰すときこわれるくらい抱きしめるのね　中牧正太

2016年7月24日～2016年7月27日

2016年7月24日

『　なぜ　』

なぜならば君が泣くから 扇風機いちばん優しい速度でまわれ　七緒

『　工場　』

工場と人差し指を失った伯父が昭和を語ってくれる　静ジャック

2016年7月25日

『　ヒマワリ　』

そんな目で見るな向日葵 二番目に好きな男と暮らす私を　葉山はな

『　券　』

入場券はエノコログサです。フェンスから向こうは広い夏休みです。　希和子

半券をもぎる手つきも慣れてきた今日はひとりの人が多いな　ひの夕雅

『　連続　』

夏山のスキーリフトの連続はいづれも人を乗せずにゆけり　高岡恵

『　ベスト　』

ベストではないがベターの選択のまた味気ないチーズバーガー　朝倉洋一

『　不思議　』

靴下の片方がまた無いふしぎ郵便局へ下駄ででかける　ミルトン

2016年7月26日

『　ごめん　』

ごめんって言えないままで帰るときどんどん伸びていく影法師　終栗夢

『　死　』

君の死を認めぬかぎり割り箸は絶えることなく余り続ける　小向大也

『　ノート　』

「塩分はひかえめにね」と丸文字のレシピにぽとぽと落とす塩分　西村湯呑

遺された母のノートに記された綺麗な文字の「自転車を食う」　ミルトン

『　たから　』

このままでいこうと思うかなしみが四つでビノが六粒たから　中牧正太

『　果　』

よろよろと街の果てから現れる路面電車に日傘をかざす　きい

2016年7月27日

『　シャワー　』

後悔をシャワーで流す八月が排水口を詰まらせてゆく　404notF0816

頭からシャワーを浴びて滝行のような顔する我が家のキューピー　かしくら ゆう

『　曲　』

ラジオから流れる曲に封をした想いも再生される夕暮れ　秋子七子

自転車のベル一斉に鳴り響く南京路(ナンジンルー)が奏でる舞曲　フジタレイ

『　焼きそば　』

あくにんはテレビの中にいればいい土曜の昼は焼きそばがいい　森下裕隆

『　彩　』

水彩の色鉛筆で描いてみる君のきれいな土踏まずなど　永昌

『　天才　』

エビを剥くために生まれてきたやうな手と界隈で有名になり　塾カレー

2016年7月28日～2016年7月31日

2016年7月28日

『　塊　』

さっきまで私であった塊が病巣として引き剥がされる　ハナゾウ

『　汚　』

避難することのできない向日葵が汚染地域で光を浴びる　えんどうけいこ

撒ねかへすみづに汚れてまたみづに洗はる　けふの感情は雨　太田宣子

『　砂　』

砂山のトンネルの中ぼくの手をつかんでいるのだれなんだろう　傘なし

『　孤独　』

グレーグレーみどりみどりで靴下を束ね終わってまたひとりきり　中牧正太

『　薄　』

薄情と言われるくらいの距離感が一番あなたに優しくなれる　淡海わこ

2016年7月29日

『　うっかり　』

ゆったりとおよぐ雲たちみているとうっかりクジラになったりもする　皆川 せつ

『　力（ちから）　』

「パワー系の中ボスっぽい」で一致した鉄観音はふつふつ沸いて　西村湯呑

『　笑　』

来年の話をしよう　鬼たちも隠れてないでいっしょに笑おう　三田たたみ

祭りの日ひとり離れてプロレスの面を被って笑っている父　雀來豆

『　子宮　』

空っぽの子宮たずさえゆく海の子供の笑い声だけ響く　桜望子

『　消　』

見覚えのある書き文字の、見覚えのない消印の海が届きぬ　桔梗

2016年7月30日

『　やばい　』

コーヒーにミルク砂糖の両方の代わりに入れたヤクルト、やばい　照屋沙流堂

やばくてもやらねばならぬことがある八月三十一日でもた　さはらや

道端で出会ったオランウータンにミルクをあげて餌付けする僕　宮本背水

ありがちな最期の言葉ランキング１位は「あ、死ぬ」（死神調べ）　クリタ

『　番号　』

ネクタイの包装中はデパートで10番として生きるわたくし　葵の助

『　左　』

左手で自分の名前を書いてみるわたしであってわたしではない　遠木音

『　プール　』

頑張ったプールの記憶が五時限目ひたり耳から不意にこぼれる　きい

『　句跨がり　』

教室の窓枠に跨るきみと語る積乱雲のきらめき　高松紗都子

2016年7月31日

『　忘　』

「忘れてね」ってかるく言うんだアボカドの種にナイフがちいさく刺さる　しん・しんしん

2016年7月31日～2016年8月3日

2016年7月31日

『　雑　』

美容師に出される雑誌に告げられる客観的な見た目年齢　淡海わこ

雑草とまとめて呼んでたくさはらに不意にミントの香りたたよう　遠木音

『　ヨーグルト　』

母さんに言えないことが増えた日のヨーグルトにはジャムをかけない　薄荷。

『　来　』

ヒーローは泣いても来ない９センチヒールで走るわたしは強い　加治小雨

『　イルカ　』

イルカなら他のひとには聞こえない声であなたに告げられたのに　みずいろ

2016年8月1日

『　後　』

たたかいが終わった後に生えてきた草の名前を誰も知らない　Ｙ川

後ろ向きだと言われても知るもんか私が見ている方こそが前　ひの夕雅

大粒の驟雨の通過した後の呆然　光まみれの坂で　吉川みほ

『　雫　』

あふむけにことばをひとつ受け入れて点眼液のやうにさびしい　桔梗

夏草に朝の雫が並んでる一つ一つに丸い青空　都草

霧けむる山の雫に魅せられた君が白馬と同化してゆく　木蓮

『　あるある　』

パソコンがCD抱いたまま寝てる　ごめんもっかい起きて、ごめんね　千歳ちと

『　ポケモン　』

じてんしゃで駆けているときふと空の遠くにあがるはかいこうせん　萩野聡

『　おっぱい　』

ふくらみに触れるのならばその奥の鼓動に触れる約束をして　真香

2016年8月2日

『　氷　』

最善の策はあいつのまなざしをアイスピックに用いることだ　ぬむけ

『　靴下　』

靴下を左右そろえて捨てるとき　添い遂げるとはと考えており　森×緑

『　過去　』

現在が過去へと変はる瞬間をかたちに残す蝉のぬけがら　冨樫由美子

『　手裏剣　』

天井にささつたままで錆びてゆく手裏剣に云ふ　おやすみなさい　桔梗

『　パンツ　』

探さないままで良いですこの旅は替えのパンツも持ち出さぬ距離　スコヲブ

2016年8月3日

『　昔の恋人　』

なにひとつ起きないことのさみしさは、あれはしずかなしあわせでした　ぼんやりタマ子

『　痛　』

「ウグイスが歯痛に悩まされるように」サティの楽譜の書きこみ楽し　雨宮　司

ねえきみといたいのいたいのとんできてどんな痛みも受け容れるから　西淳子

『　秒　』

秒針が８から９へ上がれずに「電池かえて！」と地団太を踏む　一佇

2016年8月3日～2016年8月6日

2016年8月3日

『　秒　』

じいちゃんはストッポッチを10秒で止めるのだけは今でもうまい　森下裕隆

『　無職　』

無職ですけっこう食費かかります愛されてます僕は猫です　いずみ　美帆

『　売　』

ハレの日の名残のようなひとびとへ売られ続けるベビーカステラ　大渕マコ

もう何も扱うものが無くなった古道具屋が思い出を売る　加治小雨

2016年8月4日

『　怒　』

夕焼けに怒りを鎮め恐竜のように眠れる解体重機は　吉川みほ

怒りから生まれるものは何もない二匹のサンマ黒焦げになる　天使きらり

『　兆　』

ガジュマルを枯らして気づく 僕達は終わる兆しに鈍感だったね　葉山はな

夕暮れに晩夏の兆し　君を待つあいだに四つの桃を眺める　絢森

『　君　』

フォントとかわからないけど君の字は「段差注意」に似合うと思う　多田なの

『　注　』

注がれたビールの苦味が美味しいと感じた頃に見えた父の背　瀬和璃羽

『　湖　』

みづうみ、と書けば「つ」の字の岸に添ふ点のふたつが僕らでせうね　西村曜

2016年8月5日

『　鼻歌　』

なにげなくかすめ取られる主旋律それはわたしの鼻歌なのに　吉川みほ

『　泥　』

泥沼の恋にはまった友人に「そっかあ」と言いかじるルマンド　三田たたみ

ジグザグの泥は路への置きみやげ仕事を終えた耕運機が行く　一佇

『　ジブリ　』

ぜいたくな名前ですねと言われたい明日十時の面接官に　中牧正太

神様に誓う愛より今ここで僕とバルスを唱えてほしい　加治小雨

『　夜　』

目を瞑り始発列車に揺られてるまだ夜の人もう朝の人　中山とりこ

『　たとえば　』

だからいま泣いておくべき僕たちだ たとえば来世が魚だとして　七緒

なにもかも疑いたくなるときがある たとえば空があおいこととか　mis0no

2016年8月6日

『　様　』

様子などうかがっているうちにすぐ恋の病は手遅れになる　えんどうけいこ

照れているこの様子ではもしかして気付いてないの わたし鶴です　衣未(みみ)

現実の様子がおかしいせいでまた午前三時に目覚めてしまう　Y川

箸を手に取る時まるで神様がいるかのように手を合わせてた　吉川みほ

落ち着かぬ様子できょろきょろしています職務質問にあいたいのです　松木秀

封筒の消された『様』を回収す お疲れさまを労るために　シズハル

人様の男が欲しい蝉時雨止まないのなら空斬ってやる　ハナゾウ

お日様を天誅申し上ぐるべく水鉄砲を斉射しませう　たくあん

2016年8月6日～2016年8月9日

2016年8月6日

『　様　』

ふるさとの時の止まった夏祭り君によく似た顔を見かける　森本泉

『　車　』

逞しき背に抱きつきたい衝動も一緒に乗せて人力車はゆく　ひの夕雅

信号で止まりたくない　荒川の土手をひたすら自転車飛ばす　太田青磁

ナビ付の新車が来る日 12年かぞくを乗せたカローラは去る　nu_ko

人ひとり殺したい夜自転車をこいで嵐の海岸へゆく　ミルトン

カーナビに逆らって「近道」を行く あなたがそうだと言うのならそう　梅

「紳士ね」は褒め言葉ではないのだろうタクシーのドアが閉まる間際の　森下裕隆

『　ギャル　』

あたしたち最強、みたいな音させてギャルのヒールが踏むセンター街　朝倉洋

ギャルになり損ねてわたし一人だけバイトへ向かう土曜日の夜　じゃこ

『　ラジオ　』

それぞれに合わせる夜の周波数ひとりがよくてひとりはつらい　文月郁葉

『　いつか　』

会いましょう「またいつか」って約束が「まあいっか」ってなる日の前に　西村曜

2016年8月7日

『　それから　』

漱石の「それから」がある本棚に引き返せない陽が射している　葉山はな

本棚に仮の秩序をまず作りそれから部屋の掃除にかかる　松木秀

『　ベランダ　』

飛んでってしまいそうだねベランダでシーツをたたむときのあなたは　つん

『　希望　』

前向きに検討された帰りみち短い希望（ショートホープ）が売り切れている　中牧正太

『　楽園　』

水道代しはらへば水に不自由なき此の町は楽園であらうか　富井丈生

僕たちの平和の溝が埋まらない 室温二度差が楽園を分かつ　す太郎ん

『　オチ　』

特段にオチは無いとは言えなくて開けられてゆくマトリョーシカは　西村湯呑

2016年8月8日

『　八　』

八起き目も飛び立つように 切りすぎた前髪のふんかるい体で　七緒

『　蒸　』

ご飯炊く蒸気でシュウマイ蒸すひとが何かのついでで私と暮らす　西村湯呑

『　復讐　』

復讐の第二段階／去りぎわにトイレの紙を三角に折る　かざなぎりん

『　デジタル　』

デジタルに取りこぼされる残響をひろいあつめるビクターの犬　黒井真砂

『　寂　』

補聴器のクラスメイトが僕たちの会話を追えないままに笑った　あかね

2016年8月9日

『　蛾　』

もう君は帰ってこない　三日目も動かない蛾を掃除機で吸う　森下裕隆

2016年8月9日～2016年8月12日

2016年8月9日

『　教室　』

教室の椅子は固くて直角で　飛べないでいる僕らのカタチ　けら

『　寄り道　』

がらんどう今日からひとりわかってる　しなくてもいい寄り道をした　たかはしみさお

『　紙　』

包装紙ぐちゃぐちゃに解く手を見つつ（わたしにもそうするのだろうか）　西村曜

『　長崎　』

お土産のザラメの埋まるカステラに出島のふんだけ心をひらく　朝倉洋

長崎は坂道の町すれちがう日傘を数えゆっくり歩く　永昌

2016年8月10日

『　田舎　』

列車は日に十本だけでその代わり海まで続く空が見えます　文乃

『　サナギ　』

またサナギ　空と私は動かずに鳥と光を感じる時間　さはらや

『　走　』

たたしそれが抑えきれない初恋のときは廊下を走ってもよい　中牧正太

『　ゴジラ　』

エスプレッソが冷めていく喫茶室の脇を礼儀正しくゴジラが通る　すみちゃん

『　花火　』

僕たちが笑いたしたら僕たちの線香花火も笑って落ちた　中山とりこ

口うつしみたい　花火の先かさねあなたがくれた炎はみどり　千林のえ

散りぎわの花火のような五指のあとを窓に残して列車を降りぬ　かざなぎりん

シャンプーの一部始終に目をつむりどおんどおんととおくで花火　しま・しましま

2016年8月11日

『　自由詠　』

やさしさをわけあう人がいないので　ボウルのままで食べるフルーチェ　いち

超軽量折りたたみ傘が飛んで行く　いつもなくしたものばかり好き　吉川みほ

カナカナと誰を呼ぶのかひぐらしは森の秘密を知る声で鳴く　藤 かづえ

店員が訊かずに付けたスプーンは今頃になり私をえぐる　金子りさ

救急車 私の横を過ぎるとき命の音が半音下がる　中山とりこ

電撃の鼻歌泥棒あらはれてドヴォルザークを持ち去つてゆく　有櫛由之

2016年8月12日

『　油　』

天婦羅の油が跳ねてふと思うこんなとこまで来たのだなって　森本泉

『　ちんちん　』

ちんポジが決まらないままケネディーは車に乗った　歴史は動いた　モウカラさん

『　アイス　』

夏を呼ぶ号令がある君たちはガリガリ君の袋を破れ　南瑠夏

ポッピングシャワーを初めて食べた時 世界は５センチ 大きくなった　太刀川美楽

『　しかし　』

しかし晴れ、わたし一人がむずかしく考えすぎているような晴れ　中牧正太

『　時計　』

もう俺は働かないぞ駅前のソーラー時計もたまには休め　中山とりこ

2016年8月12日～2016年8月15日

2016年8月12日

『　時計　』

「会ったことないけど味方」と曾祖父の腕時計する息子受験生　ぽつり
頼むから時計は一人で選びなさいあいつの恋人だった私へ　多田なの
ネクタイを投げ捨てた日のブランチで時計うさぎはバイにされたよ　宮嶋いつく
胸に置くすなの時計を詰まらせる星砂になるのだろう今日は　かざなぎりん
何もかもうまくできないシンデレラ　今頃時計を気にするきみは　きつね
それくらい内蔵(はい)ってるでしょ？ 腕時計うれしいなんて、ロボのくせして　クリタ
腕時計外してきたよあなたとの眩しい今日が終わらぬように　梶原一人

2016年8月13日

『　訳　』

うまい言葉ひとつ浮かばぬ猛暑日に「訳ありの桃」齧ればうまい　泉

『　古本屋　』

背表紙を撫でる少女の手がそっと埋もれた詩人の眠りを覚ます　あかね

『　さらさら　』

そんな気はさらさらないと笑むひとのせせらぎに棲む蟹になりたい　西村湯呑
触れ合って重ね合ってもさらさらのあなたの肌がさみしいのです　葵の助

『　Siri　』

さよならを笑顔で言えた夜でした Hey Siri 明日の天気を教えて　宮本背水

『　枕　』

盆棚を組み立て枕を陽にあてる みんな我が家にかえっておいで　中山とりこ

2016年8月14日

『　タオル　』

連絡がつかない人を想いつつ髪を拭いてるタオルが硬い　冬桜
人肌の代用になるものとしてタオルケットにくるまっている　えんどうけいこ
買いたてのタオルの封を切る昼に誰も知らない孤独が落ちる　葵の助

『　ヒーロー　』

ヒーローが遅れてきても気づかないくらい世界よ平穏であれ　つん

『　ワンピース　』

そのままで君は可愛いワンピース後ろ前でもぜんぜん可愛い　嫉妬林檎

『　ブラジル　』

貧民街(ファヴェーラ)と陸上トラックで鳴り響く各銃声を聞き分けてみよ　梶原一人

『　怖い話　』

もう猫は飼ってないのに雨の日に廊下に残る濡れたあしあと　中山とりこ

2016年8月15日

『　願　』

星空に願うこれから行く場所に昇る朝日もきれいであれと　シュンイチ

『　終　』

臨終の地に選ばれたひまわりもじっと見ている蝉の足裏　一〇〇八

『　戦　』

これを子よ見よこんなにもこんなにも戦う前のオセロはみどり　中牧正太

『　平　』

さびしさの音色のやうに玻璃壜の金平糖をからから鳴らす　桔梗

『　和　』

ニッポンはシルクロードの終着で来るもの味噌と豆腐で和える　宮嶋いつく

2016年8月15日～2016年8月19日

2016年8月15日

『　和　』

神さまが調和について思うとき不幸が私も入れてと叫ぶ　ゆら

2016年8月16日

『　空　』

選ばれないことにも慣れてからっぽのペリエの瓶をきれいにゆすぐ　睡

『　錆　』

手に錆のにおいを憶えさせてきた回旋塔が消えた公園　かざなぎりん

『　草　』

どこまでが雑草なのかを決めてくれ。そのドクダミは抜いていいのか　祐鈴

『　卵　』

手が滑り落とした卵を拭くときに急に命を奪った気がした　小川けいと

かなしみの涙の色して鮭の子は小さなパックで売られていたり　藤 かづえ

『　レンガ　』

絶対にノックしないでこの家は丸いレンガでできてるからね　じゃこ

2016年8月17日

『　途中　』

コンビニがコンビニを産みコンビニを殺す途中の練馬区を行く　chari

『　ペットボトル　』

いろはすのペットボトルよ捨てやすい恋人はよい恋人ですか　西村曜

『　パソコン　』

パーソナルコンピューターと呼ぶ人の窓が次々ひらいて愉快　倉橋千帆

『　はい　』

サビが来てみんな獣になっているそして輝くウルトラソウル　岡本真帆

『　ボーカロイド　』

会いたいと痛いと居たいの僅かな差ボーカロイドに教えておりぬ　深影コトハ

2016年8月18日

『　ごっこ　』

独裁者ごっこであそぶ少年の手に武器としてエーデルワイス　宮本背水

『　ルール　』

オフサイドを教へてくれしテーブルのカシューナッツのそのままの朝　中牧正太

『　気球　』

真っ青な真っ青な空に溶けたいと気球になって飛び立つトマト　のぅてんき

『　無料　』

駐車場二時間無料そのために半年先の石　を買う　永昌

泣き虫が多い国です。本日もティッシュ無料でお渡しします。　たっきー

『　ダサい　』

真夜中に僕を呼ぶなよ愛おしいダサい部屋着と少し赤い目　中山とりこ

2016年8月19日

『　年下　』

シミヘンが年下になる朝が来ていつもと違うたばこを買った　ねむけ

『　崖　』

崖の下幽かにゆれる桃色の花が見たくてツバメになった　小川けいと

崖っぷち、かと思ったら崖っぷり「火サスにもってこいの崖っぷり」　西村湯呑

2016年8月19日～2016年8月22日

2016年8月19日

『　俳句　』

一文字も無駄にさせずに詠む心線香花火を落とさぬように　知己凛

『　本音　』

自転車の後ろに乗ったままで言う　おでこをそっと背中につけて　ネネネ

『　徹夜　』

あかときの工事車両に積まれたる旗を振る手を終えた人形　東風めかり

2016年8月20日

『　たって　』

たって、という言葉は書き損じにも似て　点から滲みはじめるインク　吉川みほ

『　立　』

立秋の日が来るまでに残ってる暑さを使い切ってはどうか　一〇〇八

頭上には僕の創った空がある　脚立に腰かけ食べる弁当　ひの夕雅

『　紐　』

紐のある靴で良かった下向いて直すふりして涙を隠す　non たん

『　腹　』

「きょうだい」という言葉すら知らぬまま母親の腹　命を聴いた　宮本背水

『　坂　』

坂多き町のふもとに自転車を置いてゆっくり大人になった　きい

2016年8月21日

『　ジャスコ　』

母さんはいまだにイオンをジャスコって呼ぶ旧姓で友呼ぶように　葉山はな

『　どうでもいいこと　』

電柱の中の空洞にカスタードクリーム詰める夢ばかり見る　一〇〇八

『　団地　』

幾つものおはなしを抱き縦書きの窓を並べている団地群　皆川 せつ

わかる？ほら、少しかわいく見えるのが十二号棟わたしのところ　那須ジョン

『　ストレート　』

わがままは直せないけどストレートパーマをかけるくらいはできる　えんどうけいこ

『　枝　』

ふたりきりの世界の外でちやくちやくと積み上げてゐる枝豆のさや　桔梗

花束のやうに枝ごと新聞で束ねた枝豆母から届く　希和子

2016年8月22日

『　宝物　』

本屋にてあなたが落としたレシートをひっそり生徒手帳に挟む　城田川夕子

『　仮　』

後悔は仮定法過去完了で　きれいになった君がだれかと　たかた牛道

『　命令　』

おおぞらへあした天気になあれって命令形で繰り出すキック　たくあん

『　腕　』

あつさりと腕引き抜かれマネキンはひとよりはやく秋に近づく　桔梗

『　結句字余り　』

おしまいに気づけなくってまたあたし夏のまんまたミンミンゼミが泣く　中山とりこ

2016年8月23日～2016年8月26日

2016年8月23日

『　暇　』

ひまたから無人の火星探査機をまねて静かに石を拾った　千林のえ

『　地球　』

まっすぐに生きてくことはしんどくて地球も少し斜めで回る　遠木音

『　あれ　』

羽田から伊丹へ向かう　母の言う「あれの炊いたん」想像しつつ　白烏

『　簡単　』

だれとでもおしゃべりできたあのころのわり算はぜんぶ割りきれていた　七緒

『　泡　』

号泣の前触れ姉が黙々と泡立てている積乱雲を　葉山はな

2016年8月24日

『　たられば　』

たられば で盛り上がったあと　みしめるハズレアイスの棒は木の味　404notF0816

『　黙　』

沈黙のミルクにひたるケロッグが徐々に硬さを失っていく　nu_ko

指先をむらさきに染め女ふたり黙って葡萄を食む昼下がり　きい

『　ダメ　』

ダメたった場合ばかりを考えていたからガッツポーズが変だ　塾カレー

『　煙草　』

天才じゃなかったぼくら火をつけた煙草を海にすてる真夜中　ミルトン

『　お前　』

賑やかな次男夫婦が帰省して「お前」が「ばあば」になる夏休み　きつね

2016年8月25日

『　ピアス　』

ふさがってしまった穴が君からの吐息で疼く（また好きになる）　さはらや

九つのピアスがささっている人もにんげんでした体温でした　多田なの

大人たしあなたの不幸を願わない　橋の上からピアスを投げる　井田直

自らを削ると満たすの境い目で囁くように銀のピアスは　風野瑞人

『　台風　』

台風の目の中に入る真ん丸な舞台でバレエが始まる予感　す太郎ん

重たげに紫こぼす萩の枝を吹き上げおろし野分過ぎ行く　多香子

『　トマト　』

駐車しておいた車のてっぺんにトマトがひとつのせられていた　ミルトン

『　はさみ　』

一日をよかったことにする儀式　鼻毛鋏の先はやさしい　中牧正太

『　区　』

区外でも冒険だった頃のこと思い出しつつ自転車を漕ぐ　スコヲブ

窓も戸もぜんぶ閉めよう　ひとりきり眠ろう今日はわたし・保護区で　七緒

2016年8月26日

『　開　』

トラックの後ろが開くその中へ遊園地とかが仕舞われてゆく　さはらや

2016年8月26日～2016年8月29日

2016年8月26日

『　泳　』

都会には都会の泳ぎ方があり歩いて上るエスカレーター　太田宣子

『　化粧　』

化粧して綺麗だったと思わせてさよならをする 風はもう秋　泉

七人の敵がいるらし いざ行かん今朝もいちごの紅をまといて　木蓮

『　誤解　』

始まりも終わりも誤解だったけど過ごした日々は真実だった　真香

終電を逃して君と二人きり誤解を招きそうな満月　きつね

象が踏んでも壊れない筆箱を壊したぼくは象より強い　塾カレー

「誤解です」けれどあきらめかけているエレベーターのきよらかな声　中牧正太

『　挽歌　』

旧友の訃報が届くそうやって突然メールする奴だった　スコヲブ

2016年8月27日

『　トンネル　』

マカロニのトンネル抜けた向こう岸ミネストローネの海さんざめく　404notF0816

『　脱　』

サンダルの脱ぎつばなしのかたちとか昨日を複製したやうな今日　太田宣子

『　しわ　』

長椅子に皺くちゃのまま置き去りの番号票が今呼ばれおり　きい

『　螢　』

あんなにも蛍は光り人間は声を持つのに好きと言えない　葉山はな

『　初恋　』

旧姓で呼べば一瞬間をおいて微笑んでいる初恋のひと　永昌

2016年8月28日

『　蝉　』

永遠に暮れないやうな黄昏にかなかなのこゑ閉ぢこめられて　冨樫由美子

『　新聞　』

和箪笥の中 昭和50年9月18日がそのままにあり　ひの夕雅

『　矢　』

正しさにきっと勝てないぼくたちが矢印どおり歩くダリ展　中牧正太

『　妙　』

白妙のガーゼに抱かれ吾子ひとり命に慣れず保育器にあり　須磨蛍

『　デザート　』

今日もまた選ばれている割引の赤いシールが付いたケーキに　金子りさ

ひと掬ひひと掬ひしてゆつくりとジェラート失くしたのちの夕暮れ　萩野聡

大人なら躊躇うべきのものなのだ寿司と一緒に回るケーキは　葵の助

飾り気の無いひとでしたよく焼けた右手が掬ふ こぼりくろみつ　東風めかり

2016年8月29日

『　商店街　』

振り返るこんな短いふるさとの商店街の終わりに着いて　照屋沙流堂

また暮らすことのできない僕たちがくぐるアーケードのひとつ屋根　ナタカ

『　唇　』

嘘をつくそんな予感がする日には濃いめの赤を唇に塗る　遠木音

2016年8月29日～2016年9月1日

2016年8月29日

『　穴　』

鍵穴の立てる呼吸の音さえも聞こえるような孤独な夜だ　森下裕隆

苗床にゆっくり小指刺したとき今も未来と呼べる気がした　いとゆん

『　天気予報　』

ウェディングドレス姿で駆けぬけるキツネが天気予報無視して　久哲

『　森　』

帰れなくなることほのかに期待して光らぬ石を落として歩く　天田銀河

くまさんが拾った白い貝殻のイヤリングそれははじめての海　亜梨

2016年8月30日

『　テーマパーク　』

更新をしてないカーナビには今もエキスポランドがあの日のままで　遠木音

夏休み最後の明日乗りに行くコーヒーカップはたぶん空っぽ　さはらや

夢見たい年頃はもう過ぎたのでイクスピアリでいいやと思う　三田たたみ

『　バズル　』

千個目のピースをはめて百歳の祖母のバズルの富士立ち上がる　天使きらり

『　さん　』

ゆるしたくなってしまうとわかるから黒やぎさんは食べたのだろう　中牧正太

『　壊　』

やわらかな蔦の若葉がおずおずと壊れた自転車覆いはじめる　小川けいと

『　充電　』

ちょっとだけいなくなりたい バッテリー4%を見ないふりする　七緒

2016年8月31日

『　素人　』

真夜中のアマチュア無線通信の「ココニイマス」は壊れていった　吉川みほ

『　蛇口　』

一晩じゅう砂山を掘る夢のなか錆びた蛇口を見つけたりする　松岡拓司

『　ビール　』

うれしくて飲みすぎたのか俺よりもゆるんだ顔のラベルの麒麟　サリーB

『　知　』

ふかくふかく眠るあなたの知恵熱を羽ばたくための支度と思ふ　桔梗

わたしだけ昔のことを知っている空き地にセブンイレブンが来る　多田なの

花ことばを知らないきみと花の色しらぬわたしを揺らす鞦韆（ふらここ）　かざなぎりん

『　宿題　』

絵日記に色がなくなるのにつれてあざやかになるぼくの夏休み　西村曜

2016年9月1日

『　かも　』

注がれた麦茶がやけに光るのでお前は海で育ったのかも　金子りさ

運命の出会いがあるかもしれないし 曲がり角には期待している　ツナマヨ

『　悲　』

泣き声に驚いたのか突然にぼくを残してゆくぼくの影　スローラーナー

『　調　』

あの人が残していった調味料 空けずに捨てた第3火曜　鳴瀬 諒

2016年9月1日～2016年9月4日

2016年9月1日

『　少年　』

少年が坊主頭になるような傷ましいほど明るい朝た　希和子

なにもかも調子はづれになる夏の少年といふ性のかなしゑ　桔梗

『　性　』

花柄を着ないあの子のTシャツで笑う髑髏も女性と思う　スコヲプ

ぞんふんに傷ついてゆけ感受性わたしの心はわたしのものよ　七緒

2016年9月2日

『　駄菓子屋　』

新築の我が家がストリートビューでまだ駄菓子屋である罪悪感　たっきー

『　休　』

ひとやすみしている星に聞いている金星に居た蝶のことなど　つん

『　印　』

もう何のしるしだったかわからない花びらみたいな付箋をはがす　しま・しましま

『　どうせ　』

どうせまたひとりぼっちになるんだし涼しい夜がほんとは好きだ　ネネネ

『　パジャマ　』

ささやかな反逆として休日はパジャマを脱がないままの昼食　七緒

2016年9月3日

『　東　』

東から何も知らない朝がきて何かを知って夕焼けになる　杏野カヨ

『　百　』

友だちが少ないわけを考える百人乗れる物置の前　中牧正太

ものすごく偉くなったと思ってた初めて百まで数えられた日　ぽつり

『　ポケット　』

ポケットで繋いだ手から火がついたいろいろあった吾子が産まれた　non たん

『　月　』

リンスインシャンプーを手に受けるとき溢れるように光る月面　金子りさ

十五夜におたんこだけではさみしいとアポロをそっと取り出したきみ　東風めかり

『　闇　』

壮年のをとこの闇の深ければこころの中に飼ふ青葉木菟（あをばづく）　塾カレー

2016年9月4日

『　跡　』

いつの間にこんなに白くなったのか　指輪のあった場所をみつめる　404notF0816

『　きのこ　』

(こんなにも誰かと寄り添えるだろうか)マッシュルームをワンパック買う　森下裕隆

『　切　』

おそるおそる誰かのジョークに微笑んで口の端また切ってしまうよ　しま・しましま

『　半島　』

もみあげがイタリアならば北上しブラハあたりがかゆい場所です　nu_ko

『　誘　』

夕飯の誘いもすべて断って今日は地球を守りに行く日　Y川

2016年9月5日～2016年9月8日

2016年9月5日

『　リズム　』
　リズムにも輪廻にも飽きた雨粒がしばしの間、水玉になる　杏野カヨ

『　国語　』
　選択肢の三つ以外の解答がふわふわ舞い散る国語のテスト　文乃

『　趣味　』
　あんた趣味悪すぎるやろと笑ってるおまえのスネのかさぶたが好き　りつ

『　パールのようなもの　』
　ごめんなさいワインの栓をあけるのにパールのようなものしかなくて　nu_ko

『　微　』
　微調整し続ける日々ひとつずつ君がほほえむものをおぼえて　睡

2016年9月6日

『　うん　』
　アスファルトのまなかを歩みうんうんと何を頷く長月の鳩　404notF0816

『　フォーク　』
　ナイフなら切りつけたいしフォークならあなたの長い髪を巻きたい　西村曜

『　台　』
　物言わぬおひとり様の休日は卜書きばかりで埋まる台本　月花

『　旅　』
　旅をして変わったという友人がじんわりいつも通りのひとに　那須ジョン

『　あの　』
　いつも同じバスですねって言えなくてあの子はずっとあの子のままだ　中山とりこ

2016年9月7日

『　紙飛行機　』
　折り鶴に祈りはまかせ僕たちは本当に空を飛ぶことにした　久哲

『　葡萄　』
　野葡萄の不揃ひのいろ　つじつまの合はない夢にしあはせたつた　太田宣子

『　束縛　』
　素麺に巻きつけられていた紙を普通の紙に戻してあげた　金子りさ

『　ピアノ　』
　ゴミ置き場おもちゃのピアノ雨に濡れポロンポロンと最後のワルツ　いずみ　美帆

『　口笛　』
　ただ秋の風が通っていくだけのひとつの音も出ないくちびる　ナタカ

2016年9月8日

『　踏切　』
　かなしみの程度によるが踏切はある一定の治癒力がある　ねむけ

『　重　』
　八宝菜のうずらの卵逃げやすく重たい話を待たせてしまう　しま・しましま

『　考　』
　人類が考えるのを辞めたときここは平和な葦の草原　日

『　老　』
　老猫を膝に乗せれば父親は猫よりはやく微睡みのなか　永昌

2016年9月8日～2016年9月11日

2016年9月8日

『　老　』

重箱の小さな社会にあらがって背筋を伸ばすヤンキーの海老　矢波多恵

『　アパート　』

隣人が居つかぬ部屋で独り占めしている世の果てのような夕日　深影コトハ
最後の日も踏み外さずに下りました君のアパートの急な階段　多田なの
アパートの上階にひとり住むひとの足わるきことのほかは知らない　か太郎す
アパートのひと坪ちょっとのベランダの陽射しの下のたらいの人魚　真香
お隣はパラレルワールド　そっくりの部屋に生きてるどこかのわたし　亜梨
引っ越すと決めた夜から玄関と猫は概ね立て付けが良い　須磨蛍
トラックが出ればがらんと広い部屋床も涙も拭くすみれ荘　藤 かづえ

2016年9月9日

『　九月　』

小(ち)さき虫の最後の九月閉じ込めて永久の夕焼け色の琥珀(アンバー)　黒井真砂

『　鉛筆　』

小刀で怖い程 芯 尖らせて ほろほろ削る涙のかたち　けら
(血じゃないさ)口に含めばぬったりと赤鉛筆の芯のやわさよ　かざなぎりん
丸まった鉛筆の先優しくて百合に鹿の子の模様を描く　薄荷。
きんいろの色鉛筆は黄色だしケーキの上には缶詰みかん　一〇〇八

『　躊躇　』

猫のする ためらいながらの甘噛みを 真似たつもりのくちづけでした　えたまめ
男らはためらいがちに追従す たとえば林檎食むアダムとか　たかた牛道

『　独身　』

独り身を咎めぬ父より寄越された桃一箱よいつまで香る　羽島かよ子

『　完璧　』

立ちどまることなく終える一日に信号は青 息がくるしい　七緒

2016年9月10日

『　自由泳　』

クロールで泳ぎ始めたはずなのに犬かきしていた僕の人生　さはらや
起きるたび同じ言葉を繰り返すアンドロイドに手向ける弔花　終栗夢
落ちていくものがなにかも分からずに泣いたわたしはばかものだった　ネネネ
あのときの鶴ですみたいな顔をして片方のくつ下が出てきた　矢波多恵
アンテナが十字架めいて見える屋根告白したい後悔がある　柊
きみにはね冒険心がないんだと言われ瓶入りマヨネーズを買う　小川けいと
せめて自分だけでも愛してあげたくて追焚きに追焚きを重ねる　堀口万理奈
生きてゐる　たましひたちが一房のふたうのやうにひしめきあつて　桔梗

2016年9月11日

『　心　』

心に棲む生き物をひとつ描きなさい、かわいさとかはなくていいです　照屋沙流堂

『　もっと　』

どうすればもっとまあるくなれますか　ディア・まみむめも　フロム・かきくけこ　つづら

『　ヨーロッパ　』

英国よユーロコインの真ん中の直径五㎜の穴になるのか　non たん

『「」(かぎかっこ)　』

真夜中の一人暮らしのこの部屋で埃が積もっている鍵括弧　きつね

2016年9月11日～2016年9月14日

2016年9月11日

『　余韻　』

子供らをひとりひとりと飛び立たせ余韻のごときふらんこの揺れ　しま・しましま

2016年9月12日

『　洗濯　』

「善と悪を遠心分離しちゃうからお札はすこし縮んじゃうのよ」　照屋沙流堂

趣味は何？洗濯ですって答えても私を好きでいてくれますか　木蓮

襟袖を洗ってからた　洗濯機は万能じゃない愛がいるんだ　冬桜

見つけたよあなたのズボンのポッケからプラスチックのかわいい指輪　今村風子

『　喉　』

喉仏にはじめて触れた中一の秋よりむごい季節などない　シュンイチ

『　針　』

午前零時ためらふやうに揺れてゐる烏のかたちの針金細工　桔梗

『　駄洒落　』

秋に咲く紫陽花もある　ぼくたちは(するの？)(しようか)(恋を？)紫陽花(しようか)　かざなぎりん

まりちゃんの名で生を受け小田・水田・肥田くんとは恋しない、絶対　深影コトハ

鶏肉が取りにくいなあ酒席でも仕事の話ばかりしていて　スコヲブ

駄洒落言うたびに言葉は重くなり父はブラックホールになった　北大路京介

『　0時　』

トーキョーの午前0時を提灯で百鬼夜行はおぼろに進む　キョースケ

新宿は光にみちてもうすぐで午前0時が転覆しそう　たくあん

2016年9月13日

『　溝　』

心にもレコードのような溝があるきっと悲しいメロディが鳴る　遠木音

『　姿　』

なんとなく姿勢が悪いと思ったら烏になる途中だったのですね　杏野カヨ

『　へ　』

「へ」の文字はおもいの重さに傾いてそこから一字も書けない手紙　西村曜

『　10年前　』

あのひとが教えていった「マイアヒ」の一節だけを唄いだす烏　東風めかり

2016年9月14日

『　倍　』

何を掛けても0だったわたくしにあなたがマルと呼び掛けた春　西村湯呑

四倍も長く生きてるのに何度やっても姪に勝てないオセロ　えんどうけいこ

『　助　』

雪の日に助けられたら恩返しできるくらいの翼がほしい　雪間さとこ

『　自慰　』

果てしのちなんてしづかな四畳半らつこのやうにわれはたゆたふ　塾カレー

『　J-POP　』

サイリウム数万本も震わせてひとりぼっちを歌わないでよ　深影コトハ

どこにでもある歌が好きな人でした私ありふれているべきでした　七緒

「守りたい」「泣かせたくない」「愛したい」どんくさいねん若い子の歌詞　祐鈴

2016年9月15日～2016年9月19日

2016年9月15日

『　隣　』

お隣の詩情に口は挟まないもうすぐ柿が落ちそうだけど　朝倉洋

『　高　』

空高し現場作業のクレーンにうふなキリンは恋をしている　nu_ko

『　同　』

ひとみしり同士が語りたす夕べ　月はひかりで僕はギターで　ルナク

『　霧　』

霧の中にいるのはきっと白いゾウ　やさしいウソは見ないですます　か太郎す

2016年9月16日

『　憲法第900条で定めたいこと　』

ここまでの899条を無効にします（自由に生きろ）　中山とりこ

2016年9月17日

『　優　』

恋を知りアンパンマンは誰にでも優しくなんてできなくなった　UrbanBlues

『　脈　』

うつくしいレースを編んでゐるやうに毛虫が残す柿の葉脈　桔梗

『　缶　』

この夏もひとりで生きてツナ缶の亡骸ばかり積み重なった　西村曜

「くたばってしまえ」と蹴った空き缶が人に当たらずほっとしている　chari

『　栗　』

へたくそでいやになります甘栗の皮をむくのも甘えることも　りりー

ごめんねの代わりにくれた甘栗の赤い袋をかかえて帰る　サリーB

2016年9月18日

『　ノー　』

秋色の鎖かたびら買いに来てくノ一姉妹の着替えは早し　こりけケリ子

『　決　』

このあとはエンドロールであることを雨がぽろぽろ決めつけている　中牧正太

『　パン　』

パンの耳にそっとささやく「バカヤロウ」あなたに少しやさしくなる朝　か太郎す

『　比喩　』

芯のなきホチキスぎゅっと押すように日暮れまで居た待ち合わせ場所　一佇

2016年9月19日

『　ハイヒール　』

側溝の蓋にヒールがはさまって私らしさは身動きできず　日

『　曇　』

くもりの日は多めに笑うあのひとの（できれば不要な）傘でありたい　西村湯呑

『　～　』

煌々と缶コーヒーは売られおり「かえりた～い」を飲み込むための　中牧正太

『　午後　』

脱皮する途中でなにかを失って午後の私はすこしちいさい　nu_ko

2016年9月20日～2016年9月23日

2016年9月20日

『　腐　』

時々は正しい人になるために豆腐をことさら賽の目に切る　吉川みほ

『　命　』

特命を帯びたのたろうケーキ屋を出てきたあの子の摺り足具合　ひの夕雅

『　狂　』

城内の時計がみんな狂っててガラスの靴を置いていけない　久哲

『　寝　』

寝違えた木曜日からあなたとはまだちぐはぐのままの気がして　七緒

2016年9月21日

『　核　』

核心に触れることなくたたふたり理由ありトマトを分けあって食う　西村湯呑

『　欠　』

見送りの余韻のままに摘まみおり葡萄の欠けたる形に気付く　きい

また爪が欠けたよ夜中に歯も痛いもしもし世界に誰かいますか　ハナゾウ

『　手　』

こんなにも勝ちたい恋だ道ばたの軍手にチョキを出したりもする　中牧正太

『　菊　』

ありふれた今日の終わりに見る花は刺身の皿の一輪の菊　静ジャック

2016年9月22日

『　魔法　』

秋分の日を知りたるか彼岸花 魔法のように揃いて赤く　遠木音

『　しっぽ　』

意味のあるものがすべてじゃないと言いロボットにしっぽをつけた科学者　瀬戸さやか

たい焼きをしっぽから食べようとしてまたきみが好きだと気づく秋　秋軸ざきこ。

三毛猫のしっぽの先のたおやかに人智をこえた方角を指す　たくあん

秋の日のなだれ込んでくカーテンにしっぽの影のくっきりと青　しま・しましま

『　映画　』

間違ってなかったエンドロールまで見ていく人を好きになれてた　冬桜

『　喧嘩　』

喧嘩してひとりで帰る街灯はひとつひとつの間がながい　か太郎す

2016年9月23日

『　かわいい　』

夕花野わたしの弱さをかはいいといふひとをまた愛してしまふ　太田宣子

『　屋上　』

母さんにいちばん近い屋上で苦手な微糖コーヒーを飲む　ツナマヨ

屋上に古びて眠るにせもののパンダに乗つて出かけませんか　桔梗

『　芸術　』

ワッフルとフランクフルトに挟まれて芸大祭で売られている絵　サリーB

『　自分　』

どこまでがわたくしですか　手のひらに埋まったままの6Bの芯　七緒

2016年9月24日～2016年9月27日

2016年9月24日

『　丘　』

ゴルゴダの絵を飾りたる居酒屋のトイレでそっと懺悔してゐる　宮本背水

『　逆転　』

逆転のできぬ二人の人生で同じところにある虫さされ　冬桜

『　馬　』

キリストに小屋と飼い葉桶を貸した名もなき馬のやさしい瞳　白鳥

『　嫌　』

男子らの囃す声から逃げ来れば嫌というほど曼珠沙華咲く　西村曜

2016年9月25日

『　彼　』

会いたさのあまりに彼はそこいらの亀をのこらず助け続けた　久哲

『　ひきこもり　』

真夜中に雪ふりはじめひきこもる兄がしずかに外へ出てゆく　ミルトン

『　東京タワー　』

久々の会話も途切れがちになり東京タワーがこんなに低い　大葉れい

『　以上　』

これ以上お茶に溶けないさびしさをカップの底にざらざら残し　桔梗

今日以上明日未満の深夜２時 ため息だって吸い込まれていく　ゆきやなぎなぎ子

なめらかに雨中を泳ぎゆく背中あなた以上の人魚を知らない　七緒

2016年9月26日

『　勝　』

勝ち馬が通り過ぎてくこの道で花を育てて暮らしています　西村湯呑

古き良き少年漫画に教わった友情、努力、勝利、おっぱい　三田たたみ

『　カタカナ　』

くりさがりするさびしさの際(きわ)に立ち「さよなら」が今カタカナになる　高松紗都子

『　鬱　』

あてはまる事が多くてなんとなく安心もする鬱病チェック　ハナゾウ

『　魂　』

たましひの抜ける速さを思ひをり白濁しつつある鯖の目に　塾カレー

魂のように握りしめていて子どもの出したおかねあたたか　ナタカ

2016年9月27日

『　幅　』

背の高いあのひととは別れたのだらう姉の歩幅はちひさくなりぬ　森下裕隆

幅跳びのフォームを確かめあいながら３センチずつ伸びていく影　シュンイチ

『　偉　』

正しくは生きられなくて教科書の偉人の顔に落書きをする　三田たたみ

『　傘　』

さよならときみも泣くのか親しんだ傘の穴からこぼれる雫　小川けいと

『　信　』

ポケモンを一緒に探した友人が信仰心から豚を食べない　希和子

2016年9月28日～2016年10月1日

2016年9月28日

『　銃　』

銃身のごとき人差し指冷えて夕日を撃てば夕日の落ちる　太田宣子

『　噛　』

好きだけどもう逢えないという言葉あなたの謎を咀嚼している　花代

『　短　』

少しだけ君を忘れていたいから深夜にひらく短編小説　ロコン

『　守　』

すぐそこに来ているみたい留守電の奥に聞こえたやさしい雨が　金子りさ

2016年9月29日

『　さあ　』

誰ひとり口を開かぬ食卓の横でさあさあ降り積もる塩　一〇〇八

『　ドア　』

さよならの余力でドアをひらいたが、最寄り駅まできっともたない　ねむけ

『　元気　』

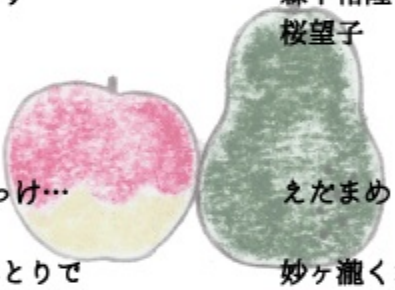
２回目の冬が近いね元気かな（元気じゃないといいなごめんね）　秋軸ざきこ。

『　四字熟語　』

大器晩成と言い訳した夜に麻婆豆腐を大きな皿で　スコヲプ

こんばんは疑心暗鬼のアンです。と深夜小鬼が呼び鈴を押す　森下裕隆

個性ってなに孤立することですか冬夏青青寂しい松木　桜望子



2016年9月30日

『　悩　』

梨をむく手を止めてふと考える　こんなに誰が食べるんだっけ…　えたまめ

『　咳　』

ドトールは咳をするのに好ひところ煙ふりくさくて誰もひとりで　妙ヶ瀧くおん

『　毎日　』

おもいでの代謝が悪くなっていて毎日おなじ夢ばかりみる　nu_ko

「毎日」が辛い響きを帯びたので「あいいい」と呼ぶ　つらいあいいい　那須ジョン

『　羽　』

やさしさの形であった赤い羽根ぬれた歩道に張り付いている　真香

2016年10月1日

『　何　』

何も無い、と云うたびすこし歳を経る気がして今日も我に降る雨　睡

『　あくび　』

ささやかな君の欠伸で始まった　ピタゴラスイッチみたいな恋が　金子りさ

うつくしい人にうつされうつくしいあくびするやう開く睡蓮　太田宣子

『　ラッキー　』

毎日がラッキーチャンス宝くじ売り場の人が見つめる虚空　日

あかあかと〈ＬＵＣＫＹ　ＤＡＹ〉と書いてある　わたしはＴシャツで嘘をつく　中牧正太

『　傷　』

秋たった　忘れたはずの傷口に金木犀がしみこんでくる　大葉れい

傷ついた梨の切り口うるはしくどの来し方もわたくしである　黒井真砂

2016年10月1日～2016年10月5日

2016年10月1日

『　傷　』

気付けよと言ったのね多分私にはもっと傷付けよって聞こえた　深影コトハ

2016年10月2日

『　おばちゃん　』

ブロークンイングリッシュでおばちゃんが観光客をさばくうどん屋　吉川みほ

このままじゃおばちゃんじゃなくおじちゃんになりそうなので口紅をひく　いずみ　美帆

おばちゃんの愛はティッシュの上にある少し潰れたもみじ饅頭　ハナゾウ

『　揺　』

動揺を隠せないでいる僕の代わりに汗をかくアイスティー　404notF0816

『　風邪　』

天井を見つめてひとりトローチが最後に割れるときがさみしい　大葉れい

『　99　』

幸せにいつも足りないこの町の99万ドルの夜景だ　七緒

赤色を盗られたままの百色で描くあなたに優しい世界　深影コトハ

2016年10月3日

『　減　』

増やしたいものは増えない減らしたいものは減らない今日も曇天　ぽつり

『　たけ　』

たけとまったく会わないわけにもいかなくて湯豆腐みたいにかすかな会釈　しま・しましま

『　遠　』

拾ったりできないように出来るだけ遠いところへ匙を投げたい　きつね

『　どや顔　』

その顔がすきだ　かんぺきなオムレツを見せに寝室までくるあなた　七緒

2016年10月4日

『　流　』

食堂で誰も寂しくないように流されている二時間ドラマ　冬桜

『　体　』

あ　ためた　この永眠は嘘じゃない明朝体で書いてあるから　中牧正太

『　幻　』

幻のクリームパンが増えすぎて普通のクリームパンが幻　終栗夢

『　楓　』

山が閉じ町も移りてひっそりと楓の駅は地図から消えた　瀬和璃羽

泣くときに頬が紅潮してしまう佐藤楓の涙はあまい　西淳子

2016年10月5日

『　帰　』

本日も帰宅ラッシュにもまれたしちゃんと人間だったと思う　皆川 せつ

『　蝶　』

舞い込んだ蝶には知らぬふりをしてきみは静かにカードを配る　サリーB

『　略　』

ラーメンのふたを抑えた「お葬式攻略本」は人肌である　たっきー

『　動　』

石庭の不動の船の機関士がかたつむりなら導かれたい　ゆかり

2016年10月6日～2016年10月9日

2016年10月6日

『　叫　』

意味をよく知りもしないで愛のこと叫ぼうとしてむせてしまった　皆川 せつ

囁きが叫びを消し去ることもある　ひとはたやすくひとりになれる　吉川みほ

『　畑　』

東京へ行ってみないか畑から逃げ出してきた案山子、あんたも　雀來豆

『　暗　』

暗がりに目が慣れるまでの道しるべ 金木犀の香りは濃くて　音叉

町中を流れる暗渠　まだためと言っても夜は進んでしまう　睡

丸椅子がひとつだけ用意されている夜の自販機コーナー　座る　森下裕隆

『　理想　』

理想って意外と地味な服を着ていつもにこにこしているらしい　静ジャック

ユートピア、ユートピアってぼくたちはピアノのうえをゆっくりあるく　西淳子

2016年10月7日

『　罠　』

あああれは罠だったのかとふと気づく 三十年もたった今頃　ぽつり

『　光　』

宙に浮くほこり見て知る太陽の光が部屋に満ちていること　終栗夢

『　包丁　』

包丁をふたつ両手に持ってみた何もできない私になった　中牧正太

『　香水　』

おおかたの予想通りに香水があまり減らないままの六年　小宮子々

2016年10月8日

『　読　』

読書灯の仄かな気配を感じつつナルニア国の森に分け入る　さはらや

『　置　』

本物はもう飼えないという祖母が瞳を預ける犬の置物　深影コトハ

位置につき用意もしたが始まらず夜も更けたのでおやすみなさい　一〇〇八

レイアップシュートみたいに悲しみはそっと遠くに置いてきました　矢波多恵

『　東京　』

東京に溶けた同級生の事ビルを見るたび思い出します　下弦

憧れや夢がどっさり入ってる東京ばななを咀嚼する夜　淡海わこ

東京の人だと知ると婆ちゃんの背筋が伸びて急に早口　可奈美

輪郭のない生き物か東京は自由自在に膨らんでゆく　天使きらり

『　バス　』

たったいま思い出したと言うようにバスが三台連なって来る　スコヲブ

2016年10月9日

『　滝　』

すき焼きの白滝ばかり食つてゐるおとうとよ、生きたいやうにいけ　西村曜

『　振　』

助手席できみは静かに首を振る 湾岸線に連なるひかり　樫本らむ

2016年10月9日～2016年10月14日

2016年10月9日

『　ドジ　』

口の端のクリームまでは計算でした前歯のパセリは忘れてください　深影コトハ

2016年10月10日

『　自由詠　』

また生きてほしい老猫かきいたき言問橋(こととひ)まで月を見に行く　睡

すれちがう車すべてに名をつけてきみは早くも母のまなざし　七緒

真夜中の真ん真ん中におっこちた味付け海苔を踏まずに眠れ　一〇〇八

作らない けどメロンパンの作り方いいねに追加して会いに行く　蝶番

玉入れの玉早々になくなった僕らの空はすこし明るい　梶原一人

2016年10月11日

『　納豆　』

納豆をかきまわしつつ粘り気を増しゆく今朝の子の口ごたえ　一佇

『　裸　』

雨の夜裸眼に街はきらめいて鳴らない電話を隣席に置く　睡

『　チャンス　』

いくつもの消えたチャンスをゆっくりとループシュートは弔うように　東風めかり

2016年10月12日

『　おでこ　』

幸せた幸せたっていいながら触角のないおでこをつけあう　きつね

『　関係　』

青春はフィクションであり実在の渡り廊下と関係がない　中牧正太

『　ベッド　』

ああどうりで二段ベッドの二段めのさみしさをきみ、知らないでしょう　七緒

『　燃　』

ありがたう　自分勝手なひとびとの願ひを抱いて燃えつきる星　桔梗

烏影は赤光に入(い)る　両翼を燃やし尽くして激しく日暮れ　潤

どっちに付けば正解だろうこまごまと不燃可燃を分別しつつ　しま・しましま

2016年10月13日

『　落葉　』

落ちてくる葉を受けとめてこれが赤、赤という色　友の命日　宮本背水

『　ぎりぎり　』

正常のぎりぎりにいる僕にまた容疑者という名はついてない　可奈美

『　浮　』

乗客は助かったのかまっしろな紙飛行機が浮いている池　ミルトン

『　交差点　』

漏れてくる隣の車の歌がまたサビじゃないのに青に変わった　祐鈴

2016年10月14日

『　太陽　』

クールビズ終わりを告げる秋の日に太陽の色のネクタイ選ぶ　シュンイチ

太陽を直接見てはいけません愛する人の肩越しに見ましょう　今村風子

2016年10月14日～2016年10月17日

2016年10月14日

『　端　』

秋霖の傘をはみ出すつま先が蹴り上げている雨の切れ端　しま・しましま

『　折　』

夕暮れの右折レーンのうしろ寄りわたしは何に間に合いますか　中牧正太

『　ください　』

有能な部下をください 俺よりも少し仕事ができないやつを　UrbanBlues

「あとふつか待ってください」微笑んで浮かぶ十三夜の月 優し　遠木音

僕たちはさみしい森を含むので歩きタバコはご遠慮ください　金子りさ

雪虫が少し飛びはじめてさみしい　みたいな嘘をついてください　泳二

2016年10月15日

『　鋭　』

鋭さに定評があるあの人の内角の和は１８０度　三田たたみ

『　梨　』

東京に帰ってしまうあのひとに梨を渡すだけのいくじなし　西村湯呑

『　世界一　』

世界一お綺麗ですわと10人目の新婦を送る大安の午後　深影コトハ

午前２時 伏せた茶わんと絵手紙の「せかいでいちばん ばばがだいすき」　わたぬきそら

『　栞　』

動くのをやめた私は要らんかね本に挟めば栞にもなる　中牧正太

ときどきは道草しよう生きる限り栞はつづきを読むためにある　七緒

おごそかに栞を挟む手があった今日が明日になる瞬間に　小宮子々

君がさした栞はずっと動かないどうやら誰も死なないようだ　しま・しましま

2016年10月16日

『　黄昏　』

黄昏がブルーに見える町にいてブルーの意味を考えている　薄荷。

『　黒糖　』

黒糖を溶かしたように夜は来て小さな神社に五匹目の猫　希和子

『　紅葉　』

「寂しい」は落ちた紅葉（もみじ）の色をしてゆっくりゆっくり積もるのだろう　木蓮

ワイパーにつかまっているもみじ葉がずっと手を振る ずっとさよなら　一〇〇八

つべたいと差し出すお手々はもみじ葉のようだ手袋編んであげるね　淡海わこ

『　茶髪　』

どうにでもなれるわたしだ似合わない茶髪を高く、高く結んで　七緒

2016年10月17日

『　散歩　』

またここに来れますようにとパン屑を置きつつ歩く あなたの夢に　高槻杏

『　残　』

少年のごちそうさまの声を聞きグリンピースはしわを寄せてる　瀬多えてる

なにひとつ残せない日の夕方にいいわけみたいに煮込むすね肉　小川けいと

鉛筆をひとひら削げばひとひらにヒマラヤ杉の匂ひたつ真夜　たかだ牛道

『　エロ　』

エロ過ぎる女上司に始末書を出してめちゃくちゃ始末されたい　宇野なずき

2016年10月17日～2016年10月21日

2016年10月17日

『　答　』

「はい」というきみの答えを聞いたのは初めてなので怯えています　サリーB

2016年10月18日

『　墓　』

べしゃんこの虫の墓とし古本は思想や夢も綴じ込めている　淡海わこ

『　足　』

日たまりに濡れてゐるそのくるぶしの中身は貝殻たらう、ほんとは　西村曜

『　外　』

ほろほろと骨から肉を外しゆくふたりの夕餉　明日判を押す　黒井真砂

『　離　』

一つずつ持って帰るとしましょうかあなたは「はなれ」私は「ばなれ」　中牧正太

2016年10月19日

『　失　』

ゆっくりとスキーリフトに運ばれて世界が消失してゆく、しろく　吉川みほ

『　実　』

作業着のポケットにあるどんぐりを洗濯機前で取り出している　えたまめ

『　田中　』

「田中はさ、四角が六個もあるじゃん？」と言われてたからなんたと笑う　ひー

学ランに下駄履きアンドロイドなる彼を追いつつ学生のまま　宮木水葉

『　石　』

石鹸に彫られた牛がすこしづつなめらかになるさまが生活　西村曜

2016年10月20日

『　揉む　』

わたくしも塩で揉んたらしんなりと扱いやすくなるのでしょうか　いずみ　美帆

『　虎　』

初恋をつらぬくように腰痛の母はタイガーバームを信じる　中牧正太

いや別に怒ってないが　き回わす正油とたまごが虎の模様た　下弦

『　隙　』

エアコンの上の隙間に手を伸ばしこんなところにあるはずはない　冬桜

『　小　』

凪いでいる渋谷の海だ小銃（ライフル）を撃ち尽くすまで一人にさせて　Y川

2016年10月21日

『　明日　』

工場のひよこまんじゅう順番に目を開け明日のほうを見ている　吉川みほ

『　鍵　』

返された合鍵に付くグーフィーはこんなときでも笑ってやがる　たっきー

『　柿　』

むかし見た天体図鑑の星の死は熟れてつぶれた柿に似ていた　nu_ko

『　月経　』

月経の事情もろもろ告げられて僕もどうやら彼氏になれた　静ジャック

2016年10月22日～2016年10月26日

2016年10月22日

『　前　』

前を向けとにかく顔は上げておけ。前がどちらかわからなくても　祐鈴

速報のテロップを読む顔がまた前のコントに吹き出したまま　といじま

『　働　』

八時間労働からの帰り道イグアノドンはまたそこにいた　サリーB

『　窓　』

いま窓に絵を書いているところですまた言い訳はできていません　雀來豆

2016年10月23日

『　根　』

半月と満月満月満月と大根を切る夕のキッチン　ミルトン

『　礼　』

本箱に礼をしたのち庭に出てまずは辞書から燃やしはじめる　雀來豆

『　余　』

キッチンに半熟卵 寄り添って余熱に沈んだままの日曜　七緒

テーブルに余ってしまったおつまみは全部わたしが持ってきたやつ　きつね

2016年10月24日

『　埃　』

部屋中のほこりが耳をすましてる新しく来た掃除機の音　ハナゾウ

『　ココア　』

でもあれは。でもあのときは。冷めてゆくココアの底に溶けぬ言ひ訳　太田宣子

『　踊　』

拘束を解けば湯の中踊りだすひとりの昼に茹でるそうめん　ロコン

『　入　』

また指にしっくりこない町の名を丁寧に書く転入届　大葉れい

2016年10月25日

『　登　』

あなたかと語りかければ蜘蛛もまた壁を登っていて忙しい　中牧正太

『　クッキー　』

湯布院に行ってきましたクッキーをかじる 誰との旅か聞けずに　朝倉洋

『　普通　』

君の言う「普通」に今日は合わせよう　ご飯の上にシチューをかける　森下裕隆

『　始　』

「また月を始めました」と三日月はほのかに光る 掴まえてみたい　ミシシッピアカガメ

2016年10月26日

『　一人　』

風に背を押されて走るビニールを追いかけ気付くこんなに一人　榛瑞穂

『　安　』

安かったカットメロンがどこまでも胡瓜の味でやめてさみしい　ハナゾウ

廃団地　階段裏に鳩は群れ世界が終わったようにやすらぐ　潤

安らげることを証明するように彼女の手からニベアのにおい　三田たたみ

2016年10月26日～2016年10月30日

2016年10月26日

『　リフレイン　』

君がくれたしらない花の絵はがきのしらない花のしらない香り　しま・しましま

もう無理です、無理なんですって真っ黒にぬり潰してもやってくる朝　睡

プログラムこのプログラム正常に機能していますこのプログラ　多宇由いなき

『　瓶　』

ビー玉は私たラムネ瓶のなかカラカラ鳴って飛び出しもせず　温子

2016年10月27日

『　探　』

探してたことも忘れた思い出がヨックモックの缶で見つかる　ナタカ

『　インク　』

三十年たっても少年ジャンプから溢れるインクのにおい忘れず　可奈美

『　鎖帷子　』

いまはもうタンスの奥にゆつくりと眠らせておくくさりかたびら　桔梗

『　罰　』

きっともう報いを受けるべきでしょう薄荷ばっかり残るドロップ　七緒

2016年10月28日

『　あと　』

ローソンのおにぎりが好き　あとそれとレジに立ってるきみも好きです　UrbanBlues

『　苗字　』

あの人の苗字と同じ駅を過ぎそこから先はもう海たろう　金子りさ

『　栓　』

味の素の粒子きらきら栓抜きでビールあければ生き返る父　しま・しましま

『　爽　』

どんな気で私にくれたか知らないが爽健美茶は爽健美茶だ　ものかげ

2016年10月29日

『　煙突　』

君といてたた煙突の掃除夫のようにすすすす言っていた春　西村湯呑

『　ちゃん　』

川崎は通過する町、ちゃんと風呂に入れよ冬になったんだから　シュンイチ

『　蠅　』

いくつものノルマが交差する脳を蠅が一匹飛び回ってる　詩音

『　キス　』

広島の一点負けてゐることの特に変はらぬ接吻前後　中牧正太

2016年10月30日

『　沈　』

肯定も否定もせずに頷いてグラスの底に沈める檸檬　きつね

『　トンボ　』

つかまえたトンボをはなつ喘息で寝ている兄の病室のなか　ミルトン

『　ですます調　』

ですますの中にアタリのようにある君のタメ口聞くため喋る　ひー

『　迷　』

百均で迷子になってもこれぜんぶ百円だっておもって走れ　西村曜

2016年10月31日～2016年11月3日

2016年10月31日

『　わざわざ　』

もう好きじゃないことくらいわかるのにわざわざきみはさよならをいう　えんどうけいこ

『　電柱　』

糸電話しているあいだ僕たちは(もしもし、元気？)電柱になる　西淳子

『　漏　』

家々から漏れる明かりの確かさが帰りの私を導いてゆく　赤本海

少年が「うんちもれる」と叫びゆく　私たち戦争をやめましょう　中牧正太

『　深　』

わかりあえないこともある友人と並んで深海魚を食べている　椋鳥

とびら絵の顔なき少女の胸にゆびを触れておもえり銀河の深さ　かざなぎりん

2016年11月1日

『　速　』

アレグロの速さで進むこの秋に置いてきぼりの小さな案山子　藤 かづえ

『　反対　』

この星の反対側から飛んで来たチキンが安い　メチャクチャ安い　松岡拓司

『　臭　』

軽トラの荷台にどんと寝転べば泥臭くって澄んだ秋空　森下裕隆

『　ネクタイ　』

全自動ネクタイが朝這ってきてわたしの喉を締め上げてくる　宮嶋いつく

2016年11月2日

『　回　』

健診の知らせが届き意味もなく回鍋肉のキャベツを増やす　日

『　縫う　』

夕焼けと夜の空との境い目を縫い合わせつつ飛行機が飛ぶ　ミルトン

『　土星　』

つくばねのコスモ星丸の缶バッジぼくと一緒に錆びついてゆく　遠井海

『　呼吸　』

深呼吸ひとつと体半分を包丁に乗せかぼちゃ真っ二つ　きい

わたしには地球の大気は合わないが君のそばでは呼吸が楽だ　雪間さとこ

無自覚に呼吸せることふいに恥ずフリーダイバー昇りくるとき　梶原一人

嘘をつき続けていよう横たわるきみの呼吸が止まるときまで　三田たたみ

2016年11月3日

『　北　』

木枯らしのよるに北向くかざみどりにげぬ勇気をわけてください　ルナク

『　詩　』

一行の詩たとおもった花束の添えられている電信柱　ミルトン

『　舐める　』

授業中舐めてたはちみつ味の飴 私だけが違っていた教室　ものかげ

スカートの裾を舐めては(このひともママじゃなかった)泣く迷子霊　森下裕隆

『　かっこいい　』

たじゃれさえ言わねばかっこいい君がたじゃれを言わぬ秋のリビング　静ジャック

2016年11月4日～2016年11月7日

2016年11月4日

『　集　』

夕暮れに集まってきて十六分音符みたいに並んだすずめ　さはらや
集まったみんなが勝手に僕の分まで生きようとする夜でした　小向大也

『　嬉　』

嬉しさと悲しさを足して割ってみる　嬉しさと悲しさに分かれる　杏野カヨ

『　死ぬまでに一度は言ってみたいセリフ　』

遺される側はいややし言うとくわ「あなたのおかげで幸せでした」　祐鈴
花の色はうつりゆくからおとうさん私に息子さんをください　中牧正太

『　女　』

老いてなお女の祖母か病院のベッドのうえで口紅をさす　ミルトン

2016年11月5日

『　箸　』

丹頂鶴のようにうつくしい人だった骨を掬った箸の先まで　榛瑞穂
教わった正しい箸の使い方 祖母の優しき形見となりて　みち

『　音　』

一晩中洗面台から水滴の落ちる音する雪国の冬　むうこ

『　π（パイ）　』

きみの書くπの躍動感が好きびょいと走り出しそうなとこが好き　ヤシロー

『　楽　』

楽園はどこにもなくて地図帳で変な地名をさっき見つけた　nu_ko

2016年11月6日

『　神社　』

父と来てひとりで帰る病院の最寄り神社をカーナビに訊く　中牧正太

『　カード　』

点々と町に足あとつけるよう請われるままに出すTカード　大葉れい
天と地と入れ替わるほど掻き雑ぜて何を問うても「塔」の出る夜　かんぬきたくみ

『　片　』

生き方を問ふかのやうに片方の靴下だけに空いてゐる穴　塾カレー
一片のことばを待ちてしばらくは空をみてゐるわたくしと犬　桔梗

『　最高　』

最高の夏の日差しで干からびてへんなかたちのままのおもいで　喉川

2016年11月7日

『　包　』

包むたびちひさくなりぬ　石けんを泡立て母の背中を洗ふ　太田宣子
大根に隠し包丁入れながら傷つけながら春までは冬　ハナゾウ

『　シンプル　』

シンプルな言葉で振ってほしかった文字の溢れる東京の街　佐倉麻里子
数式をいとも容易く解き明かす彼には似合う無印良品　ひの夕雅

『　純　』

純粋になればなるほど柔らかい金の指輪の歪みを直す　小川けいと
父親にホットココアを淹れる日のかなしいほどに純粋な雨　杉本茜

2016年11月7日～2016年11月11日

2016年11月7日

『　幸　』

こんなにも幸せそうな顔をして噛み砕かれるコアラのマーチ　三田たたみ

2016年11月8日

『　連絡　』

「猫死ぬ」と一行のメールそれだけで、思い出されるあのワンルーム　多香子

『　背　』

古書店の背表紙たちの静寂を乱さぬように本を抜き取る　森下裕隆

タイトルにわたしと書いた背表紙の本をやさしくひもとくあなた　久哲

『　殻　』

溺れてもここにいたくて溶き卵に混じった殻をやさしく巻いた　亜梨

『　描く　』

クレヨンで大きな丸を描きし子は丸に入りてまた丸を描く　天使きらり

教科書の余白に描いたドラゴンが世界の歴史を見守っている　宮本背水

人間が二人しかいない教室で人間の描き方を教わる　椋鳥

書くというよりは描くというように黒板にきみがうつす数式　金子りさ

透明になれない身体を持て余し給水塔に月を描いた　深影コトハ

2016年11月9日

『　午前　』

学校で習ったばかりの子どもらが午前の終わりに正午！と叫ぶ　遠木音

『　棘　』

くちびるに小さく刺さる冬の棘世界がじんわり凍りはじめる　薄荷。

『　大阪　』

（やわ）（やで）のやらかい語尾にかこまれて出汁の中からうどんをたぐる　白鳥

『　殺　』

いつまでもパンのとなりで牛乳のふりをしているあの鬼ころし　東風めかり

2016年11月10日

『　自由詠　』

捨てたのか捨てられたのかなげやりに月のごろんと池に転がる　太田宣子

ちぎりパンみたいに心をちぎれたらあの痩せた鳩に全部あげたい　ハナゾウ

ままならぬ日々を縫い止め美しいキルトに変えてこたつを彩る　守宮やもり

船を待つ待合室の長椅子にいつまでもある父の外套　梶原一人

2016年11月11日

『　トランプ　』

まるで希望みたいた1枚無くなってもう遊べなくなったトランプ　榛瑞穂

最後までババをつかんでいたひとに幸あれひとは完璧じゃない　永昌

『　祭　』

冬晴れを祝祭として焼きたてのパンにあふれる金のはちみつ　志稲

『　漫画　』

ガムを踏めり漫画たったら美男子に抱(いだ)かれそうな銀杏の道で　中牧正太

引きずられ引きずり歩く千歳飴まんがのように大きな服で　山川翠

『　一　』

ひとつずつできないことの増えていく母の一番好きを尋ねる　藤 かづえ

2016年11月11日～2016年11月15日

2016年11月11日

『　一　』

さようなら　一度も使うことのないリバーシブルのこちら側より　きつね

2016年11月12日

『　親　』

両親の期待に背く生き方をしていて爪も真夜中に切る　えんどうけいこ

『　確　』

風の冷たさで私の輪郭が確かになっていく冬の町　ナタカ

『　週末　』

週末に思いを馳せる金曜の夜を吸い込むバスターミナル　かっちゃん

『　本　』

本州のかたちで眠る泣きながら（太平洋の側が背中ね）　nu_ko

2016年11月13日

『　門　』

真夜中に通用門を出てゆけば俺しか知らないような星空　大葉れい

『　？（疑問符）　』

もうここで線路は終わりなんでしょう？老いたうさぎを抱きしめている　睡

『　美人　』

色白の美人さんねと長葱を洗いつつ言う母の横顔　葵の助

『　指輪　』

それもまた誰かの尺度になるんだろう　指輪をしない日々を重ねて　しま・しましま

縁日のくじで当たった指輪とかざくろみたいな色の思い出　nu_ko

2016年11月14日

『　先生　』

ぼくらより大事なものがふくらんでひばり先生やめてしまった　中牧正太

『　私　』

もうバイト行きたくないな手と足と私とみんなバラバラに泣く　ハナゾウ

『　酒　』

カップ酒ちょっとこぼして開けながら馬鹿になるってたまにしんどい　しま・しましま

『　別　』

別々のものを頼んで一口も貰わず帰るびっくりドンキー　堀口万理奈

また別の日にしようってやわらかく言われてそれっきりの江の電　睡

背伸びしてキリンが食べちゃったんだろう特別な月が見えない今夜　木蓮

法善寺横丁の夫婦ぜんざいを一度別れしひとと食みおり　かざなぎりん

2016年11月15日

『　静　』

一斉に五十万人黙りつつ試験開始の合図を待てり　亀山真実

『　悪　』

腹が減っては悪事もできぬとキッチンで袋麺さがす、正しく作る　照屋沙流堂

『　90年代　』

不景気に生まれ育って冬にしか枝を伸ばせないような僕たち　深影コトハ

『　ページ　』

404 not found たうたつにきみのページに冬のしづけさ　桔梗

2016年11月16日～2016年11月19日

2016年11月16日

『　白菜　』

土鍋から白菜ばかり拾いつつ明日恋人を連れてくる兄　たっきー

『　銀杏　』

銀杏をペンチで割った父親の腕の血管すこしこわくて　冬桜

銀杏の翡翠摘まんでまぶしげに無口なひとの無口にゐたり　太田宣子

さくさくと黄色のじゅうたん踏みしめて去っていく秋今年もひとり　知己凛

『　黒猫　』

のつそりとわたしの窓にあらはれて日時計となる冬の黒猫　桔梗

『　青空　』

青空が責め立ててくる自分しか知らない嘘を持ち帰るとき　終栗夢

少しずつ弧をずらしては鳶がゆく青空という画布を背にして　一佇

雲ひとつない青空はなにとなく物足りなくて煙草ふかせり　永昌

空の絵の決め手は雲の方だった青い空ならなおさらだった　透明

2016年11月17日

『　順　』

順番に目を閉じていくニュータウン夜には夜のはじまりがある　シュンイチ

『　アスファルト　』

人間が夜を渡れるように敷くアスファルトにはガラスを混ぜる　荻森美帆

冬初期のスタッドレスのタイヤです主にアスファルトを走ります　松木秀

アスファルト仕立てのスフレ都会では松ぼっくりを100円で売る　けら

『　知らんがな　』

ボーカルの頭に巻いたバンダナが、うちの実家の犬とおなじだ　nu_ko

『　運命　』

運命の練習だらう少女らは順に大なはとびへ踏みだす　西村曜

2016年11月18日

『　象　』

シャッターは二度と開かない薬局のサトちゃん今日も雨に打たれて　いずみ　美帆

『　ロケット　』

ロケットのおしりが希望に燃えている今日が誰かの納品日でも　荻森美帆

『　近　』

石鹸とともにおとうと痩せていく　近ごろの死はとても清潔　西村曜

十五年ぶりの他人の再会の一部始終を近くで見てた　加治小雨

2016年11月19日

『　編　』

今もって何の動物か分からないきみの編みぐるみが鎮座する　西村湯呑

シロツメクサの花かんむりを編んでゐた陽たまりはもうずいぶん遠い　冨樫由美子

素足立ち ひこうき雲を引っ張って 真っ白マフラー編む夢見たの　明実

君のこと編年体で知りたくて手始めに長い逆立ちをする　藤 かづえ

『　枯れる　』

赤茶けて枯れてしまった葉のような最後のポテトチップを探る　きい

枯れてなお濃いむらさきをのこしてるアメジストセージ晩秋の風　春森糸結

2016年11月19日～2016年11月22日

2016年11月19日

『　武器　』

キャラメルか、あるいは武器か手のひらにあなたが乗せた立方体は　金子りさ
歌声をたった一つの武器としてステージに立つ若きソプラノ　梶原一人

『　待つ　』

デザートを待つ４分でお化粧も直すし別れを告げたりもする　堀口万理奈
またひとり君とは違う人が来てコーヒー味に暮れなずむ街　静ジャック
生きてゐることは待つこと　この町の最初の雪におかへりをいふ　桔梗
必要と云つてくださいゆふぐれに笛吹きケトルのよびごえを待つ　七緒

2016年11月20日

『　清　』

水清く魚棲まぬ川に糸をたれ居心地のよい独居をわらう　あ太郎か
清掃車空の青さで人間の生きた証を回収してく　杏野カヨ
一度だけ君がぽつりと褒めてから清潔感に縛られている　中牧正太
清濁を全部まとめてミキサーへ　スムージーにして飲み干してやる　薄荷。

『　正義　』

針葉樹の香りの残るバスルームを出て行く足に正義が触れる　しま・しましま

『　似ている言葉　』

しんたほうがいいと打てば「新打法がいい」とスマホが無闇に熱い　笠和ささね

『　風　』

夕方の風が涼しい 家よりも綺麗にたたむコインランドリー　UrbanBlues
長い長いながい助走だ駆けたせば風はいつでもあたらしく吹く　七緒
春風は来年ですかいろいろと相談したいこともあるのに　久哲
風の名をもつ駆逐艦ことごとく沈みて後の海にまた　風　梶原一人

2016年11月21日

『　軽　』

軽トラで送ってくれた父さんに何も言えずに改札へ行く　冬桜
ザクザクと軽やかに食むシリアルとミルクの白さ　救いの朝だ　雪間さとこ

『　飼　』

夏祭り 君と掬(すく)いし思い出をちいさな鉢で今も飼いおり　みち

『　絵の具　』

廃番ときいて絵の具のいとおしい余命の青でえがく冬空　ルナク
重ねれば彩度が落ちる水彩のような逢瀬に塗り込められて　chari

『「ん」で終わる歌　』

九時過ぎのサヨナラヒットを見届けてきみが砕いたハッピーターン　東風めかり
雨音がやまない夜の図書館に箱舟となる生物図鑑　桔梗

2016年11月22日

『　夫婦　』

文鳥のつがひを選ぶ人間のつがひのうへに虹淡く立つ　太田宣子

『　キック　』

２歳児のライダーキックを受けたりし炬燵布団はいつもやさしい　たっきー

『　天国　』

これまでに失くした傘や手袋がきっと迎へてくれる天国　冨樫由美子

2016年11月22日～2016年11月25日

2016年11月22日

『　ウェディングドレス　』

夢ですよそれは花嫁ではなくて九月の風とレースカーテン　nu_ko

2016年11月23日

『　おにぎり　』

マーメイドマヨネーズっておにぎりがあるんだ岬の青いコンビニ　久哲

『　ばね　』

朝顔のつるばねを発射台にしてあなたは月へとかえっていった　西村湯呑

シャーペンのばねはどこかへ飛んでってやけにしずかな教室にいる　井田了平

旧校舎南のらせん階段はわたしを空へ跳ね上げるばね　天田銀河

きしきしとばねに油を注すように湯船の中で手足を伸ばす　花代

『「恋」の字を使わない恋の歌　』

既読付くだけでなんだかうれしくていつもより多く猫甘やかす　蝶番

あの人の言葉が胸の中を過ぎ流星痕が熱く残った　衣未(みみ)

『　長袖　』

僕をまた密閉するため袖口のボタンは毎朝最後にとめる　須磨蛍

思春期の秘密を守る長袖のジャージはひどく擦り切れやすい　日

照れながら袖をまくつたあのひとのドナウのやうなあをい静脈　東風めかり

長袖のセーラー服に合うようにポニーテールもほどいておくね　三田たたみ

さみしさは温度と思ふ　昨日よりすこし厚手のセーターでゆく　桔梗

2016年11月24日

『　平仮名だけの歌　』

あわゆきのほどけるはやさふーあーゆーぜんふわすれてうまれておいで　睡

『　したい　』

巻き貝は海の響きを想うから明日あなたに電話をしたい　多香子

『　ダイオウグソクムシ　』

ひとりきり水面に映る月を抱くダイオウグソクムシの初恋　宮本背水

誰からも忘れ去られて深海へ足折り数えかえる日を待つ　日

『　飽　』

大人ってあんがい自由　ジャムパンをどっさり買って飽きるまで食う　七緒

2016年11月25日

『　真実　』

テーブルの隅に置かれしiPhoneの二重ロックに透ける真実　みち

王様の耳のかたちに気づかないふりをするのが大人ってやつ　えんどうけいこ

『　じゃん　』

こんなら友達だって一緒じゃん　冷えたかにぱんじっとしている　睡

『　ドーナツの穴　』

忘れ物取ってきます、と君が消えてゆくオールドファッションの穴　笠和ささね

『　勘　』

土地勘がまるで育たぬ地でふいに息も忘れるばかりの夜景　黒井真砂

お布団をふかふかにして部屋をでるきっとなぐさめが必要になる　七緒

2016年11月26日～2016年11月29日

2016年11月26日

『　キッチン　』

美しい瞳のままでキッチンのフロアマットにいる目玉焼き　久哲

『　女子高生　』

女子高生という肩書きなくしても可愛いねって言ってくれるの？　冬桜

『　棚　』

なにげなく棚から抜いた一冊が戻せなくなるみたいな恋だ　桔梗

2016年11月27日

『　魚偏　』

魚偏取った途端に空に舞う鯖よそろそろ海に戻るよ　杏野カヨ

愛されていたのだろうか水槽を回りつづける鮪をみてる　ミルトン

『　冗談　』

酔客が喧嘩をすれば殿中でござると言って止める陳くん　西村湯呑

『　童貞　』

童貞と処女のひしめくはつなつのプール水しぶきが舞い上がる　遠井海

『　竜　』

ひとづてに訃報を聞いた冬の日に買ひしめてゐる竜胆のあを　桔梗

2016年11月28日

『　癒　』

いつの間に癒えたのでしょう傷口は冬の日向のように無口ね　杏野カヨ

『　引　』

ニュートンも気付かぬ「力」に従って　毎年届く故郷の林檎　霜月実結

引き際の魔術師たからいつたって空気みたいにいなくなります　UrbanBlues

『　頬　』

急行の風がぱちんと頬を打つここもどうやら落涙禁止　中牧正太

その頬に触れる権利を有してた右手がドライアイスをつかむ　chari

右頬をつねつてみても左頬をつねつてみても冬のさむさだ　桔梗

ポテンシャルばかり詰め込みふよふよと甥っ子のほおふくろはふくらむ　矢波多恵

『　最近怒ってること　』

組織的陰謀だろう傘たちは雨が降るたび僕を見捨てる　静ジャック

2016年11月29日

『　恩　』

進展のしない話が続いてる知恩院まで向かう坂道　天野うずめ

『　山手線　』

きみはもう山手線に慣れていて誰かの肩で眠るんだろう　カオリナマンダイ

『　スニーカー　』

永遠に砂が出てくるスニーカー　日が暮れるまで笑えた僕ら　金子りさ

『　自由　』

朝焼けは自由の匂い　また意味を持たない空気ばかりで満ちて　南瑠夏

「この頃は墨絵もします」寡婦となりし友の葉書を泳ぐ出目金　下弦

きみ去りし１ＤＫに有ればまた有るでかなしき放屁の自由　中牧正太

2016年11月30日～2016年12月3日

2016年11月30日

『　税　』

消費税ないころジュースは100円でわたしは確かに健やかだった　遠木音

『　水玉　』

雨の夜のビニール傘を仰ぎ見る 水玉光るプラネタリウム　えたまめ

遠まわりしても手紙を出しにゆく水玉模様の郵便ポスト　ミルトン

水玉のひとつひとつに映る空すべての人の上にある今日　けら

『　痣　』

死んでる、とふいに言ひたるひとの手にあをく滲んだその死に触れる　桔梗

『　眺　』

そこからの眺めはどうだ一緒ではなくても月は綺麗だろうか　小宮子々

2016年12月1日

『　冬　』

冬薔薇のごとき少女が投げ出した素足ひろがる冬座敷かな　ほし

『　こたつ　』

下半身こたつに喰われ息絶えた死体のごとく眠れ真冬日　nu_ko

夕焼けをこたつのなかに捕まえて仔猫はトラになる夢を見る　杏野カヨ

『　コート　』

冬までは生きるのだろう八月に古着屋で買うダッフルコート　ミルトン

苦しめばゆるされますか凍て星にダウンを脱いだわたしを晒す　七緒

ナチュラルにわたしの左手誘拐しコートのポッケに監禁する人　薄荷。

前を行くチェスターコートの広き背にふつけてみたし「好き」を飲み込む　みち

『　雪　』

美しい雪を選んで踏んでゆく早くあきらめられますように　chari

2016年12月2日

『　AI　』

父の背を見つめる幼い眼に気づき指し手を弱めるAIだった　西村湯呑

『　大阪環状線　』

目隠しをされてもわかる 鶴橋の駅の匂いがごめん大好き　UrbanBlues

『　選　』

白菜を上手に選ぶコツですか一緒に買って帰りましょうか　雪間さとこ

自販機のボタンを同時に４つ押す選ぶことには少し疲れた　遠木音

選んだというより選ばれたんだろう　書架から古い本を抜き取る　森下裕隆

祈られてひとりたたずむ公園のわたしにばかり鳩が群がる　桔梗

『　写真　』

写真加工技術が上がり肩越しに写った霊の血色がいい　宮嶋いつく

2016年12月3日

『　◆◆　』

わたしまた◆◆を知ってはいないのに◆◆が足りないことを知ってる　中牧正太

ごはんでもおしめでもなく抱っこする　君の言葉がまたわからない　きつね

『　我慢　』

玉ねぎは我慢している野菜ですだから涙はもらい泣きです　ハナゾウ

2016年12月3日～2016年12月7日

2016年12月3日

『　好　』

ハイタッチする瞬間にひっこめてしまったこれで卒業なんだ　相川 一輝

『　上　』

幼子の上着の袖を折り返す転んだら手をつけば良いのよ　ナタカ

2016年12月4日

『　糊　』

のりしろが全部はずれて全身が部品にもどる夢を見ました　nu_ko

接ぐ面を溶かすタイプの糊なのではがすとのこる傷はたがいに　ルナク

『　もみあげ　』

もみあげはどうされますか？いつもので。ここにも馴染みの心地よさあり　みち

『　虚構　』

手をつなぐ人もいなくて青空のクジラは私の作った虚構　さはらや

『　ガラス　』

肉球が押し付けられたガラス戸を静かに開けてただいまを言う　加治小雨

2016年12月5日

『　大学　』

必修を5回休んだ先輩が2回休んだ後輩叱る　橙田千尋

『　飛行機雲　』

遠近はまだわからない幼子が飛行機雲をなぞり始める　たっきー

『　超　』

コンビニでケーキを買って超つまんないDVD観るやつやろう　堀口万理奈

『　放課後　』

教室へ射し込む夕陽　ぼくらではなくて放課後が詩だったのだ　大葉れい

帰るだけ 何もないけどなんとなく一回多く折ったスカート　小泉夜雨

2016年12月6日

『　芽　』

グーにパー、チョキもいるよね古里の小道に芽吹くふきのとうたち　一佇

ふと君のルーツ知りたくなった夜 ちいさな「好き」が芽吹き始める　みち

発芽した朝顔のよな思春期の吾娘は添え木を要らないという　ホシキョウイチ

『　蜂　』

蜂の子を生でいただく味わいをツキノワグマは熱く語った　宮嶋いつく

『　三人　』

冬枯れの木々が静かに芽吹くころ僕は三人目になりました　ツナマヨ

『　芯　』

祖母の手のかたちで去年の新聞が空芯菜の揺りかごとなる　五條ひくいち

まぼろしのロングヘアーをかきあげてすするうどんの芯からしろい　しま・しましま

だとしてもキャベツの芯は避けておくさよならの日のコンソメスープ　小宮子々

魂魄が失せたるペンに替へたまの新しき生味合はせてやる　文屋亮

白菜の芯までとけていくように眠るふたりをつつむ朝焼け　橙田千尋

2016年12月7日

『　目玉焼き　』

目玉焼き好みの固さに焼き分ける固めの一人はもうすぐ巣立つ　文乃

2016年12月7日～2016年12月11日

2016年12月7日

『　半濁音　』

どんつきをぴゃーっと行った右側や。いや、ぴゃーっとやと行きすぎる。　西村湯呑

『　港　』

玄関が港にみえて履いていく白のナイキはなんとなく船　nu_ko

『　また　』

今はまた終わりたくない本だから十ページだけ残して眠る　静ジャック

2016年12月8日

『　スマホ　』

十六で死んだ縞猫ウメちゃんがスマホの画面に今日もかわいい　多香子

iPhoneの割れた画面に映りこむ朝のわたしはとても稲妻　nu_ko

スマホより生身の人がよいけれど今日はスマホの温度がやさしい　蝶番

『　布団　』

寝転んだ布団がちゃんと温かい今朝母さんと喧嘩したのに　ひの夕雅

ふとんからそつと抜け出す真夜中の猫の気配のやうなさびしさ　桔梗

『　失恋　』

恋人にならなかったね信号は君の歩いて行くほうが青　佐倉麻里子

『　韻を踏んでいる歌　』

痛いんじゃない会いたいのかもしれない意味なんてない愛かもしれない　小宮子々

2016年12月9日

『　チョップ　』

怒ってることに全然気づかないきみに静かな空手チョップを　ナタカ

従兄弟とのチョップの応酬で先祖が見下ろす座敷で四の字固め　ほし

『　鍋　』

人生にマジで嫌気がさしてきて鍋から直に食べるラーメン　えんどうけいこ

『　誰か　』

ゆふぐれを知らせるこゑが僕たちに「小さい秋」を配りはじめる　東風めかり

『　英語　』

字幕より先に笑った横顔をやや理不尽に睨んでいます　須磨蛍

2016年12月10日

『　自由詠　』

たったかたー（冬の疾走）たたかわず逃げてのがれて寝て起きて春　nu_ko

口を開けもの言いたげなまなざしの煮干しの頭を次々ともぐ　ぽつり

就職もまともにできない俺ですがサンタの服はすっげえ似合う　金子りさ

縦笛のころにうすうすわかってた僕はラブソングを間違える　中牧正太

2016年12月11日

『　鳴　』

僕からのLINEは鳴らない設定にしてあると知る深夜のファミレス　きつね

『　人差し指　』

雨の日に白い漁網を編む祖父の人差し指は海へつながる　野宮のあ

『　ほにゃらら　』

ほにゃらった夜はあなたがこわくなるほにゃららないと夜がこわくなる　中牧正太

2016年12月11日～2016年12月15日

2016年12月11日

『　日曜日　』

はじめてのお遊戯会で教わったヒトデの役になりきる日曜　睡

また来週（お金を持って）おいでよとひづめの音が消える夕刻　こち

2016年12月12日

『　玄関　』

愛でなく義務になりつつあるキスで夫見送る玄関を掃く　みち

『　乱　』

初恋のハートのやうに初雪の朝のダイヤは乱されてをり　中牧正太

『　平行　』

そのあとの言葉を失くしほのあをい罫線ばかりの交換日記　桔梗

平行に灰になってく線香の煙を一人の私が混ぜる　たっきー

『　今　』

せっかくの雨だし濡れて帰ろうか今日はうお座が12位だから　七緒

2016年12月13日

『　誓い　』

もう二度とフーフーなしでグラタンを食べたりしません二十歳(はたち)ですから　橙田千尋

平らかな年の誓いかシクラメン整列している花屋の店先　藤 かづえ

『　残念　』

五百羅漢 僕に似た顔見つけたら残念そうな表情だった　宮嶋いつく

『　褒　』

病状には触れず従兄はお見舞いの林檎の赤さばかりを褒める　森下裕隆

『　ベンチ　』

ハイタッチ受け取るだけのベンチにも僕の歴史は確かにあった　多田野結衣

赤はこわい青はかなしい黄はいたい　座れるベンチのない人生だ　あろん

2016年12月14日

『　姫　』

さっきから流れっぱなしの音姫にまざるかすかな嗚咽、東京　西村曜

『　ナイフ　』

君つひに口にすることなき吾が名「knife」の頭文字のごとくに　久保 直輝

『　年上　』

わたしより年上の本棚がありわたしの知らない父を知ってる　きつね

『　最寄り駅　』

最寄り駅から徒歩五分（ミラクルが起きそうな角も完備してます）　金子りさ

2016年12月15日

『　ブラジャー　』

腕のないヴィーナス像にブラジャーをダビデ像には白のパンツを　nu_ko

『　分身の術　』

分身の術で生まれた片割れが財布とともに戻らぬの巻　かんぬきたくみ

『　派　』

好きなもの残しておく派の君だって知っているから僕は待ってる　冬桜

わたくしでごめんなさいねこんなにも派手な魚と暮らしてるひと　中牧正太

派生する血液のごと一枚の葉っぱ透かせば見ゆる葉脈　萩野聡

2016年12月15日～2016年12月19日

2016年12月15日

『　派　』

絶対に塗らないことはわかってて派手なネイルを一本選ぶ　遠木音

『　弱　』

「じゃく」という音うつくしく雪を踏むあなたは若く、弱く、寂しい　泳二

水圧の弱いシャワーがそろそろとわたしを撫でる引っ越しの朝　亜梨

2016年12月16日

『　金　』

金曜日みたいな顔の木曜日みたいな顔の水曜日かよ　橙田千尋

『　銀　』

「泣かない」と生徒手帳の校則の頁に書き足す鉛筆の銀　西村曜

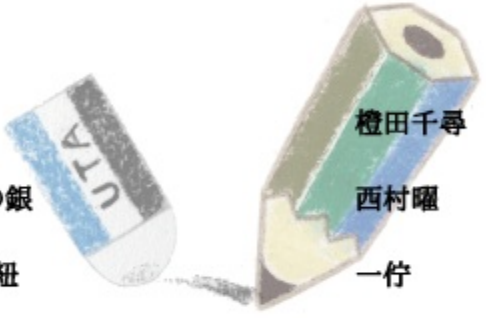
『　黒　』

早朝にきつく結んで深夜にはするりとほどく黒い靴紐　一佇

『　白　』

冬の陽が不意に歌集へ射し込めば真白き船を見た心地する　森下裕隆

送るよと言ってほんとに送るひとまったくもって白い車で　中牧正太



2016年12月17日

『　字　』

すきなのかきらいなのかをカタカナで言ってください二文字以内で　non たん

『　股　』

世界を股にかけろと名付けられたジョージは今日も三丁目にいる　みち

『　盗　』

置き傘は盗まれていて初雪の夜更けをきみと歩いていった　ミルトン

『　輪　』

輪の中に溶け込めぬままてっちりの灰汁を掬って雑炊を待つ　静ジャック

2016年12月18日

『　一週間　』

一週間遠回りする朝の道　柊の花咲き終わるまで　一佇

『　反省　』

先生は気付いていない反省文「悔」の字のうちひとつが「海」と　西村曜

『　自傷　』

さわやかな笑顔でレジを打つ人がおつりに添えた手首の傷跡　小川けいと

『　革命　』

革命を起こさないかといふやうに冬の庭には野薔薇がひとつ　桔梗

2016年12月19日

『　澱　』

ささ舟よ澱みにありて惑えどもいつか流るる時を逃すな　蓮香

『　正直　』

薄月夜ふいいふいいと泣いているやかんばかりが正直である　中牧正太

『　惜　』

惜別のくたりホームはゆっくりとスクロールしてさらばふるさと　nu_ko

『　灯　』

宴会にいまいち馴染めない我をふぐ提灯がじっと見ている　小川けいと

2016年12月20日～2016年12月23日

2016年12月20日

『　蓋　』

ジャム瓶の蓋が開かないそれだけが君があまえる最新理由　久哲

『　劇　』

改札がピッと鳴いたら幕が開く劇中劇のような毎日　月花

『　どっちでもいい　』

どっちでもいいって言うと苦笑して大きい方をくれるあのひと　史乃

さびしいかさみしいかなんてどっちでもいいから早くハンカチ貸して　遠木音

『　湯　』

これが月これは地球とほぐれつつ柚子湯に星を浮かべてひとり　木蓮

キッチンで湯切りのペコンをするたびに記憶の中のコロが驚く　西村湯呑

2016年12月21日

『　プリン　』

あの人のかごにいくらのおにぎりとプリンが入っている 金曜だ　ものかげ

『　◆W　』

笑おうと無理したんだろう君からのメールの最後が文字化けていて　木蓮

『　約　』

約束の時間になって小窓から鳩が真面目に７回鳴いた　ツナマヨ

『　結　』

結末を読まざるままに吾が売りし「暗夜行路」がまた売られゆく　梶原一人

2016年12月22日

『　インターネット　』

目を細め「ばあさんとこにも繋がるか？」祖父の求めるリアルクラウド　ひの夕雅

『　哲学　』

哲学の道を歩けば道端に思考思考のゴミが落ちてる　ササキ アンヨ

お寿司屋で最初サーモン頼むのも 彼なりのまた哲学だろう　果糖カヲル

哲学の森から出たい一滴の知恵のパルファムあなたの香り　月永佳世

『　粒　』

袖口にごはんの粒が付いている駅員さんが指差す出口　小川けいと

『　かしこ　』

椿咲く便りはかしこと結ばれて遠くに暮らす叔母より届く　きい

2016年12月23日

『　温　』

深夜二時猫背でうつむく僕に降る「ポテトチップス温めますか」　桜枝巧

『　現実　』

現実が踵の高い靴で来て僕をきれいなフォームで殴る　ナタカ

『　標　』

風化して崩れた植物標本のラベルの文字の書き手を想う　けら

『　とりあえず　』

とりあえず脱いだまんまに散らかった過去を洗って干してまた着る　nu_ko

2016年12月24日～2016年12月25日

うたの日 1000日おめでとう

2016年12月24日

『　クリスマス・イブ　』

子どもらの手紙が届き次々と解読班を呼び出すサンタ　遊糸

『　銀河鉄道　』

今日だけはサンタに空を譲ります銀河鉄道全線運休　淡海わこ

僕の中星を旅する少年がカムパネルラをまだ待っている　けら

どこまでも一緒に行こう　ほんとうのさいわいなんて知らないままで　小泉夜雨

『　サンキュー　』

サンキューのスタンプが来てスタンプじゃ脳内できみの声にならない　ナタカ

『　うたの日の参加者さん詠み込み　』

恋をしている恋はしている恋としている恋の文字の致死量　ナイス害

2016年12月25日

『　せん　』

したためるほどにあなたが思われて一筆箋にひらく紅梅　野宮のあ

沈むから芽も出るんだと種籾(たねもみ)を塩水選にかける父の背　森下裕隆

2014年9月25日『　クニコさんの写真　』

成り行きで二人乗りまでしたけれど
君の写真は撮れないままだ　きつね

2015年9月25日『　りおこさんの写真　』

この壁の向かうで眠ってるるひとも
泣いて生まれたひと、だと思ふ　桔梗

2016年10月9日『　みちくささんの写真　』

ええ、春に埋めてしまって今はもう
目印にした花もないです　城ももよ

2016年10月11日『　ゆらさんの写真　』

理不尽なことばかりだとあなたにも
伝わるようにそっと噛みつく　城ももよ

2016年10月11日『　ゆらさんの写真　』

たいせつにしたいものはそれぞれに
ねこにはねこのぼくにはぼくの　桜望子

2016年10月22日『　知己凛さんの写真　』

見送りはもういいよ、って呟くと
島は淡々霞み始めた　坊斎

2016年10月22日『　知己凛さんの写真　』

暮れてゆき町に灯が点くそれまでの
逢瀬だ風がつめたくなった　黒井真砂

2016年10月23日『　きむろみさんの絵　』

寒いのに寒くないかもしれないと
思うことだと思うよ愛は　中牧正太

2016年10月23日『　きむろみさんの絵　』

星空がきれいなだけでは満足が
出来ない僕らがつけた傷あと　矢波多恵

2016年11月26日『　けいとさんの写真　』

ぶち抜いてみたい青空ひとつあり
キリンレモンを喇叭飲みする　有樹由え

2016年11月18日『　しま・しましまさんの絵　』

ふるさとが懐かしい日は足もとに
ひろがる宇宙をいだいて眠る　矢波多恵

うたの日 短歌んか 1000日記念号

コラム
うたの日と私

うたの日に思い入れのある人はたくさんいます。いろんな視点からうたの日を見ると歴史が見える気がしてくるから不思議です。
縁の深いグループから最近ハマった人まで、それぞれの思いを書いていただきました。

愛で食べるのも疲れた家族／恋をしている(1)

愛で食べるのも疲れた家族

こいをしている
恋をしている
(@yayoikenumai)

ミヤフィ屋というチャットルームがあってそれが僕の家だった。

ネットで大喜利をはじめたころ友人知人もおらずただ孤独に大喜利をする機械虫と化していた僕は、ある日ののさん（大喜利では別名なんだけれど）に声をかけてもらい、その家に招待された。

そこにはネット大喜利を趣味にしている人たちが気ままに集まっていて例えばののさんにグーグルマップで住まいを暴かれたののさんの親友もとい奴隷のチャットルーム管理人「miyafi」さん、毎日何かしらにキレていてののさんともしょっちゅうチャットで喧嘩しているのに全然へこたれない「九官鳥と猫」さん、あり得ないぐらい気弱で一番歳が近そうだったから勝手に親近感を持ってやたら話しかけまくっていた僕の親友「バイン」さん、突然お絵かきやゲームをしようと言い出してまわりを明るくしてくれた天然少女「どらごんはんたー」さん、お笑いに誰よりも熱く物知りで何故か僕に死ぬほど優しくしてくれて嬉しかった「鬼仔」さん、ダーツと酒とサッカーという僕が憧れてやまない大人の男の魅力全開でカッコよい「Betis」さん、波乱万丈な人生でたまにしかチャットに来ない風来坊なんだけど絶大な存在感がある「ボバン」さん、ネット大喜利会の頂点にいる人で普通に松本人志よりも面白いことが言えるマイホームパパの「ぴよはる」さん。僕の家族でありののさんの子どもたちだった。誰が言い始めたのかとか、どんな目的でそこにあるのかとか、どういう成り立ちでその家ができたのかを僕は全く知らなかったけれど、そこには全員に共通する空気として「ののさん大好き」があった。僕はその家が大好きで、「ののさん大好き」というその家の空気もとても好きだった。この冊子のタイトルアンケートで「うたの家」というのがあったと思うけど（僕はそれに投票しました！）、うたの日もののさんの新たな家族なんだと思う。ののさんは本当に子作りが上手だ（鼻血ブー！）。

僕はうたの日にほとんど参加することが無かった。もちろん創立に関わった者としては最初期の頃は参加していたし、特別なイベントの時は張り切ったりなんかしちゃってたけど、それは僕がののさんを大好きで、ののさんに喜んでもらいたかったからに他ならない。僕にとっては全然短歌よりののさんの方が勝っている。設立したてのサイトは訪問者も僅かだから、少しでも盛り上げればののさんも安心かな、という浅知恵もあった。

でも、ある日僕は唐突に、何のきっかけがあった訳でもなく「ああ、これは大丈夫だ」と思ってしまったのだ。うたの日はきっと大丈夫だ、と。きっとこれからも絶え間なく色んな人が来て、ネットの短歌が今よりもずっとずっと盛り上がっていくんだろう、と。それから僕はうたの日に行くのを辞めた。だって、僕はののさんの家族だから。家族に「可愛い」とか「優しいね」って褒められるより

愛で食べるのも疲れた家族／恋をしている**(2)**

他人に褒められた方が本当っぽくて嬉しいのは当たり前だ。そして、うたの日を途中でリタイアするのは家族である僕だからできる特権であり、僕は他の人よりも先にののさんの家族になっている、という事を周りに知らしめたかったのだと今になって思う。大喜利仲間のチャットルームのミヤフィ屋では末っ子だった僕も、短歌の家である「うたの日」では長男だ。長男は一番母親に愛されなければ気が済まない。そして母親の元を離れて独り立ちした姿を見せてあげなければならないのだ。今でも、ずっとそう思っている。

なんたる秘密

ナイス害（ないすがい）
(@NiceGuuuy)

うたの日、そしてののを語るとき、どうしても自慢話になってしまう。

うたの日のオープン初日に参加し、同じく初日に参加していたウチの迂回が薔薇を攫っていった。

ののが管理するもう一つのサイト連歌の花道の広告欄では、我らが短歌結社なんたる星のバブーのリンクをずっと宣伝してもらっている。

星月歌合戦ではなんたる星vsうたの日ユーザーで対決をしたし、そこで加子と出会えた。

そもそもなぜこんなに優遇されてるかと言うと、短歌を始める前からののとは知り合いなのだ。同じ釜の飯のお焦げの部分を食べた仲と言えば羨ましがられるだろうか。

しかしののは、オレには滅法冷たい。さんずい、さんずい、にすい、である。もうずぶ濡れだ。

ずぶ濡れかと思えば、オレの誕生日に全３ルームを使って「ナイス」「害」「刺す」なんてお題をサプライズで出して、ホロっと泣かせたりもする。

ツンデレのデレの還元率が異常に高いから、ののはみんなから愛されるし、なんたる星（ほぼオレ）からいつもあることないこと ネタにされ、こうして弄られるのだ。

もう一つ、こんな自慢話がある。

手記が残っていたので、抜粋してコピペするね。（なんて楽なコラム！）

【2016年5月4日 東京→山形の夜行バス車中にて】

東京文フリに、なんたる星として初めてブースを出した。米田は結局失踪したままだったが、たくさんの人に…（省略）

龍翔さんをネタに大喜利をし…（省略）

イベントもほぼ終わりに近付いた頃、冊子を買ってくれたオジサンがさのまるグッズをたくさんくれた。皆で分け合うことなく、オレが黙ってスコヲブの鞄にさのまるグッズを全部押し込んでいたら、入れ違いでお客が来たので振り返った。

ギョッとした。

その人はセーラームーンのお面を被っていた。（字面だと少し面白いが、実際はすごく怖い）

「良かった…まだある」言うと、細くて長い指先で小さい紙（タリーズのレシートの裏だった）を

出し、机の上で軽く伸ばしてクルッとこちらに向けた。

そこにはこう書いてあった。

『新進気鋭の管理人ののです』

はあ？？そんなことがあるかよ！！という顔をほぼ全員がした。何故か警戒して周りを見渡したが、誰もこちらを見ていない。いしゃどうがさらりと金額を言うと、ちょうどの硬貨を出し、どこかのブースの見本の冊子と一緒に小脇に抱えた。

「それ見本のやつか。持ってっちゃダメだよ。スーパーのパン屋のピザを試食だと思って食べてしまう系管理人かよ」とツッコむと「害さんは害さんだねー」と言い、少し笑ったような気がした。お面は付けたままだ。はだしが「ロックっすね」と言うと「あのアイコンもう変えていいよ」と月野うさぎは笑顔で言った。

訝しげにお面の輪郭を目でなぞっていると、フック型の星のピアスが取れかかっているのに気付いた。「ピアスが」と加子が察したかのようにオレの代わりに言うと、少し慌てて直そうしたが上手く行かず、結局ピアスは床に落ちてしまった。

青と橙のバイカラーの星のピアスは、床にとても映えていた。

月野うさぎは、アゴ先を大きく上に持ち上げながらミレーの落穂拾いのように星を拾うと、こちらを見ることなく、夏色のマキシ丈のワンピースの裾を翻し、横顔の残像を我々に残したまま出口へ向かい全力で走っていった。さのまるグッズあげれば良かった。

はい、ここまで。

なんたる星とののだけの秘密だったけど、1000日記念だしな。

明日あたりののからの怒りの長文DMが鳴りっ放しになると思うので、死にそうになったらみなさん助けてください！！助けて！！！！！

ののさんは腰痛持ち／遊糸(1)

ののさんは腰痛持ち（※本文とは関係ありません）

遊糸（ゆうし）
(@yuushi_3)

この機会に改めて確認したところ、はじまりは2013年6月4日だった。

その日、私は「連歌の花道」というサイトで初めての連歌を投稿した。知らない人ばかりの中で緊張していた私は、お作法が分からずサイトを隅々まで読み、参加者の皆さんがTwitterで交流していることを知った。私がTwitterアカウントを取得したのは2013年6月16日のことだ。

「連歌の花道」の管理人さんの人柄に魅了された私は毎日のようにサイトに入り浸るようになり、連歌の投稿やTwitterでの交流を楽しんだ。

やがて、管理人さんは私を外部の歌会に誘ってくれるようになった。外部ではどんな筆名になるのだろうと思ったらそのまま「連歌の花道の管理人」だった。さすがサイトの宣伝に余念がない。

しかし外部の歌会に出る機会が増えると、管理人さんは「連歌の花道の子」に改めた。さらに略して「の子」にしようとしたところ、同名の有名人がいることが判明したとのこと。神聖なんちゃら。そんな過程を経て、ついに2013年8月29日、「のの」が誕生した。「連歌の花道の子」のひらがな部分を残したのだ。

当時からののさんは卓越した企画力があり、R-2ぐらんぷりや、紅白短歌合戦（こちらは失敗？）など、短歌にゲーム性を取り込み、いつも私たちをワクワクさせてくれた。
そんなののさんがある日「短歌クラスタがひっくり返るようなことを考えている」と言った。なんだか分からないが、ののさんが考えることだからとんでもないことに違いない。

2014年3月31日21：00を迎えたころ、ののさんはその詳細をツイートで発表した。

そう、「うたの日」の公開だ。

当初はカレンダーがメインで、「短歌の予定が一目で分かるものを」という想いから生まれたものだった。みんなで書き込んでいけば、歌会の予定や締切などが一目瞭然になるのだ。すごい！これは便利！

さらに「連歌の花道」に一緒に参加している方のツイートを見て驚いた。「日付をクリックしたら歌会に入れるようになってるよ」。え、なんだって！

そこに気付かなかった人もいたようで、初回の参加者は16名だった。

私は面白がって初回から毎日投稿していた。初めて首位を獲得したのは2014年4月11日のこと。苦しみながらも頑張っていたのだが、私の連続投稿記録は20日で途絶えた。意外と短い。

私は結社に所属した経験がないので、うたの日の選評に育てていただいた。「自信作だけどどうでしょうか」「こんな歌は如何でしょうか」「評価は低いけど好きって言ってくれる人がいるのは嬉しい」

ののさんは腰痛持ち／遊糸(2)

などなど、腕試しの場だったり指導者を得る機会だったりした。

ののさんはとても広い視点を持っていて、私が考えるようなことは全て想定している。例えば、うたの日が公開されたとき、私は口にこそ出さなかったが、いつかみんな飽きて廃れてしまうのではないかと思っていた。しかし、ののさんは「いつか参加者がゼロになってしまうことも考えています」とブログに書いたことがある。あらゆることを想定し、常にその二歩三歩先を見ているのだ。

いつか参加者がゼロに、などということは杞憂で、誰もがご承知のとおり参加者はどんどん増えていった。短杯、R-2ぐらんぷり、短歌一武道会などなど、企画が満載で、きめ細やかな管理に支えられたお陰で、多くの方と一緒に短歌を楽しむ機会を得たのは私だけではないはずだ。中には、文フリ参加、リアル歌会の主催、結社所属など、うたの日をきっかけに活動の場が広がった人も少なくないだろう。

16人からスタートしたうたの日の参加者が、今では100人を超えている。うたの日の主体はまぎれもなく参加者だ。

大盛会のうちに1000日を迎えたうたの日が、これからもずっとずっと永く続いていくことを祈念している。

うたの日昔がたり ～双葉スイッチ～

はくし　（ふたばやほいろ）
落紙（双葉屋ほいろ）
(@hoiru_utayomi)

２０１６年某日、Ｔ都Ｈ市某所に彼女はいた。「うたの日」１０００日のコラムを作成するため、私はうたの日老人会に名を連ねる彼女の話を聞きに行くのだ。途中から自動車ではとても入っていけないので、路肩に愛車を停めて草木をかき分けていく。成長しても双葉のままという謎の植物が群生している地帯、その真ん中に彼女の家がある。一呼吸吐いてインターホンを押すと、少しの間のあとに彼女が顔を出した。

おお、お若いの。こんな老いぼれのところに何か用かね？ 何？「うたの日」が始まって１０００日になるのかい？ そうかね、そんなに経つのかね……
今はすっかり遠のいてしまったが、ワシもかつては「うたの日」の常連でねえ。毎日のようにお題にかじりついていたものだ。まあ、ワシは根っからの短歌詠みではなかったから詠草は拙かったし、いつもパッと詠んでパッと出詠する輩じゃったよ。賑やかしってやつさね。それでも、ありがたいことに６回も花束をいただいて。大事に大事に取ってある。ほら、窓のところを見てご覧、あのドライフラワーがそうさ。

ところでお若いの、「双葉スイッチ」はご存知かな？ そうか、やはり知らぬか……

うたの日が始まってまだ１週間くらいだった頃、まだお題が１日ひとつだった頃……日の歌会はそれぞれが独立しておってな。前の日とか、次の日とかの歌会を見るためには一度カレンダーに戻らねばならなかった。少し不便じゃなあとワシが嘆いておったところ、あの大のの様がこの愚かな嘆きを聞き入れて下さったのだ。数日して、歌会ページ上部に「昨日」「明日」ボタンがついて、日めくりでページ移動ができるようになった。

驚いたことに、大のの様はそのボタンをワシの名にちなんで「双葉スイッチ」と呼んでくださってな、更にボタンの横に小さな小さな芽を植えて下さったのだ。今はもう、見る影もないようだが……きっと、あのホーム画面の鳥達がとまっている木々のひとつになっているのかもしれぬなあ。

さて、老いぼれはそろそろ中に戻るとするよ。幼子が呼んでおるでな。ほっほっほ。

大のの様によろしく、と言い残して彼女はまたドアの向こうへ姿を消した。懐かしそうに語る彼女の声は、私の胸ポケットに入れたＩＣレコーダーが録音してくれている。ああ、しまった。手土産に買ってきた舟和のあんこ玉を渡しそびれてしまった。日持ちしないものだからこれは私が食べてしまおう。

という夢を見ました。何はともあれ１０００日おめでとう！ めでたい！

全首評とわたし

おおた　せいじ
太田　青磁
(@seijiota)

「うたの日」が誕生した2014年4月にわたしは短歌をはじめた。読書メーターという本好きな人の集まるSNSで、短歌を作り始めた友人に誘われたのがきっかけであった。歌集や入門書を読みはじめ、どうしたらうまくなるのだろうかと考えるようになった。インターネットに集う短歌クラスタのことは全く知らず、いくつかの結社を比較して短歌人に入会した。

読書メーターの友人から教わって「うたの日」におそるおそる歌を出したところ、初日に3名もの方からハートをいただいた。誰かに自分の歌を読んでもらえることがうれしくて、日々の歌会に参加した。花束を取るまでは半年くらいかかってしまったのだが、歌を出し続けることと、多くの方の歌を読むことによって短歌の基礎体力がつけられたのだと思う。

短歌人の歌会に参加したのも、やはり入会から半年くらい経ってからであった。参加するたびに「とにかく発言しよう」「思ったことを口にしないのは、その歌が批評される貴重な機会を奪う」ということを言われ続けた。的確な評ができるようになるためにはどうすればいいのかを考えていたとき、評をする機会を増やせばよいのだというシンプルな結論に落ち着いた。

野崎アンさん（たかはしりおこさん）のツイキャスに刺激を受け、「うたの人」に投稿されたすべての歌に評を書くという試みをはじめた。最初はコメントをつけるだけでせいいっぱいであったが、少しずつ評に近いものが書けるようになったのは、好きな歌もそうでない歌もできるだけ同じ分量・熱量で書くことを意識した頃かもしれない。

ロゼッタストーンと呼ばれるような熱い評には圧倒されるけれども、気に入った歌について好きなことを述べるのはそれほど難しいことではないはずだ。また、明らかな瑕疵を指摘することもそれなりの経験があればできるだろう。だが、自分の心に響かなかった歌に評を書くのは意外と大変である。その歌の持つ可能性を探し、どこに選ばなかった理由があるのかを言葉に落とすことによって、一段深く短歌と向き合うことができたのかもしれない。

その場で発言を求められるリアルな歌会に比べて、自分の言いたいことを整理して発表できるインターネット歌会は、評がしやすいと感じる。毎日開催される「うたの日」に比べ、「うたの人」は出詠・選評ともに一週間程度の時間があり、評を学ぶ場として最適な環境であった。知らない言葉を調べ、歌の構成を確認し、本歌にあたることが、歌の鑑賞の幅を拡げてくれたのは間違いない。ほかの方の評と自分の評を比べて読むことで、自分にない視点を手に入れ、一読で気がつかなかった歌の良さを感じることもたくさんあった。

今、自分の中で短歌に触れる時間をどのように振り分けるかという課題にぶつかっている。溢れる情報に溺れないために、自分の中にある「いい歌とは何か」という基準を作り上げることが必要だと感じる。そのために多くの歌集や歌論を読み、先達の鑑賞に触れたい。そして、短歌について多くの人と直接会って話したいと思う。

歌会が歌会としての熱量を持って続けていくには、参加者ひとりひとりが場の持つ力を維持していく意識が大事だと思う。「うたの日」や「うたの人」で評をもらってうれしいと感じる機会があれば、次の歌会で積極的に評を書いて欲しい。また、評がうまくなりたいと思うのであれば、全首評を試してみたらよいと思う。難しい批評用語を使う必要はまったくないし、ひとりよがりになってもいいと思う。わたしにできたのだから、きっと誰でもできるはずだ。これからもの「うたの日」や「うたの人」が楽しく、忌憚のない評のにぎわう場であり続けることを願っている。

Twitter 生まれうたの日育ち／長月優(1)

Twitter生まれうたの日育ち

長月優（ながつきゆう）
(@spicadrop_)

わたしがうたの日に初めて参加したのは2014年5月1日、OPEN31日目のことだった。長月優として短歌を始めたのが2013年の9月だったから、ちょうど半年くらい経った頃だ。「うたの日」ってなんだろう、と気づいてから、おそるおそる参加してみたことを覚えている。その頃はまだ1ルームしかなくて、その日の参加人数は37人だった。お題は「コーヒー」。結果はどんまいだった。♡も♪ももらえなくて、ずいぶんがっかりしたものだ。（ちなみにその日の花束は中牧さんである。）しょんぼりツイートをしているところにののさんが励ましリプライをしてくださって、翌日からも投稿を続けることができた。

ずいぶん初期の方から参加しているとは言え、あまり真面目な方ではないので参加率は低い。1000日を目前にした今現在で出詠は4分の1以下しかないし、花束（薔薇）を頂いたのも一桁だ。最近参加なさっている方の中には「誰だこいつ」となっている方も少なくないだろう。それでもわたしが自分のことを「うたの日育ち」だと自称しているのは、長月優として短歌をしていく上で一番最初の根っこの部分、短歌の楽しさみたいなものを育ててくれたのは、他でもないうたの日だと思っているからだ。

短歌を始めたばかりのとき、わたしはひとりぼっちだった。ただひとりで歌をつくって、ひとりで満足していた。Twitterをはじめて短歌の人を少しずつフォローしていっていたけれど、それはお友達を、というよりももっとずっと遠い憧れみたいな感じだった。

でも、うたの日では、誰かが自分の歌を読んでくれている、という実感があった。初日はどんまいだったし、次の日もビリだったけれど、♪がひとつだけもらえて、それはその時のわたしにとってとても嬉しいことだった。続けていくうちに♡や♪の数が増えてきて、それと同時にお話できるお友達が少しずつできて、短歌がどんどん楽しくなった。今Twitterで親しくさせていただいている人の、たぶん半分以上は、うたの日で知り合った方だと思う。継続は苦手だけれど、出たり入ったりしていたら、長月の歌が好きだと言ってくれる人もできて、褒められたり貶されたりしながら短歌を続けてきた。

ネットの、顔の見えない歌会であることに価値を見出さない人がいることも、後になって少しずつわかってきたけれど、それでもうたの日という場所がなかったら、ここで短歌の楽しさを教えてもらわなかったら、わたしは今短歌をしていないだろうと思うし、それはわたしだけではないだろうとも思っている。大学が忙しくなって、結社に入って、うたの日になかなか顔を出せなくなった後も、R2

らんぶりや記念歌会には里帰りの気持ちで参加していて、そういうふうに自分の都合を優先しても、ちゃんと帰っていける場所があるのは本当にありがたいことだ。
2016年の3月、角川主催の短歌バトルにてここのつ歌会のメンバーとして優勝をさせていただいたあと、うたの日の歌題が3ルーム「長」「()」「優」のお祝い題詠になっていて、そこでわたしのことを詠みこんでくれた方もひとりではなくて、うれしくてうれしくてほんの少し泣いたのは、ここでようやく白状しておく。

今となっては部屋も増えて人も増えて、もうお見かけできなくなった人も、まだお話ししたことのない人も、たくさんたくさんいるけれど、そうやってうたの日に人が集まっていることは、「うたの日育ち」長月優にとって（勝手に）誇らしいことなのだ。よい短歌、うまい短歌について考えていくとキリはないけれど、ただ短歌を好きな人たちにとって、これまでもそしてこれからも、うたの日が特別な場所であれば、誰かにとっての故郷であればいいなと思う。
場所を保ってくださっている方はもとより、誰よりもののさんには感謝してもし足りない。うたの日OPEN1000日記念おめでとう、そして本当に、ありがとうございます。感謝と愛を込めて。

うたの日とわたし／たかはしりおこ**(1)**

うたの日とわたし

たかはし りおこ
(@nashkrkr)

わたしが作歌を始めたのは2009年頃、高校生のときだった。その頃のわたしは、自分の好きなように、ただ短歌のリズムに身を任せて言葉を並べていた。いま、どこかから掘り起こされると恥ずかしくなるレベルの歌ばかりだ。

たまに立ち読みする総合誌の広告や、歌人たちの紹介文に必ずと言っていいほど現れる「所属」という文字で、うっすら結社というものがあることは知っていた。が、それは未知の領域でしかなく、検索をかけてみても会費も敷居も高いと感じるものばかりだった。

そんなわたしだったので、ただひとりで歌を詠み、発表の場もなかった。そして検索をかけて出てきた様々な大会やコンテストへ応募を始めた。「題詠」や「テーマ詠」というものをしたことがなかったので——むしろその言葉すら知らなかったかもしれない——テーマの自由なものへばかり応募した。

大学生になってもその姿勢は変わらなかった。ただ変わったことは、ツイッターを始めたこと。短文投稿サイトなら短歌を流すのにちょうどいいかな、と思ってのことだった。そして退会や再開を繰り返しながら、「うたの日」の存在を知ることになる。

2014年の春頃だったと思う。

毎日やっているのか。題があって……。投稿・投票のスケジュールはこう。なるほど。

面白いな、と思った。そこでは毎日たくさんの人が、同じ題に沿って歌を詠み、そして彼ら自身の投票によって順位を決めている。様々な大会に出してみても箸にも棒にもひっかからないわたしの歌は、どのように評価されるんだろう。気になった。

でもわたしは題詠をしたことがなかった。何回そのサイトを覗いても、抽象的でイメージが浮かばない題だったり、具体的であっても自分の生活においてイメージが浮かばない題だったり、いつも詠むのが難しい題が発表されていた。

数ヶ月、眺めて、詠んでみようと思いつつ、うまくいかずに終わった。しかし、6月17日、題『稲妻』。稲妻のイメージ……そういえば、と思い出すことがあった。実話をどうにか三十一文字に閉じ込めた。リズムを崩さないように字数を合わせるだけで精一杯になった。

「君の住む街は有名なんです。」とドイツ人稲妻研究家

これが、当時野崎アンだったわたしの、うたの日デビュー作だ。

うたの日とわたし／たかはしりおこ**(2)**

それから時々参加するようになった。題と向き合って、自分の体験から詠めそうなことをひたすら引っ張り出す。まさに「引っ張り出す」感覚。記憶のどこかにある小さな出来事を一生懸命探して、たぐりよせる。題詠に慣れていないわたしには、それがとても大変な作業だった。

しかし、その「引っ張り出す」感覚が、次第に「浮かび上がる」感覚に変わってきた。自分の体験に基づいていなくても、アイデアが浮かぶようにもなった。

わたしはうたの日のおかげで題詠を難しく思わなくなったし、題詠が好きになったし、(以前よりは)題詠が得意になった。

というだけの話でこのコラムはおしまいなんですが、NHK短歌で二席をいただけたっていう宝物のような出来事も、題詠力を鍛えてくれたうたの日のおかげだなって思っているので、書いてみました。本当は他に書きたいこともいっぱいあったんですけど。「うたの人」きっかけでツイキャスを始めたり、そのツイキャスの最中に壁ドンをくらったり、それがしばらくネタになったり……。

最近はなかなか顔も出せていませんが、大事な大事な「うたの日」という場所、これからも続けばいいな。ふらりと遊びに行きます。ののさん、いつもありがとうございます。1000日、本当におめでとうございます。

短歌ド素人、ネット歌会にハマる。

三田たたみ（みた　たたみ）
(@aqaqaqua)

２０１６年１月某日。訳あって人生初の歌会に参加した私は――真っ白に燃え尽きていた。
「短歌って面白いけど、ムズカシス……」
そもそも『回文短歌』という色物専門の私に、まっとうな短歌を詠めだなんてハードルが高すぎる。
私の辞書にネットスラングはあれど、ゲイジュツセイなんて単語は載ってないのだ。
でも「次回も参加しまっする！」と宣言してしまった手前、逃げるわけにはいかない。猶予は三ヶ月。
その間になんとかスキルアップしなければ……。
そんなことを悶々と考えていると、歌会の先輩〇氏がこう言った。
「『うたの日』に出しちゃえよ、ＹＯＵ！」
どうやらそこは短歌初心者歓迎の、いつも草野球をしている原っぱみたいな場所らしい。多少ヘンな歌を出したところでフルボッコにされることはなさそうだ……。
一通りルールなどを把握した後、２月１８日、私は満を持して『うたの日』へ参戦。
選んだお題は『湯』。投稿締切までの時間のなさに焦りつつも、なんとか一首ひねり出した。

湯あがりにすり寄ってきた猫が言う「ごはんくれなきゃすね毛生やすぞ」

……まず言い訳をさせていただきたい。お題をチェックするのが夕方では遅すぎた。私のようなド素人は、前日の夜から全力で取り組むべきだったのだ！
まあ己のヘンな歌のことはさておき、先輩方の歌に感想を投下していると、あっという間に結果発表。
思ったより高評価（当社比）でホッと一安心。
「しかし、この発表のドキドキは癖になるぜ……」
私はあっさりうたの日にハマった。
そうして毎日歌を投稿しつつ、『読み』の訓練も開始。
なるべく多くの歌を一首一首分析する――具体的には、同じ部屋に投稿された歌のすべてに感想を投下する『全首評』を始めた。
それを一ヶ月ほど続けてみたところ、成果は如実に現れた。どんな歌に人気が集まるのかが分かるようになってきたのだ。
一方、詠む方は……音符を３つもらえたら及第点。ハートなんて１つでももらえたら大喜び。
そんな状況が変化したのは３月１３日。私の好きな漫画をモチーフにした歌で、初めて薔薇をいただいてしまった！
……まあ、こんな奇跡がそう何度も起きるわけがない。翌日からはまた元のポジションへ。ハートは多少もらえても薔薇には手が届かない。

悶々とする中で迎えた３月３０日。この日のお題は、なんと『回文』！
「こりゃ負けるわけにはいかねーぜ！」と、気合を入れて絞り出した歌がこれだ。

　感情が向かい風にも溶け続け、ともに世界が向かうよ進化

結果を見た瞬間、私は叫んでいた。
「薔薇キター！　しかも秀歌！」
色物なはずの回文短歌を、短歌クラスタの皆さんが認めてくれた……そう思うと、嬉しくてちょっと泣きそうになった。
とはいえ、これはあくまで特別なお祭り。ノーマル短歌で結果を出せなきゃ意味がない。
私は奮起した。もともと小説家志望だった私は「異世界へ行って勇者になってモテモテに……」などぼんやり妄想する癖があったが、その妄想タイムをすべて短歌に回すようになった。それに比例して、だんだんとハートをもらえる日も増えていき。
５月２５日、再びお祭りの日がやってきた。お題『畳』だ。
「たたみ、畳部屋に出まっする―！」
と宣言するや、周囲から「薔薇取らなアカンでしょ」などと謎のプレッシャーがかかる。私は長時間トイレに篭り、どうにか歌をひり出した。

　アラジンの絵本を読みだす子の下で畳もちょっとうずうずしてる

そして、ミラクルが起きた――
「畳部屋でたたみが、歴代最高得点……だと……！」
続々と届くお祝いメッセージに狂喜乱舞。私は短歌の神様に祈りの舞を捧げまくった。（その数日後、Ｎ牧さんという方にあっさりと最高記録を更新されてしまったのだが、これは『たたみ三日天下』としてうたの日の歴史に残る……かもしれない）
その後は神様とも疎遠になり、いつものペースに落ち着いた。
そんなこんなで、気づけばうたの日デビュー１０ヶ月。
いまだに短歌を詠むのは手探りだし、ちっとも上手くなった気がしない。リアル歌会では相変わらずボッコボコだ。
それでも『うたの日』は楽しい。薔薇をもらっても、どんまいでも。
みんなで草野球するみたいに、ワイワイ騒げるこの素敵な場所に敬意を表して、私は自己紹介のとき「所属は『うたの日』です！」と言うようにしている。

知好楽

ささき　あんよ
ササキ アンヨ
(@shibainubooks)

短歌を始めて一年ちょっとになる。「うたの日」で毎日必ず出すという目標が無ければ続いていなかったかもしれない。恋人の壁と呼ばれるものがあるそうだ。最初の三ヶ月・一年・三年。これで考えると二つ目の壁は越えたわけで少なくとも趣味と呼べるようなモノになった。上達したのかどうかはまだ自分で判断出来るレベルではないが。いくつか賞に投稿したが、まだ何も取っていないし、「うたの日」でも五点以上取ったことも薔薇を取ったことも無い。それでも楽しい。短歌が好きだと胸を張って言える。好きこそものの上手なれ。下手の横好きという諺もあるが、出来れば前者であってほしいものだ。『之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず』。孔子の言葉だ。これが真理で正解であってほしい。それが下手な人の願いでもある。

私は文学部日本文学専攻である。しかし、短歌や俳句にはこれまで触れて来なかった。それを後悔してしまうほど、上手くなりたいし、他の人が出した歌の意味を深くまで取りたい。誰かを感動させるようなものを詠みたい。誰かを変えられるような世界を創りたい。千日記念の中で私が出したのは約二百首。五分の一ほどしか参加していないことになる。それが少し悔しい。それこそ、「うたの日」を代表するビッグネームである中牧正太さんや小川けいとさんや久哲さんやしま・しましまさんや西村曜さんの作る短歌にもっと早く触れていたら何かが変わっていたかもしれない。そう思わせるほどの熱を感じるのだ。

そんな可能性を覚えてならないのはやはり、「うたの日」という場所の持つ魔力が関係しているのかもしれない。毎日お題が発表されてそれに対して投稿する人々。気にかかる歌には音符やハートや評を入れてインスタントに自分の意志を表明出来るのだ。そして、これまでに歩んだ歴史も簡単に振り返って懐かしめる。結果発表までは匿名なので、自分が多くハートを入れた人という項目を見ることで好みの世界観を再発見したり、ハートを多く入れられた人という項目ではもしかしたらその人とは気が合うかもしれない。実際、「うたの日」繋がりで会ってみて友人になったこともある。ここは単純なバトルではなく、短歌による交流の場所だと言えるのだ。

千日記念でこのコラムを書かせていただいたのはのの字さんへの感謝の意を示すものであるのと同時に二千日三千日と続いていくことを希望する、一介の短歌人としてのささやかな祈りである。私も三つ目の壁を越えて出来れば人生を通しての趣味としたい。生き甲斐にもなり得るものを貰い受けた「うたの日」に改めて謝辞を。

追伸とリプライ数が増えていく連綿となる歌は大河に

私がうたの日を続ける理由

むらたかおる
村田馨
(@kaoru_murata)

私は短歌以外に弓道を嗜んでいる。短歌と弓道。両方やっているとその共通点が多いことに気づく。まず、どちらも一定の数をこなさないと上達は見込めない。弓道の場合は矢数と呼ぶが、短歌の場合は歌数となる。しかし、数をこなしたからとって上手くなるわけではない。特に誰にも見てもらわずに、ひとりで稽古することはよろしくないと考えられている。他人の目を通して、どこが良かったか、どこが良くないか。自分では気づかないことは多々あるものである。加えて、弓も短歌もサボれば技術は低下する。どちらも継続することが必要条件である。

弓道は的に中てることが目的とされるが、中ったから良いというものではない。射形が悪くても「たまたま矢が的にささった」ということはよくあることである。短歌の場合はさしずめ「選」が「的中」に相当するだろう。選されたからといって、必ずしも良い歌であるとは限らない。しかし、良い歌であれば、選ばれるものである。名歌、秀歌ならば人口に膾炙され後世に残っていく。弓道には正射必中という言葉がある。中ったから正しい射とは限らないが、正しい射は必ず的中するということである。

そして「下心」を持って弓を引くと失敗するものである。「的に中てよう」あるいは「こいつはもらった」などと気持ちが昂りすぎていると得てして矢はあさっての方向へ飛んでいく。同様に「選ばれたい」「これなら花束だ」という気持ちが先行するといい歌にはならない。読者は無意識のうちに作者の下心を見透かしているものである。弓道ならば「無心無欲に引く」、短歌ならば「無心無欲に詠う」ことが上達の秘訣なのだろう。私にとって、どちらの世界も道のりは長い。

マクラが長くなった。「うたの日」はネット上の短歌投稿サイトのなかで極めて特異な存在である。いわゆる「ネット歌会」のように一首について深い議論が交わされるわけではない。「うたのわ」「うたよみん」のような投稿だけに特化した場でもない。自分はそんな「うたの日」を専らトレーニングの場として活用している。好きな時に好きなだけ好きなように利用する、出入り自由なトレーニング場。ここでは限られた時間で即詠し、コメントをよせる。短い時間で「詠む」そして「読む」のも短歌の基礎トレーニングのひとつと心得ている。ありがたいことに、拙作にコメントを寄せて下さることもある。ゆえに、自分もできるだけ多くの歌を論評したいと考えているが、なかなか時間をひねり出すのが難しい。通り一遍なコメントしか残せない場合や、解釈できない歌は「わからない」とひと言だけの場合もある。作者による作意がなかなか読者に届かないのと同様、読者のコメントが作者に伝わるのも難しいものなのだが、できる限り詠みっぱなしは避けたい。しかも仲間褒めに陥ることのないよう、是々非々の立場で臨んでいきたい。どこがどのように良いのか、良くないのか具体的に書

私がうたの日を続ける理由／村田馨(2)

き述べたい。とはいえ、堅苦しくないのが「うたの日」のいいところ。論ずるが過ぎないように気をつけたい。

短歌の愛好家が多く「うたの日」を活用できるよう、いつまでも賑わいが続くことを願う限りである。弓の世界にも、こんな弓道場がひとつくらいあってもいいものだ、と時として思うこともある。

うたの日を辞めた日

ぬまじりつたこ
沼尻つた子
(@numatsuta)

こんにちは。沼尻つた子と申します。

2005年、枡野浩一さんのかんたん短歌blogを知って短歌をはじめ、2006年より結社「塔短歌会」に所属です。

うたの日の歌会には2015年5月7日から12月31日まで、ほぼ毎日参加していました。

参加のきっかけはTwitterでした。何人もの歌友がつぶやいていた#うたの日 というハッシュタグって、何なんだ？とサイトに辿りついたのです。

まず、「まいにち歌会やってます。」の看板に驚きました。

投稿から数時間で、自作の得票や批評が分かってしまうシステム。

以前よりネット歌会には幾つか参加していましたが、投稿〜結果まで数週間はかかるのが通常でしたから、うたの日の素早さ手軽さは新鮮で魅力的でした。

お題もバラエティに富み、かつて参加していた題詠マラソンを彷彿とさせました。

まいにち好きなだけ、歌会ができる。浮き立つ気持ちのなかに、毎日1首つくれば毎月結社誌へ出詠する作品のストックができるという、こすっからい考えもありました。

私は主に、21時開始・24時結果発表の歌会へ参加していました。

入浴中に歌が浮かぶので、21時ぎりぎりに風呂から飛び出し、髪の滴をふりはらいつつスマホを握ることもよくありました。

同じ題を詠んだ、さまざまな歌と出会いました。

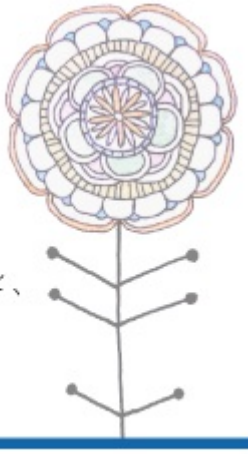
吹きだしたり唸ったりじわっとしたりして、票を投じて評を寄せました。

うわーいい歌だなこれ、とハートや音符を付けるのが、楽しみでした。

やがて私の短歌も、ありがたいことに票を得るようになりました。

当時は得票トップの歌には、花束マークがついていましたね。

Twitterで、歌友たちのようにハッシュタグをつけ自作をツイートするときの「花束ありがとうございました」の一言が、とても誇らしかったのです。



いっぽう、自分の歌に票も評もつかないことも、しばしばありました。

ひそかな自信を持って出した歌が、素通りされました。

逆に、こういう雰囲気は支持されるだろうと出した歌が、まんまと、そう、まんまと、花束を得たりしました。

うたの日を辞めた日／沼尻つた子**(2)**

たのしく、わくわくするものだった歌会が、だんだん、どんどん、苦しくなっていきました。

自己顕示欲、名誉欲、虚栄心、射幸心、嫉妬心、優越感、劣等感。
私の短歌を、私を、見てほしい、認めてほしい。褒めてほしい。
なにかしらの創作・表現をしていれば、どうしてもついてまわる欲です。
でもだんだん、その副次的な「欲」のほうが、表したい・創り出したい、という、本来の原動力である「欲」に、優ってしまってきている。
そして、自分の歌ばかり見て、他の参加者の歌を、まともに鑑賞できなくなっている。

あるとき、主催・ののさんがうたの日を「草野球の場」と表現されていました。
私は、欲の鉄ガチガチのスパイクで、草野球場を踏み荒らしていました。

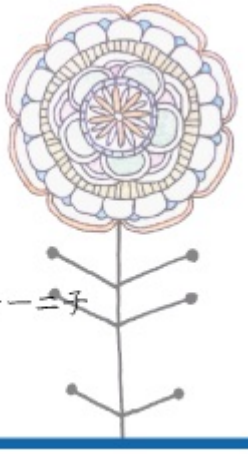
最後の参加と決めた大晦日、私は旅行先からスマホで投稿をしました。
送信ボタンをタップしたのち、ほっとしたのを憶えています。

あれから一年が経ちます。

うたの日に投稿した歌のうち幾つかは大切なものとなり、2016年に上梓した初めての歌集『ウォータープルーフ』へ収録しました。
草野球場がなければ、生まれなかった歌たちです。
開催1000日を迎えるうたの日の賑わいをみて、あのまま参加を続けていたら、私はどうなっていただろう、と考えます。
でも、考えるだけです。どうなりようもないのです。

トップ得票のマークはいつの間にか、花束から薔薇に変わっていました。
毎日あたらしい、とりどりの薔薇たちが、草野球場に咲いています。

私は少し離れた場所に立って、ときどき、その香りをかぎます。



捨ててきた「もし」の花から咲く花はあんなにきれいで見てはいけない　沼尻ズッキーニ子

奇跡のような場所で育って

かどわき　あつし
門脇　篤史
(@508atsu)

うたの日に投稿しはじめて２年半が経とうとしている。短歌を投稿すれば、その数時間後には結果が出るというシステムに感動して、投稿をはじめた。きっかけはなんとなくだったけれど、数ヵ月後にはとても大切な短歌の場になっていた。今はあまり投稿できていないのだけど、とても大切な場であることに変わりはない。

僕が投稿をはじめた頃、部屋数はひとつしかなく、トップを取ると薔薇ではなく花束がもらえて、村田馨さんやたかだ牛道さんが毎日投稿されていて、かにたべーたさんの正体は明かされていなかった。そして、そのころの僕は太田宣子さんの歌がとても好きだった（もちろん今も好きです）。

太田さんの文語交じりで旧仮名の短歌は、口語新仮名の投稿歌の中でひときわ輝いていたように思う。ただ、それゆえに、たいていの場合は太田さんの歌だとわかってしまうのだ。これは太田さんの歌だと思いながら読む。これでは、匿名の意味があまりない。なので、僕も文語混じりの旧仮名で短歌を投稿するようになった。場をかく乱してやろうみたいな、よくわからない理由で。

なんとなくはじめた文語交じりの旧仮名だったけど、意外と僕の短歌にフィットしていた。そこから、うたの日の投稿を通じて旧仮名で作歌すること、文語で作歌することを考えていった。一年以上前にうたの日に投稿した歌を誰かが引いてくれて、改めてみてみると、仮名遣いや文法に瑕疵があったりして、とても恥ずかしかったりする（仮名遣いは今でも間違えるけど…）。それでもうたの日での試行錯誤が、間違いなく、僕の短歌の土台部分を形作っている。

現在も相変わらず文語交じりの旧仮名で歌を作っている。なんとなくはじめたのに、今では当たり前のように。きっかけなんてそんなものだろう。こういうたくさんの「なんとなく」を経て、僕の短歌は形作られていった。そして、その「なんとなく」の多くはうたの日上で培われているように思う。だから僕は、プロフィールのようなものを書く機会があれば「うたの日育ち」と書く。

うたの日は短歌投稿の「場」である。逆に言えば「場」でしかない。うたの日それ自体に教育機能はないし、仲間を作る機能があるわけではない。しかし、その「場」が存在するおかげで、短歌について考えることもできるし、仲間を作ることができる。現在でも、連日、１００人以上の人が短歌を投稿している事実はある種の奇跡のように思える。さらには、投稿仲間たちが協力して、１０００日の記念碑を建てようとしているのだ。もうね、すごいよね。

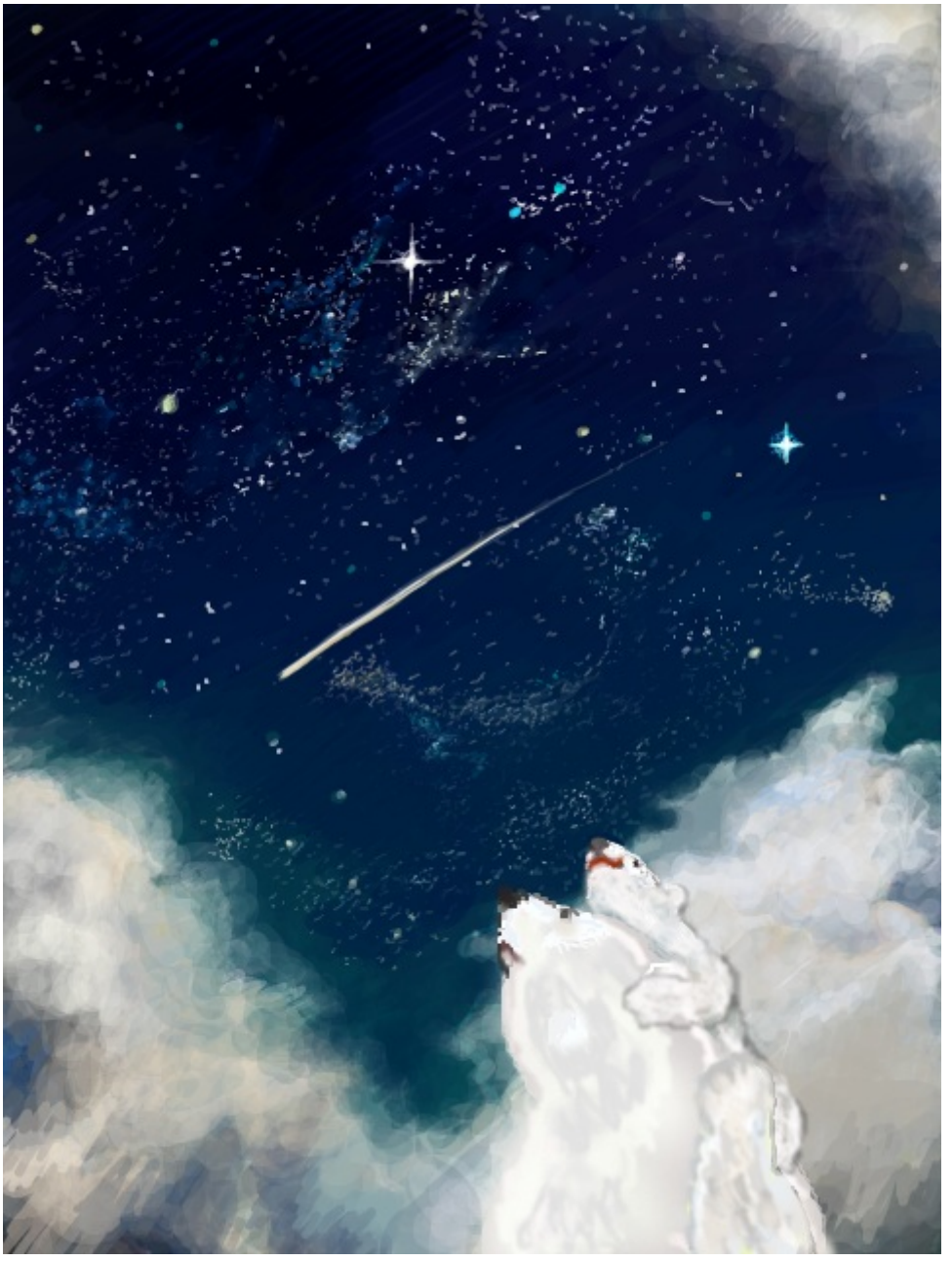
そんな場所に関わることができてとても幸せに思うし、同時に誇りにも思う。これからも、時々、うたの日に投稿をしていきたいと思う。ちょうどあれだ、実家に帰省するような感じで。

うたの日
短歌んか
1000日記念号

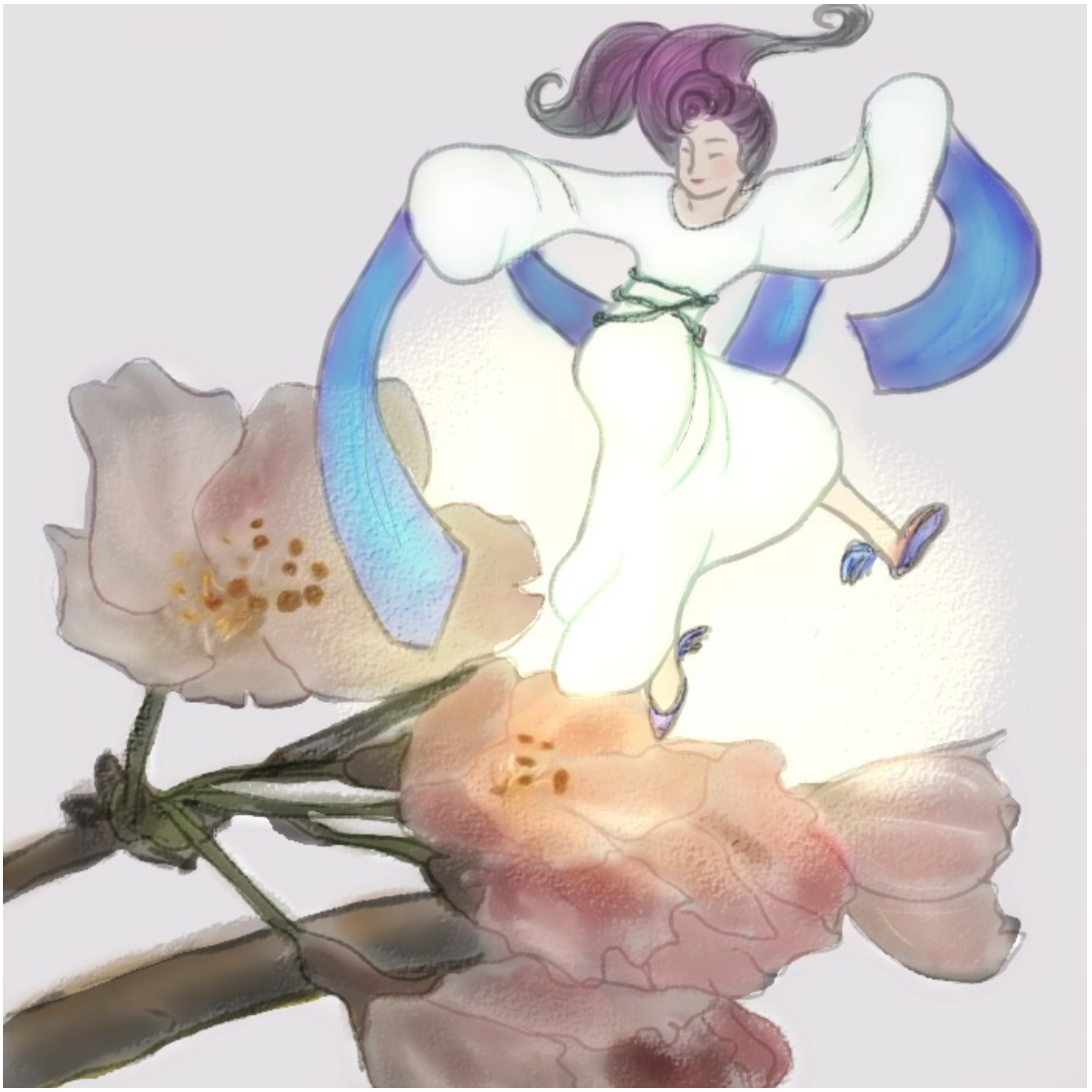
自由帳
みんなのみんなのうた

ののさんが「みんなで自由にページを作ってね」と言ったところがこの記念号のはじまり。
詠み人たちが自由に作ったページ、それをひとつにまとめています。

花占いのように名前を繰り返し思い出しては、忘れてしまう



神さまが人を殺すのではなくて望みが人を殺すということ



自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日 短歌 1000日記念号

2014年05月15日　『 苺 』

サンチャとは何と聞けずにうなずいた　わたしいつまで野苺さがし どんまい！

2014年08月12日　『 いつ 』

君がいる、これはいつだろうどこだろう誰のものだろう、ただ君はいる どんまい！

2014年11月06日　『 無 』

恋人になれないみたいああこの好きが無条件になってしまうよ どんまい！

2015年05月18日　『 片 』

ばかやろう死んでなるかと裏返る車ひとつぶ片付けており どんまい！

2015年06月08日　『 早 』

早く来て服に毛玉があっていいできれば靴はないほうがいい どんまい！

2015年07月03日　『 かいしんのいちげき 』

ときめきはサードライナー隠してよ少しくらいは恋人のこと どんまい！

2015年08月11日　『 水着 』

あかるみに心置きなく息を吸うビキニの森を抜け出してきて どんまい！

2016年03月14日　『 男 』

異性交遊なところもあるけれどほんとは男女交際なひと どんまい！

2016年03月29日　『 空気 』

冒涜をゆるしあそばせ月ひとつ　玩（もてあそ）　びたるエアホッケーを どんまい！

照屋沙流堂のえらぶ中牧正太作品30首 (うたの日首席100回記念)

自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日 短歌1000日記念号

少年がこんなにうれしそうなのに左右の絵には間違いがある

ぼくの手がぼくの体に服を着せ通夜の支度を整えている

してやれる全部全部を為し終えて禿げタンポポはまだ空をみる

むずかしく考えながら電柱の影を歩けば電柱がある

それからはアンドロイドに替へましたとても仲良く暮らしてゐます

養豚と百回言うと養豚のことを忘れてうまく踊れる

３Ｄ映画のあとの手のひらの雨粒もうひとつ来い雨粒

焼け焦げて浜辺に着いた棒っきれ少しゆっくりしてったらいい

グランデは意外にでかく僕たちは初めて顔の全部で笑う

今日会った人は六名だれもみな何かしながらわたしと話す

さよならの傷に効かざる鬼怒川の固形燃料ながながと燃ゆ

父に説く思春期よりもやわらかく紅葉マークの上下について

よかったら歩きませんかさよならへあのどうしようもないさよならへ

結論に君は近づくいくつかの飛べない鳥の名をあげながら

枝が実の手を離すのか実が枝を千切りゆくのか林檎や吾子や

夜に合う歌を薦めるユーチューブもうその件は終わったんだよ

文語にてともに学びし民法に禁じられつつただ雨宿り

おまえまた人を信じてみるのかい紐と錘(おもり)は垂直を指し

すみれ道ゆく子の靴のそのままでいてほしい青いてくれぬ青

長病みを明けし君との昼オセロ二寒五温の弥生ことしは

がりりごり使い込まれた合い鍵を渡されながら飴玉を噛む

費やした時がいまさらずんと来て離し忘れる給湯ボタン

外は池ゆうべやさしいありがとうごめんなさいがずいぶん降って

君の椅子が冷えてゆくまで目をとじる　次に見るのは何いろの部屋

ありがとう楽しかったと笑む君の明朝体になりゆく言葉

センセイと呼ばれる人と呼ぶ人の深いくちづけ、あとピスタチオ

湯葉を待つ、今ごろは君ひとりではないことでしょう、少し固まる

ややこれは秋が強めだ、君が来ない台風が来るジャムがあかない

あきらめろと瓶の手紙を突っ返す地球の七十一パーセント

短編の僕らをのせて井の頭公園行きのスロウボートは

中牧正太氏のうたの日首席100回を記念し、うたの日の一覧機能から中牧作品の30首を厳選しました(表示は掲載逆順)。

中牧正太試論（うたの日首席100回記念）（１）

はじめに

「うたの日」という、毎日題詠歌会が行われてるウェブサイトがある。ここでは、1日3〜4の題詠の部屋があり、24時間のあいだに短歌を投稿、その後3時間のあいだに投票を行ない、得票の一番多い者が首席となる。先日（2016/05/27）、このサイトで快挙が成し遂げられた。
すなわち、首席通算100回の快挙である。
達成者は、中牧正太氏。
照屋は、彼と一度しか会ったことがなく、それほど仲が良いというわけではないが、彼の偉業を称え、同時に、彼の作品について考えてみたいと思ったので、ここに試論をこころみてみる。
いずれ書かれるだろう中牧論の先鞭の、その先の風圧にでもなればさいわいである。

オールラウンダーの肖像

中牧作品の印象は、一口に言ってオールラウンダーのような上手さを備えている印象である。これは、「うたの日」が題詠歌会であることも少しは影響しているかもしれないが、与えられた題をどのように短歌的に処理するかという課題において、さまざまなバリエーションを持っていることを意味する。

〇スポーツをからめた処理

「彼のこと信じてあげるべきだろう」中継ぎエースは腕で抱かない　『エース』
川の辺の恋でみがいた渡辺のアンダースローにはかなわない　『投』
サヨナラのヒーローインタビューでしたお返しします自由を君に　『ヒーロー』
春未満　遠くに君を見つめればロングシュートの実りがたきよ　『長』
強かったころの明治のスクラムのイメージでゆく求婚の海　『大学』

題に対して、恋愛模様を野球、サッカー、ラグビー、（ビリヤード）など、スポーツに重ねて処理するのは、落語の三題噺的な手法とも言える。

〇性別変更

絵葉書でこの身をつなぎとめる人、大志も良いがわたしを抱け　『葉』
迷うのよこの不自由はやさしくてあの不自由は仕事ができて　『自由』
あの人へ帰るあなたのシャツにこのミートソースが飛びますように　『パスタ』
新品に戻らないけどできるだけあなたを容れるための空っぽ　『空』
ほんとうにわたしでいいの印鑑は首をかしげているようだけど　『印』

「うたの日」の参加者は女性が多いので、男性風の作風は支持を得にくかったり、特定されやすかったりする。そういう点でのフェイク的な理由もあるかもしれないが、逆にいうと、多くの女性の厳しい審査に晒すわけでもあり、リスクもある。これは中牧氏に限った問題ではないが、短歌における女性性の表現において、女性言葉でジェンダーを表記する方法については、俵万智の文体以降、大きく変化していないようだ。

〇旧仮名

ぎりぎりで隠し通してくれたまへ高等学校制服女性	『ギリギリ』
諍（いさか）ひて帰る男の軽トラの梯子は月へ飛び立つ角度	『はしご』
それならば吾もときどき壊れやう君の昔の車のやうに	『昔』
それからはアンドロイドに替へましたとても仲良く暮らしてゐます	『それから』
数学に長けたるきみに想ひ出が数へ切れぬと云はせたいなあ	『学』

これも題詠歌会の性質上、匿名性を出す演出の一つとみることもできる。彼の傾向的に、旧仮名を使用するバランスとしては、少し照らいのある内面の吐露や、現代的、未来的のシーンに、ある抑制として旧仮名を用いているのではないか。

〇恋愛

はちみつを紅茶に入れるブログとかもうやめていい僕がいるから	『はちみつ』
雨ですね給料半分あげましょう君も半分くださいとわに	『給料』
こっちだと思ったほうと反対の電車に乗ってお嫁においで	『ドジ』
はじめましてどうぞよろしく赤い傘その役割をいつかください	『デート』
雨だけどいっそ僕ではどうですかつぶれた店の軒先だけど	『だけど』

ふつう、性別変更して歌う歌人は、気持ち悪がられるかもしれないが、彼がそうならないのは、性別変更以上に、がっつりとアプローチする短歌も多いからかもしれない。ユーモアを漂わせながら、ちゃんと告白していく姿勢は、リアルが充実している背景も予想させる。

〇言葉、文字

短編の僕らをのせて井の頭公園行きのスロウボートは	『船』
サンチャとは何と聞けずにうなずいた　わたしいつまで野苺さがし	『鋏』
ああそうかすべての恋は終わるのだ平家蛍が「ん」と書いてゆく	『虫』
ありがとう楽しかったと笑む君の明朝体になりゆく言葉	『明』
つかまえることの上手な人たちの渋谷一面ライ麦畑	『本のタイトル』

いわゆる詩的な、詩言語としての形容も、言葉遊びがいきすぎず、現代短歌の、平明でありながら、印象的に処理するトレンドに沿っている。
これがあざとくなるかどうかのバランス感覚は、つくり手よりも読み手のそれであろう。

作風の分析など

項目ごとの書き出しはこのあたりにしておいて、彼の重複するモチーフについて考えてみよう。彼はしばしば、同一モチーフ（あるいはくせ）を持っているようで、ここに、彼の作劇術（ドラマツルギー）と、技術的な発展を辿れるか。

◯色の表現

けんかしてあいだをとった紫のマーチで行こう行けるとこまで　『紫』
赤色を好んだ君の紫のネイルおそらく彼氏は青木　『赤』
キレンジャー以上アカレンジャー未満、僕はあなたを助けていいか　『橙色』
黄色黒赤の誰もが道を断つ僕たちならば青へ飛ぼうか　『踏切』

時系列で並べた。「赤と青のあいだの紫」というモチーフは２回使われ、次には題「橙色」から「黄色と赤」に分解している。そして踏切ではさらに多色へ展開されている。

◯風俗の照らい

ふるさとの山河しずかに元気あり風俗店もがんばっており　『元』
ふるさとの駅はほほえむ黒松もソープランドもがんばっている　『泡』
モーテルの一つしかない町であるモーテルがんばれ僕もがんばれ　『ラブホテル』

これも時系列だが、これはあまり進展というよりも、同一モチーフである。彼の中での風俗は、都会ではなく（おそらく）地方の風景を伴っていて、その地方の応援と掛け合わせることで性風俗の存在を肯定しようとしている。これは彼一流の照れもあると思われる。

〇尋ねる、という関係性

ボランチの意味を教えてくれますかまた四年後もめんどくさそうに　『サッカー』
シボレーとあれは読むんだ　真夏日の君に教わる二つめのこと　『アメリカ』
このＢの意味をきくのは幾度目か初めて地下で失恋をする　『Ｂ』
次の冬も尋ねたいから忘れたいその鍋を持つ手袋の名を　『手袋』

同じことを何度も尋ねる、という行為を、愛情の行為に彼は換える。この他者性が、彼の作風が独りよがりになるのを防いでいるように思える。

〇間違い探し

間違いを見落としがちな八月の瞳四つで見る左右の絵　『４』
早春の間違いさがしああこれか左の絵には太陽がある　『間』
少年がこんなにうれしそうなのに左右の絵には間違いがある　『絵』

これも時系列だが、３つめの作品が、記念すべき首席100回目の作品である。間違い探しのモチーフでは、彼の作品がより詩的に発展しているのが如実にわかる。彼の作風は、才能によるよりなお、努力に預かっていることがよくわかるのだ。

おわりに、内省的なリリシズム

最後に、照屋がもっとも評価する中牧作品の30首選から、いくつか挙げ、照屋のおもう中牧作品の優れた点について書く。

ぼくの手がぼくの体に服を着せ通夜の支度を整えている

誰かの通夜に参加する主体の、通夜の相手との関係や、主体の内面のことを、主体の身体をバラバラに描写することで伝える表現はみごとである。

３Ｄ映画のあとの手のひらの雨粒もうひとつ来い雨粒

3D映画という、立体的に見えるが立体ではない映像表現に浸ったあとに、雨粒というかすかだが確かに立体物であるものに触れたく思う心情を、命令形にすることで、ある時代的な切迫感まで帯びた表現になっている。

グランデは意外にでかく僕たちは初めて顔の全部で笑う

　こんなに楽しくて、幸福で、安心したシーンを描けることが不思議に思う。

よかったら歩きませんかさよならへあのどうしようもないさよならへ

　これは「結婚」という題で、そこからこの作品を導き出すのもすごいことだが、「歩く」と「さよなら」だけで、結婚生活の質まで浮かび上がらせているのは驚きである。

がりりごり使い込まれた合い鍵を渡されながら飴玉を噛む

　複雑な、怒りも悲しみもちがい、嫉妬、とまでいかない感情を、ユーモアをふくんだオノマトペで処理した名歌だと思う。

30首すべて挙げるわけにはいかないので止めるが、照屋が選ぶ作品は、おもに、これまで述べてきた、オールラウンダーの彼が、饒舌な言葉を抑制し、内面の、まだ言葉になっていない、あるいは、してはいけない感情について丁寧に詠う作品に引かれて選んでいるようである。

中牧正太という、歌人について、照屋は、ロジカルな表現技法を持ちながらも、それによって内省的なリリシズムを表現する、現代的な詩人の一人であると思うのである。

自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日 短歌 1000日記念号

2016年

10月19日　うたの日　題　田中

「体操選手と同姓同名で伝わらない田中佑典です。」

10月21日　うたの日　題　明日

明日　明後日　明々後日　四日後を「ししあさって」という子どもたち

10月22日　うたの日　題　前

前すら見えない過集中全体見る仲間一人いる幸せ

10月24日　うたの日　題　ココア

純ココアにミルクと砂糖を気分で加えていく遊びがしたい

10月25日　うたの日　題　登

野球かと登坂車線（とうばんしゃせん）と読んでいたのももう十年以上前

10月31日　うたの日　題　わざわざ

わざわざとか建前と思いつつこちらも頭を下げるわざわざ

11月1日　うたの日　題　反対

「変態の反対はやっぱり変態」というのは変態の言葉

11月2日　うたの日　題　回

十二時回る終電なくなるオールせず親を呼ぶ十九歳

11月3日　うたの日　題　海

海大が正式の略称である北大生になってみている

11月4日　うたの日　題　嬉

嬉々として樹木希林・内田裕也夫妻の掛け合いを見る五歳児

11月5日　うたの日　題　音

音程は諦めて歌詞の面白さで勝負するカラオケ大会

自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日 短歌 1000日記念号

11月6日　うたの日　題　カード
ポイントカード百枚は持ってます使っているのは十枚ほど

11月7日　うたの日　題　シンプル
機種変するときにシンプルプランを理解することの難しさ

11月8日　うたの日　題　連絡
連絡帳を覗き先生と親の本音を垣間見た小２

11月9日　うたの日　題　午前
毎晩午後１０時寝の僕に忍び寄る午前零時以降の魅力

11月11日　うたの日　題　祭
「秋祭り輪投げの店の千円札あれ何でうまく入らない？」（１９歳大学生）

11月12日　うたの日　題　親
「子育てだけしたい」から「結婚もしたい」になった今日も人恋し

11月13日　うたの日　題　？（疑問符）
「なぜ山に登るのか？」「そこに山があるから。」みたいに生きていきたい

11月14日　うたの日　題　先生
先生という概念そのものが嫌いで教育学部入学

11月17日　うたの日　題　アスファルト
アスファルトとウッドチップを交互に歩く「馬車馬なの？」と君は

11月18日　うたの日　題　ロケット
「首に掛けたロケット」って危なくない？と初めて本で見たときに

自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日 短歌 1000日記念号

11月19日　うたの日　題　待
待つのは得意だよ一日待ったことあるよ　　でも早く来てほしい

11月21日　うたの日　題　「ん」で終わる歌
この題を選んでしまう　だがしかし「ん」で終わる歌など思いつかん

11月23日　うたの日　題　「恋」の字を使わない恋の歌
どうなってんの最近オナニーする気がなくなって心臓痛い

11月24日　うたの日　題　飽
「ねぇ、何か私たちって飽和水溶液みたいな関係だね。」

11月25日　うたの日　題　真実
「真実はいつも一つ」ならばかなり幸せな世界になってたね

11月26日　うたの日　題　女子高生
『女子高の女子高生と男子校の男子高生の格差』

11月27日　うたの日　題　童貞
童貞と笑った君の目の前で処女でも卒業してやろうか

11月28日　うたの日　題　最近怒ってること
行間を読むのが苦手　そんな時ちょっと教えてくれてもいいじゃん

11月29日　うたの日　題　自由
もちろんさ自由は大事それでもあこがれている普通というのに

11月30日　うたの日　題　眺
目に兆と書くわりに眺めるってすごくはないと思いつつ一人

12月3日　うたの日　題　好
好きですっていきなり言ったら引かれるだなんて教科書に書いてた？

「恋しくて」　多香子

雪降れば真白く染まる大学の庭とあなたと古き図書館
君という器がいちばん鮮やかにわたしをわたしのままで咲かせる
記念日でも何でもない日にうす紅のシクラメン買って逢いに行きます
粉雪が酔い冷ますころ鐘がなるガラスの靴をなくしてしまった
紅椿ぽたぽた落ちるかなしみを互いになぐさめ歩いて行こうか
こうやってあなたの両手に抱かれると巣ごもり卵の黄身のようです
消えてゆく思い出の如くしののめに君の腕の中で見た雪
日暮れにはあなたが帰ってくるようで木戸から覗けど風がふくだけ
夕風が他人の空似とあざわらう駅前であ、とふり返れども
あのひとは元気でしょうかと想う日に神田川にも都鳥飛ぶ

りむたん

終栗夢（ついくりむ）のうたの日短歌

ケーブルを挿した体に流れ込む文字のかけらが鼓動している
2014年05月27日『つなぐ』

そわそわと髪を撫でつけ公園の時計を睨む　時間まで、あと
2014年09月26日『睨む』

一年に一度くらいは3段のアイス食べたい3段のやつ
2015年12月24日『年に一度』

うっとりと眠たい午後九時やることもやらないことも決めなくていい
2016年05月19日『21時』

おおむかしつうしんケーブル繋いだら線がいらなくなっても友だち
2016年05月27日『ジェネレーションギャップ』

海底で歌い続ける白クジラ鳥に吊られて飛んだ日のこと
2016年05月28日『Twitter』

はるかなる電子の海で再会の約束をしたログが漂う
2016年05月30日『遥』

一番にあなたが教えてくれた歌忘れる前にまた歌わせて
2016年08月17日『ボーカロイド』

起きるたび同じ言葉を繰り返すアンドロイドに手向ける弔花
2016年09月10日『自由詠』

童話集　(雀來豆)

自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日 短歌1000日記念号

(1)
夜になると桃がはなしをしてくれた　お婆さんとか川のはなしを
年老いた木馬の歓送パーティーで短い短いパレードをする
砂浜で犬が見ている金髪の少女のように輝ける骨
冬空にレンズを向ける少年に微笑み返すちいさな王子
海亀の昔語りが尽きたならペットにするかスープにするか

(2)
裏庭の古い林檎の樹の下で泣いてちゃいけないという約束
裏窓のほこりの上に指で書く梯子をのぼれ弟ねずみ
長いあいだきみはペローのものだった　今この部屋で眠れる姫は
少年を見つめるなかれ校庭で拾った星を運ぶ途中の
誰もみな物欲しげな夏　水面に映った顔が骨を咥える

(3)
夢のなか僕と獏との戦いを猫がときどき見に来てくれる
少年と恋の死骸は渋谷から全速力で千葉を目指した
サディストの副店長の眼を盗みぼくらはマネキンを解き放つ
あなた初めて正義の箱を開けてみた子どもみたいに泣いているのね
なぜ夜と朝のあわいを縫うように現われるのか象の記憶が

(4)
悪人とばかり思っていた母が魔女だと知った夜のキッチン
ころころとおにぎりさえも行き過ぎてぼくには今日も手紙は来ない
氷上に描いた円に囚われて踊り続ける少年と靴
わる者が泣いたら終わり夕焼けに向かって帰る夏帽子たち
ドアノブの辺りに浮かぶ年輪は生きただろうか花降る森を

(5)
はてしない物語から帰還した亀の甲羅の大きな疑問符
ぼくが会社で煙草を吸っている隙に宇宙を走れぼくのくるぶし
ごめんねいろんなことを訊きすぎて　泥のように眠っているSiri
Hi Roomba！行ったり来たりお茶の間をきみが走るとぼくは嬉しい
果てしない円周率と向き合って山椒魚は悲しんでいる

(6)
トーマスが電車になって菱形のパンタグラフを光らせている
名も知らぬ楽器のようなふりをして音楽祭で売られているパン
声がまだ発明されていないころ何処にいたのかぼくらの歌は
夏服に嘘閉じ込めた少女らの蜥蜴のように青ざめる舌
路地裏に集え誕生日の子どもたち冷たい息で夜を払えよ

風の日に けら

デジタルの雲に預けた僕達の歌はどこかでほら雨になる

あの夏に感想文を抜け出してもう戻らない青いドラゴン

サーカスの旅の一座のジンタッタ　クラリネットの行ったり来たり

扇風機　回れ世界をかきまわせ　まだ人類に風は見えない

ホチキスでパチンと綴じて　はい、おしまい。そんな普通の一日がいい

けら

自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日 短歌 1000日記念号

うたの日

1000日　おめでとう♪

午後九時が起点終点「うたの日」を知って私の時計がかわる　月花

本棚の背表紙なぞり本日のお題を見つけ指折り始める　もも

日毎夜毎コトバの星の降りそそぐののじの森ののじの丘に　永山雪

うたの日の
千日記念の
歌人さん
歌を詠んだら
みんなと遊ぶ

ｎｏｎたん

ぼろぼろと言の葉こぼれる日々ありてののじもじもじうた歌う人　ふたり

それぞれの旅の記憶がまじわってあらたな朝が動きはじめる　太田青磁

ののさん＆うたの日　いつもありがとう♪
読書メーターで短歌を始めた私達にとってうたの日は外の世界への
はじめの一歩でした。これからも永遠に続きますように。

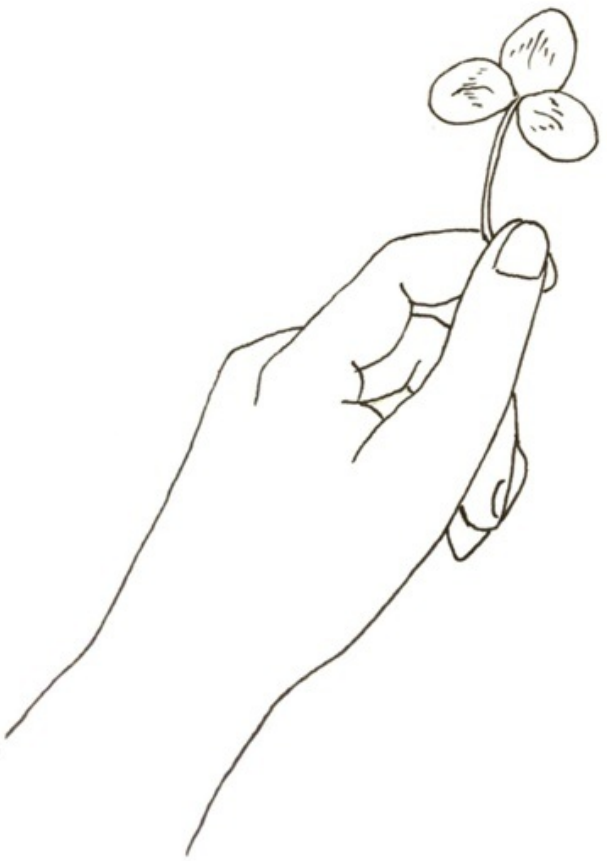
読書メーター・夜な夜な短歌コミュ有志より

自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日
短歌んか1000日記念号

サンキュー

Thank you



葵の助
太田青磁
楢原もか
（木原ねこ）

合同短歌集

葵の助 @amaigake

ピーマンとセロリたっぷりみじん切り子らが喜ぶミートソースは

子が握るパトカーきみはまだチョコを取られるような罪しか知らない

息をするたびこそばゆい風が吹く筆箱に歯を放り込んだら

苛立ちに任せ一気に炒めたらしゃっきり出来てなんか悔しい
次々と子供ら巣立ち３か所の天気予報をつい見てしまう
線を引く覚束ない手を思い出す娘の定規で背を掻きながら

楢原もか（木原ねこ）選　三首

暖房を強めて手早く着替えさせ冬生まれの子の沐浴忙し
しょーもないおもちゃ欲しがる子を宥め温泉宿で饅頭を買う
大人２枚、子供１、いや、子供２枚　車窓から見る四月の海だ

太田青磁選　三首

太田青磁　@seijiota

名前のみ大きく書いた自由帳そこに無限の世界ひろがる

自転車の補助輪外し公園の草にまみれて転ぶとこから

テーブルに夕餉と並ぶ置き手紙「さんすうノートに丸つけしてね」

結婚は予想したより悪くないこんな俺でも親になれるし

得意げにいちばん上のボタン押すエレベーターにて背伸びしながら

自転車の前かごに乗る幼子は春のいぶきを全身に受く

葵の助選　三首

二ヶ月のエコーに写る胎児みて呼びし豆太は娘となりぬ

頭、肩、背中に乗るのはまあ許す　メガネに触れたら速攻落とす

かざられた七段ひなの菱餅のピンクにのこる娘の歯形

楢原もか（木原ねこ）選　三首

楢原もか（木原ねこ）　@kiharaneko

凹凸を教えるように新しい靴の息子は悪路を選ぶ

飛んでくる全ては魔球の覚悟してボールを構える子と向かい合う

叱るたび増えるのだろうか子の白い消しゴムにあく小さな穴は

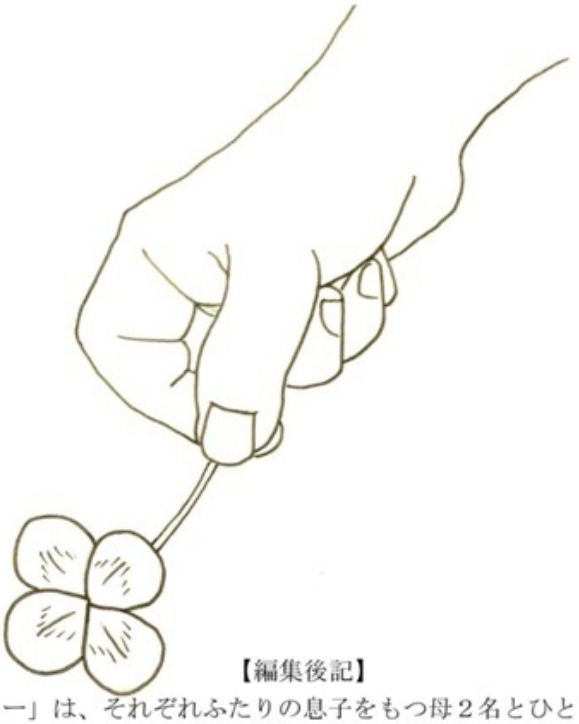
サンキュー（７）

夏休み最初の事件あさがおが咲いたと庭に飛び出す息子
むらさきの花を描く子の筆が置く青い精緻と赤い情熱
花柄の服を着てみる子の描く私に私が近づくように

太田青磁選　三首

ハンカチを首に巻かれて幼子は荒野の少年気どって歩く
子の問いに時おり嘘で答えつつこうして家族になるのかと思う
そんなにもねじくれなくていいものを脱げぬと子が泣く汗だくパンツ

葵の助選　三首



【編集後記】

「サンキュー」は、それぞれふたりの息子をもつ母２名とひとりの娘をもつ父のアラフォー世代の３名が、「うたの日」に投稿した短歌を選びあって作りました。うたの日のサーチ機能がなければ、互選はできませんでした。改めてこんな歌を出してたんだとか、これはいい歌だけど見逃してな、みたいな発見があって、おもしろかったです。（青）

このたび、お二方の歌をじっくり読ませていただき、歌のたねは何気ない生活の中に無数にひそんでいることを改めて思いました。私も、これまで以上に自分の家族の「現在（いま）」を見つめていきたいです。（葵）

ほんの一時でも子育てから離れたい、短歌を始めたのはそんな理由からでした。しかし作歌に困ると、いつも子供たちを見てしまいます。短歌に子育てを、子供たちに短歌を、それぞれ助けてもらいながらやっています。（も）

発行：2016 年 7 月 1 日
短歌：葵の助、太田青磁、楢原もか（木原ねこ）
イラスト：楢原もか
企画・制作：サンキュー制作委員会
Special thanks ののさん@うたの日
http://utanohi.everyday.jp

（またいつか、歩幅の違う友人よ）亀を残して駆けてきた道
2015.8.26 「うさぎ」

足首の泥は乾いてばらばらとはがれてしまう　忘れるべきだ
2015.10.2 「泥」

気まぐれに白玉ひとつ浮いてくる　うれしい予感はこういう速度
2016.4.30 「球」

またきみはウルトラCの寝返りでＮＡＳＡまで行ってきたの　朝だよ
2016.5.1 「難」

守られるように着られていた春だ　ブレザーの肘ひかりはじめる
2016.5.2 「春」

いつまでも子どものふりをする僕の時折り痛み出すおやしらず
2016.5.5 「子」

過ぎてゆく季節へ拍手するように打ち上げ花火　いち、に、たくさん
2016.8.30 「さん」

薄暗い林を思う　競走馬輸送中バス追い越しながら
2016.9.24 「馬」

天井を見つめてひとりトローチが最後に割れるときがさみしい
2016.10.2 「風邪」

大葉れい うたの日favorites

うさぎの背中２

スプーンをバニラにさせば故郷から雪の深さを告げくる電話
2016.10.31 「深」

二階席後ろのほうもSay Yeah！　響かせようよハッピーソング！
2016.11.4 「死ぬまでに一度は言ってみたいセリフ」

点々と町に足あとつけるよう請われるままに出すＴカード
2016.11.8 「カード」

真夜中に通用門を出てゆけば俺しか知らないような星空
2016.11.13 「門」

人影があればゆらりと浮いてくる真っ赤な鯉を心に飼って
2016.11.21 「飼」

終わるとはときにやさしい　小春日のこぼれて届く藤棚のかげ
2016.11.26 「棚」

欲しいのは綺麗なだけの物語リュウグウノツカイは打ち上げられて
2016.11.27 「竜」

目覚めると万年床の一角がとうとう水仙の群生地
2016.12.10 「自由詠」

あれ以来、ミミは風であり、定型詩であり、死神だった。僕は時にそれを怖れた。
返事は書きかけのまま抽斗に入れてしまった。春になったらまた夢が始まるだろう。
2016.12.25 大葉れい (@lay_over)

連作「ノート」

こどもらはノートをとじて旅にでる硝子細工（びいどろ）の羽をひろげて

おとならが目をあけたとき出口には扉のかわりに海がはまった

ごらんなさい　ざんぶりと打つ一時（いっとき）の真夜の昏さをすべてまるごと

海は今ただ月を追い暢んびりと東へ西へノートを散らす

まちに住むすべてのこどもの真っさらな「すき」の気持ちはノートととけた

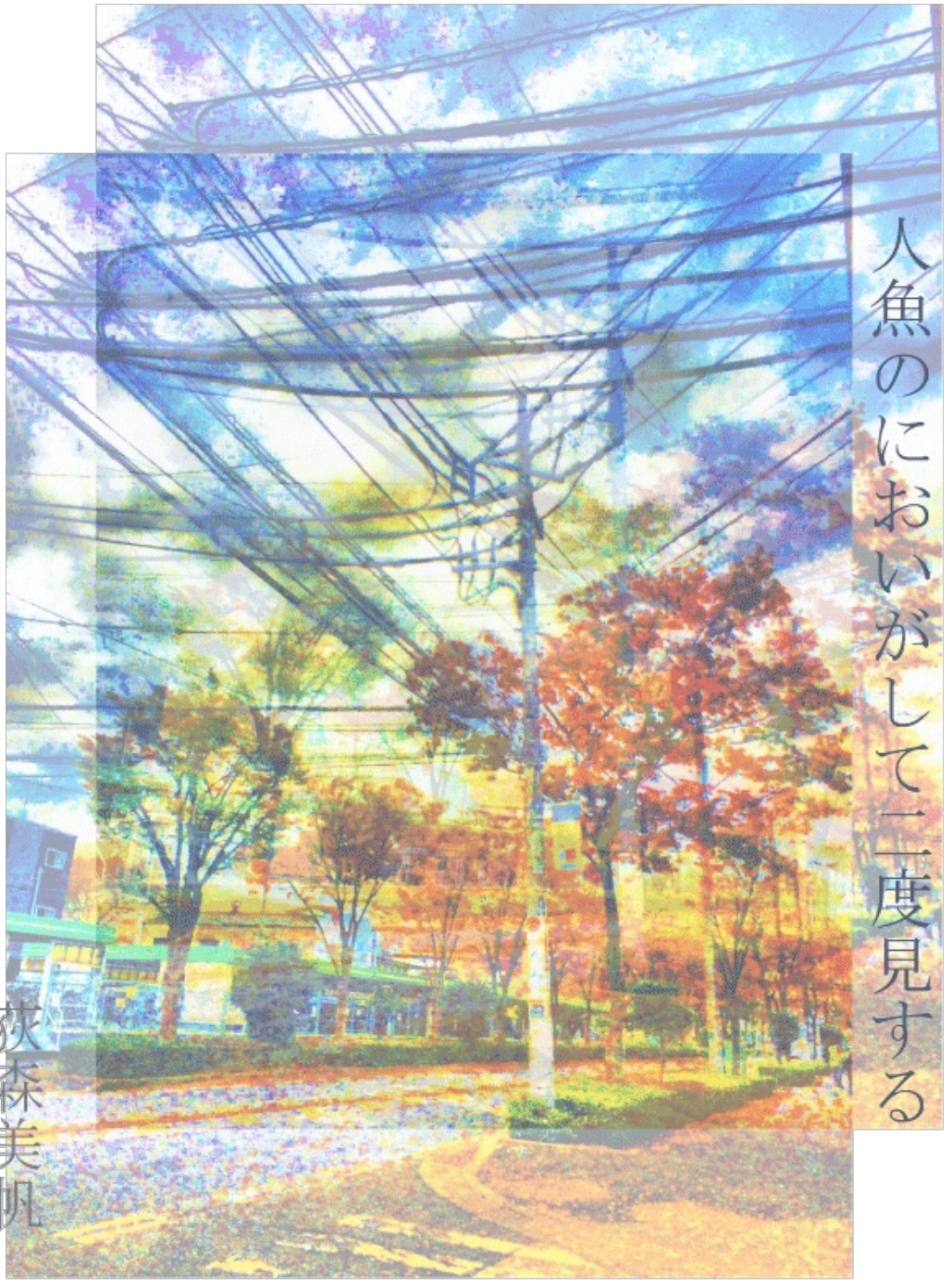
海水のつんと目じりを灼くような苦しみの理由（わけ）をきみは知った

いつの日かノートの紙片は陸に寄せ真砂は一層透き通るだろう

「うたの日」に参加させて頂くようになって約９ヶ月。たくさんの新しい出会いがありました。
新しい言葉、感情、そして何より「うたの日」の仲間たち。
こうして皆様と一緒に記念すべき日を迎えられたことは光栄の至りです。本当にありがとうございます。
まだまだ足取りも覚束ない未熟者ですが、1000 日という節目を迎えた「うたの日」に連作を贈らせて頂きます。この７首に折り込んだ言葉をもって、私からのお祝いとさせていただきます。

五條ひくいち

端正に背すじを伸ばす女から
人魚のにおいがして二度見する



荻森美帆

うたの日 2016年2月18日『二度見』より

白いシャツ　（文乃）

自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日 短歌1000日記念号

さやさやとポプラ並木の揺れる影走り抜けてく朝の自転車

散り落ちる花びらひとつ手のひらで受けとめるように恋が始まる

選択肢の三つ以外の解答がふわふわ舞い散る国語のテスト

素描（デッサン）の時間を待ちて石膏像白く佇む美術教室

習作（エチュード）を重ねるようにいくつもの淡い想いを描いては消す

手順よく進めていった証明がかちりと決まる瞬間が好き

教室に降る陽のなかで君のシャツだけが真白くかがやいていた

ぱんぱんと叩かれクラスの一日が黒板消しから旅立っていく

二穴のパンチ開ければきらきらと零れ落ちゆく記憶のかけら

ためらって振り向くたびに陽炎のように揺れてるたくさんの「if」

題詠 blog で歌を始めて八ヶ月ほど経った頃、うたの日に出会いました。最近はたまにしか参加できませんが、毎日、誰かが草野球をやっている原っぱがあって、いつでもそこに安心して遊びに行けるのは嬉しいことですね。うまくても下手でも、平等に楽しめる草野球。この懐深い原っぱを維持してくださっているののさんに、心からの感謝をお伝えしたいと思います。ほんとうにありがとうございます。参加者の皆様がくださる票や票も、いつも嬉しく拝見しています。皆様、ありがとうございます。

今回は、「片思い」の題で作ったシャツの歌を中心に、十首を連作のように組み合わせてみました。とらえどころのない、ふわっとした歌が多くなりましたが、うっすら甘いソーダ水のように味わっていただければと思います。

凛の織永（おと）

知己　凛

この先の信号全部青ならば走って行って「好き」って言うね
2014年4月18日『賭け』

一本も使い切ることないくせに春になるたび増える口紅
2015年2月16日『紅』

ご主人をただひたすたらに待つ犬の遠吠え響く原発の村
2016年2月6日『村』

毎日を詠み続ければ四年後もきっとみんなにここで会えるね
2016年2月29日『うるう日』

二階から目薬どころかスカイツリーからでも君を見つけてみせる
2016年4月28日『ことわざ』

ああこれで何度目だろうあと5分針が進まぬ時計を見てる
2016年6月11日『17時』

さし箸をしてでも止める掴めずに君は転げていきそうだから
2016年6月15日『箸』

夏祭りハズレの文字と引き換えに出逢えた君のとびきり笑顔
2016年7月23日『ハズレ』

すっぽりとおさまっていた手のひらは夢をつかんでいる頃だろう
2016年9月21日『手』

うたの日に投降した、「おとの日」の歌を中心に自分の好きな歌を集めました。永遠に音を織りなしていきたいという思いから「凛の織永」とタイトルをつけました。

＊うたの日＊

☆飲みほしたラムネ瓶夜空にかざし青いお星を一つ増やした　（ビー玉）

☆北極の氷を食べるしろくまが地球の危機を一番に知る　（氷）

☆ただいまのあとに小さな「ぁ」がついて伝わる今日の君のうきうき　（「」）

☆もういっそ私が紅葉したくなる秋が好きだとあなたが言うから　（自由詠）

☆ねえ私どうして涙が出ているの豆腐を切っているだけなのに　（包丁）

☆悔しさを踏みしめ君は校庭でトンボをかける金色になる　（トンボ）

☆もう我慢しなくていいよの一言でほろりほろりとこぼれたしずく　（我慢）

薔薇をいただいた以外の歌から7首を選んでみました。
うたの日がなかったら生まれなかった歌です。
私はまだうたの日を知って半年ほどですが、楽しんで参加させていただいてます。
これからも、ののさんはじめ皆様どうぞよろしくお願いいたします。
うたの日1000日おめでとうございます。
心から感謝をこめて

♪木蓮♪

カレー集―塾カレーを知る十首―

北国の門出に花は散らずとも風花散らす冬のやさしさ

（2015年3月20日『花』）

ひと串に四つのハツが刺さってて鶏（とり）は四羽も殺されている

（2015年6月4日『刺』）

星かちり、かちりと震ふ天北の原野にひとり祖父は暮らせり

（2015年8月17日『田舎』）

ハンガーは何も言わずに吊るされてかくも静かな労働がある

（2015年9月4日『働』）

いち早くウンコ座りに飽きたおれだけが未だに童貞である

（2015年10月10日『うんち』）

くつたりと鍋の春菊やはらかく居場所はひとつあれば十分

（2015年12月2日『鍋』）

生きるとはその身の内に洞穴（ほらあな）を抱へることか倒れし楡よ

（2016年2月19日『穴』）

すぐそこに海、僕たちは知つてゐる青は進めと云ふ決まりごと

（2016年6月5日『進』）

主役ではないと悟れば人生はこんなに凪いでいる日本海

（2016年7月10日『自由詠』）

壮年のをとこの闇の深ければこころのなかに飼ふ青葉木菟（あをばづく）

（2016年9月3日『闇』）

ごあいさつ

早いもので、私が『うたの日』に投稿を始めてから既に1年と11ヶ月が経ちました。この間、だいたい四百五十首ほどの短歌を投稿したでしょうか。時に「どんまい」をいただき、時に薔薇をいただき、厳しい評をいただき、嬉しい評をいただき、毎日のように悩みながらも作歌を続けてこられたのは、ひとえに『うたの日』という場の居心地のよさがあってのことだったと思います。

今回、電子書籍『うたの日々　うたの日1000日記念号』の発行に際して、うたの日に投稿した作品の中から特に思い入れのある十首を選び、掲載させていただきました。デザインのセンスが皆無なので、文字だけになってしまいましたが（笑）。この中の一首でも、読者の方の心に響くものがあれば幸いです。

最後に、素晴らしい場を作ってくださった管理人ののさん、本当にありがとうございました。　　2016.12.22　塾カレー

しま・しましま

音のない夢を見たんだと思うんですとても明るい雑踏でした

カラオケのソファに誰も凭れない新品の友情持て余しながら
鏡越しに見える世界のはしっこで知らない柄の靴下の君
銀河決壊したときの為ベランダは何も置かずにあけておく
よく晴れて無い星だって見えそうで命カラカラ鳴らして帰る
もう一度開かれたがっているような紙ナプキンが細くふるえる
占星術はじめましたの張り紙にほんのり透ける冷麺の文字

「そういえば奈良岡さんに会ったのよ　影なんてもう別人みたいで」
時々はまじめになろうよオーロラのしたたる指と月見バーガー
ねえ、足は、シャンプー台に乗せられて髪洗うときいちばん遠い

はる風になるまでふつうの犬だった　枯野に転がりまわるなどして
ひっそりとこの世の端で生きているつもりのお腹を鳴らしてしまう
Hey Siri　サバンナのきりんが膝をつきまた立ち上がるところを見せて
鑑定団に出されたリカちゃん電話から溢れつづける間違い電話
わたくしが諦めたならこの缶のつぶつぶコーンはどうなるのだろう

上書きで保存しちゃってカナリアの忘れた歌が思い出せない
駐車場の防犯カメラにも長い夜が来ているらしいにぎわい
レジ袋でしょうかいいえねこでした太ったねこのたましいでした
単純な人でいいねと笑われたいキャベツの中の迷路をひらく

ファミレスの呼び出しボタン連打するだれか世界をお守りください

しま・しましまのディープな世界

塾カレー

Ⅰ.はじめに

しま・しましまはインターネット歌会『うたの日』(http://utanohi.everyday.jp/)に 2015 年 1 月 22 日より投稿を始め、2016 年 12 月 21 日現在で 639 回出詠、首席 71 回を誇るうたの日の代表的歌人の一人である。その作品世界は硬軟自在であり、独特の風合いを持つ作品群には根強いファンも多い。本稿では、しま・しましまの『うたの日』投稿作品から短歌十首を鑑賞し、その奥深さに迫ると共に、短歌二十首選を付した。

Ⅱ.短歌十首鑑賞

人造人間からほのかに香る　ああこれはフエキどうぶつのりのにおいだ

2015 年 1 月 29 日、題『造』より。高度な科学技術の象徴とも言える人造人間から、どこかで嗅いだことのある香りが漂っている。この香りはなんの香りだろう、と作中主体は考える。そして、はたと膝を打つ。「ああ、これはフエキどうぶつのりのにおいだ」、と。

人造人間といえば、「フランケンシュタイン」に登場する怪物のようなおぞましい姿態のものを想像する人も多いだろう。「ロボット」とは異なり、人造人間には人間のエゴが生み出してしまった怪物というイメージが強いようにも思える。しかし、この作者の手にかかれば、人造人間と云う気味の悪い存在も、人間的なあたたかみを持つ存在に早変わりしてしまう。「人造人間」という固く、冷たい響きをもつ言葉と、「フエキどうぶつのり」というやわらかく、あたたかみのある言葉の配合。この意外性のある組み合わせが、歌を輝かせているように思う。

この一首は二句切れであり、「人造人間から・ほのかに香る・ああこれは・フエキどうぶつ・のりのにおいだ」と、初句の破格の字余りが特に目を引く。また、四句から結句にかけての句またがりもさりげないが巧さがある。字余りの多用はこの作者の特徴でもあり、他に「ああの形の口から遅れてああと声そういうことってわかってたのに」（ネットプリント『なんてさみしいバスだろう　わたしを入れても三人なのね』)、「オオサンショウウオは吐き出す　ながいながい夢をみていたなごりの水を」(『うたの日』2016 年 5 月 24 日、題『サンショウウオ』)など、数々の印象的な作品がある。

ちなみに、「フエキどうぶつのり」は、不易糊工業株式会社より販売されているでんぷんのりのこと。

はる風になるまでふつうの犬だった　枯野に転がりまわるなどして

同 2 月 10 日、題『転』より。「枯野」とは、「草も木も枯れ尽くした蕭条たる冬の野」(『俳句小歳時記』水原秋櫻子編、大泉書店）である。かつて枯野を、作中主体とともに駆け回っていた犬。その犬は既に天に召されてしまったのだろうか、今はただ春風が吹くばかりの野に作中主体のみが佇む。春風と共に、野にも新たな命が芽吹き始めているけれども、冬の野を共に駆け回った犬はどこにもいない。春風となって、主体の周りを転がりまわっているのだろう。

三句切れで、ほのかに寂しさの漂う一首。二句と四句が 8 音であり、句またがりが用いられているが、定型を大きく逸脱しているわけではなく、読みやすい。「はる」「なる」「枯野」「まわる」と、頭にア音を持つ言葉が配されており、明るい響きを印象付ける一方で、「はる」「ふつう」「まわる」と、平仮名の多用がやわらかい印象を与えることに成功している。

しま・しましまの作品には、犬を詠んだ短歌が散見される。参考として二首引いておく。

働いたあとの匂いのする犬を抱いてねむった働いたあと（『うたの日』2015 年 9 月 4 日、題『働』)

ジェルソミーナ、ジェルソミーナ。浜に寄す波が犬ころ洗ってゆくよ（『うたの日』2015 年 11 月 13 日、題『道』)

街中にふと立ち止まる人のいてそこが地の果てなんだと悟る

同 2 月 15 日、題『悟』より。「街中」は、「まちなか」と「まちじゅう」の二通りの読み方が考え

られるが、本稿ではいちおう前者として検討する。

街中に、ふと立ち止まっている人がいる。よくある光景だ。何か用事を思い出したのか、それともどこかに忘れ物でもしたのだろうか。大方の人間はその程度の感想しか抱かないだろう。しかし、この作中主体は違うのだ。彼はその立ち止まった人を見て、「そこが地の果てなんだと悟る」。その刹那、都会の雑踏は消え失せ、寂寥たる大地が作中主体の眼前に現れる。そして、地の果てにひとり佇んでいる人間の姿を彼は幻視する。それは冷え冷えとした光景であるに違いない。日常の光景が、一瞬にして異世界に転じてしまう恐ろしさ。まさに、「悟」という言葉の持つ力を描ききった一首であろう。

一首の中に「地の果て」にいる人と、その世界を共有している作中主体を描き出すことで、読者もまた俯瞰的にその世界を共有するという二重構造を生み出すことに成功している。短歌の構造としては、「街中に・ふと立ち止まる・人のいて・そこが地の果て・なんだと悟る」と、四句から結句にかけての句またがりを除き、定型に収まっている。また、「街中」「立ち止まる」「地の果て」の3つの「ち」音がアクセントになっている。本稿では触れなかったが、「街中」を「まちじゅう」と読んでも面白いだろう。

この街の錨のやうに猫がゐて月のあかりを留めてをりぬ

同3月29日、題『月』より。「錨」は「いかり」。船舶が停泊する際、潮流に流されぬよう海底に沈める鉄製の道具だが、その「錨」のように「猫」がいて、月の明かりを留めている。人々が寝静まった深夜、猫達もまた月光を浴びてじっと眠っているのだろう。

「錨」という字と、「猫」という字。これらの漢字の形状における類似性を利用した楽しい一首。錨という語のもつ重量感が、猫の存在感を更に強いものにしている点も見逃せない。一首の中では、「街」の「ち」、「錨」の「い」と「り」、「明かり」の「り」、「をり」の「り」など、イ段の音が多く用いられ、一種のリズムを作り出している。なおこの作品においては、歴史的仮名遣いが用いられている。おそらくは完了の助動詞「ぬ」を用いる上で、新仮名遣いよりも歴史的仮名遣いのほうがより一首に馴染みやすいと考えたのであろう。

しま・しましま作品の中には、猫を詠んだ短歌が散見されるので、参考として二首引いておく。

結び目がいくつも連なる紐状の猫の背中をなでて夕立（『うたの日』2015年6月15日、題『背骨』）

この夜の長さをそっと分かち合う抱けば肋ばかりの猫と（『うたの日』2015年9月13日、題『長』）

しあわせな迷子のような背中してサラダバーから戻ってこない

同7月6日、題『サラダ』より。「しあわせな迷子のような」という直喩が目を引く。「迷子」が「しあわせ」というのは一読理解しがたいようにも思える。しかし、よくよく考えてみると、我々は自分が迷子だと自覚してはじめて恐れや不安を抱くのであり、それまでの間は自らの興味の赴くまま、好きなように行動する幸せを感じている。無論、周囲の人間から見れば、本人がどう感じていようと迷子は迷子なのであるが。

作中主体の伴侶か子供か、或いは友人なのだろうか、サラダバーに並ぶ色とりどりの野菜を前にして、すっかり舞い上がってしまっている人。その背中はまさに「しあわせな迷子」のように見えているのだろう。その姿をほほえましく眺めている作中主体のやさしさが印象的。『バイキング』でも『ドリンクバー』でもなく、『サラダバー』という場面設定も面白い。定型にしっかりと収まった、まとまりのある一首である。

ぬいぐるみみんなティッシュで寝かしつけられてことりとも出来ない夜

同9月28日、題『ぬいぐるみ』より。作中主体のベッド（或いは布団）の脇にはたくさんのぬいぐるみが置かれているのだろう。そのひとつひとつに対して、掛け布団の代わりにティッシュをかけてあげる主体。ぬいぐるみが、我々人間のように夜の寒さを感じたりはしないことぐらい、主体はもちろん理解している。それでも、寒さに震えるぬいぐるみの姿を想像すると、今宵もまたティッシュの掛け布団を掛けずにはいられないのだ。そんな主体の気持ちを知ってか知らずか、ぬいぐるみたちはことりともせずに一夜を明かす。

この一首を意味で区切って読むと、「ぬいぐる

み・みんなティッシュで・寝かしつけられて・ことりとも出来ない・夜」となり、31音ではあるものの5・7・8・9・2という大幅な破調となる。しかし、この一回限りの破調こそが一首に迫真性を与えているのもまた事実だろう。大胆な破調が一首を光らせた好例である。

逆光の中にゆつくりとけてつてあああああ夢のやうな夢での別れ

2016年1月3日、題『光』より。逆光の中にゆっくりと、溶けるように消えてゆく人。まばゆいばかりの光の中へ遠ざかりゆく背中を見守っている作中主体。まるで夢のような別れ……と思ったところで主体は覚醒する。ああ、夢だったのか、と。

現実と非現実の間を漂うかのような不思議な一首である。「逆光の・中にゆつくり・とけてつて・あああああ夢のやうな・夢での別れ」と、四句が11音という大幅な字余りが印象に残る。もし定型を意識するならば、四句は「夢のやうなる」で十分だったはずだ。しかし、「あああああ」という叫びが挿入されることで、読者はより深く夢の世界に没入することになり、その結果として結句の「夢での別れ」にはっとする感じを受けるのである。また、四句の字余り以外はほぼ定型に収まっているという点も見逃せないだろう。定型の句のなかに、ぽんと挿入される字余りの句。この字余りの句が、一首を「定型と非定型の間」という不安定な場所へ引きずりこんでいるのである。「現実と非現実の間」と、「定型と非定型の間」。読者は一首の中に、この二重の世界を見出すことでさらに感銘を深くするに違いない。

この作者には夢をモチーフにいた作品がいくつか見られるので、参考として二首引いておく。

ゴリラにはゴリラのかたちの影があると耳打ちされて目覚める夢だ(『うたの日』2015年3月6日、題『夢』)

音のない夢を見たんだと思うんですとても明るい雑踏でした(『うたの日』2015年11月8日、題『雑』)

校庭に白いラインを引きながらふと雲影の中へと入る

同3月18日、題『雲』より。運動会の準備だろうか。校庭に石灰の白いラインを引いている作中主体。線が曲がらないように、地面を見ながら作業を続けていると、ふと雲影のなかに入ってしまった。そのとき主体は空を見上げるのだろう。そして、泰然自若たる雲の雄大さと、ちっぽけな人間である自分について思いを馳せるのだろう。

定型にしっかりと収まっている一首であり、「白い・ラインを・引きながら」と3音・4音・5音のリズミカルな二句、三句が心地よい。また、四句の「ふと」がよく効いており、雲影の中に入ってはっとする主体の様子を過不足なく伝えている。校庭のライン引きという、地面を見ながらの作業をしている主体が、雲影の中に入ることで雲の動きを意識し、空を見上げる。その視線の移動を読者もまた想像することで、一首がより豊かなものとなるだろう。

Hey Siri　サバンナのきりんが膝をつきまた立ち上がるところを見せて

同6月10日、題『自由詠』より。「Siri」は、米Apple社のスマートフォン「iPhone」などに搭載されている音声認識・発話解析ソフトである。Siriを起動した上でスマートフォンに呼びかけると、電話をかける、メッセージを送信する、或いは何かを検索するなど、様々な方法でユーザーを助けてくれる。

作中主体は思う。広漠たるサバンナの大地に、歩き疲れてついに膝をついてしまうキリンの姿を。しかし、サバンナとは弱肉強食の野生の世界であり、その場にとどまっていれば他の肉食動物に襲われてしまうだろう。キリンはそのことを本能的に知っているからこそ、再び立ち上がり、歩き出す。この情景から、立ち止まることを許されない生命のかなしみと、その宿命に抗するがごとく生きようとする強さを感じることができると思う。そして、主体もまたそのような強さを欲しているからこそ、Siriに「サバンナのきりんが膝をつきまた立ち上がるところを見せて」と呼びかけるのだ。もちろん、Siriが優れた音声認識・発話解析能力を有しているとは言っても、主体の心のうちを見透かすことはできない。だからこそ、主体は周囲の人間ではなくSiriに話しかける。「サバンナのきりん」のような強さを持っていない自分の心を、他者に悟られないために。

この一首は、「Hey Siri・サバンナのきりんが・膝をつき・また立ち上がる・ところを見せて」と、初句が4音の字足らず句、二句が9音の字余り句となっているが、初句の「Hey」と「Siri」の間を一拍空けて読めば幾分定型に近づいて読みやすくなるだろう。

しま・しましまの描く動物の歌にはどこかもの寂しい雰囲気を感じる作が多い。参考として二首引いておく。

いつの日か野生へ還る日のためのしっぽを高くたかく上げたり（『うたの日』2015年4月15日、題『しっぽ』）
その黒い背中てらてら光らせてサヨナラほろびゆくコビトカバ（『うたの日』2015年5月16日、題『黒』）

言い訳は思いつかないままだった水なまぬるく切手を湿らす

同8月22日、題『結句字余り』より。謝罪の手紙を書いているのだろうか。もう長いこと言い訳を考えていたけれども、一向に思いつかない。さて、覚悟を決めて手紙を出そう、切手を湿らせようとして小皿に取った水に触れると、すっかりなまぬるくなってしまっている。

生活の中の一場面を巧みに取り込んだ秀歌もしま・しましま作品の中には多く見られる。この一首では、「言い訳は思いつかないままだった」という上の句での状況提示に対して、下の句で「水なまぬるく切手を湿らす」という動作を提示している。「切手」と、切手を湿らす水の「なまぬるさ」だけに焦点を合わせているが、「作中主体が手紙を書いている」ということと、「覚悟を決めるまで長い時間を要した」ことは十分に伝わってくる。背景の適切な省略によって、一首の感動がより深く読者に手渡される形となった。

Ⅲ.ディープな三十首選

寒そうに帰る男を見おろして雪に降る雪少し灰色（2015年1月26日、題『降る』）

ふかく深くお湯に沈んでああああれは聖エルモの火あ゛あ゛あれはお風呂の電灯（同2月14日、『聖』）

たちあがるときは片膝立てもして暮らしとはやや力のいること（同2月23日、『膝』）

貝割れのスポンジは燃えるごみですか生きるって魂燃やすことですか（同3月7日、『魂』）

いつの日か野生へ還る日のためのしっぽを高くたかく上げたり（同4月15日、『しっぽ』）

その黒い背中てらてら光らせてサヨナラほろびゆくコビトカバ（同5月16日、『黒』）

帰ること選ばなかった鳥たちのもう深緑に染まりゆく空（同7月16日、『深緑』）

働いたあとの匂いのする犬を抱いてねむった働いたあと（同9月4日、『働』）

夕焼けに丸めた背中輝いてきっとどこかのシルバーバック（同9月5日、『ボス』）

ああの形の口から遅れてああと声そういうことってわかってたのに（ネットプリント『なんてさみしいバスだろう　わたしを入れても三人なのね』より）[1]

西日差す象舎の脇の扉より厳しき顔の飼育員出づ（同10月7日、『象』）

水槽のガラスの冷えを貼り付けてさみしいおでこさみしい魚（同10月13日、『おでこ』）

つまらない大切な意地どんぐりを落葉を踏むたびまた湧き上がる（ネットプリント『なんてさみしいバスだろう　わたしを入れても三人なのね』より）[2]

ああこれはやっちゃったなと首をすくめ生え際に襟の冷たさがある（同11月4日、『首』）

幾羽かはなつかしさうに北をむき白鳥一羽一羽と眠る（同12月13日、『北』）

ゴムの焼けた匂いがするの一言にもろくもほつれてしまう団欒（2016年1月8日、『焼』）

質の悪しき紙に活字の黒々と戦後三年三鬼の俳句（同1月10日、『活字』）

こんなにも世界は狭いと知らされる開いた傘がポストに触れて（同1月13日、『ポスト』）

すそにまだカールの残るカレンダーめくって春を確かめてみる（同1月14日、『暦』）

てつぺんに残つた柿の実おとしたらあとはがうがう風の木となる（同1月21日、『木』）

薄氷の下を魚の見えるとき命は凍らないのだと知る（同2月6日、『氷』）

ややあって「それもいいね」という人のなにひとつ良くなさそうな眉（同3月1日、『間』）

更に仰げば速き雲脚月山の城郭跡は風ばかり吹く（同5月9日、『城』）

痛かったら右手を上げてといわれたことふと思い出して右手を上げる（同5月10日、『自由詠』）

オオサンショウウオは吐き出す　ながいながいゆめをみていたなごりの水を（同5月24日、『サンショウウオ』）

雲がもうあんなに遠いわたしとは違う時間を進んだように（同6月5日、『進』）

夢の中で撃たれた胸に手をあてるどんな痛みもこの世のものだ（同8月3日、『痛』）

二度吸って消した煙草の吸い殻が灰皿のなかで二つに折れる（同8月24日、『煙草』）

もう何のしるしだったかわからない花びらみたいな付箋をはがす（同9月2日、『印』）

どんなふうに痛いですかとたずねられ気付く手持ちのことばの数に（同9月21日、『手』）

謝辞：　本稿の執筆に際し、『うたの日』（http://utanohi.everyday.jp/ ）に保存されているしま・しましまさんの作品データを利用させていただきました。記して感謝申し上げます。また、しま・しましまさんご本人に本稿の構想をお伝えしたところ、快く承諾していただきました。感謝いたします。

注

[1]初出は、『うたの日』2015年9月8日の題『そう』で、「ああという口から遅れてああと声そういうことってわかってたのに」であるが、本稿では2016年1月発行のネットプリント『なんてさみしいバスだろう　わたしを入れても三人なのね』に収録された推敲後の作を採録した。

[2]初出は、『うたの日』2015年10月22日の題『つまらない』。注釈[1]と同様に、推敲後の作を採録した。

著者紹介

塾カレー（じゅくかれー）　@bozumarukome

2015年1月より『うたの日』投稿をはじめ、短歌の面白さにのめりこむ。2016年3月より塔短歌会に所属、「千葉優作」名義で活動。

秘密結社DDIT

説明しよう！
秘密結社DDITとは、ツイッターにおける都々逸詠みたちの俗称だ！
都々逸得手のダジャレ＆下ネタ好きのくせに、短歌の歌会に秘密裏
かつ大胆に潜入してはだいたい負けて帰ってくる悪の秘密結社だ！
DDITとはDoDoITsuの略だ！テストには出ない！だが忘れるな！

我々の野望は、いつか詠み人たちのTLを都々逸で染めることだ！
イーッ！イーッ！

ということで我々のうたの日のうたをどうぞご賞覧下さい

2014/4/7 『 ラッキー 』
本日のあなたのラッキーアイテムは わたしですのでお持ちください
蘇芳

2014/4/14 『 石 』
君と目があった瞬間石になる　※ただしうるさい心臓除く
箔紙

2014/5/20 『 ゴリラ 』
午前四時ゴリラ飛ばして中央道　君が泣くなら行くよダーリン
小早川

2014/6/6 『 SEX 』
潤む目の君が改札抜けてきてここから前戯が始まっている
月丘ナイル

2014/6/6 『 SEX 』
ぎこちなく 身体あわせた あの頃が 愛おしくなり 肝かき寝る
猫亭屑屋

秘密結社DDIT

2014/7/11 『 コンビニ 』
この前は一人でコンドームを買ったあの子が下剤を買いに来ている
砂漠谷レマ

2014/8/1 『 おっぱい 』
ぼくのこと本好きにした図書館のいつもの席に座るおっぱい
スコヲプ

2014/9/30 『 臭 』
キッチンでチョコ味のキス止められぬ 焦げて邪魔する野暮なクッキー
和純

2014/10/27 『 偽 』
消えないで僕が見ている世界には僕を愛する君がいなくちゃ
和花

2014/10/30 『 三十路 』
三十路過ぎ 大人になった はずなのに 埋まらぬ年の差 子供扱い
猫屋久太

2014/12/29 『 着 』
身に付けた服があなたの皮膚になり触れた一瞬あついと思う
星野トマト

2015/2/3 『 プログラム 』
変数の命名規則であなただとすぐにわかるよ バグ直してね
豆太

自由帳　みんなのみんなのうた

うたの日 短歌の日 1000日記念号

2015/3/10 『 佐藤 』
どこにでもいるが誰より特別な 玄関あけたら佐藤のごはん
ヒロマル

2015/5/5 『 400年前にタイムスリップして一首 』
誰か来る！！こんな恰好じゃ怪しまれ……なんだ脱いだらいいんじゃないか
下弦

2015/5/6 『 ゴム 』
0.01ミリくらい離れよう 愛は冷静さの中にある
ひらたてる

2015/5/11 『 仮面 』
こどもでも仮面被って踊れますだって無邪気のほうが好きでしょ？
朝月

2015/6/9 『 ビートルズ 』
弟が一人爪弾くLet It Beは一雨ごとに父に似てくる
ルオ

2015/9/1 『（仮）』
今はまだ安物だけどショボいけど左の指が少しゴキゲン
ねん

2016/4/10　自由詠
満開の桜並木を君と行く ピンクの頬に期待している
悠佳里

このページは楽しい時をつくる都々逸団体
秘密結社DDITの提供でお送りしました。

うたの日
短歌
1000日記念号

わたしの選ぶ
うたの日のうた

うたの日にはたくさんいいうたがあります。薔薇をもらってなくても人の心に残るうた、それを皆さんに聞いてみました。
膨大なうたの日のうたの中からひとりたったの一首だけ。みんなが苦しみながら選んだうたは、やはりキラリと光っています。

2014年5月～12月

わたしの選ぶうたの日の歌

2014年5月12日　『　昼　』
昼ですねひとりでしょうねこんなにもこんなにも青あおいあおぞら　ガッキ／ゆら（@TANKAmore）選

2014年5月20日　『　ゴリラ　』
このへんはゴリラがビルを揺すっても笑って済ますようなとこやし　のの／ルオ（@ruo129）選

2014年6月5日　『　後　』
後ろから私にぴたりとついてくる緑の河童なにもいわない　多香子／はだし（@hadashinomanmay）選

2014年6月6日　『　SEX　』
君求む雨上がりに立つ匂いからセックスが思い出されるほどに　スコヲプ／月丘ナイル（@nyle_222）選

2014年6月6日　『　SEX　』
こないだの土曜日にした正常位あのためだけに生まれてきたの　のの／ひらたてる（@BB_teru）選

2014年6月28日　『　拍手　』
どこまでも観客である悲しみの拍手だ！光あれ光あれ　秋山生糸／葛紗（@blueregret）選

2014年7月5日　『　名古屋　』
だけどいい恋だったねと「名古屋まで2km」あたりでまとめられてる　のの／西村湯呑（@yunomihot）選

2014年7月9日　『　100点満点の恋人とはこんな人なのだ　』
ゴロゴロと運転席から乗り込んで俺のチンチン越えて助手席　ナイス害／小早川（@dodoitsu_）選

2014年8月19日　『　俳句　』
１７も３１も詠む僕も孤独な素数に分類される　ガラケー太 ／門脇篤史（@508atsu）選

2014年8月29日　『　憎い　』
決められたルールに添って生きている また伸びてくる鼻毛が憎い　ヒヨワくん／須磨蛍（@garaketta）選

2014年11月17日　『　雲　』
深呼吸して、もう一度繰り返す「わたしは雲のない日に生まれた」　きつね／大葉れい（@lay_over）選

2014年11月3日　『　化　』
イヒイヒと化けでたやつと気があって夜明け前までイヒイヒとした　加子／箔紙（双葉屋ほいる）（@hoiru_utayomi）選

2014年11月11日　『　iPhone　』
http://mobile.twitter.com/1800___　溺愛／ナイス害（@NiceGuuuy）選

2014年12月2日　『　冬　』
使わないはずの茶碗と歯ブラシをしまえないまま冬は深まる　泳二／琢（@_taku_h_）選

2014年12月～2015年7月

わたしの選ぶうたの日の歌

2014年12月25日　『　祈り　』
さそり座がマジギレしたらおとめ座はただ祈ることしかできないよ　黒夜行／えんどうけいこ（@clematisilica）選

2015年1月29日　『　造　』
人造人間からほのかに香る　ああこれはフエキどうぶつのりのにおいだ　しま・しましま／枯梗（@chattenoire_k）選

2015年2月10日　『　転　』
はる風になるまでふつうの犬だった　枯野に転がりまわるなどして　しま・しましま／月花（@getuka_r）選

2015年2月14日　『　聖　』
わずか29年の生涯のすべてを将棋に賭けた 聖【さとし】の青春　太田青磁／村田馨（@kaoru_murata）選

2015年2月17日　『　住　』
この街のわたしもわたし気がつけば住所を何も見ずに唱える　野崎アン／長月優（@spicadrop_）選

2015年2月27日　『　付箋　』
貼り付けた付箋を追えば十七の我の横顔君の横顔　小宮子々／太田青磁（@seijiota）選

2015年3月1日　『　光　』
少女らはプリズムを持ち得意気に春の光を世界に散らす　木鼠／フジタレイ（@fujitarei2）選

2015年3月6日　『　差　』
時差の無い国なら僕を眠らせた羊もあなたに間に合うはずだ　小向大也／常盤このは（希和子）（@miitononnon ）選

2015年3月6日　『　差　』
物差しの目盛りのあはひにあるものを求めてぼくは詩を書いてゐる　門脇篤史 ／羽鳥かよ子（@kayoko_31）選

2015年4月4日　『　押　』
冷蔵庫のふいにぷうんとうなっては今日が昨日へ押し出されゆく　しま･しましま／南瑠夏（@blue_rebels ）選

2015年5月17日　『　かばん　』
あの海を入れるかばんを買いましょう片方の手で提げるぐらいの　しま・しましま／小川けいと（@ogwkit）選

2015年6月13日　『　ゾンビ　』
エキサイティング☆ゾンビ・アクションステージで一番先に君を誤射する　しま・しましま／雀來豆（@jacksbeans2）選

2015年7月14日　『　膝　』
膝蹴りを暗い野原で受けている世界で一番すばらしい俺　工藤吉生／木村比呂（@rahiro）選

2015年7月18日　『　落　』
青い傘たたまれたまま落ちているここを通ったから青い傘　井田／萩野聡（@hagitanka）選

2015年7月～12月

わたしの選ぶうたの日の歌

2015年7月28日　『 SF 』
宿題のためのSF小説がやるい寝息にあわせて浮かぶ　加賀田優子／しま・しましま（@simashima9）選

2015年8月25日　『 文語 』
吾（あ）が溺る水底なりや　月下にてランプルフィッシュの如き抱擁　黒井真砂／蒼井灯（@heavenlyblueb）選

2015年8月29日　『 裏 』
白波の裏をめくった　ちょっとしたコツをつかめば楽なもんだね　雨宮　司／荻森美帆（@OgimoriMiho）選

2015年8月29日　『 ごはん 』
炊き方の好みは家族それぞれにあれど小さき者にあはせる　文屋亮／衣未（ みみ ）（@mimi_4567）選

2015年9月11日　『 自由 』
国が消えヒトが獣になってからようやく俺は俺を始める　堂那灼風／ササキ アンヨ（@shibarnubooks）選

2015年10月14日　『 回 』
前回のあらすじ君に捨てられてナイフを向けているのであった　宇野なずき／なつくら（@__sea10）選

2015年10月18日　『 封筒 』
封筒のような布団で眠りたい誰にも見えぬ秘密のように　小川けいと／加治小雨（@k_kosame）選

2015年10月19日　『 時々 』
ぼくたちの中からひとり選ばれて中央線はときどき止まる　中牧正太／きむろみ（美豆波）（@kesarabasara）選

2015年11月13日　『 道 』
ジェルソミーナ、ジェルソミーナ。浜に寄す波が大ころ洗ってゆくよ　しま・しましま／吉川みほ（@books_hyacinth）選

2015年11月22日　『 結婚 』
よかったら歩きませんかさよならへあのどうしようもないさよならへ　中牧正太／栗栖 莉乃（@lyrical_note）選

2015年12月8日　『 柄 』
街で見るあの人と似た外套のその柄の名を私は知らない　那須ジョン／知己凛（@Chikorin7）選

2015年12月12日　『 俺 』
輪廻など信じたくなし限りなく生まれ変わってたかが俺かよ　松木秀／葵の助（@amaigake）選

2015年12月21日　『 椅子 』
全員が座れるほどの椅子はないからいつまでもあお向けでいる　秋山生糸／もりのさと（@Wonderful_Maze）選

2015年12月31日　『 歌 』
今日もうたう昨日の歌を追いこして明日の歌に追いつくために　沼尻つた子／塾カレー（@bozumarukome）選
中牧正太（@shota_nakamaki）選

2016年2月～5月

わたしの選ぶうたの日の歌

2016年2月19日　『　蜜柑　』
残りものの蜜柑吊るせばメジロ来てメジロの為に蜜柑買い足す　希和子／東風めかり（@mekari1573）選

2016年2月21日　『　亀　』
冬眠をさせない亀はすこしだけ寿命が縮むらしいね、帰るね　宮田ふゆこ／遠井海（@sea_umi_ib）選

2016年2月27日　『　コップ　』
透明なコップに注ぐサイダーがぼくらの海のはじまりであれ　シュンイチ／まそ（@maso0805）選

2016年3月7日　『　要　』
死ぬまでの所要時間を試算するサイゼリヤには季節のメニュー　那須ジョン／Y川（@clonecoyamato）選

2016年3月10日　『　自由詠　』
真水には放してやれぬものばかり孕むからだをシャワーはすべる　羽鳥かよ子／亞梨（@rririr_s）選

2016年3月18日　『　細胞　』
不可解だ綺麗に並ぶ細胞に過ぎない君を正視できない　ダックス／田村穂隆（@Da_Ho_Ra）選

2016年4月10日　『　自由詠　』
してやれる全部全部を為し終えて禿げタンポポはまだ空をみる　中牧正太　／淡海わこ（@omiwako_）選

2016年4月10日　『　自由詠　』
髪の毛は結局全部抜けたけどなんと見事な朝焼けだろう　くろじたう／笠和ささね（@kasawasasane）選

2016年4月22日　『　人生　』
雨だけどこの靴じゃなきゃ嫌なんだそんな強さであなたは生きる　井田直／ nu_ko(@nukothecat）選

2016年4月30日　『　星座　』
七つほど星を繋げばキリンです。あなたはなんにだってなれます　矢波多恵／ナタカ（@natakauta）選

2016年5月3日　『　病　』
幼き日粗ぎこまれた病院の角を曲がればドカンとつつじ　久哲／終乗夢（@tuikurimu）選

2016年5月11日　『　折り句　』
さみしさに酔わないように上を向く泣くときよりも楽な角度で　小宮子々／ネネネ（@neee__pp）選

2016年5月12日　『　当　』
真夜中に帰れば僕のためにだけしづしづまはる唐揚げ弁当　枯梗／五條ひくいち（@5joh_1）選

2016年5月13日　『　縦　』
たて　縦になれてる人はつよいなってずっとベッドでおもってる　立て　多田なの／亀山真実（@nukimidaru）選

2016年5月～9月

わたしの選ぶうたの日の歌

2016年5月18日　『元』
明日から元気はただの気になってきみはカレから元カレになる　西村曜／堀口万理奈（@Holloygucci017）選

2016年5月18日　『敵』
もう敵は作りませんと言う人の孤独は日ごと美しくなる　葵の助／かつらいす（@v_vTitiu）選

2016年5月28日　『全部』
ためていた錠剤すべて雪原に埋めてちいさな革命とする　ミルトン／七緒（@n770f853）選

2016年6月6日　『ドラゴン』
ねえドラゴンこうしてうえからみているとだれかのおとしものばかりだね　久哲／シュンイチ（@y_xy11）選
けら（@Kera57577）選

2016年6月14日　『含む』
あのサンバ隊に彼女も含まれてぼくは冷蔵庫に入ります　すみ／山川翠（@）選

2016年6月16日　『虹』
ガソリンが濡れた舗道に浮かびおりああそれさえも虹だった夏　天田銀河／さはらや（@Oya5udon）選
ねん（@endofthe_）選

2016年6月16日　『藤』
藤棚の下で持論を説く君の頬に止まった蚊を叩きたい　静ジャック／下弦（@kagen_s）選

2016年7月1日　『牙』
ライオンの子どもは乳歯を空に投げシマウマの子は震えて眠る　中山とりこ／ひの夕雅（@croissant_hey_z）選

2016年7月6日　『袋』
オランダ坂下れば日よけの手袋のじっとり濡れて雖時雨ふる　麗子／多香子（@）選

2016年7月13日　『楽譜』
♩＝100　misterioso　4/4　Bdur　祈りを捧げるように　鳴瀬 諒／宮本背水（@tankatanka80）選

2016年7月15日　『巣』
差出人不明の手紙がクモの巣に届いています　夏はもうすぐ　きつね／金子りさ（@knknyokki）選

2016年7月26日　『死』
「死者の日」の骸骨たちが叫ぶたび色を深めるマリーゴールド　雀来豆／サリーB（@SallyB2016）選

2016年8月20日　『立』
大丈夫 君のクララは立ってすぐかかと落としを決めるクララだ　nu_ko／久哲（@qtetu）選

2016年9月11日　『「」』
かっこ悪い俺は煙草を咥えてる「」おかげで上手く「」喋れないぜ　ササキ アンヨ／松岡拓司（@senbeiguy）選

2016年9月～11月

わたしの選ぶうたの日の歌

2016年9月14日　『　助　』
東京は助けてほしいこの人がいつも以上に笑っていたら　中牧正太／木蓮（@FirstFruits1125）選

2016年10月15日　『　梨　』
思い出の梨みたいなあの歌がふいにながれてラジオを消した　nu_ko／えだまめ（@edamame_midori）選

2016年11月6日　『　片　』
片付けが苦手なせいで星屑が庭から溢れだしてしまった　葵の助／蝶番（@luna04120）選

2016年11月12日　『　本　』
未来とはいまだ来ぬもの　わたくしがいまゐる場所に梨をはさむ　枯梗／みちくさ（@michikusa_31）選

2016年11月18日　『　象　』
目ざめたら象になりたい出社後は鼻だけ外に出してはたらく　nu_ko／一〇〇八（@noumb1008）選

2016年11月20日　『　正義　』
だってこれ正義だからと矢を放つ射られる痛みなんて知らない　小川けいと／祐鈴（@yureiyashiki2）選

うたの日 短歌1000日記念号

うたの人々

うたの日で薔薇をたくさん取った人が頂上を決める「うたの人」。
首席を取ったうたはうたの日サイトに一ヶ月間飾られる栄誉を得ます。
そんな光輝くうたと、人々です。

1代目〜11代目

1代目 『 初めて 』

角砂糖ひとつふたつと放り入れ初めての街はじんわりなじむ　ゆりぐも

2代目 『 人気 』

白色の色えんぴつだけ減るきみの観てる世界を知りたく思ふ　桔梗

3代目 『 最大 』

この人が家族になればわが父を抜いていちばん大きい革靴　牛道

4代目 『 瞬間 』

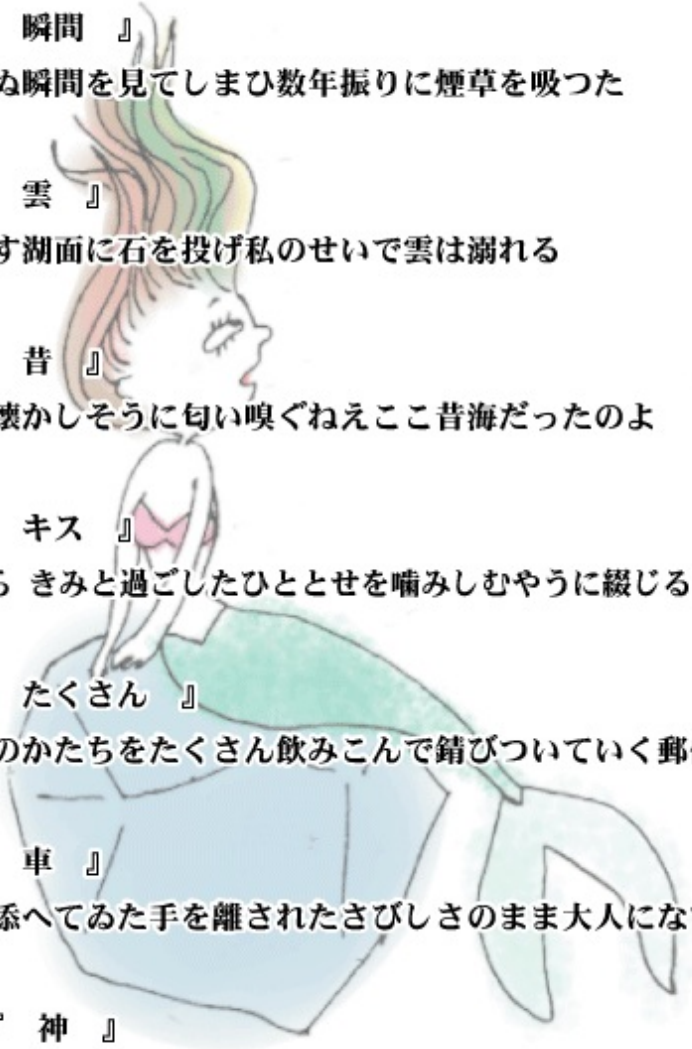
電球が死ぬ瞬間を見てしまひ数年振りに煙草を吸つた　門脇篤史

5代目 『 雲 』

秋空を映す湖面に石を投げ私のせいで雲は溺れる　杏

6代目 『 昔 』

目を細め懐かしそうに匂い嗅ぐねえここ昔海だったのよ　柊



7代目 『 キス 』

さやうなら きみと過ごしたひととせを噛みしむやうに綴じるホチキス　桔梗

8代目 『 たくさん 』

さよならのかたちをたくさん飲みこんで錆びついていく郵便ポスト　逢

9代目 『 車 』

自転車に添へてゐた手を離されたさびしさのまま大人になつて　桔梗

10代目 『 神 』

神様を乗せてるようなスピードのほのか檸檬のいろのしあわせ　杏野カヨ

11代目 『 リセット 』

丁寧に隅まで洗うプランターしばらく恋をしないつもりだ　涼風あき津

12代目～19代目

12代目 『 もし 』
捨ててきた「もし」の種から咲く花はあんなにきれいで見てはいけない　沼尻つた子

13代目 『 あおくまさんの写真で一首 』

言いかけてやめた想いがぽろぽろと
ソファの隙間にはさまっている　葵の助

14代目 『 帽子 』
ひとはみなひとりぼっちの騎馬だから見えぬ帽子を守ったりする　まるやま

15代目 『 失恋 』
行かないで行くなら行くでこんなにも大きい熊を置いてかないで　中牧正太

16代目 『 時々 』
なにごとも成し得ぬことをなぐさめるために時々献血をする　小川けいと

17代目 『 幸 』
あなたって「あなたといればしあわせ」と言えば喜びそうで、笑える　フジタレイ

18代目 『 数 』
7の背をちょっと反らして書いてみるこれがあなたの書いている7　ナタカ

19代目 『 楽 』
本当に好きだったから出来るだけ楽な姿勢で落ち込んでます　のの

20代目～29代目

20代目 『 ツッコミ 』
ツッコミを入れよ思たら泣いてもて失恋したってほんまやったん　きい

21代目 『 桜 』
風に散るさくらのひかり図書館に手ぶらで行って手ぶらで帰る　しま・しましま

22代目 『 快感 』
「大きい！」と耳かきのさき見せにくる相手に俺が選ばれたこと　西村曜

23代目 『 後悔 』
だめにしたキャベツを捨てる やさしさをやり直せない四月を思う　大葉れい

24代目 『 秘密 』
くちびるを近づけながらきみの云ふひみつのみつははちみつのみつ　桔梗

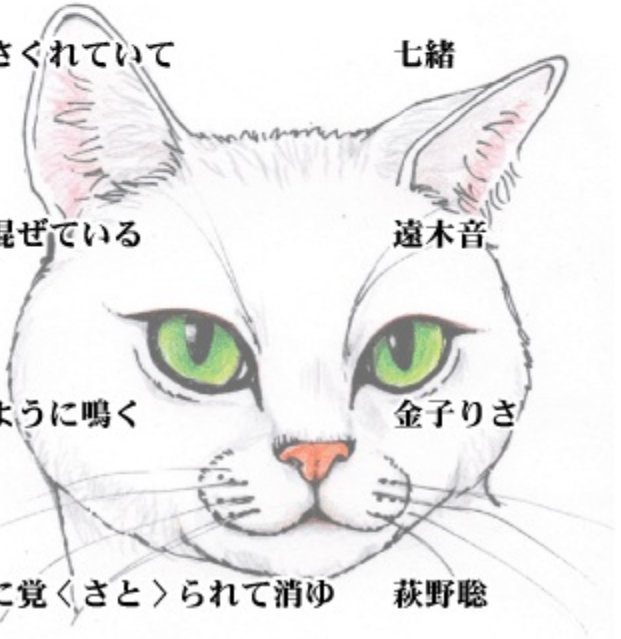
25代目 『 悪 』
わるいことしてきた夜の手のひらに薬用石鹸ミューズがぬるい　しま・しましま

26代目 『 アルバイト 』
幸せになるべき人だ深夜二時レジを打つ手がささくれていて　七緒

27代目 『 奇跡 』
奇跡とも呼ばれる星の真ん中でただ納豆をかき混ぜている　遠木音

28代目 『 猫 』
飼い猫は背中に地図を持っていて時々思い出すように鳴く　金子りさ

29代目 『 脳 』
ひとひらの雪がひとつの眼に降りてひとつの脳に覚〈さと〉られて消ゆ　萩野聡



うたの日
短歌んか 1000日記念号

うたの史

2014年4月1日に「カレンダーの日付をクリックすると歌会ができるよ」というののさんの何気ない呟きではじまったうたの日。
その日から1000日までの道程を年表形式でどうぞ。

2014年3月～12月

年月日		できごと			
2014年		日目	Room	人数	
3月	**31日**				**(「うたの日」開設)「誰でも短歌の予定を書き込めるカレンダー」が開設される　「うたの日ブログパーツ」発表**
4月	**1日**	**1**	**1**	**16**	**「うたの日」OPEN！題〈日〉、16人からのスタートだった　迂回さんが最初の首席となる**
	22日	22	1	28	題〈割〉　村田馨さん　初出詠　初日からいくつもの熱い評を寄せる
					4月「双葉スイッチ」設置 [1]
5月	13日	43	1	36	リオさんルオさんレオさんトリオ参加スペシャル
	15日	45	1	36	題〈苺〉　選評をめぐって議論が発生。後日ののさんがサイトの方針を示した
	20日	50	1	51	題〈ゴリラ〉"あっちむいてもゴリラこっち向いてもゴリラ"　初めて参加者50人を超え、51人となる
	23日	52	1	34	ロゼッタストーンが発掘される [2]
					5月「(エロ)サイトの名前大喜利」開催 [3]
6月	4日	65	1	41	題〈虫〉 [4]
	15～20日				チーム対抗歌合戦第1回「短杯(TAN CUP)」開催　題〈友〉優勝「抒情戦隊ミソヒトモジャー」
					個人の部優勝　工藤玲音さん [5]
7月	**9日**	**100**	**1**	**71**	**OPEN100日記念　題〈100点満点の恋人とはこんな人なのだ〉　首席　ばん悠さん**
	12日				サーバダウン　ののさん"サーバさんが死んじゃったかもしれません"
	13日				サーバからの連絡　ののさん"極めて深刻な状態"
	13日	105	1	33	サモア危機 [6]
	10～17日				初代うたの人　ゆりぐもさん　〈初めて〉　59pt　(45首)　全首評　中牧正太さん　サーバの悲劇を超えてゆく人の巻 [7]
	19日				新「うたの日ブログパーツ」配布
8月	2日	124	1	50	題〈パンツ〉　首席　スコヲプさん　パンツ王と呼ばれるようになる
	18日				第2代うたの人　桔梗さん　(人気)　56pt　(26首)
9月	15日				第3代うたの人　牛道さん　(最大)　53pt　(26首)
	25日	178	1	54	題〈クニコさんの写真〉　はじめての「写真で一首」その後、さまざまな写真が題となる
	25～30日				「R-2ぐらんぷり2014秋」開催 [8]　優勝／龍二～パンケーキ哀歌(エレジー)～(龍翔さん × 泳二さん)
	25～30日				自分とコンビで「R-2ぐらんぷり」出場か？ [9]
	29日	182	1	50	超字足らず！？　わずか3音の短歌が投稿される [10]
10月	15日				西城秀樹も間違えたのだ！ [11]
	17日	**200**	**1**	**57**	**OPEN200日記念　題〈体重200Kgを超えた体で一首〉　首席　箔紙さん・はだしさん**
	20日				第4代うたの人　門脇篤史さん　〈瞬間〉　56pt　(27首)
	26日	209	1	46	初めましての初出詠に！！！ [12]
	26日				題〈デニム〉[13]
	27日	210	1	48	初・・・！　月花さんがゆらさんからロゼッタストーンをもらう
11月	4日	218	1	45	「おみくじ」開始
	17日				第5代うたの人　杏さん　〈雲〉　74pt　(25首)
	中旬				「デリヘルにフォローされてこそ一人前」 [14]
	19日	233	1	43	わああああああ　月花さん初めて首席を獲得　とにかくびっくりただただ嬉しかった
12月	15日				第6代うたの人　柊さん　〈昔〉　52pt　(27首)
	19日	263	1	45	中牧正太さん〈一気〉でバースデー首席
	20～28日				星月歌合戦　(なんたる星と月の歌会参加メンバーの対抗戦) 5対1で星組の勝利
	31日	275	1	78	うたの日の黎明期を支えた黒夜行さんご勇退

2015年1月～7月

年月日		できごと			
2015年		日目	Room	人数	
1月	1日	276	1	56	題〈平成二七年の抱負〉
	8日	283	1	64	未来のうたの日開催予定日にアクセスできるように
	8日				中牧正太さんの首席30首を記念したネプリ『番』が配信される
	10日	285	2	59	2ルームに増　題〈警察〉〈ヒント〉
	19日				第7代うたの人　桔梗さん　〈キス〉　96pt　(24首)　全首評　桔梗さん
	25日	**300**	**1**	**75**	**OPEN300日記念　題〈お釣り300万円ねって言うおばちゃん〉　首席　泳二さん**
2月	3日	309	2	82	題〈豆〉〈プログラム〉　裏管理人の豆太さんへの感謝をこめてのお誕生日歌会
	8日	314	2	71	題〈突〉〈張〉　逢さん〈突〉で15点を獲得し、最高得点記録を更新（当時）
	9日	315	2	71	題〈旧〉〈球〉　季夏さん〈球〉で前日の逢さんと同じく15点という得点をたたきだす
	16日				第8代うたの人　逢さん　〈たくさん〉　82pt　(40首)
	24日	330	2	81	ブスとうんこ　[15]
3月	1日	335	3	78	3ルームに増　題〈光〉〈産〉〈町〉
	7日	341	3	69	詩情溢れる評　[16]
	10日	344	3	80	佐藤　[17]
	15日				～9月5日　スコアボード設置（得評数が表示されるため、それに一喜一憂）
	16日				第9代うたの人　桔梗さん　〈車〉　57pt　(35首)　全首評　太田青磁さん・野崎アンさん
	25～30日				「R-2ぐらんぷり2015春」開催　優勝／みかん猫（焼きみかんさん × 黒猫さん）
	30日	364	3	82	**題〈都々逸〉〈読書〉〈大喜利〉**
	30日				太田青磁さん　お題〈読書〉において全首評をした上で首席を獲得する快挙
	30日				小早川さん　お題〈都々逸〉において全首評をした上で3点しか獲得できず[18]　そして都々逸クラスタ23人襲来
	31日	**365**	**3**	**68**	**一周年記念日　題〈祝〉〈サモア〉〈祭〉～うたの日とサモアの物語～**
	31日				「うたの日ブログパーツ#2」新発表　うたの日に参加したすべての短歌を収録　短歌をクリックすると開催回へリンク　など新機能
4月	2日	367	3	64	題〈スニーカー〉　首席　スコヲプさん　パンツ王の装備が増える
	5日	370	2	72	2ルームに減　題〈紅茶〉〈信号〉
	13日				第10代うたの人　杏野カヨさん　〈神〉　71pt　(48首)
	21日	386	2	67	題〈仲間〉〈輝〉　中牧正太さん　365日連続出詠記念歌会　中牧さんの出題による歌会で全部屋全首評
					"伝説の日"といわれる
	26～5月6日				短歌一武道会　優勝は覆面歌人　THE TANKA　[19]
5月	**5日**	**400**	**1**	**89**	**OPEN400日記念　題〈400年前にタイムスリップして一首〉　首席　小向大也さん・スコヲプさん**
	12日	407	2	80	ひとりひとりのひとり　[20]
	18日				第11代うたの人　涼風あき津さん（リセット）97pt（30首）定員制となる 全首評　太田青磁さん・羽鳥かよ子さん・塾カレーさん・きむろみさん
					5月　うたの日ミラクル　春野あくびさん[21]と沼尻つた子さんが参加していた伝説の月　その貴重さに震える
6月	15日				第12代うたの人　沼尻つた子さん　〈もし〉　101pt　(30首)　全首評　きむろみさん
	19～21日				大橋春人さんのツイッター企画　#たんばな3　[22]
7月	5日	461	2	75	「うんで一首」開始
	7日	463	2	**102**	題〈願〉〈星〉　初めて参加者100人を超え、102人となる
	9日	465	3	95	3ルームに増　題〈三〉〈森〉〈中〉
	13日				第13代うたの人　葵の助さん　〈写真で一首〉　79pt　(30首)　全首評　太田青磁さん・きむろみさん
	14日	470	3	75	長月優歌会　[23]
	14日				うんで一首で遊びすぎ　亜梨さん、きつねさんに8通も評を送りつける
	15日	471	3	80	沼尻つた子さん　うんの日を編歌　[24]

2015年8月～2016年2月

年月日				できごと
2015年	日目	Room	人数	
8月 1日	488	3	90	題〈顔〉〈おっぱい〉（大きい）〈おっぱい〉（小さい）　個人情報？[25]
2日	489	3	77	題〈両〉〈パンツ〉（男性用）〈パンツ〉（女性用）
13日	**500**	**1**	**90**	**OPEN500日記念　題〈500日後へ贈るプレゼント〉　首席　蒼井灯さん**
13日				『みんなのうた』open500日記念の合同ネプリ [26]
18日				第14代うたの人 まるやまさん 〈帽子〉 70pt （34首） 全首評 太田青磁さん・きむろみさん
19日	506	3	87	珈琲日和 [27]
25～31日				チーム対抗歌合戦第2回「短杯（TAN CUP）」開催　題〈夏〉優勝「マッハもじゃ天」個人の部優勝 えんどうけいこさん
31日				500日記念ネプリに参加しました！ 月花さんのネプリに関連する題〈過去形〉をののさんが出題してくれ 全首評した
18頃～9月1日				500日の個人ネプリの応援の題 [28]
8～9月				うたの日ネプリまつり　うたの日open500日を記念して有志が個人でネットプリントを配信 [29]
9月 19日	537	2	56	2ルームに減　題〈速〉〈爆〉
19日				『NHK短歌』10月号のジセダイタンカに【「うたの日」投稿】として門脇篤史さんの連作が掲載される
21日				第15代うたの人 中牧正太さん 〈失恋〉 90pt （30首） 全首評 太田青磁さん・きむろみさん
23日	541	2	65	ジェームズ鈴木氏登場 [30]
10月 2日	550	2	62	木村比呂さん〈泥〉でバースデー首席
19日				第16代うたの人 小川けいとさん 〈時々〉 59pt （29首） 全首評 太田青磁さん・きむろみさん
20～25日				「R-2ぐらんぷり2015秋」開催　優勝／栓抜きデモクラシー（死んでる死刑囚さん × 多田なのさん）
11月 16日				第17代うたの人 フジタレイさん 〈幸〉 66pt （31首） 全首評 太田青磁さん・きむろみさん・桔梗さん
21日	**600**	**1**	**62**	**OPEN600日記念　題〈全校生徒600名の前で一首〉　首席　文乃さん・冨樫由美子さん・はだしさん**
12月 21日				第18代うたの人 ナタカさん 〈数〉 76pt （28首） 全首評 太田青磁さん・きむろみさん・桔梗さん・吉川みほさん
31日	640	2	82	沼尻つた子さんうたの日をご卒業
2016年				
1月 1日	641	2	71	2ルームとも題〈平成二八年の抱負〉で行われた
14日	654	2	82	初参加！（あれ？） 参加の仕方よくわからず [31]
18日				第19代うたの人 ののさん 〈楽〉 94pt （29首） ののさん失恋疑惑浮上 全首評 太田青磁さん・きむろみさん・桔梗さん
21日	661	2	95	塾カレーさん題〈木〉において全首評をした上で首席を獲得する快挙
2月 3日	674	2	88	題〈右〉〈目〉　裏管理人の豆太さんへの感謝をこめてのお誕生日歌会
6日	677	2	92	題〈村〉〈氷〉 寿限無ブーム 〈氷〉では非常に長い筆名を持つ者が数名現れる
7日	678	2	85	題〈缶〉〈カラス〉 寿限無ブーム 〈カラス〉では非常に長い筆名を持つ者が現れる
8日	679	3	90	3ルームに増　題〈部屋〉〈復活〉〈増加〉
9日	680	3	91	しま・しましまさん題〈縞〉において全首評をした上で首席を獲得する快挙
11日	682	3	90	薄荷。さん〈未来〉でバースデー首席
15日				第20代うたの人 きいさん 〈ツッコミ〉 81pt （44首） 全首評 きむろみさん
17日	688	3	85	楢原もかさん怪獣全首評　題〈怪獣〉〈兄〉〈弟〉 [32]
27日	698	3	94	コップがひとつ [33]
29日	**700**	**1**	**119**	**OPEN700日記念　題〈うるう日〉　首席　宇野なずきさん・ののさん・須磨蛍さん**

2016年3月～9月

年月日		できごと			
2016年		日目	Room	人数	
3月	6日				第二回大学短歌バトル2016 長月優さん所属のここのつ歌会が優勝
	10日	710	3	111	題〈自由詠〉〈自由詠〉〈自由詠〉（以降毎月10日は〈自由詠〉の日に）
	12日	712	3	96	題〈長〉〈（ ）〉〈優〉 大学短歌バトル優勝祝いの題
	14日				第21代うたの人 しま・しましまさん 〈桜〉 107pt （29首） 全首評 太田青磁さん・桔梗さん
	20日	720	3	87	笠和ささねさん 夢を叶えてもらいました [34]
	20～25日				「R-2ぐらんぷり2016春」開催 優勝／おるとな（村田馨さん × 砺波湊さん）
	22日	722	3	100	遠木音さん〈レコード〉でバースデー首席
	30日	730	3	100	**題〈いくら〉〈回文〉〈ゆとり〉**
	31日	**731**	**3**	**106**	**二周年記念日 題〈丸〉〈2〉〈年〉**
31～4月	11日				**3/31～4/11 open二周年リニューアル**
4月	12日				河野多香子さんエチュード歌集『猫と暮らせば』ご出版
	18日				第22代うたの人 西村曜さん 〈快感〉 62pt （31首） 全首評 太田青磁さん・桔梗さん
5月	16日				第23代うたの人 大葉れいさん 〈後悔〉 91pt （33首） 全首評 朝倉洋一さん・桔梗さん
	19日	780	4	106	4ルームに増 題〈18時〉〈19時〉〈20時〉〈21時〉 桔梗さん〈18時〉でバースデー首席
	25日	786	4	125	題〈畳〉〈車〉〈カレー〉〈南〉 三田たたみさん なんと！題〈畳〉で16点を獲得し、最高得点記録を更新（当時）
	26日	787	4	126	題〈橋〉〈コーラ〉〈火〉〈絵〉 中牧正太さん〈絵〉で通算首席100回
6月	1日	794	4	140	題〈理由〉〈シャツ〉〈肘〉〈ケーキ〉 中牧正太さん〈ケーキ〉で17点を獲得し、最高得点記録を更新
	8日	**800**	**1**	**182**	**OPEN800日記念 題〈噺八百を並べてください〉 182人は最高参加人数 首席 nu_koさん・葵の助さん**
	9日	801	4	161	ロックンロールな短歌が生まれる [35]
	11日	803	5	127	5ルームに増 題〈17時〉〈結婚〉〈蛍〉〈印象〉〈残業〉
	12日				虫武一俊さん『羽虫群』をご出版
	20日				第24代うたの人 桔梗さん 〈秘密〉 68pt （34首） 全首評 朝倉洋一さん・有樹由之さん・太田青磁さん・桔梗さん
	30日	822	5	138	三田たたみさん『めぐる季節の回文短歌』をご出版
	30日				かにたべーたさん消息不明 [36]
7月	7日	829	5	144	「べたべーた」な筆名が発生
	18日				第25代うたの人 しま・しましまさん 〈悪〉 99pt （27首）
					全首評 太田青磁さん・桔梗さん・きむろみさん・吉川みほさん
8月	2日	855	5	154	題〈パンツ〉 首席 スコヲブさん 再びパンツ王に輝く[37]
8月10～14	日				中山とりこさん連続首席記録更新（5日） 〈花火〉〈自由詠〉〈時計〉〈枕〉〈怖い話〉
	20日				『NHK短歌』9月号のジセダイタンカに【「うたの日」所属】として小川けいとさんの連作が掲載される
	22日				第26代うたの人 七緒さん 〈アルバイト〉 87pt （29首） 全首評 太田青磁さん・桔梗さん
	30日	883	5	132	夏休み最後の日（8/31のナ〇シマスパーランドのコーヒーカップはがら空き） [38]
9月	7日				沼尻つた子さん『ウォータープルーフ』をご出版
	12日				杉谷麻衣さん『青を泳ぐ。』をご出版
	13日	897	4	117	4ルームに減 題〈溝〉〈姿〉〈へ〉〈10年前〉
	14日	898	4	115	塾カレーさん題〈自慰〉首位に落胆 果てしのちなんてしづかな四畳半らつこのやうにわれはたゆたふ
	16日	**900**	**1**	**118**	**OPEN900日記念 題〈憲法900条で定めたいこと〉 首席 中山とりこさん**
	19日				第27代うたの人 遠木音さん〈奇跡〉66pt（28首） 参加者抽選枠ができる 全首評 太田青磁さん・桔梗さん[39]
	20～25日				「R-2ぐらんぷり2016秋」開催 優勝／空に浮かぶ子供（雀来豆さん × 月骨さん）

年月日		できごと			
2016年		日目	Room	人数	
10月	10日	924	4	126	初めての首席　[40]
	15日	929	4	133	恥ずかしい忘れ物　うたの日「あるある」？　[41]
	17日				第28代うたの人　金子りさん　〈猫〉　75pt　(30首)　　全首評　桔梗さん・宮本背水さん
	18日	932	4	127	初めての「ありがとう」[42]
	20日				『NHK短歌』11月号のジセダイタンカに【「うたの日」所属】として三田たたみさんの連作が掲載される
	23日	937	4	124	Lonely♡[43]
	28日	942	4	108	Lonely♡[44]
11月	17日	962	4	104	題〈知らんがな〉知らんがな！　[45]
	23日				第29代うたの人　萩野瞬さん　〈脳〉　73pt　(31首)
	27日	972	4	100	恋人に異名投稿バレたこと女の勘の畏ろしきこと
12月	3日	978	4	95	ひとつめの部屋の題が文字化け □□や？？に見えて伝言板で話題になる　のちに二点リーダーだったことが判明
	9日	984	4	94	うたの日初体験　東條 ooさん　なんだかウレシイ
	10日	985	4	111	うたの日2日目　東條 ooさん　気になる毎日始まってます
	25日	1,000			**OPEN1,000日記念** 中牧正太さん連続出詠記録　更新中
					※2016年12月13日現在

年表中の註釈

[1]　双葉屋ほいるさんの提案で「昨日」「明日」のボタンがつく「双葉スイッチ」と名付けられる（現在はない）

[2]　元々は2014/5/22の遊糸さんの歌へ奈月遥さんの評のこと　文字数のあまりの多さに見た目が石板のようだったことからののさんが命名
1000文字以上の選評は全てそう呼ばれるように　後にたびたび登場する（主に奈月さんとゆらさんが使い手）

[3]　うたの日のエロサイトを開設するにあたり、「サイトの名前大喜利」開催。双葉屋ほいるさんの「句またがり」が優勝するが、ののさん考案の「うらの日」に決定（未だ実現していない）

[4]　〈虫〉で11点の主席を獲得した中牧正太さんに、ののさんが"薔薇王子"と呼んだのが発端か　以降中牧さんは「王子」と呼ばれる

[5]　第3位となった山本まともさんの「1時間やったら次は岡くんちいって岡くんちの1時間」が大ウケし、その後「岡くん」を主人公とした短歌がいくつも生まれた
宮鳴いつくさん 14/9/6,14/12/17,15/3/10　箔紙さん 14/10/13　西村湯呑さん 14/9/27　焼きみかんさん第2回うたの人

[6]　旧レンタルサーバの突然閉鎖そしてたどり着いたのが米国領サモアの無料サーバ　数日程度の滞在に終わったが、参加者でサモアの法律を調べたりし一致団結したひと夏

[7]　初代うたの人開催中にデータが吹っ飛び参加者に呼びかけデータを寄せ集めた（現在でも投稿者名「Date Lost」、選評の一部が「ロストさん」となっている）

[8]　二人一組で短歌一首を投稿する歌会

[9]　ガラケー太 × ガラケー太さん参加（正しくは五月が丘はさみさん × ガラケー太さん）

[10]　「はなびらが奇数の花を贈りますいつでも「好き」で終われるように」さんが「泳ニ」という短歌を投稿

[11]　月丘ナイルさんのうたの人のうたがとても可愛らしく素敵で夜中に評を書き、眠気に襲われたのが悲劇の始まり
"恋愛SF的な設定"と書いたつもりで"恋愛SM的な設定"とミスタイプ　投稿の訂正機能がなくののさんに修正依頼し訂正文も投稿
その後ほっとしていたところののさんが「ナイルさん、ケー太さんSMって書いたんだよ」という痛恨の一撃
ナイルさんも乗っかり、ののさんに「あんた生粋のSやないか！」と心の中で何度もつぶやいた（須磨蛍（元・ガラケー太）さん談）

[12]　月花さん初出詠の日に「首席4人出た―！」と騒然　須磨蛍さんからの温かな評が本当に嬉しかった

[13]　〈デニム〉でスコヲプさんが首席になり「パンツ王がデニムを手に入れる」と話題に　ののさん"いくらデニムを手に入れても、僕はその上からパンツをはきますよ"スコヲプさん『パンツの時代』増刊（絵は双葉屋ほいるさん）

[14]　短歌クラスタがデリヘルアカウントに次々とフォローされる事案が発生　うたの日界隈でも「デリヘルにフォローされてこそ一人前」の空気が流れる

注釈(2)

[15] 〈プス〉で首席をとりタイムラインが盛り上がっていたところ過去に〈トイレ〉でも首席をとったことを“うんこも取った”と言われさらに盛り上げた 楢原もかさん

[16] 月花さん“自分の短歌より村田さんから頂いた評に詩情があふれていました”村田さんの♡も頂きました←知らんがな

[17] 個人を狙い打った題でまさか自分の姓が題になるとは思いもしなかった佐藤博之さん

[18] あんなに都々逸都々逸言っているのに・・・泣いてないです

[19] インターネット短歌界最強を決めるトーナメント。128人が参加し一回戦が64試合も行われるという大盛会 THE TANKAという覆面歌人が優勝し、何故かスコヲプさんに祝福のリプライが多数送られた。

[20] 題に〈ひとり〉が出されたが結果8人もの方が首席を獲得 皆それぞれ「ひとり」への想いが異なることを感じ、「ひとり」というものの本質を垣間見られたような気がした

[21] 2015/4/30～2015/6/4 謎の歌人、春野あくびさんがおよそ1か月だけ参加し、月間首席9回の最高記録（当時）を達成 中の人はいまだ不明

[22] 「インターネット短歌のこれまでとこれから」で管理人ののさんを含め、ネット短歌への様々な意見が出る

[23] 500日記念ネプリの歌が選べないために長月優さんのうたのみ5首を提示して行われた歌会

[24] 詳しくは申し上げません その日のルイドリツコさんと佐藤博之さんへの評をご覧ください

[25] 〈おっぱい〉（小）に対して冨樫由美子さんが「Aカップアンダーバスト64トリンプ「天使のブラ」で飛べそう」と詠み、“身を削った個人情報か？”と痛々しがられる（そこまでしても首席は貰えずさらに痛々しかった）

[26] 参加者からうたの日に出した歌自選一首を募集し、うたの日記念ネプリ編集部（編集長：中牧さん）の方々による発行

[27] 500回記念ネプリ『みんなのうた』を発行したときに一緒に作った『珈琲日和』の発行を記念してののさんが題を〈コーヒー〉に

[28] うたの日ネプリまつりの個人ネプリを応援すべく、それぞれのタイトルに因んだお題が出題された

[29] うたの日ネプリまつり参加者・タイトル

中牧正太さん『セブンで待ってる』
沼尻つた子さん『冷やし短歌』
大葉れいさん『うさぎの背中』
津島あき（涼風あき津）さん『まだ恋じゃない』
しま・しましまさん『ああ、これはフエキどうぶつのりの匂いだ』
荻森美帆さん『夕まぐれ―荻森美帆の場合―』
木原ねこさん『ちょっかい』
浦賀エリさん『ウラノヒビ』
404notFOB16さん『めぐる』
ゆらさん『on my own』
太田青磁さん『音符に抱かれて』
misOnoさん『御苑ロイヤルガーデン』
千花（ちはな）さん『ないものねだり、おまけつき』
野崎アンさん『あんの日』
深川青さん『ブルーノート』
雨さん『スポットライトの熱さを知っている』
一条 遊歩さん『Promenade』
枯梗さん『うたうたひ。』
ルオさん『うたの巣ひとつ』
知己凛さん『珈琲日和』
月丘ナイルさん『花言葉』
月花さん『過去形で言える私に今年はなりたい』
長月優さん『ながつきちゃん！』
すみさん『すみそにあん博物館』
きむろみさん『ごはん一膳』
多香子さん『御茶ノ水から』
とみいえひろこさん『スパイス短歌集』
ナタカさん『裸足で砂を踏む』
黒井真砂さん『ライナスの嘘』
天野うずめさん『Sing sing a song』
塾カレーさん『二位じゃダメなんですか。』
遊糸さん『ゆうし一同』
薄荷。さん『ふわふわしっぽ。』
橘さやかさん『方舟1号』
木村比呂さん『祝祭にまぎれて』
雀来豆さん『夜になると桃がはなしをしてくれた』
こりけケリ子さん＆有椿由之さん『ありけり』
瀬戸さやかさん『ハートが欲しくて』
黒川ひかげさん『嘘と野獣 あるいはどうして僕はうまくシュークリームを食べられないのか』
きつねさん『no name』
文佳さん『ふってすぎてゆく』
桜望子さん『ちっちゃなライオンの絵本』
うたの日500日記念『みんなのうた』
スコヲプさん『フラワーパンチZ』
坂本 樹さん『眠れない夜の気配に』

注釈(3)

[30] 塾カレーさんの別名義　筆名を変えた途端不調に陥りわずか10首で姿を消した　10/7に塾カレー名義で投稿を再開、10/9・10/10に2日連続首席を達成した

[31] 開評後に提示されるうたのような体裁を整えればよいと思い、そのようにレイアウトしてツイッターに上げたが、慌てて翌日消した。“誰も気づいていなかったと思うが・・・”

[32] 自他ともに認める榊原もか Day　怪獣部屋で趣味に走った完全なおふざけコメントで全首評　“思いのほか喜ばれたりおもしろがられたりで嬉しかった”

[33] 「このまんま置いてきぼりになるのかな　洗面台にコップがひとつ」この数日後にお父様が亡くなられたふたりさん　“逝ってしまう父の横で父の歌を歌えたのは幸せだったかもしれません”

[34] 〈ニート〉の題で回文を見てみたいと呟いたら御厨山みなみさんが素晴らしい作品を詠んでくださり首席になられた

[35] 希和子さん、慌てて投稿したため初句を飛ばしてしまったところ逆にロックだと評をもらい嬉しかったり汗かいたり・・・

[36] うたの日で人気だったかにたべーたさん（蟹田βさん）がこの日の出詠を最後に消息不明になる　中の人は虫武一俊さんではと話題に

[37] スコヲプさんの過去3年間（パンツ）祭り平均得点　♡6　♪6

[38] さはらやさん、「夏休み最後の明日乗りに行くコーヒーカップはたぶん空っぽ」というううたで首席と深い素晴らしい評をいただいたが、小学生は宿題で忙しいだろうという安易な考えでできたうた

[39] 太田青磁さん、桔梗さんのうたの人での全首評はうたの日にとっての財産　常なる評への誠実さ、熱心さがあった

[40] 〈自由詠〉において蝶番さん46首目で初めて首席　ようやくうたの日ファミリーの一員になれたような、そんな気がした日

[41] えだまめさん、nu_koさんのうたに感動し選評したがハートをつけ忘れる　「思い出の葉みたいなあの歌がふいに流れてラジオを消した」

[42] 蝶番さん、自分の短歌に初めて“ありがとう”と言われる「この両手昔は前足だったんだ　あなたの頬に触れる幸せ」

[43] ♪はひとつも入らなかったが、もーたろさん、衣未さんからただひとつ真っ赤な♡をもらった　“衣未さんは理想の女性の形をしておりました”

[44] ♪はひとつも入らなかったが、もーたろさん、ぽつりさんからただひとつの♡をもらう“ただならぬシンパシーを感じたのであります”

[45] ひのタ雅さんのうた「森君と大村君から同じ日に誘われたのねえどうしたらいい？」♡♪のほかに「知らんがな！」が2評入っており“よっしゃ！！！”

うたの日
短歌1000日記念号

おまけ
うたの日
1000日データ集

1000日分のデータ、ハートからドンマイまでまとめました。

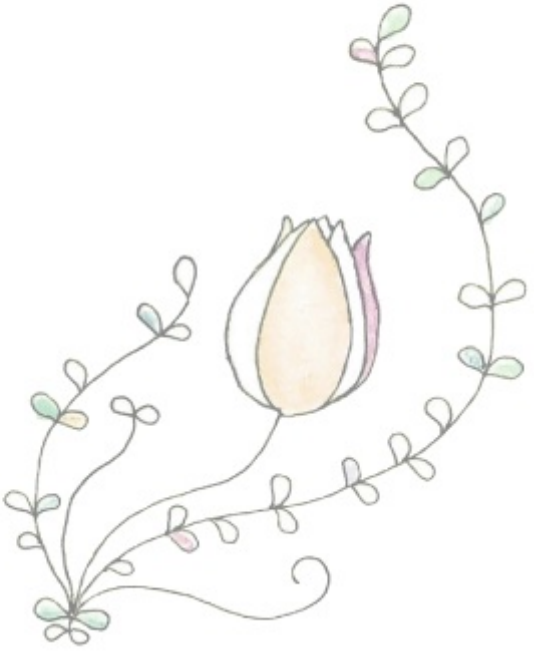
ランキングもあるよ！

全データまとめ、部屋ごと**TOP10(1)**

全データまとめ

全合計	
出詠数	76,795 首
ルーム数	2,444 部屋
薔薇(花束)数	3,482 個
ハート数	148,710 個
音符数	337,924 個
選評数	58,112 首
まじめ数	18,364 人
どんまい数	3,448 人
秀歌数	145 首
おとの日数	932 首

ルームごと平均	
出詠数	31.42 首
ルーム数	2.44 部屋
薔薇(花束)数	1.42 個
ハート数	60.85 個
音符数	138.27 個
選評数	23.78 首
まじめ数	7.51 人
どんまい数	1.41 人
秀歌数	0.06 首
おとの日数	0.38 首



部屋ごとTOP10

出詠数

Rank	ルーム情報		首
	日付	歌題	
1	2016年12月25日	せん	247
2	2016年6月8日	嘘八百を並べてください	182
3	2016年2月29日	うるう日	119
4	2016年9月16日	憲法第900条で定めたいこと	118
5	2015年8月13日	500日後へ贈るプレゼント	90
6	2015年5月5日	400年前にタイムスリップして一首	89
7	2014年12月31日	歌	78
8	2015年1月25日	お釣り300万円ねって言うおばちゃん	75
9	2014年7月9日	100点満点の恋人とはこんな人なのだ	71
9	2015年1月7日	草	71

薔薇数

Rank	ルーム情報		首
	日付	歌題	
1	2016年8月6日	様	9
2	2015年5月12日	ひとり	8
2	2016年7月7日	星	8
2	2016年8月12日	時計	8
5	2016年9月8日	アパート	7
6	2014年5月10日	ごめん	6
6	2015年6月28日	面	6
6	2015年8月14日	焦る	6
6	2015年11月26日	好きだった教科	6
6	2016年5月12日	自棄	6

♡数

Rank	ルーム情報		個
	日付	歌題	
1	2016年12月25日	せん	202
2	2016年6月8日	嘘八百を並べてください	169
3	2016年2月29日	うるう日	112
4	2016年9月16日	憲法第900条で定めたいこと	97
5	2015年8月13日	500日後へ贈るプレゼント	88
6	2015年5月5日	400年前にタイムスリップして一首	82
7	2015年1月25日	お釣り300万円ねって言うおばちゃん	72
8	2015年7月7日	星	67
9	2015年1月7日	草	64
10	2015年6月6日	SEX	63
10	2015年6月21日	短歌でプロポーズ	63

♪数

Rank	ルーム情報		個
	日付	歌題	
1	2016年12月25日	せん	4,854
2	2016年6月8日	嘘八百を並べてください	2,411
3	2016年2月29日	うるう日	1,153
4	2016年9月16日	憲法第900条で定めたいこと	1,130
5	2015年5月5日	400年前にタイムスリップして一首	918
6	2015年8月13日	500日後へ贈るプレゼント	785
7	2015年1月25日	お釣り300万円ねって言うおばちゃん	639
8	2014年12月31日	歌	615
9	2015年1月7日	草	524
10	2015年1月5日	誤	485

2016年12月26日0時時点のデータです。

部屋ごとTOP10(2)

部屋ごとTOP10

おとの日数

Rank	ルーム情報		首
	日付	歌題	
1	2016年12月25日	せん	110
2	2016年6月8日	嘘八百を並べてください	45
3	2015年5月5日	400年前にタイムスリップして一首	14
3	2016年2月29日	うるう日	14
3	2016年9月16日	憲法第900条で定めたいこと	14
6	2015年8月13日	500日後へ贈るプレゼント	12
7	2015年1月25日	お釣り300万円ねって言うおばちゃん	11
8	2014年12月31日	歌	7
9	2015年1月1日	平成二七年の抱負	6
9	2015年1月5日	誤	6
9	2015年1月26日	降る	6

まじめ数

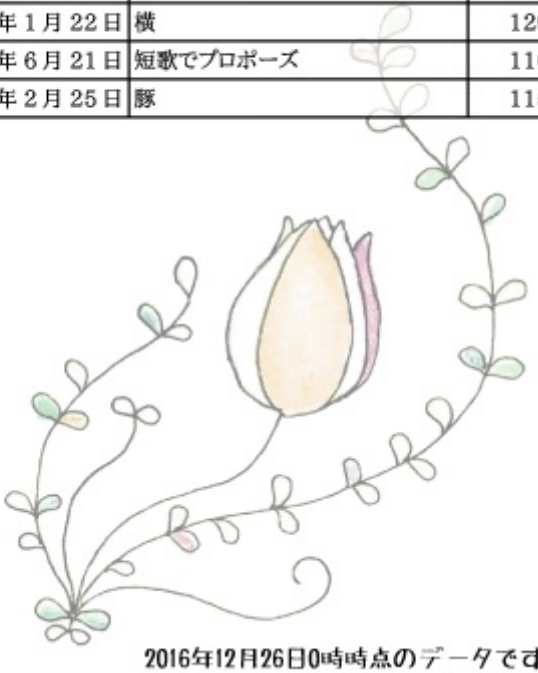
Rank	ルーム情報		人
	日付	歌題	
1	2016年6月8日	嘘八百を並べてください	94
2	2016年12月25日	せん	83
3	2016年2月29日	うるう日	34
4	2016年9月16日	憲法第900条で定めたいこと	30
5	2015年8月13日	500日後へ贈るプレゼント	26
6	2016年4月14日	Eテレの番組	25
7	2014年7月9日	100点満点の恋人とはこんな人なのだ	24
7	2015年1月4日	酔	24
7	2016年5月10日	自由詠(1)	24
10	2016年7月6日	小説の一節を入れた短歌	23

どんまい数

Rank	ルーム情報		人
	日付	歌題	
1	2014年4月4日	深夜	12
2	2014年4月3日	サンダル	11
2	2014年4月8日	チクッと	11
4	2014年4月9日	黒	9
5	2014年4月6日	無理	8
5	2014年4月10日	交差点	8
5	2015年11月25日	凶器	8
8	2014年4月7日	ラッキー	7
8	2014年8月11日	＋－	7
8	2014年8月19日	俳句	7
8	2015年4月12日	盗	7
8	2015年10月14日	ドジ	7
8	2016年3月23日	カーテン	7
8	2016年12月3日	好	7

選評数

Rank	ルーム情報		首
	日付	歌題	
1	2016年6月8日	嘘八百を並べてください	603
2	2016年12月25日	せん	581
3	2016年2月29日	うるう日	263
4	2016年1月3日	光	164
5	2015年11月21日	全校生徒600名の前で一首	149
6	2016年2月18日	湯	134
7	2016年1月7日	広	127
8	2016年1月22日	横	120
9	2015年6月21日	短歌でプロポーズ	116
10	2016年2月25日	豚	115



2016年12月26日0時時点のデータです。

総合成績TOP10(1)

総合成績TOP10

最高得点TOP10

Rank	筆名	点
1	中牧正太	17
2	三田たたみ	16
3	逢	15
3	季夏	15
3	いずみ　美帆	15
6	ヒヨワくん	14
7	月花	13
7	たえなかすず	13
7	しま・しましま	13
7	蓮	13
7	冨樫由美子	13
7	西村湯呑	13
7	金子りさ	13

得点平均TOP10

Rank	筆名	点
1	逢	3.54
2	nu_ko	3.49
3	大葉れい	3.46
4	七緒	3.24
5	沼尻つた子	3.22
6	桔梗	3.17
7	中牧正太	3.14
8	小向大也	3.08
9	ナタカ	3.04
10	森下裕隆	3.02

通算出詠TOP10

Rank	筆名	首
1	中牧正太	985
2	天野うずめ	915
3	雨宮　司	871
4	小宮子々	856
5	多香子	856
6	えんどうけいこ	821
7	松木秀	808
8	宮鳴いつく	802
9	心伝	786
10	きつね	721

連続出詠TOP10

Rank	筆名	日
1	中牧正太 ※	979
2	えんどうけいこ ※	602
3	衣未(みみ)	535
4	雨宮　司	508
5	照屋沙流堂 ※	462
6	雀来豆	433
7	吉川みほ	400
8	淡海わこ ※	383
9	桔梗 ※	363
10	西村曜 ※	360

※は継続中

まじめTOP10

Rank	筆名	日
1	雨宮　司	767
2	多香子	693
3	しま・しましま	420
4	衣未(みみ)	335
5	きつね	295
6	塾カレー	290
7	静ジャック	278
8	三田たたみ	272
9	西村曜	270
10	えんどうけいこ	266

まじめ率TOP10

Rank	筆名	投稿/出詠数
1	三田たたみ	98.19%
2	雨宮　司	88.06%
3	さくらべに	83.85%
4	亀山真実	81.71%
5	多香子	80.72%
6	村田馨	79.37%
7	StarLighter	77.60%
8	泳二	75.97%
9	西村曜	75.00%
10	はだし	70.36%

連続まじめTOP10

Rank	筆名	日
1	さくらべに	47
2	しま・しましま	30
3	えんどうけいこ	22
4	か太郎す	17
5	あ太郎か	16
6	きつね	13
7	StarLighter	12
8	たかたか	11
9	404notF0816	11
10	すみ	9

※率、平均の計算は出詠100日以上の方のみでランキングしています。2016年12月26日0時時点のデータです。

総合成績TOP10(2)

総合成績TOP10

おとの日TOP10

Rank	筆名	回
1	小宮子々	20
1	えんどうけいこ	20
3	ちゃむ	15
4	松木秀	14
5	天野うずめ	13
6	遠木音	12
6	スコヲプ	12
8	きつね	11
9	葵の助	10
10	柊	9
10	きい	9
10	桜望子	9
10	薄荷。	9
10	桔梗	9

おとの日率TOP10

Rank	筆名	獲得/出詠数
1	みわ	6.93%
2	逢	5.94%
3	秋本こゆび	4.55%
4	遠木音	4.10%
5	ちゃむ	4.07%
6	可奈美	3.52%
7	箔紙	3.50%
8	桜枝巧	3.45%
9	琥珀	3.31%
10	ガラケー太	3.26%

♪獲得TOP10

Rank	筆名	個
1	中牧正太	5,399
2	えんどうけいこ	4,591
3	小宮子々	4,561
4	桔梗	4,347
5	きつね	4,214
6	天野うずめ	4,074
7	多香子	3,516
8	しま・しましま	3,480
9	西村湯呑	3,354
10	木原ねこ	3,075

LikeられTOP10

Rank	筆名	人
1	逢	8.73
2	涼風あき津	7.05
3	大葉れい	6.97
4	nu_ko	6.61
5	ヒヨワくん	6.45
6	木曜何某	6.38
7	泳二	6.33
8	桔梗	6.31
9	小向大也	6.29
10	スコヲプ	6.28

秀歌TOP10

Rank	筆名	首
1	中牧正太	13
2	桔梗	8
3	門脇篤史	7
4	しま・しましま	6
5	西村湯呑	5
6	大葉れい	4
6	nu_ko	4
7	ヒヨワくん	3
7	ナタカ	3
7	森下裕隆	3
7	沼尻つた子	3
7	小向大也	3
7	三田たたみ	3

秀歌率TOP10

Rank	筆名	獲得/出詠数
1	nu_ko	2.34%
2	大葉れい	2.21%
3	逢	1.98%
4	門脇篤史	1.93%
5	だっきー	1.90%
6	野崎アン	1.80%
7	中牧正太	1.32%
8	沼尻つた子	1.28%
9	桔梗	1.16%
10	冨樫由美子	1.09%

ハート獲得TOP10

Rank	筆名	個
1	中牧正太	2,137
2	桔梗	1,536
3	小宮子々	1,333
4	しま・しましま	1,219
5	きつね	1,118
6	西村湯呑	1,099
7	えんどうけいこ	969
8	天野うずめ	926
9	雀来豆	895
10	小川けいと	773

LoveられTOP10

Rank	筆名	人
1	逢	2.56
2	大葉れい	2.50
3	nu_ko	2.49
4	七緒	2.25
5	沼尻つた子	2.23
6	桔梗	2.23
7	中牧正太	2.17
8	小向大也	2.13
9	森下裕隆	2.06
10	太田宜子	2.05

※率、平均の計算は出詠100日以上の方のみでランキングしています。2016年12月26日0時時点のデータです。

総合成績TOP10(3)

総合成績TOP10

連続首席TOP10

Rank	筆名	日
1	中山とりこ	5
2	しま・しましま	3
2	ミルトン	3
2	ルイドリツコ	3
2	逢	3
2	吉川みほ	3
2	桔梗	3
2	月花	3
2	香村かな	3
2	春野あくび	3
2	沼尻つた子	3
2	中牧正太	3
2	東風めかり	3
2	薄荷。	3
2	冨樫由美子	3

薔薇通算TOP10

Rank	筆名	回
1	中牧正太	154
2	桔梗	96
3	しま・しましま	70
4	小宮子々	65
5	西村湯呑	59
6	太田宣子	50
7	きつね	50
8	ナタカ	49
9	門脇篤史	44
10	沼尻つた子	43

得評TOP10

Rank	筆名	人
1	中牧正太	1,120
2	えんどうけいこ	722
3	天野うずめ	705
4	小宮子々	695
5	桔梗	687
6	きつね	668
7	松木秀	663
8	多香子	635
9	西村湯呑	618
10	小川けいと	573

連続どんまいTOP10

Rank	筆名	日
1	知己凛	6
2	だゆう	5
2	心伝	5
4	中森つん	4
4	白石フランソワ	4
4	たた	4
7	ヒトデマン	3
7	天野うずめ	3
7	はだし	3
7	ちゃむ	3
7	なな	3
7	ルオ	3
7	雨宮　司	3
7	宮嶋いつく	3
7	郵便屋	3
7	水沼朔太郎	3
7	たかたか	3
7	瀬和璃羽	3

首席率TOP10

Rank	筆名	獲得/出詠数
1	沼尻つた子	18.30%
2	nu_ko	18.13%
3	七緒	15.96%
4	中牧正太	15.63%
5	大葉れい	15.47%
6	ナタカ	14.89%
7	桔梗	13.93%
8	逢	13.86%
9	杏野カヨ	13.51%
10	太田宣子	13.44%

選評TOP10

Rank	筆名	首
1	村田馨	5,116
2	雨宮　司	2,470
3	塾カレー	2,182
4	多香子	1,950
5	しま・しましま	1,857
6	黒夜行	1,348
7	衣未(みみ)	1,337
8	三田たたみ	1,261
9	きむろみ	959
10	泳二	884

得評平均TOP10

Rank	筆名	獲得/出詠数
1	森下裕隆	1.46
2	nu_ko	1.42
3	箔紙	1.36
4	吉川みほ	1.31
5	泳二	1.28
6	遊糸	1.27
7	文月都葉	1.27
8	いずみ　美帆	1.26
9	迂回	1.25
10	木曜何某	1.24

どんまい率TOP10

Rank	筆名	獲得/出詠数
1	だゆう	32.51%
2	こたきひろし	20.17%
3	心伝	18.58%
4	水沼朔太郎	16.90%
5	yosioo	16.13%
6	雨	15.15%
7	ササキ アンヨ	14.67%
8	笠和ささね	14.34%
9	シズハル	13.60%
10	おたまじゃくし先生	12.50%

どんまいTOP10

Rank	筆名	回
1	心伝	146
2	だゆう	144
3	こたきひろし	73
4	雨宮　司	72
5	宮木水葉	63
6	松木秀	57
7	宮嶋いつく	48
8	笠和ささね	40
9	くろじたう	37
10	衣未(みみ)	35

※率、平均の計算は出詠100日以上の方のみでランキングしています。2016年12月26日0時時点のデータです。

ベストうた

最高得点ベスト♡

Rank	数	日付	歌題	歌	筆名
1	17	2016 年 6 月 1 日	ケーキ	誰にでもやさしいわたしだった日のショートケーキは倒して食べる	中牧正太
2	16	2016年 5月 25日	畳	アラジンの絵本を読みだす子の下で畳もちょっとうずうずしてる	三田たたみ
3	15	2015 年 2 月 8 日	突	ふきのとうの緑まぶしくせかいじゅうでもっともやさしい突撃だろう	逢
3	15	2015 年 2 月 9 日	球	きっと父は星にさわったことがある電球替えのやさしき指先	季夏
3	15	2016年 6月 25日	主	お葬式人生初の主役ですドキドキします生きかえりそう	いずみ　美帆
6	14	2015年 1月 22日	ジャージ	縮まらぬふたりの距離を真緑のジャージの列が追い越して春	ヒヨワくん
7	13	2015年 2月 20日	つまり	不覚にも私が咲いてしまいそう　つまりあなたが春だったんだね	月花
7	13	2015年 2月 22日	電話	なんという沈黙だろう電話機は時雨の音をただしく拾う	たえなかすず
7	13	2015 年 4 月 2 日	新	新緑のひかりを受けてつぎつぎと開かれていくパイプ椅子たち	しま･しましま
7	13	2016 年 1 月 8 日	最初で最後	ばあちゃんの最初で最後の恋バナを聞いてじいちゃんが焼けるのを待つ	蓮
7	13	2016年 2月 20日	マニキュア	ていねいにマニキュア塗ればうつくしいことをしてきた手のやうになる	冨樫由美子
7	13	2016年 7月 13日	演歌	この先がどんな時代になろうとも肴はあぶったイカでいい人	西村湯呑
7	13	2016年11月29日	スニーカー	永遠に砂が出てくるスニーカー　日が暮れるまで笑えた僕ら	金子りさ

♪獲得ベスト♪

Rank	数	日付	歌題	歌	筆名
1	53	2016年12月25日	せん	千手観音が500の腕組みで僕を救うか考えている	ナタカ
2	48	2016年12月25日	せん	タウリンが1000ミリグラムで1グラムやないかとメロスは激怒した	西村湯呑
3	46	2016 年 6 月 8 日	嘘八百を並べてください	)世界中すべて括弧に閉じ込めて君と二人であくびをしたい(	@aokikenichi
3	46	2016年12月25日	せん	したためるほどにあなたが思われて一筆箋にひらく紅梅	野宮のあ
5	45	2016 年 6 月 8 日	嘘八百を並べてください	実はまだ799日目と知ってましたか(管理人のの)	きつね
6	44	2016年12月25日	せん	千両が実る実家の玄関で年に一度の「ただいま」を言う	月花
7	43	2016年12月25日	せん	トンネルで車線変更するように心変わりを自分に許す	檜原もか
7	43	2016年12月25日	せん	真剣に 10個のジュース 積み上げて「1000%!!」と自慢げな君	きなこ
8	41	2016年12月25日	せん	人間はひとりひとりが先駆者でひとりひとりに前例がない	えんどうけいこ
8	41	2016年12月25日	せん	かあさんがにじをおいかけてるあいだわたしきゃべつのせんぎりをする	冨樫由美子

うんちくられベスト（評数）

Rank	数	日付	歌題	歌	筆名
1	22	2014年 5月 15日	苺	初恋を苺に例えクリトリスなにがなんだか君の一部か	ガッキ
2	15	2016 年 6 月 8 日	嘘八百を並べてください	キウイの実そっとあたためつづけると七日ぐらいで鳥がうまれる	nu_ko
3	13	2016 年 6 月 8 日	嘘八百を並べてください	実はまだ799日目と知ってましたか(管理人のの)	きつね
3	13	2016 年 6 月 8 日	嘘八百を並べてください	神が来た！女将が来た！狼が来た！大女将が来た！おおおおかみが！	太田青磁
3	13	2016 年 6 月 8 日	嘘八百を並べてください	イヤホンのプラグ差す穴ついている位牌が結構売れてるらしい	いんげん
3	13	2016年12月25日	せん	したためるほどにあなたが思われて一筆箋にひらく紅梅	野宮のあ
7	11	2015年 7月 15日	終電	「終電を逃してからが本番」と長い前髪かきあげる母	ルイドリツコ
7	11	2016 年 6 月 8 日	嘘八百を並べてください	八百も嘘はつけぬと言いながら三十一文字も嘘を並べる 嘘嘘嘘

いろいろTOP5：2014年前半(1)

参考データ：いろいろTOP５（月別）

2014年前半

首席回数

月	Rank	筆名	回
4	1	浦賀エリ	4
	1	文月郁葉	4
	3	中牧正太	2
	3	ちゃむ	2
	3	かにたべーた	2
	3	みなま	2
	3	迂回	2
5	1	中牧正太	6
	2	黒夜行	4
	3	天野うずめ	3
	3	太田宣子	3
	5	遊糸	2
	5	ルオ	2
	5	こはぎ	2
	5	浦賀エリ	2
	5	文月郁葉	2
	5	chari	2
	5	ちゃむ	2
	5	酒井真帆	2
6	1	中牧正太	5
	2	月丘ナイル	3
	3	ちゃむ	2
	3	焼きみかん	2
	3	木村比呂	2
	3	かにたべーた	2
	3	黒夜行	2
7	1	木村比呂	4
	2	いさご	3
	2	中牧正太	3
	2	スコヲプ	3
	2	小宮子々	3
8	1	中牧正太	5
	2	太田宣子	4
	3	西村湯呑	3
	4	木村比呂	2
	4	秋山生糸	2
	4	稲垣三鷹	2
	4	ルイドリツコ	2
	4	長月優	2
	4	木原ねこ	2
	4	多香子	2
	4	門脇篤史	2
	4	スコヲプ	2
	4	大渕マコ	2

ハート獲得数

月	Rank	筆名	個
4	1	ちゃむ	36
	2	浦賀エリ	34
	3	中森つん	32
	4	文月郁葉	30
	5	遊糸	27
	5	ゆら	27
	5	天野うずめ	27
5	1	中牧正太	48
	2	文月郁葉	46
	3	浦賀エリ	33
	3	ルオ	33
	5	天野うずめ	32
6	1	中牧正太	50
	2	文月郁葉	37
	3	ちゃむ	31
	4	かにたべーた	30
	5	ルオ	26
7	1	中牧正太	51
	2	小宮子々	39
	3	天野うずめ	38
	4	スコヲプ	35
	5	木村比呂	34
8	1	太田宣子	40
	2	中牧正太	39
	3	門脇篤史	31
	4	ちゃむ	30
	5	秋山生糸	29

♪獲得数

月	Rank	筆名	個
4	1	天野うずめ	90
	2	ちゃむ	87
	2	浦賀エリ	87
	4	中森つん	72
	5	遊糸	71
5	1	文月郁葉	171
	2	中牧正太	160
	3	浦賀エリ	134
	4	こはぎ	132
	5	黒夜行	131
6	1	文月郁葉	172
	2	ちゃむ	129
	3	焼きみかん	126
	4	中牧正太	124
	5	黒夜行	115
7	1	小宮子々	141
	2	西村湯呑	135
	3	スコヲプ	134
	4	中牧正太	133
	5	天野うずめ	132
8	1	中牧正太	143
	2	黒夜行	139
	3	小宮子々	137
	4	ヒヨワくん	119
	4	ちゃむ	119

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2014年後半(1)

参考データ：いろいろTOP５（月別）
2014年後半

首席回数

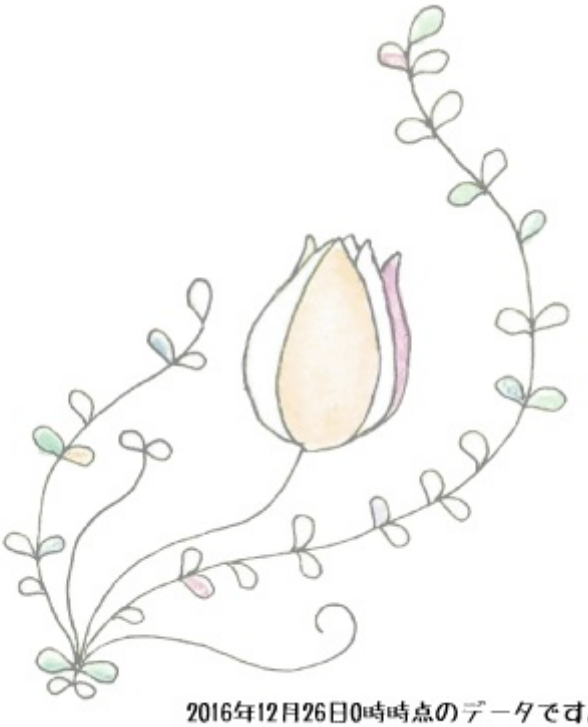
月	Rank	筆名	回
9	1	太田宣子	3
	1	ヒヨワくん	3
	3	黒夜行	2
	3	すみ	2
	3	小宮子々	2
	3	大葉れい	2
	3	ちゃむ	2
	3	木原ねこ	2
	3	ガラケー太	2
	3	月丘ナイル	2
10	1	小宮子々	7
	2	中牧正太	3
	2	chari	3
	4	箔紙	2
	4	スコヲプ	2
	4	大葉れい	2
	4	ヒヨワくん	2
	4	天野うずめ	2
	4	毬井	2
	4	すみ	2
	4	きつね	2
	4	みわ	2
11	1	ヒヨワくん	4
	2	木曜何某	2
	2	木原ねこ	2
	2	ちゃむ	2
	2	黒夜行	2
12	1	ヒヨワくん	6
	2	中牧正太	5
	3	小宮子々	2
	3	ガラケー太	2
	3	スコヲプ	2
	3	中森つん	2
	3	ストウヒカリ	2
	3	文乃	2
	3	かにたべーた	2
	3	秋山生糸	2

ハート獲得数

月	Rank	筆名	個
9	1	木原ねこ	44
	2	ヒヨワくん	42
	3	黒夜行	38
	4	ちゃむ	37
	4	中牧正太	37
10	1	小宮子々	54
	2	中牧正太	51
	3	ヒヨワくん	36
	4	chari	33
	4	ちゃむ	33
11	1	ちゃむ	47
	1	ヒヨワくん	47
	3	中牧正太	42
	4	小宮子々	41
	4	加子	41
12	1	ヒヨワくん	69
	2	中牧正太	65
	3	小宮子々	48
	4	スコヲプ	42
	5	文乃	39

♪獲得数

月	Rank	筆名	個
9	1	ヒヨワくん	157
	2	ちゃむ	156
	3	中牧正太	152
	4	木原ねこ	147
	5	えんどうけいこ	146
10	1	ちゃむ	197
	2	中牧正太	189
	3	ヒヨワくん	182
	4	小宮子々	175
	5	黒夜行	161
11	1	ヒヨワくん	194
	2	小宮子々	184
	3	木原ねこ	178
	4	天野うずめ	176
	5	終栗夢	173
12	1	ヒヨワくん	245
	2	黒夜行	192
	3	葵の助	189
	4	きつね	185
	5	文乃	183



2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2014年前半(2)

参考データ：いろいろTOP５（月別）

2014年前半

得評数

月	Rank	筆名	人
4	1	ちゃむ	74
	2	中森つん	56
	3	天野うずめ	54
	4	浦賀エリ	51
	5	ゆら	48
5	1	中牧正太	74
	2	文月郁葉	55
	2	黒夜行	55
	4	赤い月	53
	5	天野うずめ	50
6	1	焼きみかん	40
	2	文月郁葉	39
	2	中牧正太	39
	4	黒夜行	38
	5	ちゃむ	32
	5	天野うずめ	32
7	1	中牧正太	49
	2	小宮子々	47
	3	木村比呂	44
	4	天野うずめ	39
	5	加子	37
8	1	中牧正太	41
	2	松木秀	38
	3	くろじたう	37
	3	えんどうけいこ	37
	5	門脇篤史	35
	5	多香子	35

選評数

月	Rank	筆名	首
4	1	黒夜行	194
	2	のの	142
	3	村田馨	94
	4	ゆら	72
	5	奈月遥	69
5	1	村田馨	272
	2	黒夜行	256
	3	のの	112
	4	ルイドリツコ	84
	5	奈月遥	77
6	1	黒夜行	273
	2	村田馨	139
	3	すみ	94
	4	マチネ	59
	5	のの	40
7	1	黒夜行	246
	2	村田馨	185
	3	西村湯呑	103
	4	秋月あまね	72
	5	ゆら	70
8	1	村田馨	268
	2	黒夜行	259
	3	雨宮　司	92
	4	すみ	87
	5	くろじたう	55

まじめ日数

月	Rank	筆名	日
4	1	黒夜行	28
	2	遊糸	21
	3	奈月遥	17
	4	はだし	16
	5	ゆら	15
	5	知己凛	15
5	1	黒夜行	28
	2	ルイドリツコ	17
	3	赤い月	16
	4	中森つん	15
	5	奈月遥	13
	5	ルオ	13
6	1	黒夜行	28
	2	すみ	14
	3	木村比呂	13
	4	ちゃむ	12
	5	迂回	11
	5	ゆら	11
7	1	黒夜行	27
	2	西村湯呑	25
	3	木村比呂	22
	4	小宮子々	13
	5	ゆら	10
	5	ひらたてる	10
8	1	黒夜行	27
	2	雨宮　司	24
	3	くろじたう	16
	4	木村比呂	14
	5	ガラケー太	13
	5	多香子	13

どんまいの数

月	Rank	筆名	回
4	1	白石フランソワ	8
	1	知己凛	8
	3	黒夜行	7
	4	天野うずめ	6
	4	ちゃむ	6
	4	中森つん	6
5	1	赤い月	6
	2	中森つん	3
	3	ルオ	2
	3	ガッキ	2
	3	笛地静恵	2
	3	レオ	2
	3	奈月遥	2
	3	黒夜行	2
	3	焼きみかん	2
6	1	薊	4
	2	モア	3
	2	宮嶋いつく	3
	4	奈月遥	2
	4	赤い月	2
	4	マチネ	2
	4	かにたべーた	2
	4	天野うずめ	2
	4	ガッキ	2
	4	すみ	2
	4	月丘ナイル	2
	4	黒夜行	2
7	1	なな	7
	1	モア	7
	3	笛地静恵	4
	4	犬濱	3
	4	ルオ	3
8	1	笛地静恵	7
	1	心伝	7
	3	奈月遥	4
	3	松木秀	4
	3	柊	4
	3	ガラケー太	4
	3	ルオ	4

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2014年後半(2)

参考データ：いろいろTOP５（月別）

2014年後半

得評数

月	Rank	筆名	人
9	1	黒夜行	40
	2	ヒヨワくん	38
	3	柊	37
	3	松木秀	37
	5	宮嶋いつく	36
10	1	箔紙	30
	1	きつね	30
	3	宮嶋いつく	29
	4	西村湯呑	28
	5	中牧正太	26
11	1	天野うずめ	28
	2	加子	25
	2	小宮子々	25
	4	黒夜行	23
	4	松木秀	23
12	1	宮嶋いつく	24
	2	文乃	22
	3	中牧正太	19
	4	葵の助	18
	4	ヒヨワくん	18

選評数

月	Rank	筆名	首
9	1	村田馨	156
	2	黒夜行	117
	3	終栗夢	98
	4	雨宮　司	94
	5	さくらべに	57
10	1	村田馨	186
	2	雨宮　司	102
	3	さくらべに	93
	4	みわ	65
	5	終栗夢	57
11	1	村田馨	135
	2	雨宮　司	92
	3	すみ	66
	4	さくらべに	43
	5	終栗夢	37
12	1	雨宮　司	94
	2	村田馨	69
	3	すみ	63
	4	さくらべに	42
	5	はだし	36

まじめ日数

月	Rank	筆名	日
9	1	雨宮　司	28
	2	ガラケー太	18
	2	黒夜行	18
	4	多香子	17
	5	くろじたう	16
	5	終栗夢	16
10	1	さくらべに	31
	1	雨宮　司	31
	3	みわ	21
	4	ガラケー太	20
	5	はだし	13
	5	毬井	13
	5	ルオ	13
11	1	雨宮　司	30
	2	さくらべに	22
	3	太田青磁	17
	4	ガラケー太	13
	4	毬井	13
	4	和純	13
12	1	雨宮　司	31
	2	さくらべに	21
	3	ガラケー太	16
	4	橋師	12
	4	和純	12
	4	すみ	12

どんまいの数

月	Rank	筆名	回
9	1	心伝	7
	2	オクターブ	4
	3	ガッキ	3
	3	黒夜行	3
	5	ガラケー太	2
	5	キョースケ	2
	5	松木秀	2
	5	廻	2
	5	門盤篤史	2
	5	毬井	2
	5	牛道	2
	5	宮嶋いつく	2
10	1	和花	3
	2	松木秀	2
	2	オクターブ	2
	2	くろじたう	2
	2	心伝	2
	2	雨宮　司	2
	2	黒夜行	2
11	1	なな	3
	2	宮木水葉	2
	2	くろじたう	2
	2	松木秀	2
	2	中森つん	2
	2	柊	2
	2	オクターブ	2
	2	宮嶋いつく	2
12	1	宮木水葉	4
	2	えんどうけいこ	3
	2	松木秀	3
	2	くろじたう	3
	2	宮嶋いつく	3

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2015年前半(1)

参考データ：いろいろTOP５（月別）

2015年前半

首席回数

月	Rank	筆名	回
1	1	逢	5
	2	門脇篤史	3
	2	小宮子々	3
	2	レオ	3
	2	スコヲプ	3
2	1	しま･しましま	4
	2	杏野カヨ	3
	2	きつね	3
	2	希和子	3
	2	中牧正太	3
	2	わんこ山田	3
	2	逢	3
3	1	門脇篤史	6
	2	しま･しましま	5
	2	希和子	5
	2	スコヲプ	5
	2	ヒヨワくん	5
4	1	小宮子々	5
	2	塾カレー	4
	2	ヒヨワくん	4
	2	木鼠	4
	5	月花	3
	5	雀來豆	3
	5	小向大也	3
	5	門脇篤史	3
	5	しま･しましま	3
	5	月丘ナイル	3
	5	きつね	3
	5	山中はぎ乃	3
5	1	春野あくび	9
	2	門脇篤史	6
	3	中牧正太	5
	4	沼尻つた子	4
	4	ヒヨワくん	4
	4	小宮子々	4
6	1	沼尻つた子	8
	2	木原ねこ	4
	2	門脇篤史	4
	2	ヒヨワくん	4
	5	黒井真砂	3
	5	杏野カヨ	3
	5	木鼠	3
	5	桔梗	3
	5	藤 かづえ	3
	5	小向大也	3

ハート獲得数

月	Rank	筆名	個
1	1	逢	87
	2	ヒヨワくん	65
	3	中牧正太	61
	4	小宮子々	60
	5	スコヲプ	59
2	1	逢	86
	2	門脇篤史	81
	3	しま･しましま	79
	4	桔梗	69
	5	小向大也	56
	5	中牧正太	56
3	1	ヒヨワくん	91
	2	スコヲプ	80
	3	中牧正太	75
	4	小宮子々	70
	5	門脇篤史	68
4	1	塾カレー	64
	2	小宮子々	63
	3	しま･しましま	61
	4	月花	58
	5	中牧正太	53
5	1	春野あくび	86
	2	中牧正太	70
	3	門脇篤史	60
	3	小宮子々	60
	5	沼尻つた子	58
6	1	沼尻つた子	78
	2	桔梗	50
	3	葵の助	49
	4	しま･しましま	48
	5	杏野カヨ	45

♪獲得数

月	Rank	筆名	個
1	1	逢	299
	2	小宮子々	298
	3	ちゃむ	256
	4	月花	248
	5	中牧正太	246
2	1	桔梗	270
	2	逢	261
	3	ちゃむ	247
	4	スコヲプ	243
	5	えんどうけいこ	241
3	1	ヒヨワくん	222
	2	スコヲプ	207
	3	しま･しましま	193
	4	404notF081	181
	5	小宮子々	175
4	1	塾カレー	192
	2	小宮子々	184
	3	葵の助	181
	4	中牧正太	173
	5	しま･しましま	161
5	1	小宮子々	208
	2	荻森美帆	204
	3	しま･しましま	197
	4	門脇篤史	192
	5	中牧正太	191
6	1	沼尻つた子	199
	2	桔梗	181
	3	葵の助	165
	4	しま･しましま	155
	5	塾カレー	150

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2015年後半(1)

参考データ：いろいろTOP５（月別）
2015年後半

首席回数

月	Rank	筆名	回
7	1	中牧正太	4
	1	門脇篤史	4
	1	木村比呂	4
	1	ナタカ	4
	1	しま･しましま	4
	1	沼尻つた子	4
	1	中牧正太	5
	1	木原ねこ	5
	3	きい	4
	3	太田宣子	4
	3	琥珀	4
	3	小向大也	4
	3	えんどうけいこ	4
	3	沼尻つた子	4
9	1	沼尻つた子	7
	2	中牧正太	6
	2	桔梗	6
	2	冨樫由美子	6
	2	しま･しましま	6
	2	太田宣子	6
10	1	しま･しましま	7
	2	沼尻つた子	6
	3	桔梗	5
	4	なつ	3
	4	雀來豆	3
	4	希和子	3
	4	太田宣子	3
	4	藤 かづえ	3
	4	中牧正太	3
	4	香村かな	3
	4	木原ねこ	3
	4	塾カレー	3
	4	小向大也	3
11	1	太田宣子	6
	2	文乃	5
	2	中牧正太	5
	4	吉川みほ	4
	4	杏野カヨ	4
	4	沼尻つた子	4
12	1	沼尻つた子	6
	2	中牧正太	5
	2	ナタカ	5
	2	月花	5
	5	桔梗	4

ハート獲得数

月	Rank	筆名	個
7	1	沼尻つた子	69
	2	小宮子々	65
	3	しま･しましま	63
	4	桔梗	61
	5	木村比呂	59
	5	中牧正太	59
8	1	沼尻つた子	80
	2	中牧正太	79
	3	桔梗	73
	4	太田宣子	67
	5	小宮子々	55
9	1	沼尻つた子	70
	2	太田宣子	63
	3	中牧正太	61
	4	冨樫由美子	55
	5	千花(ちはな)	54
10	1	沼尻つた子	62
	2	太田宣子	56
	3	桔梗	51
	4	しま･しましま	49
	5	中牧正太	47
11	1	中牧正太	53
	2	吉川みほ	50
	3	沼尻つた子	49
	4	しま･しましま	45
	5	桔梗	42
12	1	中牧正太	66
	2	沼尻つた子	58
	3	ナタカ	53
	4	桔梗	52
	4	小川けいと	52

♪獲得数

月	Rank	筆名	個
7	1	沼尻つた子	189
	2	中牧正太	181
	3	桔梗	174
	4	木原ねこ	173
	5	しま･しましま	159
8	1	沼尻つた子	172
	2	小宮子々	143
	3	中牧正太	141
	4	桔梗	138
	5	葵の助	137
9	1	冨樫由美子	167
	2	太田宣子	162
	3	沼尻つた子	156
	4	小宮子々	150
	5	中牧正太	148
10	1	桔梗	153
	2	中牧正太	144
	2	沼尻つた子	144
	4	太田宣子	122
	5	えんどうけいこ	120
	5	きつね	120
11	1	沼尻つた子	146
	2	吉川みほ	138
	3	桔梗	124
	4	小川けいと	121
	5	しま･しましま	119
12	1	えんどうけいこ	180
	2	小川けいと	176
	3	冨樫由美子	175
	4	吉川みほ	170
	5	沼尻つた子	168

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2015年前半(2)

参考データ：いろいろTOP５（月別）

2015年前半

得評数

月	Rank	筆名	人
1	1	月花	30
	2	中牧正太	29
	3	小宮子々	28
	4	橋師	24
	4	きつね	24
2	1	鬥臨篤史	37
	2	月花	36
	3	橋師	35
	4	しま･しましま	30
	5	404notF081	24
	5	逢	24
	5	天野うずめ	24
3	1	橋師	41
	2	ヒヨワくん	30
	3	月花	28
	3	羽島かよ子	28
	5	中牧正太	24
	5	文乃	24
	5	スコヲプ	24
4	1	太田青磁	36
	2	橋師	31
	3	葵の助	29
	4	多香子	28
	4	小宮子々	28
5	1	春野あくび	42
	2	中牧正太	31
	3	沼尻つた子	29
	4	鬥臨篤史	28
	5	希和子	27
	5	小宮子々	27
6	1	沼尻つた子	45
	2	あめゆじゅ	34
	3	えんどうけいこ	31
	3	桔梗	31
	5	宮嶋いつく	30

選評数

月	Rank	筆名	首
1	1	泳二	134
	2	雨宮　司	93
	3	すみ	59
	4	塾カレー	54
	4	宮嶋いつく	54
2	1	村田馨	371
	2	塾カレー	92
	3	雨宮　司	85
	4	太田青磁	77
	5	泳二	54
3	1	しま･しましま	158
	2	太田青磁	94
	3	雨宮　司	84
	4	村田馨	80
	5	はだし	59
4	1	村田馨	189
	2	しま･しましま	187
	3	雨宮　司	90
	4	そぶ	85
	5	塾カレー	76
5	1	村田馨	215
	2	しま･しましま	156
	3	羽島かよ子	94
	4	雨宮　司	93
	5	泳二	57
6	1	村田馨	433
	2	塾カレー	153
	3	きむろみ	106
	4	雨宮　司	93
	5	ナイス害	73

まじめ日数

月	Rank	筆名	日
1	1	雨宮　司	31
	2	さくらべに	21
	3	毬井七月	20
	4	ガラケー太	18
	5	橋師	16
	5	宮嶋いつく	16
2	1	雨宮　司	28
	2	太田青磁	19
	3	橋師	17
	4	村田馨	16
	5	塾カレー	15
3	1	しま･しましま	26
	1	雨宮　司	26
	3	多香子	23
	4	橋師	20
	5	きい	17
4	1	雨宮　司	30
	2	しま･しましま	28
	3	多香子	22
	4	村田馨	14
	5	太田青磁	13
	5	橋師	13
	5	塾カレー	13
5	1	雨宮　司	31
	2	しま･しましま	25
	3	多香子	24
	4	村田馨	18
	5	羽島かよ子	17
6	1	雨宮　司	30
	2	衣未(みみ)	29
	3	多香子	27
	4	村田馨	20
	5	七波	18

どんまいの数

月	Rank	筆名	回
1	1	五月が丘はさみ	3
	2	ガッキ	2
	2	心伝	2
	4	春山久美	1
	4	再帰動詞	1
	4	妖精化師	1
	4	くろじたう	1
	4	糸憂	1
	4	すみ	1
	4	土筆みを	1
	4	タワーと路地	1
	4	えんどうけいこ	1
	4	もも	1
	4	三次則秋	1
	4	ゆら	1
	4	塾カレー	1
	4	松木秀	1
	4	chari	1
	4	太田青磁	1
	4	レモネレモネド	1
	4	朝月	1
	4	雨宮　司	1
	4	白木裕奈	1
	4	宮嶋いつく	1
	4	404notF081	1
	4	宮木水葉	1
2	1	宮木水葉	3
	1	chari	3
	3	天野うずめ	2
	3	あつのり	2
	3	雨宮　司	2
	3	だみお	2
3	1	カオリナマンダイ	2
	1	心伝	2
	1	松木秀	2
	1	くろじたう	2
	1	瀬戸さやか	2
	1	雨宮　司	2
	1	荻森美帆	2
4	1	桜望子	4
	2	エン太夫	3
	2	蓮	3
	4	松木秀	2
	4	からしな	2
	4	朝月	2
	4	羽島かよ子	2
	4	小向大也	2
	4	荻森美帆	2
	4	瀬戸さやか	2
	4	箔紙	2
	4	葵の助	2
	4	ガッキ	2
	4	宮木水葉	2
	4	高槻一紗	2
5	1	もも	4
	1	雨宮　司	4
	3	成瀬山水	3
	3	木鼠	3
	5	中村成志	2
	5	終栗夢	2
	5	ガッキ	2
	5	桜望子	2
	5	chari	2
	5	宮木水葉	2
6	1	宮木水葉	6
	2	心伝	4
	2	石上桜子	4
	2	松木秀	4
	5	だゆう	3

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2015年後半(2)

参考データ：いろいろTOP５（月別）

2015年後半

得評数

月	Rank	筆名	人
7	1	沼尻つた子	54
	2	小川けいと	50
	3	太田宣子	34
	4	多香子	32
	5	きつね	31
8	1	静ジャック	41
	2	小川けいと	40
	3	中牧正太	37
	4	桔梗	32
	4	沼尻つた子	32
9	1	太田宣子	34
	2	沼尻つた子	33
	3	小川けいと	30
	4	小宮子々	28
	4	冨樫由美子	28
	4	楽水童子	28
10	1	小川けいと	31
	2	きつね	27
	3	沼尻つた子	26
	4	中牧正太	24
	5	太田宣子	23
	5	吉川みほ	23
	5	しま・しましま	23
	5	桔梗	23
11	1	吉川みほ	39
	2	小川けいと	28
	3	天野うずめ	25
	4	文乃	23
	5	こりけケリ子	21
	5	しま・しましま	21
12	1	小川けいと	51
	2	吉川みほ	48
	3	沼尻つた子	45
	4	中牧正太	40
	5	えんどうけいこ	39

選評数

月	Rank	筆名	首
7	1	塾カレー	222
	2	きむろみ	108
	3	雨宮　司	93
	4	衣未(みみ)	89
	5	ナイス害	75
8	1	塾カレー	158
	2	多香子	105
	3	雨宮　司	96
	4	しま・しましま	80
	5	黒井真砂	59
9	1	塾カレー	100
	2	雨宮　司	95
	3	泳二	77
	4	しま・しましま	72
	5	多香子	68
10	1	塾カレー	114
	2	雨宮　司	101
	3	多香子	82
	4	しま・しましま	68
	5	多田なの	59
11	1	きむろみ	163
	2	塾カレー	93
	3	雨宮　司	90
	4	多香子	76
	5	しま・しましま	75
12	1	塾カレー	154
	2	淡海わこ	142
	3	なかばまち子	113
	4	たかはしりおこ	93
	4	雨宮　司	93

まじめ日数

月	Rank	筆名	日
7	1	雨宮　司	31
	2	衣未(みみ)	29
	3	多香子	26
	4	小川けいと	25
	5	塾カレー	24
8	1	雨宮　司	30
	2	多香子	29
	3	小川けいと	23
	4	きい	21
	5	塾カレー	20
9	1	雨宮　司	30
	2	多香子	26
	3	静ジャック	21
	4	楽水童子	20
	5	小川けいと	19
10	1	雨宮　司	31
	2	多香子	30
	3	静ジャック	20
	4	しま・しましま	17
	5	小川けいと	16
11	1	雨宮　司	30
	2	多香子	27
	3	吉川みほ	20
	4	しま・しましま	18
	4	静ジャック	18
12	1	雨宮　司	31
	2	多香子	28
	3	小川けいと	25
	4	吉川みほ	22
	4	沼尻つた子	22

どんまいの数

月	Rank	筆名	回
7	1	宮木水葉	5
	2	心伝	4
	2	郵便屋	4
	4	宮嶋いつく	3
	4	たかはしみさお	3
	4	山未知	3
8	1	だゆう	10
	2	宮木水葉	6
	2	心伝	6
	2	フジタレイ	6
	5	404notF081	5
9	1	心伝	8
	1	雨	8
	3	だゆう	6
	4	雨宮　司	5
	5	えがぷり	4
	5	山未知	4
10	1	雨宮　司	11
	2	だゆう	10
	3	心伝	7
	4	死んでる死刑囚	5
	4	ふたり	5
	4	萩野聡	5
	4	たた	5
11	1	だゆう	13
	2	心伝	7
	3	たかはしみさお	5
	3	フジタレイ	5
	5	雀來豆	4
	5	笠和ささね	4
12	1	だゆう	9
	2	こたきひろし	8
	3	心伝	4
	3	春彦	4
	3	ルオ	4
	3	ほしくん	4

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2016年前半(1)

参考データ：いろいろTOP５（月別）

2016年前半

首席回数

月	Rank	筆名	回
1	1	中牧正太	5
	2	琥珀	3
	2	藤田美香	3
	2	吉川みほ	3
	2	しま･しましま	3
	2	西村湯呑	3
2	1	中牧正太	6
	2	桔梗	4
	2	しま･しましま	4
	2	吉川みほ	4
	5	薄荷。	3
	5	葵の助	3
	5	遠井海	3
	5	西村曜	3
3	1	西村湯呑	6
	2	しま･しましま	5
	2	桔梗	5
	2	小川けいと	5
	5	西村曜	4
	5	中牧正太	4
	5	森下裕隆	4
4	1	ナタカ	7
	2	西村曜	5
	3	小宮子々	4
	3	桔梗	4
	3	淡海わこ	4
	3	月花	4
5	1	中牧正太	8
	2	桔梗	7
	3	紆夜曲雪	5
	3	三田たたみ	5
	3	森下裕隆	5
6	1	西村曜	6
	1	しま･しましま	6
	3	中牧正太	5
	3	桔梗	5
	5	太田青磁	4
	5	吉川みほ	4
	5	中山とりこ	4
	5	三田たたみ	4
	5	nu_ko	4
	5	かざなぎりん	4

ハート獲得数

月	Rank	筆名	個
1	1	中牧正太	79
	2	桔梗	63
	3	しま･しましま	55
	3	西村曜	55
	5	吉川みほ	53
2	1	中牧正太	73
	2	森下裕隆	64
	3	しま･しましま	61
	4	桔梗	55
	5	吉川みほ	49
3	1	桔梗	79
	2	小川けいと	77
	3	西村湯呑	72
	4	中牧正太	71
	5	しま･しましま	70
4	1	西村曜	72
	2	遠木音	67
	3	中牧正太	66
	3	桔梗	66
	5	月花	63
5	1	桔梗	98
	2	中牧正太	87
	3	森下裕隆	81
	4	紆夜曲雪	72
	5	三田たたみ	61
6	1	中牧正太	113
	2	吉川みほ	84
	3	西村曜	82
	4	桔梗	79
	5	森下裕隆	78

♪獲得数

月	Rank	筆名	個
1	1	森下裕隆	193
	2	えんどうけいこ	187
	3	西村曜	185
	4	吉川みほ	184
	5	中牧正太	183
	5	桔梗	183
2	1	森下裕隆	169
	2	しま･しましま	167
	3	西村曜	163
	4	中牧正太	158
	4	桔梗	158
3	1	森下裕隆	240
	2	西村曜	219
	3	桔梗	214
	4	小川けいと	210
	5	えんどうけいこ	204
4	1	えんどうけいこ	239
	2	遠木音	215
	3	桔梗	208
	4	西村曜	205
	5	吉川みほ	199
5	1	中牧正太	212
	1	桔梗	212
	3	シュンイチ	209
	4	えんどうけいこ	204
	5	西村曜	198
6	1	薄荷。	243
	2	吉川みほ	237
	2	西村曜	237
	4	中牧正太	234
	5	桔梗	226

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2016年後半(1)

参考データ：いろいろTOP５（月別）
2016年後半

首席回数

月	Rank	筆名	回
7	1	中牧正太	9
	2	西村湯呑	7
	3	葉山はな	6
	4	桔梗	5
	4	nu_ko	5
	4	森下裕隆	5
	4	雀來豆	5
8	1	中牧正太	10
	2	中山とりこ	8
	3	吉川みほ	7
	4	桔梗	6
	5	葉山はな	5
	5	西村曜	5
	5	かざなぎりん	5
	5	七緒	5
9	1	七緒	7
	2	桔梗	6
	3	しま・しましま	5
	3	nu_ko	5
	5	西村曜	4
	5	西村湯呑	4
	5	中牧正太	4
	5	か太郎す	4
	5	金子りさ	4
10	1	中牧正太	12
	2	七緒	8
	3	しま・しましま	6
	4	睡	5
	4	深影コトハ	5
11	1	桔梗	10
	2	中牧正太	7
	3	ミルトン	5
	3	nu_ko	5
	5	睡	4
	5	杏野カヨ	4
	5	太田宜子	4
	5	梶原一人	4
	5	七緒	4
	5	久哲	4
12	1	nu_ko	8
	2	中牧正太	7
	3	みち	5
	4	ナタカ	4
	4	桔梗	4
	4	森下裕隆	4
	4	橙田千尋	4

ハート獲得数

月	Rank	筆名	個
7	1	中牧正太	115
	2	七緒	81
	3	葉山はな	79
	4	桔梗	74
	4	西村湯呑	74
8	1	中牧正太	108
	2	葉山はな	78
	3	桔梗	75
	3	七緒	75
	5	吉川みほ	68
9	1	中牧正太	83
	2	七緒	78
	3	桔梗	74
	4	しま・しましま	71
	5	太田宜子	65
10	1	中牧正太	92
	2	深影コトハ	77
	3	吉川みほ	66
	3	森下裕隆	66
	5	しま・しましま	65
	5	西村曜	65
11	1	桔梗	80
	2	中牧正太	62
	3	nu_ko	60
	4	西村湯呑	58
	5	森下裕隆	53
	5	七緒	53
12	1	nu_ko	65
	2	中牧正太	63
	3	森下裕隆	59
	4	えんどうけいこ	50
	5	きつね	49

♪獲得数

月	Rank	筆名	個
7	1	西村曜	213
	2	葉山はな	212
	3	桔梗	204
	4	いずみ　美帆	203
	5	えんどうけいこ	200
8	1	葉山はな	194
	2	遠木音	183
	3	えんどうけいこ	177
	4	冬桜	175
	4	七緒	175
9	1	西村曜	208
	2	吉川みほ	191
	3	桔梗	186
	4	七緒	183
	5	中牧正太	182
	5	えんどうけいこ	182
10	1	桔梗	194
	2	深影コトハ	188
	3	中牧正太	186
	4	七緒	183
	4	森下裕隆	183
11	1	中牧正太	174
	2	森下裕隆	168
	3	桔梗	163
	4	えんどうけいこ	160
	4	遠木音	160
12	1	えんどうけいこ	191
	2	森下裕隆	169
	3	しま・しましま	167
	4	桔梗	161
	5	七緒	157

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2016年前半(2)

参考データ：いろいろTOP５（月別）

2016年前半

得評数

月	Rank	筆名	人
1	1	吉川みほ	72
	2	森下裕隆	71
	3	西村曜	61
	4	中牧正太	53
	5	小川けいと	52
2	1	森下裕隆	63
	2	西村曜	54
	3	吉川みほ	49
	4	えんどうけいこ	47
	5	中牧正太	46
3	1	森下裕隆	53
	2	えんどうけいこ	50
	3	吉川みほ	45
	4	久哲	39
	4	萩野聡	39
	4	シュンイチ	39
4	1	えんどうけいこ	49
	1	朝倉洋一	49
	3	西村曜	42
	4	遠木音	41
	5	月花	37
5	1	中牧正太	66
	2	森下裕隆	63
	3	ネネネ	47
	4	三田たたみ	46
	5	小川けいと	43
	5	あべせつ	43
6	1	吉川みほ	62
	2	中山とりこ	61
	3	森下裕隆	53
	4	傘なし	52
	5	いずみ　美帆	51
	5	nu_ko	51

選評数

月	Rank	筆名	首
1	1	村田馨	687
	2	塾カレー	233
	3	きむろみ	163
	4	淡海わこ	137
	5	多香子	115
2	1	村田馨	416
	2	三田たたみ	267
	3	きむろみ	126
	4	StarLighter	116
	5	多香子	111
3	1	三田たたみ	398
	2	村田馨	178
	3	塾カレー	148
	4	淡海わこ	93
	4	雨宮　司	93
4	1	三田たたみ	155
	2	雨宮　司	83
	3	九乃九作	79
	4	衣未(みみ)	78
	5	安西大樹	75
5	1	村田馨	286
	2	九乃九作	202
	3	三田たたみ	143
	4	衣未(みみ)	121
	5	九乃	119
6	1	太郎	224
	2	衣未(みみ)	204
	3	ナイス害	181
	4	多香子	122
	5	三田たたみ	118

まじめ日数

月	Rank	筆名	日
1	1	雨宮　司	31
	1	森下裕隆	31
	3	西村曜	30
	4	多香子	28
	4	吉川みほ	28
2	1	雨宮　司	29
	2	西村曜	28
	3	多香子	26
	3	StarLighter	26
	5	淡海わこ	22
	5	森下裕隆	22
	5	村田馨	22
3	1	雨宮　司	31
	2	三田たたみ	29
	3	西村曜	26
	4	森下裕隆	25
	5	えんどうけいこ	24
4	1	西村曜	30
	2	三田たたみ	28
	2	多香子	28
	2	雨宮　司	28
	5	太田青磁	24
5	1	衣未(みみ)	31
	1	多香子	31
	1	三田たたみ	31
	4	太田青磁	29
	5	月花	28
6	1	衣未(みみ)	30
	1	三田たたみ	30
	3	多香子	29
	3	西村曜	29
	5	えんどうけいこ	28

どんまいの数

月	Rank	筆名	回
1	1	心伝	9
	2	こたきひろし	8
	3	だゆう	7
	3	笠和ささね	7
	5	知己凛	4
	5	衣未(みみ)	4
2	1	だゆう	11
	2	久哲	8
	2	笠和ささね	8
	4	心伝	7
	5	こたきひろし	6
	5	雨	6
3	1	笠和ささね	6
	2	だゆう	5
	3	心伝	4
	4	水沼朔太郎	3
	4	お月ちゃん	3
	4	雨宮　司	3
4	1	だゆう	6
	2	こたきひろし	5
	2	高岡恵	5
	4	太田青磁	4
	4	水沼朔太郎	4
5	1	こたきひろし	10
	2	心伝	9
	3	だゆう	7
	4	宮木水葉	4
	5	佐藤博之	3
	5	仄	3
	5	きい	3
	5	安部圭二	3
6	1	だゆう	8
	2	心伝	6
	3	水沼朔太郎	4
	3	明実	4
	5	たかはしみさお	3
	5	淡海わこ	3
	5	こたきひろし	3
	5	麗子	3
	5	宮木水葉	3
	5	ものか	3
	5	かっちゃん	3
	5	雨宮　司	3

2016年12月26日0時時点のデータです。

いろいろTOP5：2016年後半(2)

参考データ：いろいろTOP５（月別）

2016年後半

得評数

月	Rank	筆名	人
7	1	中牧正太	57
	2	nu_ko	51
	3	宮本背水	45
	3	太田青磁	45
	5	森下裕隆	43
	5	七緒	43
8	1	宮本背水	66
	2	木蓮	36
	2	いずみ　美帆	36
	4	桔梗	31
	5	中牧正太	30
	5	三田たたみ	30
9	1	宮本背水	33
	2	nu_ko	28
	3	いずみ　美帆	27
	4	七緒	26
	5	金子りさ	24
	5	吉川みほ	24
10	1	いずみ　美帆	44
	2	森下裕隆	40
	3	榛瑞穂	39
	3	亀山真実	39
	5	宮本背水	28
11	1	榛瑞穂	41
	2	亀山真実	35
	3	みち	33
	4	遠木音	28
	5	中牧正太	27
12	1	森下裕隆	31
	2	小泉夜雨	26
	3	えんどうけいこ	25
	4	堀之内有華	25
	5	野宮のあ	24

選評数

月	Rank	筆名	首
7	1	太郎	320
	2	衣未(みみ)	236
	3	村田馨	203
	4	久哲	91
	5	宮本背水	73
8	1	村田馨	139
	2	たかはしみさお	96
	3	太郎	85
	4	衣未(みみ)	83
	5	しま･しましま	76
9	1	多香子	90
	2	しま･しましま	77
	3	宮本背水	70
	4	久哲	67
	5	太郎	66
10	1	多香子	105
	2	蝶番	92
	3	しま･しましま	84
	4	久哲	67
	5	亀山真実	66
11	1	多香子	107
	2	しま･しましま	99
	3	衣未(みみ)	73
	4	久哲	72
	5	UrbanBlues	71
12	1	村田馨	164
	2	雨宮　司	114
	3	多香子	111
	4	衣未(みみ)	99
	5	太田青磁	86

まじめ日数

月	Rank	筆名	日
7	1	太田青磁	30
	1	三田たたみ	30
	3	衣未(みみ)	29
	4	多香子	27
	5	宮本背水	26
8	1	三田たたみ	31
	2	静ジャック	30
	3	しま･しましま	27
	4	多香子	26
	5	衣未(みみ)	23
	5	宮本背水	23
9	1	静ジャック	29
	1	多香子	29
	1	三田たたみ	29
	4	か太郎す	28
	5	しま･しましま	23
10	1	三田たたみ	31
	1	多香子	31
	3	静ジャック	30
	4	蝶番	28
	4	ぷ太郎す	28
11	1	多香子	27
	1	あ太郎か	27
	3	しま･しましま	22
	4	たかたか	21
	5	久哲	20
	5	西村曜	20
12	1	多香子	25
	2	衣未(みみ)	23
	3	久哲	23
	4	むうこ	21
	5	西村曜	19

どんまいの数

月	Rank	筆名	回
7	1	だゆう	12
	2	心伝	8
	3	衣未(みみ)	5
	4	坊斎	4
	4	ササキ アンヨ	4
	4	yosioo	4
	4	照屋沙流堂	4
8	1	こたきひろし	7
	1	だゆう	7
	3	ササキ アンヨ	6
	4	妙ヶ瀧くおん	5
	4	松木秀	5
	4	心伝	5
	4	かんぬきたくみ	5
	4	シズハル	5
9	1	だゆう	11
	2	蝶番	7
	2	心伝	7
	2	ササキ アンヨ	7
	2	松木秀	7
10	1	こたきひろし	10
	2	たかたか	8
	3	雨宮　司	7
	3	心伝	7
	5	だゆう	6
11	1	たかたか	10
	2	ササキ アンヨ	7
	3	御泉水	6
	4	ホシキョウイチ	5
	4	かんぬきたくみ	5
	4	だゆう	5
12	1	心伝	11
	2	だゆう	7
	3	おたまじゃくし先生	4
	4	照屋沙流堂	4
	5	堂那灼風	4

2016年12月26日0時時点のデータです。

ののさんへ(1)

ののさんへ
初期メンバーとして大切にしてくれてありがとう。
短歌を毎日つくったり、かと思えば短歌に疲れたり、こんなに短歌短歌したのはうたの日のおかげです。
思い出をこめて、初のロゼッタ評をつけた歌を推してみました。
ゆら (@TANKAmore)

うたの日の、難しいお題ほど参加者が全力でふざけたり本気で取り組んだりする空気と、ののさんの軽妙洒脱なコメントが大好きです。
ルオ (@ruo129)

継続は力というのは本当ですね!いろんな要素があると思いますが、やはり歌と歌人への愛が感じられるサイトだから、こんなに人が集まり、そしてパワーを出し続けているのではないでしょうか。
ののさんへの気持ちは、95%の感謝と5%の楽しい弄られ感で出来てます!
このところかなりご多忙と愚察しておりますが、とにかくご自愛を!
これからもよろしくお願いします。
須磨蛍 (@garaketta)

ののさんがうたの日を作ってくださったから詠めた歌、読めた歌がたくさんあります。
本当にありがとうございます!
ひらたてる (@BB_teru)

おめ&おつかれさまです、とても。今もののさんのやったろかい、が生んだこの場で、いろんな経験をさしてもらってます。たのしい。ありがとうございます。また機会あればなんかしましょうー
はだし (@hadashinomanmay)

たくさんのありがとうをこめて
よせがき
1
ののさん いつもありがとう

うたの日があったから僕は今も短歌を詠んでいます。素敵な場所をありがとう。
門脇篤史 (@508atsu)

うたの日はたくさんのうたとたくさんの人に出会える場所。
ありがとうございます。
常盤このは (希和子)
(@miitononnon)

ののさん、うたの日は愛されてるよ。みんな超仕事できたよ!
小早川 (@dodoitsu_)

「うたの日」は最も公平でシビアで楽しい短歌の場だと思います。このような場を作ってくださって、本当にありがとうございます。
そして、私はののさんの短歌の隠れファンです。うたの日、うたつかい、てとてとたんか2etc、どの投稿歌もとてもすばらしいと思います。お忙しいと思いますが、また落ち着かれたら、うたの日にプレイヤー参加されることを心よりお待ちしております。
西村湯呑 (@yunomihot)

ふらっと戻ってきても、なんでもない顔で迎えてくれる場がありました。いつもいつも、歴史的な出来事を目撃しているという感動と興奮がありました。ののさんありがとうございます(差し入れのおでん)。
大葉れい (@lay_over)

「うたの日」1000日おめでとうございます。短歌発表の場を設けてくださってありがとうございます。
最近ご無沙汰しておりますが、また少しずつ投稿していきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。
葛紗 (@blueregret)

1000日おめでとうございます!いつもお疲れさまです、そして楽しい場をありがとうございます。最近うたの日ご無沙汰ですみません。お体に気をつけて。
箔紙 (双葉屋ほいる)

ひとつのことを続けていくことも新しい企画を考えることも、とてもたくさんのエネルギーがいることだと思います。エネルギーを失わないののさんを尊敬しています。
月丘ナイル (@nyle_222)

ののさんへ(2)

オレの短歌にののが絵を描いてくれるって約束、楽しみにしてます。近況を書きますね。スーパーの肉コーナーにある塩レモンチキンステーキを美味しい美味しいと生で食べてたんだけど、焼いて食べるやつでした。

ナイス害 (@NiceGuuuy)

ののさん、1000日おめでとうございます!そしてそして、素敵な場を運営して下さってありがとうございます!!!うたの日のサーチ機能、本当にすごいです。神ってます…!

月花 (@getuka_r)

ののさん、いつもいっぱいありがとうございます！愛しています。

衣未（みみ）(@mimi_4567)

うたの日1000日おめでとうございます。素敵な場所に出会えて嬉しいです。

如沿小雨 (@k_kosame)

うたの日」があるおかげで毎日一首必ず詠むという習慣が付きました！ありがとうございます！これからもご健勝あれ。

ササキ アンヨ
(@shibainubooks)

短歌をはじめたときどこで詠んだらいいのかわからなくてその中で出会ったのがうたの日でした。毎日短歌を詠む人がいて読んでくれる人がいる。そんな素敵な場所を作って下さりありがとうございます。これからもうたの日がずっとずっと続きますように!

南留夏 (@blue_rebels)

気まぐれに参加させていただいてます。いつもありがとう。

木村比呂 (@rahiro)

ののさん、おつかれさまです。いつも心地良い場所を提供してくださってありがとうございます。素敵な歌がたくさんでなかなか選べなかったけれどあえて暗い歌にしました。……生きていきましょう、互いに。「千本ノックしようぜー」的な明るいののさんのつぶやきを、うたの日の場をこれからも大好きで暮らしていきます^^ あ、もちろん短歌も好きでいられたらいいな。

さむろみ（美豆波）(@kesarabasara)

たくさんのありがとうを込めて よせがき 2 ののさん いつもありがとう

お忙しい中、運営お疲れ様です。
まだまだ短歌は初心者で参加はしておりませんが、日々学ばせていただいております。
ありがとうございます。いつか参加できるよう精進します。

琢 (@_taku_h_)

いつもお世話になっています。楽しい場を本当にありがとうございます! いつか短歌の世界でわたしのプロフィールが必要になったときは「うたの日」のことを入れたいと思っています。これからもよろしくお願いします♪♪

えんどうけいこ (@clematisilica)

1000回おめでとうございます＼¥（'w'）／／
そして、ありがとうございます!
大好きな遊び場です!

しま・しまし (@simashima9)

いつもありがとうございます。

桔梗 (@chattenoire_k)

サイコー！

雀來豆 (@jacksbeans2)

○うたの日は自分にとってはじまりの場所です。いつも本当にありがとうございます!

蒼井灯 (@heavenlyblueb)

ののさん、うたの日を立ち上げてくださって、そして運営を続けてくださって、本当にありがとうございます。ここでの出会いに助けられたことは数え切れません。これからもどうぞよろしくお願いします!

羽島かよ子 (@kayoko_31)

ののさん、いつもお忙しいなか、うたの日を運営してくださってありがとうございます～～（´▽｀）!!うたの日をほぼ毎日一年以上続けてきましたが、着実に自分の詠みたいものが詠めるようになったという実感があります!僕の性格上、うたの日だから続けてこれたんだと思います。また、うたの日を通じて素敵な短歌の友達もたくさんできました!うたの日万歳です!これからもよろしくお願いします♪でもなによりご自身の体調を優先してくださいねっ。

萩野聡 (@hagitanka)

ののさんうたの日を毎日ありがとうございます <(_ _)>
気の交かいたいけてるエクセレントな短歌を贈りたいと今二時間ほど悩んだんですけど、できませんでした(*ノwノ)
10000日記念には頑張りたいと思いますので末永くよろしくお願い致します。

小川けいと (@ogwkit)

ののさんへ(3)

よせがき 3

たくさんのありがとうを込めて
ののさん いつもありがとう

ののさん、いつもありがとうございます。この素晴らしき草野球場がながくながく続いてゆくことを願っています。
中牧正太 (@shota_nakamaki)

帰るべき場所がある、ということは素晴らしいことです。『うたの日』というホームがあるからこそ、私はいままで短歌を続けて来られたのだと思います。ありがとうのの さん。あなたが歌壇に蒔いた種はすくすくと育っています。
塾カレー (@bozumarukome)

一年間参加させてもらって短歌が身近になりました。ありがとうございます!
淡海わこ (@omiwako_)

短歌を詠む習慣が身についたのはうたの日があったからこそです。
ののさんありがとうございます!
東風めかり (@mekari1573)

うたの日 1000 日、おめでとうございます!いつも楽しく参加させていただいております。ありがとうございます!
田村穂隆 (@Da_Ho_Ra)

ののさん、いつもありがとうございます!
♪♡ウィーラヴユー♡♪
亜梨 (@riririr_s)

ののさん、うたの日をつくっていただいてありがとうございます。短歌を今年になってからはじめたのですが、うたの日がなければこんなに短歌にのめりこむことはなかったと思います。うたの日との出会いは、人生のなかでかなり大きなできごとです。まじです。
nu_ko(@nukothecat)

大学を中退し学生短歌会のない沖縄に帰ってきて、歌会に飢えていたときにうたの日に出会いました。日常的に題詠や評の練習ができる場としてとても助かりましたし、Twitter 短歌クラスタへの入り口にもなりました。今の付き合っている人とも短歌クラスタで出会ったため、このサイトがなければ恋人とも出会わず、今日の楽しい短歌ライフはなかったものと思います。本当にありがとうございます。
亀山真実 (@nukimidaru)

いつもありがとうございます。
私はうたの日がきっかけで短歌を始めたのですが、言い換えればうたの日がなければ短歌を始めなかった可能性もそれなりにあるということですね。というわけで短歌によって世界を征服した暁には、ののさんを神として崇め奉りたいと思いますのでよろしくお願いします。
Y川 (@clonecoyamato)

足かけ1年続けて、普段は気づかないものの振り返ってみると自分なりに成長していることがわかりました。継続は力なりですね。このような場を1000日も毎日提供してくださってありがとうございます!今後ともよろしくお願いします。
笠和ささね (@kasawasasane)

ののさん!いつも本当にありがとうございます。うたの日のおかげで知った歌や繋がった人がたくさんいます。
ナタカ (@natakauta)

ののさーーーん!
うたの日1000日、ほんとうにおめでとうございます。いつもたのしく参加させていただいております(^v^)
これからもぜひぜひよろしくお願いします!
未未未 (@neee__PP)

うたの日に参加させていただきありがとうございます!おかげで2016年は、かなり短歌を楽しめました。いつでも誰でも飛び込める「うたの日」、とても素敵な場所です。
今後ともよろしくお願いします!
遠井海 (@sea_umi_ib)

うたの日に出会って、短歌を長く続けることができ、趣味の一つになりました。自分の短歌はうたの日で成長しました。
これからも、飛び入り参加のできる草野球のような場であってほしいと思います。たくさんの企画にいつも楽しませてもらっています。無理せず、体に気を付けてくださいね。
ののさんありがとう!1000日おめでとうございます!
終栗夢 (@tuikurimu)

「うたの日」に投稿されたお歌をTwitterで見かけたことが、私が短歌を始めるきっかけの一つとなりました。ありがとうございます。これからも、どうぞよろしくお願いします。
五條ひくいち (@5joh_1)

ののさんへ(4)

たくさんのありがとうをこめて よせがき 4

ののさん いつもありがとう

いつも大変お世話になっています。いつの日か「うたの日」出身の歌人です！　と名乗れるようになるまで、地道に頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

シュンイチ (@y_xyll)

たくさんの短歌と詠み手に出会える場、気軽に短歌に挑戦できる場をありがとうございます。会場のデザインも綺麗で、いつも覗くのが楽しみです。これからもよろしくお願いします。

下弦 (@kagen_s)

うたの日楽しいです。
楽しいのはのさんのおかげです。
ありがとうございます。
ご多忙なようですが、ご自愛ください。

一〇〇八 (@noumb1008)

いつもありがとうございます。

サリー B(@Sally82016)

ののさん　いつもありがとうございます。
わが軍と呼んでもらって嬉しかったです。

みちくさ (@michikusa_31)

うたの日を通して短歌にのめり込みました。うたの日がなかったら、こんなに短歌を好きになっていなかったと思います。こんな素敵なサイト、企画をしてくださって本当にありがとうございます。

さはらや (@0ya5udon)

私の毎日に、ハリとうるおい、彩りを添えてくださって、本当にありがとうございます。

ひの夕雅 (@croissant_hey_z)

うたの日育ちを自称しているわたしにとってのさんはお母さんです、いつもありがとうございます!また里帰り参加していきますね!

長月優 (@spicadrop_)

いつもありがとうございます。
匿名なので変な人間関係も加味されず楽しいです!

祐鈴 (@yureiyashiki2)

はじめまして。毎日ではありませんがうたの日参加させていただいてます。
素敵な歌会の場の提供をありがとうございます。

蝶番 (@luna04120)

ののさん、いつもありがとうございます。
うたの日に育ててもらっていると思っています!（笑）これからも、お世話になります

堀口万理奈
(@Holloygucci017)

お世話になります。これからも続けていただければ嬉しいです。

松岡拓司 (@senbeiguy)

もともと短歌とも文学とも交わりのないような生活を送っていましたが、ひょんなきっかけで短歌を作り始めてもうすぐ5か月です。こんな私でも短歌を見てもらえる場があることにすごく感謝してます。
まだまだうたの日続けたいです！

金子りさ (@knknyokki)

柳野浩一先生の『ショートソング』を読み終えた後、自分でも短歌を詠みたくなって、その時に探して出てきたのがこのうたの日のサイトでした。この場所がなければ、自分の短歌熱は一過性のものとして、こんなにも素晴らしい短歌の世界を知ることもなく冷めてしまっていたように思うと、本当に感謝しかありません。
ありがとうございます！

宮本背水 (@tankatanka80)

のの様
いつも本当にお世話になってます。最近とてもお忙しそうですが体調などお気をつけてお過ごしください。
うたの日に出会えて生活がずいぶん変わりました。毎日楽しく短歌を詠み、そして読ませていただいています。
サイト運営等大変かと思いますが、がんばりすぎないようになさってください。今後ともよろしくお願いいたします。

木蓮 (@FirstFruits1125)

うたの日1000日おめでとうございます。
毎日立ち寄って、少しドキドキしつつ出来立ての歌を味わうカフェみたいな場所。
歌を詠む生活になくてはならない場所になりました。
素敵な空間をありがとうございます。
これからもよろしくお願い致します。

けら (@kera57577)

ののさんへ(5)

よせがき 5

たくさんのありがとうをこめて
ののさん いつもありがとう

うたの日 1000 日おめでとうございます。うたの日に参加することで、歌を詠む楽しさと歌を読む楽しさに出会うことができました。うたの日がなければ、評を書くことの大切さに気がつかずにいたと思います。このところ参加できない日が続いておりますが、これからもよろしくお願いします。

太田青磁 (@seijiota)

ののさん、いつもありがとうございます。
ずっと興味があって、でも一歩踏み出せなかった短歌をはじめられたのは、うたの日があったおかげです。
私にも短歌が詠めて、それを誰かに読んでもらえるなんてうたの日に出会うまでは思ってもみませんでした。
素敵な場所を作って、そして運営してくださって、本当に本当にありがとうございます。

七緒 (@n770f853)

1000 日おめでとうございます!誰でも自由に出入りしてもいい「うたの日」という場があったから日々の歌題で、自分一人ではできなかった歌を詠み、読むことができたと思っています。この場所を作ってくださってののさん!ほんとにほんとにありがとうございます。

吉川みほ (@books_hyacinth)

うたの日がなければ短歌を作っていなかったでしょう。すてきな出会いに感謝いたします。

もりのさと (@Wonderful_Maze)

うたの日に出会えたのはちょうど一年前。あの時出会っていたおかげで、短歌を日常的に作るようになりました(最近はあまりできていませんが……)。短歌に対してより一層の熱意を持てるようになったのも、うたの日があったからでした。このようなサイトを作ってくださり、常に使いやすいよう管理してくださりありがとうございます。

まそ (@maso0805)

うたの日 1000 日おめでとうございます!! 365 日一年中、どこにいても、短歌で交流できる場所があるというのはとても嬉しいことです。たくさんの歌人さんと交流できるのはもちろんのこと、開くたびに可愛くて楽しい仕掛けが沢山あり、うたの日へ来るといつもわくわくします。素敵な場所をありがとうございます!

かつらいす (@v_vTitiu)

連歌の花道→月の歌会→R2 グランプリ→
うたの日→短歌一武道会→うたの人・・・。
ののさんの功績は私の短歌歴です。
これからも楽しい企画を期待しています。
何世紀先も残る「うたの日」であることを
祈念してます♪

知己凛 (@Chikorin7)

毎日の歌会。ステキな壁紙をバックに集まるうたもひとも素晴らしいと思います。全てはののさんのおかげ。感謝してもしきれません。ありがとうありがとうございますヽ(*'▽'*)ノ

えだまめ (@edamame_midori)

毎日でも、久しぶりでも、いつでも変わらない顔で受け入れてくれる温かくて楽しい場所、「うたの日」。
だけどそんな場所を維持し続けるのは簡単なことではないと思います。
ののさん、いつもありがとうございます (^^)

葵の助 (@amaigake)

私が短歌に興味を持ち好きになったのは間違いなくうたの日のおかげです。ただの一傍観者ですが、できればこの場がもっと続いていけばいいなと願っております。

ねん (@endofthe_)

上手く短歌が詠めなくて、うたの日は TL に流れてくるみなさんの素敵な歌を見て楽しんでいたのですが、記念プロジェクトにこうやって参加できて嬉しかったので、がんばって参加してみようかなって思います。

栗栖 莉乃 (@lyrical_note)

まずはうたの日の歌会 1000 日連続開催おめでとうございます! ののさん、私はののさんにとても感謝しています。私はうたの日を知るまで Twitter で細々と詠んでいるだけで、いつかやめてしまうのは目に見えて明らかでした。しかし、うたの日に参加するようになって、こんなにいろんな参加者さんの歌を目の当たりにして、一気に視界が広がったのです。うたの日に投稿するということは私にとって心の支えとなっていきました。もちろんここは歌会という場ではあるのですが、歌の技術的な出来不出来ばかりを気にせず、詠みたいことを自由に詠める場所であるように感じました。誰でも受け入れてくれるゆるやかな空気はおそらく、ののさんのスタンスから生まれているのではないかと思っています。うたの日に参加して私は二年近く経ちますが、ゆっくりと、しかし着実に成長できたという実感があります。これはうたの日、そしてののさんのおかげだと思います。ののさん、本当に本当にありがとうございます。私はあまり首席になったりするタイプではないので、うたの日を派手に盛り上げたりすることはできませんが、今後も参加して、ちょびっとでもうたの日に貢献できたらいいなと思っています。

荻森美帆 (@OgimoriMiho)

/* のの字1000日おめでとう */

裏管理人　豆太

ののの字へ。

君がうちを出ていってからどれくらいになるのかな。
新居はどう？
なんて、今更同居人ヅラも良くないかな。

忙しそうにしているのを人伝に聞いたよ。元気なら
いいけど、体調は崩さないようにね。なんて(笑)

……じゃあ、また。うたの日で。

豆太

そんな豆太さんの選ぶ「ののさんのうた」がこちらです。

2014年10月17日　OPEN200日記念
題　『　体重200kgを超えた体で一首　』

働けど働かずとも我が暮らし楽にならざりずっと汗ばむ

by 石川豚木（いしかわぶたぼく）

うたの日1000日記念号プロジェクト

発起人　豆太

校正隊

金子りさ　宮本背水　中山とりこ　nu_ko　もりのさと四丁目
矢波多恵　萩野 聡　小川けいと　雀来豆　荻森美帆　川庭多機構
しま・しましま　蒼井灯　雨　yoshikawa miho　塾カレー　遊糸
西村湯香　照屋沙流堂　羽島かよ子　Toijima　ひらたてる　美豆波
木蓮　泳二　ゆかりさん　ルオ　長月優　えんどうけいこ　倉橋千帆

コラム隊

恋をしている　ナイス害　遊糸　双葉屋ほいる　太田青磁　長月優
たかはしりおこ　三田たたみ　ササキ アンヨ　村田香　沼尻つた子
門脇篤史

年表隊

中牧正太　小川窓子　塾カレー　ナタカ　えんどうけいこ　遊糸
太田青磁

挿絵隊

知己凛　七緒　西村曜　ネネネ　花束　終栗夢　たかはしりおこ
犬飼あき　ひらたてる　下弦

夜食のおにぎり作り隊　常磐このは　琢
味噌汁を大鍋で作る係　夕雅

タイトル名付け親	倉橋千帆
短歌ロゴ原案	小向大也
表紙	猫屋久太
データ抽出、集計	一〇〇八
デザイン	知己凛
編集	小早川

編集後記

12月に入ってすぐ、豆太さんから記念号の話を聞きました。
豆太さんはうたの日の裏管理人です。何をやってるかというと、ののさんのプログラムの相談に乗ったりうたの日にサーバを貸して同居人になったり一緒に特定のブラウザに呪いの言葉を投げたりする役目です。

彼女は言いました。記念号の進捗が思わしくない、このまま流れてしまったらののさんが悲しむと。プレゼントのような記念号を届けてあげたいと。
僕は止めました。絶対大変だからやめとけと。
しかし彼女の意思は固く、一人でやったら死ぬに決まってるので炊き付けられたように音頭を取ることになりました。きっと皆さん「お前誰だよw」と思ってたと思います。僕も初期には参加してたんです一応。なんかすいません。

そんなわけで、僕たちはののさんとうたの日の威を借りてプロジェクトを立ち上げることにしました。
1000日分の膨大の歌を集めたページを作りたくて力業でコピペしようということになり、コピペ隊20名の呼び掛けに30名が集まり、コピペしなくてもデータ抽出できると教えてくれた人がいてコピペ隊は校正隊に名を改めました。コピペよりだいぶ楽になったとはいえ一人平均約250首の校正、時間との戦いだった締切を全員が守ってくれました。
コラム執筆者12人、挿絵隊10人、皆さん快く引き受けてくださいました。年表隊は何も言わなくてもどんどん話を進めてくれて、安心してお任せ出来ました。
100人近い人たちの4回の投票を経てタイトルが決まりました。表紙を描いてくれた社畜さんはゼーハー言いながらもきっちり仕上げてくれました。
スポットが当たってない歌を載せたいという想いから「わたしが選ぶうたの日のうた」コーナーを作り、ここに79人が投稿してくれました。これだけの歌の中から同じ歌を選んだ人が3組もいて、結婚しちゃえ！と思ったり。
一番負担が大きかったのはデザイン担当でした。大量のデータ処理と手間のかかる作業、でも彼女は文句ひとつ言わず、というかむしろ楽しそうで、気持ちよく編集を進められたのには感謝しかありません。

全てたったの25日間のことです。
いくつも企画を進めてきた経験から言うと、こんなことってないと思います。全員がクリスマスに記念号を出すために全力を尽くしてくれました。誰もリタイアしなかった。奇跡のような25日間でした。

人は無力なのではない、微力なのだ、という言葉があります。集めれば大きな力になると。この言葉を体現したようなうたの日1000日記念号です。きっと楽しんでいただけると信じて送り出したいと思います。

うたの日育ちは自由な育ちゆえに旅立ち時は経ち
されど帰ればいつものように皆そこにいて歌ってる

うたの日がこれからもずっと、シビアで賑やかな優しい場であることを願って。

2016年12月25日　小早川

うたの日1000日記念号
うたの日々

2016年12月25日　発行

執筆　うたの日の皆さん
発行元　うたの日1000日記念号プロジェクト

うたの日
管理人　のの
サイト　http://utanohi.everyday.jp/

本書の内容についてのご意見・お問い合わせは
編集者のツイッター(@dodoitsu_)にお願いします。